

平成 26 年度改訂版
学習指導要領を具体化する
小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック

子どもにとって魅力ある単元をつくる

「読むこと」編



平成 27 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当

はじめに

ガイドブック改訂の意図

このガイドブックは、学習指導要領や学習指導要領解説国語編等から求められる国語科の授業像を読み解き、文部科学省教科調査官や大学の研究者、全国の研究校等から優れた指導法を学び、それらを再構成してまとめたものです。

平成25年度に初版のガイドブックを発行し、今年度、改訂版を作成しました。大きな改訂点は、実践編の充実です。平成25年度版では、中学校の実践6例のみの掲載でしたが、今回、小学校の実践3例、中学校の実践4例、高等学校の実践3例を追加しました。

これによって、日常の授業改善のイメージがより具体化されることや、小・中・高等学校の系統性がより把握しやすくなることを期待しています。

授業づくりの現状分析

これまで、岩手県内の各学校において国語科の授業づくりはどのように行われてきたのでしょうか。

国語科を研究主題に取り上げている小学校では、授業づくりは複数の先生方によって協働的に行われ、多くの成果をあげてきました。しかし、それ以外の小学校や中・高等学校では、授業づくりは各先生方個人に任されてきたのが現状ではないでしょうか。一人で授業づくりに取り組み、悩んでいる先生方からは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という声を聞くことも少なくありません。また、協働的に研究に取り組んできた小学校においても、「説明文における～」のように分野を特定して研究するため、研究した内容に限られた単元にしか汎用できないということも見受けられました。

このガイドブックは、「国語は何をどのように教えればいいのかがよく分からない」という先生方の悩みに応えられるような内容構成となっています。また、教材文のジャンルにとらわれず、「読むこと」領域であれば、すべての単元に汎用できる方法を考え提案しています。

小・中・高等学校での共通した授業づくりの必要性

このガイドブックでは、学習指導要領の趣旨から考えて小・中・高等学校で共通した授業づくりをした方がよいという立場をとっています。

児童生徒の学ぶという行為は、校種が変わっても連続しています。しかし、指導者はこれまで、12年間の学び方の連続性をあまり意識してこなかったのではないのでしょうか。

例えば、小学校で「グループや学級での話し合いを通して自分の考えを文章にまとめる授業」を受けた児童が、中学校で「先生が黒板にまとめたものをノートに書き写す授業」を、高等学校で「先生の解説を聞いてノートに書き留める授業」を受けていくことを想像してみてください。自分の能力や学び方を深化させたり発展させたりできない児童生徒の姿が想像できるでしょう。

これを「小学校ではこのようなグループ学習をさせる。中学校ではこのようにグループ学習を深化させる。高等学校ではこのようにグループ学習を発展させる。」と小・中・高等学校の指導者が連携しあって指導したらどうでしょう。児童生徒は容易に学びの連続性を意識し、学び方を身に付け、効率的に国語の能力を身に付けることができるはずで

す。そのためには、小学校から高等学校まで身に付けなければならない能力や学び方を系統的にとらえ、どのように教えるのか・学ばせるのかについて、小・中・高等学校の指導者が連携して授業づくりに取り組むことが必要です。このガイドブックがそのきっかけとなることを期待しています。

ガイドブックの構成

このガイドブックは、「Ⅰ 理論編」「Ⅱ 実践編」「Ⅲ 資料編」の三部構成となっています。

「Ⅰ 理論編」では、単元の構想を3つのパターンに分類して解説しています。本時の構想の仕方としては、学習形態に視点を当てた展開の仕方を提案しています。

「Ⅱ 実践編」には、研究協力員等によって実践され成果を上げることができた小学校、中学校、高等学校の授業実践例を掲載しています。

「Ⅲ 資料編」には、「Ⅰ 理論編」の根拠となる資料や具体的な説明資料を載せました。

ガイドブックの活用法

国語科で指導すべきは、学習指導要領の目標や内容であることは言うまでもありません。ですから、教科書の教材文を読む前に学習指導要領や学習指導要領解説を熟読し、12年間の系統性の中で、指導内容を具体的なレベルまで絞り込んで把握し指導することが必要となります。それが「教材文を教えるのではなく教材文で教える」ことにつながり、「活動あって学びなし」という課題を克服することにもつながります。このガイドブックには、指導内容を系統的・具体的に把握するための工夫がなされています。

また、国語科の指導法には様々な方法があることは言うまでもありません。それぞれの学校で児童生徒の実態に合わせて工夫することが求められています。しかし、「指導法には様々な方法があるのだからそれぞれが工夫しなさい」と言われても、悩んでいる先生方にとっては困り感が増すばかりです。そこで、授業づくりの一つのモデルとしてこのガイドブックを作成しました。それぞれの先生方がここからヒントを得て、創意工夫を凝らした魅力的な授業づくり・単元づくりをしてくださることを願います。

平成27年3月1日

目次

はじめに

I 理論編

- 1 「読むこと」領域で育成すべき態度や能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 どのような指導が必要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - (1) 目標や内容の系統性を把握する・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
 - (2) 年間指導計画を工夫する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - (3) 単元を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - ◇単元展開の具体について・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 - ◇第2次の指導の転換について・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
 - ◇A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程・・・・・・・・10
 - ◇B 一教材文で表現する学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 - ◇C 一教材文を表現モデルそのものととらえる学習過程・・・・・・・・14
 - ◇「表現する読書過程」の各段階について・・・・・・・・・・16
 - (4) 本時を構想する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
 - ◇本時の学習過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
 - ◇単元の学習過程と本時の学習過程（関係イメージ）・・・・・・・・24
 - ◇本時の学習過程の各段階について・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
 - (5) 評価を工夫改善する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
 - ◇評価の進め方（手順）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
 - ◇ノートやワークシート，作品，実演や映像による評価の工夫について・・30
 - ◇ペーパーテストによる評価の工夫について・・・・・・・・・・31
 - ◇レポート，質問紙，面接による評価の工夫について・・・・・・・・32

II 実践編

A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程例

【小学校】

- ◆小学校第3学年 光村；「3年とうげ（物語）」＜平成25年度実践＞・・・・33
- ◆小学校第3学年 光村；「モチモチの木（物語）」＜平成26年度実践＞・・・・39
- ◆小学校第5学年 光村；「声に出して楽しもう（古典）」＜平成25年度実践＞・・・・51

【中学校】

- ◆中学校第1学年 光村；「竹取物語（古典）」＜平成23年度実践＞・・・・55
- ◆中学校第1学年 東書；「矛盾『韓非子』より（古典）」＜平成25年度実践＞・・・・59
- ◆中学校第1学年 光村；「少年の日の思い出（小説）」＜平成23年度実践＞・・・・63
- ◆中学校第2学年 光村；「明日（詩）」＜平成24年度実践＞・・・・69
- ◆中学校第2学年 光村；「盆土産（小説）」＜平成26年度実践＞・・・・73
- ◆中学校第3学年 光村；「握手（小説）」＜平成25年度実践＞・・・・81
- ◆中学校第3学年 光村；「高瀬舟（小説）」＜平成25年度実践＞・・・・85
- ◆中学校第3学年 光村；「月の起源を探る（説明文）」＜平成25年度実践＞・・・・91

【高等学校】

- ◆高等学校第2学年 大修館「人工の自然（説明文）」＜平成26年度実践＞・・・・95

B 一教材文で表現する学習過程例

【中学校】

- ◆中学校第3学年 光村；「月の起源を探る(説明文)」＜平成25年度実践＞・・・103

【高等学校】

- ◆高等学校第1学年 大修館；「夢十夜(小説)」＜平成25年度実践＞・・・107
- ◆高等学校第2学年 大修館；「情報の力関係(説明文)」＜平成26年度実践＞・・・111

C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程例

【中学校】

- ◆中学校第2学年 光村；「枕草子(古典)」＜平成24年度実践＞・・・119

Ⅲ 資料編

- ◆PISA調査における「読解力」の定義，学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」，学習指導要領「国語科改訂の趣旨」，第2期教育振興基本計画・・・123
- ◆指導系統表の整理例「読むこと」・・・124
- ◆同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例1・・・130
- ◆同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例2・・・133
- ◆マトリックス型年間指導計画表例（中学校第2学年「読むこと」）・・・134
- ◆マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年～第3学年「読むこと」）・・・135
- ◆交流充実のための手立て・・・136
- ◆思考力・判断力・表現力向上のための手立て・・・137
- ◆単元の評価計画例・・・138
- ◆単元構想表の書き方・・・140
- 【引用文献・参考文献】・・・142

おわりに

I 理論編

1 「読むこと」領域で育成すべき態度や能力

★このガイドブックでは、教育基本法に示されている教育の目的を達成するために国語科の「読むこと」領域で育成すべき態度や能力を、大きな視点で次の5つととらえました。

- 1 目的や意図に応じて読む力
- 2 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「読むこと」の基礎的な知識及び技能
- 3 実生活に生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる「読むこと」の思考力、判断力、表現力など
- 4 主体的に「読書しよう」とする意欲や態度
- 5 他者と協働するためのコミュニケーション能力や学習力

Q1 「育成すべき態度や能力」の意味するものは何ですか？

A1 教育は「人格の完成等」を目的として行われるものです。その目的の達成に向けて、国語科「読むこと」領域で指導すべきことは何かを考えて表したもの

Q2 なぜ、この5つととらえたのですか？

A2 学校教育法や学習指導要領解説、PISA 調査の報告書、第2期教育振興基本計画（H25.6.14 閣議決定）などから、この5つにまとめました。

Q3 課題を発見する力や解決する力も大切だと思うのですが？

A3 その通りです。上記のとらえでは、学び方を身に付けるという意味で「学習力」と呼び、その中に課題を発見する力や解決する力を含めて考えています。

☞根拠となる資料は、「Ⅲ 資料編(p123)」へ

2 どのような指導が必要か

★「読むこと」領域で育成すべき態度や能力（p1）をはぐくむためには、次のような10項目の指導の充実を図る必要があります。

指導の充実 10項目

- 1 系統的，発展的な指導（各教科等，各学年相互間の関連）
- 2 効果的な指導（指導内容のまとめ方や重点の置き方）
- 3 言語活動の充実（知識・技能の活用を図る学習活動，言語環境）
- 4 自主的，自発的な学習（体験的な学習，問題解決的な学習）
- 5 見通しと振り返り
- 6 学習形態（個別指導やグループ別指導）や指導方法（課題学習，発展的な学習）
- 7 学校図書館の利用（主体的，意欲的な学習活動，読書活動の充実）
- 8 評価の工夫（よい点や進歩の状況などの評価，過程や成果の評価，指導改善，学習意欲の向上）
- 9 言語の教育としての立場を一層重視
 - 的確に理解する能力 ○論理的に思考し表現する能力
 - 言葉で伝え合う能力 ○感性や情緒
- 10 実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力の育成

1～8は，学習指導要領解説総則編「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の解説から，9と10は，学習指導要領解説国語編「国語科改訂の趣旨」から導き出したものです。

1～10について，授業づくりのどの段階で，どのような手立てで充実を図ればよいのかについては，次ページからの「授業づくりの手順」で解説しています。



3 「授業づくりの手順」と「指導の充実」

P2「指導の充実10項目」
との対応

(1) 目標や内容の 系統性を把握

p 4～5

○学習指導要領解説国語編から
12年間の指導系統表を整理する

☞「Ⅲ 資料編(p124～133)」を
そのまま使うこともできます。

1 系統的、発展的な
指導

(2) 年間指導計画 を工夫

p 6

○指導の効果を考えて、マトリ
ックス型年間指導計画を作成
する

(1)と(2)は、年度末
までにまとめておく
必要があります。



2 効果的な指導

指導と評価は一体
だから、指導計画は
評価計画でもあること
を意識してください。

(3) 単元を構想

p 7～21

○系統性と年間指導計画をふま
えて、単元を貫く言語活動を
位置付けた構想をする



単元を構想する際に、
優れた実践はどんどん
真似して取り入れまし
ょう。「Ⅱ 実践編」を
おおいに参考にしてく
ださい。

3 言語活動の充実

4 自主的、自発的な
学習

5 見通しと振り返り

6 学習形態や指導方
法

7 学校図書館の利用

8 評価の工夫

9 言語の教育として
の立場

10 実生活で生き、各教
科等の学習の基本

(4) 本時を構想

p 22～27

○単元の指導計画のもと、学習
場面における言語活動の充実
を意識して本時を構想し、実
践する

(5) 評価を工夫改善

p 28～32

○指導を振り返り授業改善に生
かす視点を大事にする
○指導に生かすための評価と記
録に残すための評価を行う
○適切な評価問題を開発する

3-(1) 目標や内容の系統性を把握する

★授業づくりの第一歩は、児童生徒の実態を把握し、指導すべき事項を確定することです。12年間の目標と内容を表に整理することで、指導すべき事項が明確になります。

【小学校「C 読むこと」の系統表】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1)前段＝読む能力、後段＝読書態度(全学年共通)	(2)目的に応じ＝読むことによって何をしようとするのか、	どのように活用しようとするのか ⇒文章全体に対応する(高学年)
	(2)本や文章の内容や構成の特徴に着目して読む ①科学的な内容の本や文章 ・時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む ②文学的な絵本や物語 ・場面の様子を押さえながら想像を広げて読む (3)楽しんで読書する態度＝自ら楽しんだり知識を得たりするために読書しようとする態度 (4)本や文章を読むことが楽しく、生活の中で役立つことなどを実感させるため、日常的に読む習慣を付ける	(3)目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読む ①内容の中心をとらえる ②段落相互の関係を考慮して全体の構成を把握 ③自分の考えをまとめたりしながら読む (4)幅広く読書する態度 ①読書の量的向上、読書分野を広げる質的向上 ②読書の大切さや価値を理解する	(3)目的に応じて計画的に読書する ①楽しむために、調べるために、知的欲求を満たすためになど、 ②複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握し、自分の考えをまとめる (4)読書により考えを広めたり深めたりする態度 ・書き手の思考に即して読むことで、自分の思考も論理的になり、思考が深められる
音読	【音読の働き】 ①自分が理解しているかどうかを確認したり深めたりする ②他が理解するのを助ける ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 (1)語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて ①明瞭な発音 ②ひとまとまりの語や文 ③言葉の響きやリズム (2)「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ①姿勢や口形 ②声の大きさや速さ ③はっきりした発音 (3)指導事項イ～カとかわらせて指導 ①繰り返し音読する機会を設ける ②自分の声を自分で聞きながら音読する習慣 ③他の人に聞いてもらうなど、聞くことを意識する (4)音読の方法 ①教師が読んだ後に読む ②グループでの役割読み	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。 (1)文章の内容をよく理解し、自分の思いや考えと合わせながらよく分かるように音読する (2)内容の中心や場面の様子がよく分かるように ①一文一文などの表現だけでなく、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する ②軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変える ③物語では、各場面を意識して、様子が分かるように (3)指導事項カと関連付けて⇒音読の目的や方法を工夫 (4)「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する ①相手を見る ②言葉の抑揚や強弱 ③間の取り方 5)黙読も活用し、文章の内容の理解を深める ①事柄を関連付ける ②重要な箇所を見付ける ③必要に応じて速さを変えて読む	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読すること。 (1)文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたことが相手に伝わるように音読や朗読をする (2)音読では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化する。物語や詩では、語り手や登場人物がどのように語りたいたいのかが決める必要がある (3)朗読は ①読者として文章のイメージを明確にし、相手に伝えようとして音声化するものである ②自分なりに解釈したこと、感心や感動したことを、思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝える ③一人一人の感じ方や思い、考えの違いを大事にし、どのように音声化すれば聞き手によく伝わっているか考え、相互に朗読し合って楽しむ (4)音読や朗読の工夫＝音読や朗読の発表会、朗読劇や群読、身体的な表現なども交えた劇など

Q1 この系統表はどうやって整理したのですか？

A1 学習指導要領解説国語編の付録の表に本編の解説を加えたものです。

Q2 このように表を整理するとどんなよいことがあるのですか？

A2 例えば、上の表で目標を見ると、後段の読書態度では、低学年では「自ら楽しむ」、中学年では「読書の量的・質的向上」、高学年では「書き手の思考に即して読む」のように段階的に指導すればよいことが読み取れます。このように、指導事項についても各学年でどのように指導すればよいかについて、具体的に把握することができるようになります。小学校、中学校、高等学校を読み比べることで、その学年の指導事項を具体的につかむことができます。指導しようとする指導事項をマークし、それに関連する指導事項を学年や校種を超えてマークしていくことで、指導すべき内容がより明確になっていきます。



★下の表のように系統表を整理すると、「読書ポスターを作る」という同じ言語活動でも、系統性がとらえやすくなり、学年に応じ段階的に指導をすることが可能です。

【小学校 同一言語活動での系統表例】

段階	キャッチコピー	引用（書き抜き）	本文（感想・紹介・推薦・批評）	イラスト
小学校 低学年	○すきな理由を端的に表す（20字以内）	○すきなセリフ、行動、場面 ○感じたこと経験したこと考えたことを書き添える ○書き抜いた言葉や文を関連付けて整理する（2箇所以内）	○情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結び付けて書く（150字以内）	○すきな行動、場面
小学校 中学年	○感想の言葉を反映させる（20字程度） ・感想語彙	○紹介したい登場人物の言動の変化（2～3箇所程度）	○あらすじ（要約） ○場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと（300字程度）	○作品世界を表す象徴としてとらえたもの
小学校 高学年	○お薦めの言葉を反映させる（20字程度） ・評価語彙	○登場人物の相互関係を表す叙述 ○感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述 ○象徴性や暗示性の高い表現や内容（3箇所程度）	○どのような人にお薦めの本かを想定する ○優れた叙述について（400字程度）	○メッセージや題材を強く意識させるもの

【中1の読書ポスター】

引用

イラスト

キャッチコピー

本文（感想・紹介・推薦・批評文）

Q1 上の系統表はどうやって整理したのですか？

A1 「読書ポスター」の「キャッチコピー、引用、本文、イラスト」という4つのパーツに、どんな要素を入れ込めばよいかを学習指導要領の指導事項から導き出したものです。

Q2 この表を整理すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 同じパーツをもった「読書ポスター」でも、学年に応じた指導事項を取り上げることで、系統的・段階的な指導が可能です。児童生徒にとっては、活動する力そのものが高まる利点もあります。大事なのは、作品の出来ではなく、指導事項に合った内容となっているかどうかです。

☞同一言語活動での系統表例は、「Ⅲ 資料編(p130～133)」へ

3-(2) 年間指導計画を工夫する

★年間指導計画は児童生徒の実態に応じて、目標と指導事項の関連を十分研究し、まとめ方を工夫したり軽重を加えたりして、効果的に位置付ける必要があります。

【中学校第2学年 マトリックス型年間指導計画表例】

月		5月	6月	10月	2月		
時数 (年間45～65時間)		読4書2	読4書3	読5書3	読5書3		
教科書教材名							
4月	明日(詩)読6 枕草子(古文)読4書3						
5月	やさしい日本語(説明)読4書2 (話・聞;プレゼン「お薦めの本」)8	やさしい日本語	五重塔はなぜ倒れないか	君は「最後の晩餐」を知っているか	モアイは語る —地球の未来		
6月	扇の的(古文)読4書4 五重の塔はなぜ倒れないか(説明)読4書3						
7月	旅する絵描き・盆土産(物語・小説)読4書2 (書写)6						
8月	旅する絵描き・盆土産(物語・小説)書2 (書;図・グラフ「発表資料」)4						
9月	アイスプラネット・字のない葉書(小説・随筆)読4書4 (書写)8						
10月	君は「最後の晩餐」を知っているか(評論)読5書3 短歌(短歌)読3書3						
11月	仁和寺にある法師(古文)読4書3 (話・聞;パネル「例、原子力発電」)8						
12月	走れメロス(小説)4 (書写)6						
1月	走れメロス(小説)3 漢詩の風景(漢文)4						
2月	モアイは語る(論説)読5書3 言葉の力(随筆)2 (話・聞・書;意見文「生活改善」)話4書4						
3月	話・聞20 書く40 読む60 書写20						
(1) 指導事項						説明	説明
語句の意味の理解	ア	抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	抽象的な概念を表す語句	○	○	○	○
			心情を表す語句				
文章の解釈	イ	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	全体と部分の関係	○	○	○	○
			例示や描写の効果	○	○	○	○
			人物の言動の意味				
自分の考えの形成	ウ	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。	構成や展開について根拠を明確	◎		○	
			表現の特徴について根拠を明確	◎		○	
	エ	文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	もの見方や考え方について考える	◎			◎
読書と情報	オ	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	適切な情報を得て考えをまとめる		◎	◎	○

Q1 このマトリックス型の年間指導計画表は、どうやって作成したのですか？

A1 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして作成したものです。

Q2 このような表を作成すると、どんなよいことがあるのですか？

A2 このようなマトリックス型の表を作成することによって、指導事項の欠落が生じないようにすることができます。また、上の表でいうと「指導事項 オ」の「多様な方法で本や文章を選んで読む力」を、どの時期に・どの単元で・どのように指導するのかをしっかりと意識することができます。

☞マトリックス型年間指導計画表例は、「Ⅲ 資料編(p134～135)」へ

3 - (3) 単元を構想する

Q1 「単元を構想する」と言っても、教科書通り、指導書通りに教えればよいのではないですか？



A1 授業は、児童生徒の興味・関心や身に付いている能力などの実態に応じて、その児童生徒を受けもつ先生が、学習指導要領の目標や内容を達成するために行うものです。ですから、国語の場合は、教科書を中心としながら、どのような本や文章を使って授業をつくっていくかは、それぞれの先生方が考えなければならないことなのです。

Q2 そんなことを言われても、単元を構想するなんて難しいのですが？

A2 そうですね。そういう人のために、このガイドブックでは、素晴らしい実践をなさっている全国の先生方の単元のつくり方を参考にして、それをパターン化してみました。こうすれば必ず上手くいくというマニュアルではありませんが、単元づくりのヒントにしてください。



Q3 「単元のつくり方のパターン」って、どうやってパターン化したのですか？

A3 それぞれの先生方の単元の指導計画から共通性を見つけて、それをもとに9段階の学習過程としてまとめました。それが「表現する読書過程A」。その指導過程をもとに7段階に簡略化したものが「表現する読書過程B」、6段階にしたものが「表現する読書過程C」です。



Q4 なぜ「表現する読書過程」というネーミングなのですか？

A4 「読むこと」の指導は、目標に設定されているように「目的に応じて読むこと」が前提となっています。このガイドブックでは、読む目的を児童生徒の表現活動に置くことにしました。児童生徒一人一人に表現させ、主体的な学習が展開できるように考えたものです。

単元展開の具体について

★このガイドブックでは、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼んでいます。また、これに加えて、単元の学習（授業）に入る前段階を第0次、単元の学習（授業）後あるいは、発展的段階を第4次と呼んでいます。

【第0次】とは

- ◆単元の学習に入る前段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒を単元の学習に誘う段階としての工夫が求められます。
- ◆単元の学習に入る前に、単元の言語活動や教材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりする工夫が考えられます。

【第1次】とは

- ◆単元の導入にあたります。単元が、児童生徒にとってひとまとまりの意味のある学習活動となるように、単元の学習に誘う必要があります。
- ◆児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習方法、モデルを提示することによって学習のゴールを見通させる工夫が求められます。

【第2次】とは

- ◆単元の展開にあたります。「読むこと」の学習では、読むことの力を身に付けさせるための重要な段階になります。
- ◆「単元を貫く言語活動」と本時の学習活動が密接に結び付くように学習展開を工夫することが求められます。また、「自分の考えの交流」を大切にする必要があります。

【第3次】とは

- ◆単元のまとめにあたります。単元の学習を振り返り、自分にとって何が身に付いたのか、何を知ったのか、もっと知りたいことは何か、などについてまとめる段階です。
- ◆言語活動のまとめの段階でもあります。作品や作成物、表現活動を通して交流を深め、学習の達成感を味わわせるように指導することが大切です。

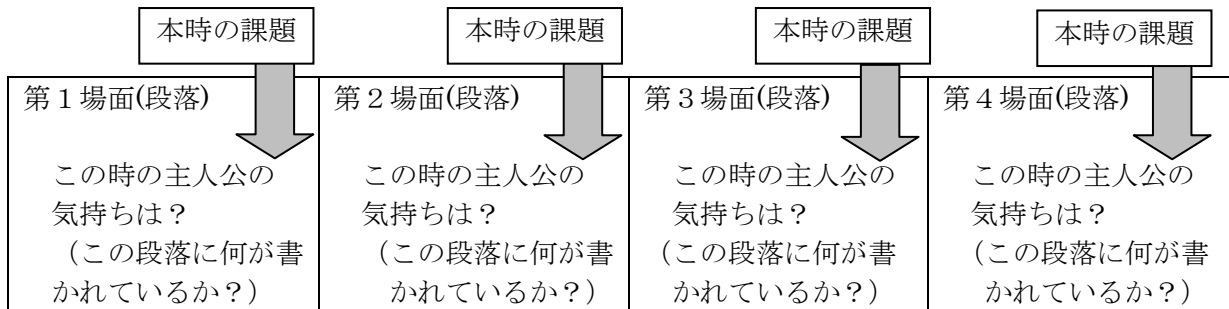
【第4次】とは

- ◆単元の学習後の段階や、発展学習の段階にあたります。すべての単元に位置付ける必要はありませんが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わせたりする段階として工夫が求められます。教室を飛び出した学習とも言えます。
- ◆学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられます。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることです。

第2次の指導の転換について

★これまで、文章を読む学習においては、次の(1)のように毎時間同じパターンで内容を詳細に読んでいく指導が一般的に行われてきました。これからは、(2)のように視点を定めて文章を丸ごと読ませる指導が求められています。

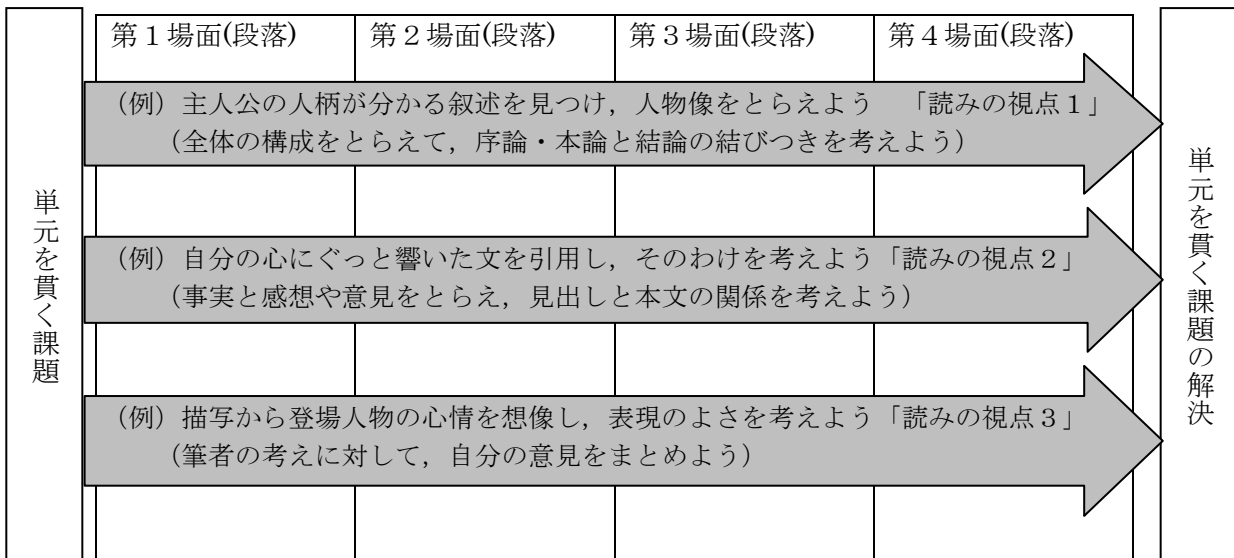
(1) これまでの典型的な指導のイメージ



○場面ごとに登場人物の心情に迫ったり、段落ごとに書かれている内容を読み取ったりする指導が多かった。

○何が書かれているかという内容の読み取りが多く、どのように書かれているか(書かれ方)について読み取ることが少なかった。

(2) これから工夫してほしい指導のイメージ



○読みの視点を定めて文章を丸ごと読む指導に転換しましょう。

○内容だけでなく書かれ方も読み取らせ、発信するための力としましょう。

○読み取って終わりではなく、読み取った内容を発信するために課題を設定するなど、目的をもって文章や本を読む指導に転換しましょう。

A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程

【表現する読書過程A】

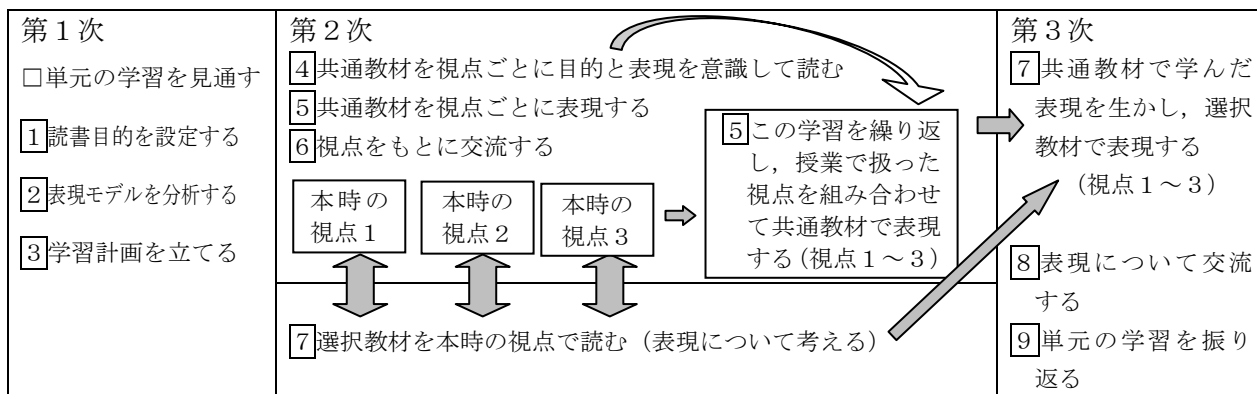
- 1 読書目的を設定する
- 2 表現モデルを分析する
- 3 学習計画を立てる
- 4 共通教材を目的と表現を意識して読む
- 5 共通教材で表現する
- 6 表現について交流する
- 7 選択教材で表現する
- 8 表現について交流する
- 9 単元の学習を振り返る



いよいよ、具体的な「読むこと」の単元構想について解説を始めます。

【単元構想A 1パターン】

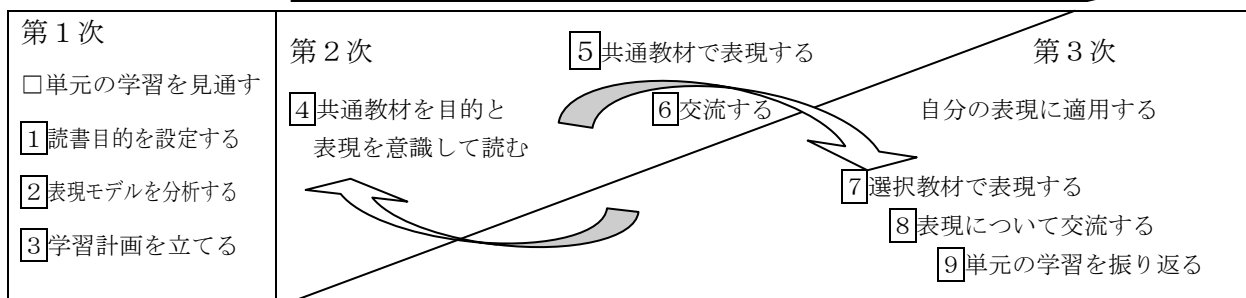
単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



単位時間内に視点をもって、選択教材（並行読書教材）を読む

【単元構想A 2パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



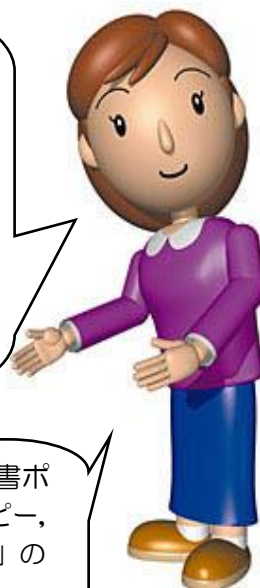
家庭学習や朝学習、休み時間、放課後等を利用して並行読書する

※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」（初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55）

Q1 「単元構想A1パターンとA2パターン」の違いがよく分からないのですが？



A1 「A1パターン」は、最終的な表現が明確にパーツに分けられる場合の展開例です。単位時間ごとにパーツを完成させていく展開です。そして、完成させたパーツを組み合わせて表現することになります。でも、表現を明確にパーツに分けられない場合や分けない方がいい場合があります。それが「A2パターン」です。「A2」では、並行読書を授業中ではなく家庭や朝読書で行う方が、効果が得られます。



Q2 表現をパーツに分けるって、どういうことですか？

A2 下の例で言うと、「読書ポスター」の「キャッチコピー、引用、紹介文、イラスト」の4つの要素のことです。

A1パターンとA2パターンの具体的展開例の比較

「少年の日の思い出」を共通教材として表現する例	
A1パターン（読みの視点が表現のパーツになる）	A2パターン（読みの視点が表現全体に表れる）
<p>1 「読書ポスター」で交流するという目的をもつ</p> <p>2 教師作成のモデル「読書ポスター」を分析する（読書ポスターの内容と書き方を学ぶ）</p> <p>3 「読書ポスター」を作るための学習計画を立てる</p> <p>4 「読書ポスター」を作る目的で、「少年の日の思い出」を、一つの視点で丸ごと読み、</p> <p>5 一つの視点で表現をまとめ、</p> <p>6 表現したものについて交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> 一単位時間に、読書ポスターの要素である「キャッチコピー、引用、紹介文、イラスト」のうち、一つの視点で教材文を丸ごと読む（4つの視点なのでこの授業パターンを4回繰り返す） 単位時間で、視点のまとめと交流を行う 一単位時間に、選択教材の並行読書を行う <p>5 「少年の日の思い出」で4の視点ごとの読みを組み合わせ、「読書ポスター」を完成させる</p> <p>6 「読書ポスター」を使っての交流</p> <p>7 自身の選択教材で「読書ポスター」を作る</p> <p>8 選択教材の「読書ポスター」で交流する</p> <p>9 単元の学習を振り返る</p>	<p>1 「読書会」で交流するという目的をもつ</p> <p>2 教師提示のビデオ「読書会」を分析する（読書会の内容とやり方を学ぶ）</p> <p>3 「読書会」をするための学習計画を立てる</p> <p>4 「グループ読書会」をする目的で「少年の日の思い出」を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書会で話題にしたい内容（人物設定、人物相互の関係、人物の心情や行動、構成や展開、表現の特徴、書き手のものの見方や考え方、自分のものの見方や考え方との比較…）を読む（一単位時間に一つの視点とは限らない） 単位時間で、視点のまとめは行わない 単位時間内に並行読書は行わない <p>5 「少年の日の思い出」で「グループ読書会」をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ④の読みを再構成しながら発言する <p>6 「グループ読書会」で感じた内容を交流する</p> <p>7 グループの選択教材で「読書会」をする</p> <p>8 「グループ読書会」で感じた内容を交流する</p> <p>9 単元の学習を振り返る</p>

☞ A1パターンの実践例は「Ⅱ 実践編（p33～102）」へ

B 一教材文で表現する学習過程

【表現する読書過程B】

- 1 読書目的を設定する
- 2 表現モデルを分析する
- 3 学習計画を立てる
- 4 目的と表現を意識して読む
- 5 表現する
- 6 表現について交流する
- 7 単元の学習を振り返る



2つ目のパターンを説明します。

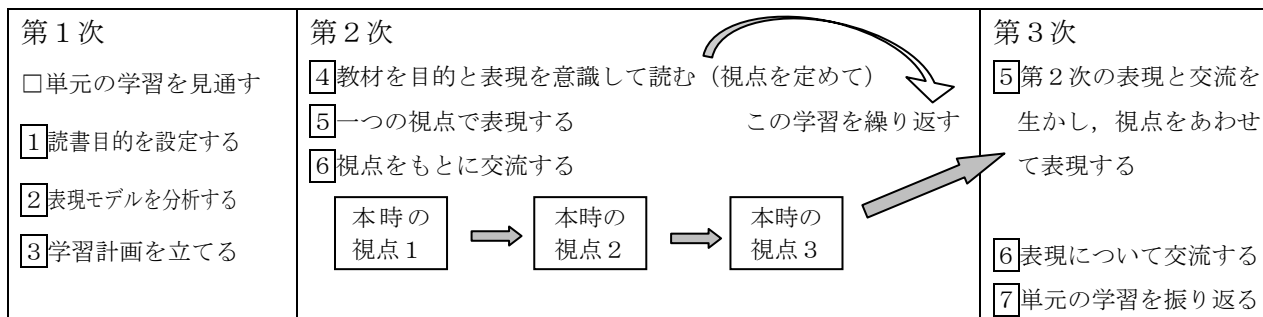
Aパターンは、多読や一冊の本を丸ごと読む学習過程でしたが、Bパターンは、教科書の一教材をじっくり読むことが活動の中心となる学習過程です。

Bパターンは、多読につなげないだけで、基本はAパターンと同じと考えて構いません。

「感想を交流するために読む」ことも、このパターンとして考えます。

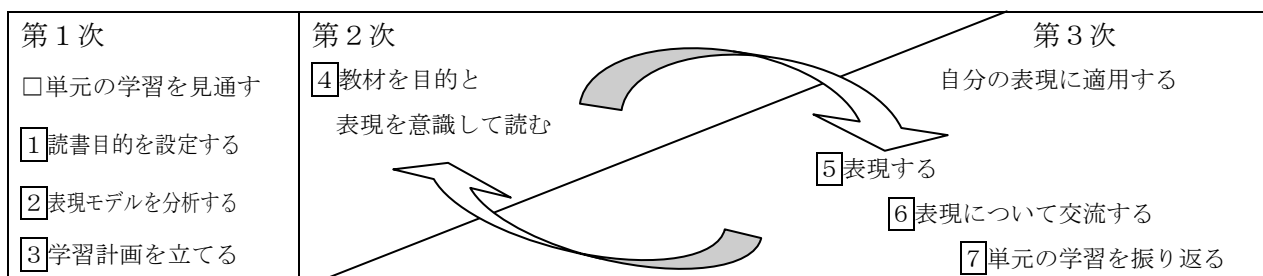
【単元構想B 1パターン】

単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



【単元構想B 2パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」（初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55）

Q1 教科書教材のみを読解していくのであれば、
これまでの指導と同じではありませんか？

A1 これまでとの違いを意識したいのは、児童
生徒に「自分が表現したい」という目的をも
って主体的に読ませることや、詳細に前から
順番に読むのではなく、視点をもって文章を
丸ごと何度も読み返す指導にチェンジするこ
とです。(詳細はp9へ)

Q2 「表現するために読む」とは、
例えばどういうことですか？

A2 「説明するため、報告するため、感想をまとめるた
め、紹介するため、助言するため、提案するため、討
論するため、推薦するため、…など」です。これらを
学習指導要領の言語活動例や解説の中から見つけ出
すことが大切です。

B 1 パターンと B 2 パターンの具体的展開例の比較

「少年の日の思い出」を教材として表現する例	
B 1 パターン (読みの視点が表現のパーツになる)	B 2 パターン (読みの視点は表現全体に渡る)
<ol style="list-style-type: none"> 1 「読書ポスター」で交流するという目的をもつ 2 教師作成のモデル「読書ポスター」を分析する 3 「読書ポスター」を作るための学習計画を立てる 一単位時間 <ol style="list-style-type: none"> 4 「読書ポスター」を作る目的で「少年の日の思い出」を読み、 5 一つの視点で表現をまとめ、 6 表現したものについて交流する ・一単位時間に、読書ポスターの要素のうち1つの視点で教材文を丸ごと読む(4つの視点なのでこの授業パターンを4回繰り返す) ・一単位時間で、視点のまとめと交流を行う 5 「少年の日の思い出」で4の視点ごとの読みを組み合わせ、「読書ポスター」を完成させる 6 「読書ポスター」を使って多様な感じ方について交流する 7 単元の学習を振り返る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 物語の構成を確認し、「少年の日の思い出」を読んで「あと話」を書くという目的をもつ 2 既習の教材等で、「現在—過去—現在」の展開で書かれた物語の書き方を分析する 3 「あと話」を書くための学習計画を立てる 4 「あと話」を書く目的で教材を読む <ul style="list-style-type: none"> ・小説の構成を読む(額縁構造と本体の小説の設定、展開、山場、結末) ・時、場、人物の設定を読む ・あらすじを読む ・表現を読む(人物描写、情景描写、文末表現) ・視点を読む(語り手) ・主題を読む 5 「あと話」を書く 6 多様な感じ方について交流する 7 単元の学習を振り返る

☞ B パターンの実践例は「Ⅱ 実践編 (p103～118)」へ

C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程

【表現する読書過程C】

- 1 読書目的を設定する
- 2 学習計画を立てる
- 3 教材文を表現モデルとして読む
- 4 表現する
- 5 表現について交流する
- 6 単元の学習を振り返る

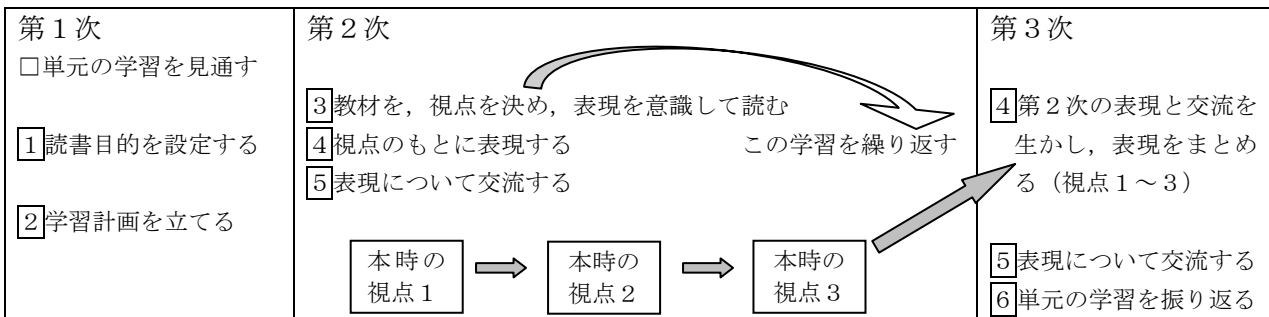


このパターンは、「詩を書くために好きな詩の書かれ方を読む」「随筆を書くために随筆の書かれ方を読む」…というように、自分の表現に生かすために教材文を読む学習過程です。

より分析的に教材文を読むため、読解力の向上が期待できます。

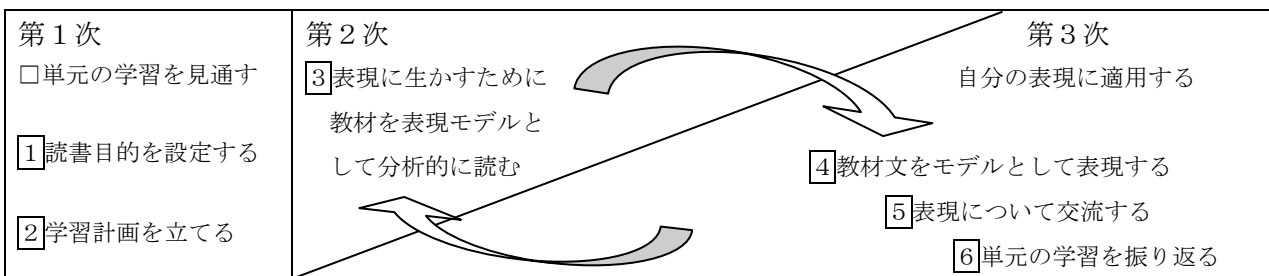
【単元構想C1パターン】

単元を通して、視点ごとに自分の表現したい内容を学んでいく



【単元構想C2パターン】

単元を通して自分の表現したい思いを膨らませる



※図の一部引用 水戸部修治「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料 2013. 5月号 p. 53, p. 55)

Q1 教科書教材を表現モデルにするのは難しいと思うのですが？

A1 そうですね。長い文章を表現モデルにすると、表現するときに時間がかかるという欠点があります。俳句や短歌、詩、短めの文章などがふさわしいかもしれません。でも、例えば、説明文で本論の事例の書き方を表現モデルにして、事例を付け加えるというように、部分的な表現活動を工夫すれば長い文章でも表現モデルとして活用できます。

Q2 ここまで単元構想を学んできて、表現モデルが大切だなと思ったのですが？

A2 その通りです。このガイドブックで解説している授業のつくり方の一番のポイントは、単元を貫く言語活動の表現モデルを教師が準備することです。表現モデルの重要性については、改めて18ページで解説しているので、あとでじっくり読んでください。



C1パターンとC2パターンの具体的展開例の比較

「枕草子 第一段」を教材として表現する例	「字のない葉書」を教材として表現する例
C1パターン（教材文の表現様式や内容がモデルとなる）	C2パターン（教材文の表現の特徴や内容がモデルとなる）
<p>1 随筆についての既習事項を確認し、随筆を書くために読むという目的をもつ</p> <p>2 学習計画を立てる</p> <p>一単位時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 随筆の書き方として「枕草子」を分析的に読む 4 一段落を書く（この单元では一段落を一視点ととらえる） 5 書いた段落について交流する <p>・一単位時間に、一段落をまとめるために、段落内の構成、一文の構成、表現、内容を読む</p> <p>※表現を読むとは「古語、文末表現、対句的表現、対比的表現」などを読むこと</p> <p>※内容を読むとは「季節感、自然や人間の営みへの思い」などを読むこと</p> <p>4 一単位時間にまとめた段落を再構成して、文章として整合性をもたせて随筆を完成させる</p> <p>5 それぞれの随筆のよさを交流する</p> <p>6 単元の学習を振り返る</p>	<p>1 随筆についての既習事項を確認し、随筆を書くために読むという目的をもつ</p> <p>2 学習計画を立てる</p> <p>3 随筆の書き方として「字のない葉書」を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名を読む（テーマとの関係） ・構成を読む（冒頭、展開、終結） ・人物を読む（人物像、人物の相互関係） ・表現を読む（人物描写、情景描写） ・内容を読む（エピソード、筆者の気付きや考え、エピソードの意味や価値） <p>4 「字のない葉書」をモデルとして、随筆を完成させる</p> <p>5 それぞれの随筆のよさを交流する</p> <p>6 単元の学習を振り返る</p>

随筆を書きたい気持ちを高める

☞ Cパターンの実践例は「Ⅱ 実践編（p119～122）」へ

「表現する読書過程」の各段階について

★ここからは、「表現する読書過程A」の9段階について具体的に解説します。

「表現する読書過程B・C」については、この考え方を当てはめてください。

1 読書目的を設定する

この段階は単元の第1次（導入）の序盤にあたります。

- ◆児童生徒主体の学習とすることができるかどうか教師の腕の見せ所です。
- ◆「過去にどんな本を読んでどんな学習（言語活動）をしたのか、過去の経験は今回の学習とどのようなつながりがあるのか、今回の学習内容に照らして何を知っているか等」について児童生徒自身に振り返らせ、単元の目標を意識した学習課題の設定（＝読書目的の確認）につなげる必要があります。
- ◆「何のためにテキスト（文章以外の資料や図，グラフ等を含む）を読むのか」を確認し、「何が知りたくて読むのか、今回の単元でプラスする能力等何か」について押さえる必要があります。
- ◆単元の導入段階では、児童生徒に自分の表現力を確認させる工夫も考えられます。表現力を確認するとは、この単元で取り組む言語活動をやらせてみるということです。今の時点の力で表現することで個々の課題が明らかとなり、学ぶべき事柄が明らかとなる場合があります。その際、手本となるモデルと比べさせることは課題を見付けることにつながります。
- ◆魅力的なモデルによって、「こういうふうに表示したい」という表現意欲を高めることが単元学習成否のカギとなります。

Q 単元の導入でこれだけのことをすると
なると時間がかかると思うのですが？

A これまでの指導を振り返ると、「なぜ、その教材文を読むの？」という問いに、児童生徒はどう答えるでしょう。「教科書にあるから。先生の指示だから。」というように、受け身的で無目的な答えが返ってくるのが予想されませんか。多少時間がかかっても、主体的な学習という学習の質を高めることに大きな意義があります。



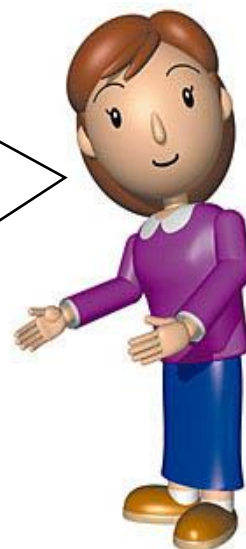
Q 「読むこと」の指導なのに、なぜ表現モデルを示して最終的に表現させるのですか？



A 本や文章を読む目的を児童生徒にもたせるためです。

表現モデルを示すことは、言語活動を充実させる意味でも、目的をもった読みを実現する意味でも、とても大切です。

モデルを示すと型にはまった表現になってしまうという心配がありますが、モデルは打ち破るためにあるものです。また、モデルを複数用意するなどの工夫で画一的な表現にならないように指導しましょう。



2 表現モデルを分析する

この段階は単元の第1次(導入)の中盤です。

- ◆表現モデルとは、文章のみを指しているではありません。朗読やスピーチ、プレゼンテーション、話し合い、演技等の音声言語・身体表現をはじめ、図やグラフを含むパンフレット等、あらゆる表現を指しています。
- ◆モデルを分析する際には、児童生徒がこれまでの「読みの視点」を思い出しながら、目的に照らしてどう読んでいけばよいかを議論し、「読みの視点」を考えたり見付けたりすることが大切です。
- ◆教師が既習教材や本単元の教材の一部を用いてモデルを作ることは、児童生徒が分析する際の手助けにつながります。
- ◆モデルを複数にし、児童生徒に選択させることは学習意欲を高めることにつながります。ワンパターンのモデルで型にはめることのないように留意しましょう。
- ◆モデルの分析とは、「何がどのように表現されているか」を確認することです。「何が」については、「内容的に、要素的に」分析する必要があります。段落単位での分析、一文単位での分析、文節単位での分析など、目的によって詳細さが決まります。「どのように」については、「構成、展開、表現」などをとらえる必要があります。

単元を貫く言語活動における表現モデルの重要性

☞ モデルは言語活動充実の手立て

このガイドブックでは、言語活動を、単元を貫く言語活動と学習場面における言語活動の二種類と考えます。そして、それぞれに言語活動のモデルを示すことが、言語活動の充実に向けた1つの手立てとなります。特に、国語科で課題となっているのは単元を貫く言語活動であり、適切なモデルを示すことが求められています。学習場面における言語活動とは、グループでの話合いの仕方など、本時の学習活動を指します。

☞ 魅力的なモデルが主体的な学習を可能に

単元を貫く言語活動のモデルを単元の導入で示し、単元のゴールを児童生徒に意識させることが重要です。魅力的なモデルを示し、「自分もこういう表現をしてみたい」という意欲をもたせることが生徒を主体的な学習へと導いていきます。第2次の読みが、第3次の表現のどの部分に関係しているのかを意識させることも大切です。

☞ モデルの質が言語活動充実の決め手

モデルの質が言語活動充実の決め手となります。教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞、プロのアナウンサーや役者など、実社会で価値あるものとして評価されているものを手本として、児童生徒の実態に合ったレベルのモデルを作成することが求められます。教師作成のモデルではなく、実社会からモデルとなる表現を児童生徒自身が探すことも考えられます。

☞ 大切なのは単元を貫いていること

単元を貫く言語活動が適切に設定された場合でも、単元を貫く言語活動とモデルがねじれている場合があります。例えば、「感想を読書会で交流しよう」という言語活動を設定したとします。モデルを示すとすれば「読書会のモデル」であり、「このような読書会をするためにどのように本を読めばよいか」というのが第2次の学習となるのですが、「読書会のモデル」ではなく「感想の書き方」をモデルとしている授業に出会うことが少なくありません。このような授業だと、自分の感想をまとめることはできても充実した読書会にならないことが予想されます。

☞ モデルとなるような単元を貫く言語活動を教師自身が体験すること

児童生徒にやらせる前に教師自身が言語活動をしてみることで、指導のポイントが明らかとなっていきます。

3 学習計画を立てる

この段階は単元の第1次(導入)の終盤です。

- ◆単元のゴールをイメージできたら、児童生徒に過去の学習過程を参考にしながら、学習計画を立てさせる必要があります。
- ◆学習計画を児童生徒どうして協議させることが、単元の学習を見通す力を高めることにつながります。
- ◆児童生徒に学習経験が少ないという実態がある場合、教師が学習計画を導くことも段階的指導としては必要です。例えば、学習過程をカードで示し、児童生徒自身がカードを並べ替えて学習過程をつくることも一つの工夫となります。
- ◆学習計画を立てる際には、並行読書教材(選択教材)を児童生徒に選択させる必要があります。選択方法として、課題読書(テーマ別、ジャンル別…),自由読書,指定図書(この〇〇冊の中から選べ)等が考えられます。

4 目的と表現を意識して読む

この段階は単元の第2次(展開)の序盤です。

- ◆「何のために読むのか、何をどのように表現するのか」を意識して読むことや、第1次で確認した読みの視点に従って読むこととなります。これまでの指導では、段落ごとに詳細に読んでいく指導が多く見受けられましたが、必ずしも第一段落から最終段落まで順番に詳細に読み取っていくことが読解力を高める指導とはなりません。また、必要があれば、これまで以上に部分を詳細に読むこともあります。
- ◆内容と形式の両面を読むことに留意したいものです。
- ◆他の段階もそうですが、この段階では、特にも思考を促したり助けたりするようなワークシートや言語環境等の工夫を図る必要があります。
- ◆第1次において設定された読みの視点によって一人一人の児童生徒の目的読書が達成されるように配慮しなければなりません。
- ◆読みの視点は、学習指導要領の指導事項からも設定できます。
(中学2年の例=心情を表す語句,例示や描写,言動の意味,構成や展開,表現の仕方,根拠,ものの見方や考え方…)

5 共通教材で表現する

この段階は単元の第2次（展開）の中盤です。

- ◆自分が「こうしたい」という思いや意図を明確にし、モデルを参考にして表現できるように指導しなければなりません。
- ◆複数のモデルからひとつのモデルを選択したとしても、型にはまった表現になることが考えられます。個性を生かした表現となるような指導の工夫として、発達段階にふさわしい語彙指導（評価・判断を表す言葉、感情を表す言葉…）や文末表現（事実、考察、意見…）の使い分け、レトリックなどの指導の充実が考えられます。
- ◆取組としては、グループでひとつの表現を協働的にまとめるのか、個人でまとめるのかで培われる能力も違ってきます。

6 表現について交流する

この段階は単元の第2次（展開）の終盤です。

- ◆それぞれのグループや個人で表現したものを検討します。「目的が何であったか、表現者の意図と表現の結びつきはどうか、読みの視点の確かさはどうか、表現のよさがどこにあるか」等について意見を交流させましょう。
- ◆交流させる際には、その方向性を確認する必要があります。交流の方向性とは、「協議か討論か（意見をひとつにまとめるか複数に分類するか）や、交流後にどのように発表するか」であり、「司会や記録などの役割分担をどうするか」も明確にする必要があります。
- ◆学級全体で教師が中心となって児童生徒の発言をつなげるような交流ではなく、ペアやグループなど、児童生徒間で充実した交流ができるように指導を工夫する必要があります。
- ◆交流のモデルを示したり司会の進め方を示したりすることなどが、交流充実の大切な手立てとなります。
- ◆全体交流の際も、必ずしも教師が進行するのではなく、児童生徒が全体司会をできるように育てることも大切になってきます。
- ◆児童生徒の司会力や対話力が交流充実の鍵ですが、これは一朝一夕に身に付くものではなく、12年間を見通して戦略的に育成する必要があります。

7 選択教材で表現する

この段階は単元の第3次（終末）の序盤です。

- ◆ **4**・**5**・**6**で学んだことを中心に発揮し、自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらく力に結び付ける段階です。
- ◆ グループで取り組むよさと個人で取り組むよさを考えて、どのように取り組ませるか検討する必要があります。
- ◆ 選択教材を何にするかは、この段階になってから考えるのではなく、第2次の学習と並行して、各自が選書し読書しておく必要があります。

8 表現について交流する

この段階は単元の第3次（終末）の中盤です。

- ◆ **6**の学習過程を繰り返すこととなりますが、形式的に繰り返すのではなく、**6**の学習を振り返り、自分たちで改善点を見付け、交流の仕方（内容面・形式面）を修正し、改善できるように指導したいものです。
- ◆ **6**のペアやグループ編成を変えることも工夫の一つです。

9 単元の学習を振り返る

この段階は単元の第3次（終末）の終末、単元のまとめです。

- ◆ 単元を通して、「何を学んだか、上手く表現できたか、今後の読書生活に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認し、達成感を高めたり読書意欲を喚起したりするとともに、次単元の課題を明らかにすることで、学びの連続性を意識させる段階です。



Q まだ、よく分からないところがあるのですが、どうしたらいいのですか？

A 分からないことが出てきたら、いつでも、
岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当
☎0198-27-2735
まで、連絡してください。



3-(4) 本時を構想する

Q1 本時を構想すると言っても、これまでの考え方と大きな違いがあるのですか？

A1 授業づくりの考え方として、これまでと大きな違いはありません。45分～50分の授業で、児童生徒に、自分たちで考えさせたり交流させたりすることや、全員に同じ質の学習活動を保障することや、今日学ぶ内容や学び方が分かって自ら動いて学習できるようにさせること、先生がしゃべりすぎたり説明しすぎたりしないことが大切です。

Q2 当たり前なことだけど、難しい。どうしたらいいのでしょうか？

A2 そうですね。ですから、このガイドブックでは、「見通し」「学習モデル」「学習形態」「振り返り」の4つをキーワードにして、本時の学習過程を10段階にして示してみました。

Q3 ええっ～。10段階もあるのですか。時間内に終わらないのでは？

A3 10段階といっても、均等に時間をかけるわけではありません。それに、前時からの流れで省略できる段階もありますので、毎時間が10段階というわけではないのです。

Q4 すべての時間に共通する学習過程にはできないということでしょうか？

A4 そうです。でも、「学習課題」「学習の見通し」「課題解決に向けた言語活動」「課題解決」「学習の振り返り」という過程を踏むことと、「ひとりで」「ペア・グループで」「みんなで」という学習形態を工夫することは、すべての時間に共通して取り組むべきことです。

本時の学習過程

【本時の学習過程】

- 1 単元の学習過程の確認
- 2 本時の学習課題の設定
- 3 既習内容や本時の学習内容の確認
- 4 本時の学習過程の確認
- 5 表現モデル・活動モデルの確認
- 6 課題に沿った読み
- 7 考えの交流
- 8 読みのまとめ
- 9 読みの適用
- 10 本時の振り返り

一番大事なのは、児童生徒が考えたり、表現したり、交流したりする時間をしっかり確保することです。先生ばかりがしゃべっている授業はやめてください。

学習過程通りにやることが大切ではないので注意してください。



【本時の学習過程イメージ】

学習内容（何を）と、学習活動（どのように学ぶのか）の確認

学習形態の工夫による児童生徒主体の学習活動

- ひとりで学ぶ
- ペア・グループで学ぶ
- みんなで学ぶ

言語活動充実の工夫

- 学習掲示の整備
- 学習シートの工夫
- 読書環境の整備

学習内容と学習活動の自分にとっての意義を振り返る

【導入】 5～10分

活動	ポイント
○児童生徒が確認する ○教師が説明・指導する	○本時の学習過程を学習形態と学習内容、配当時間で示す

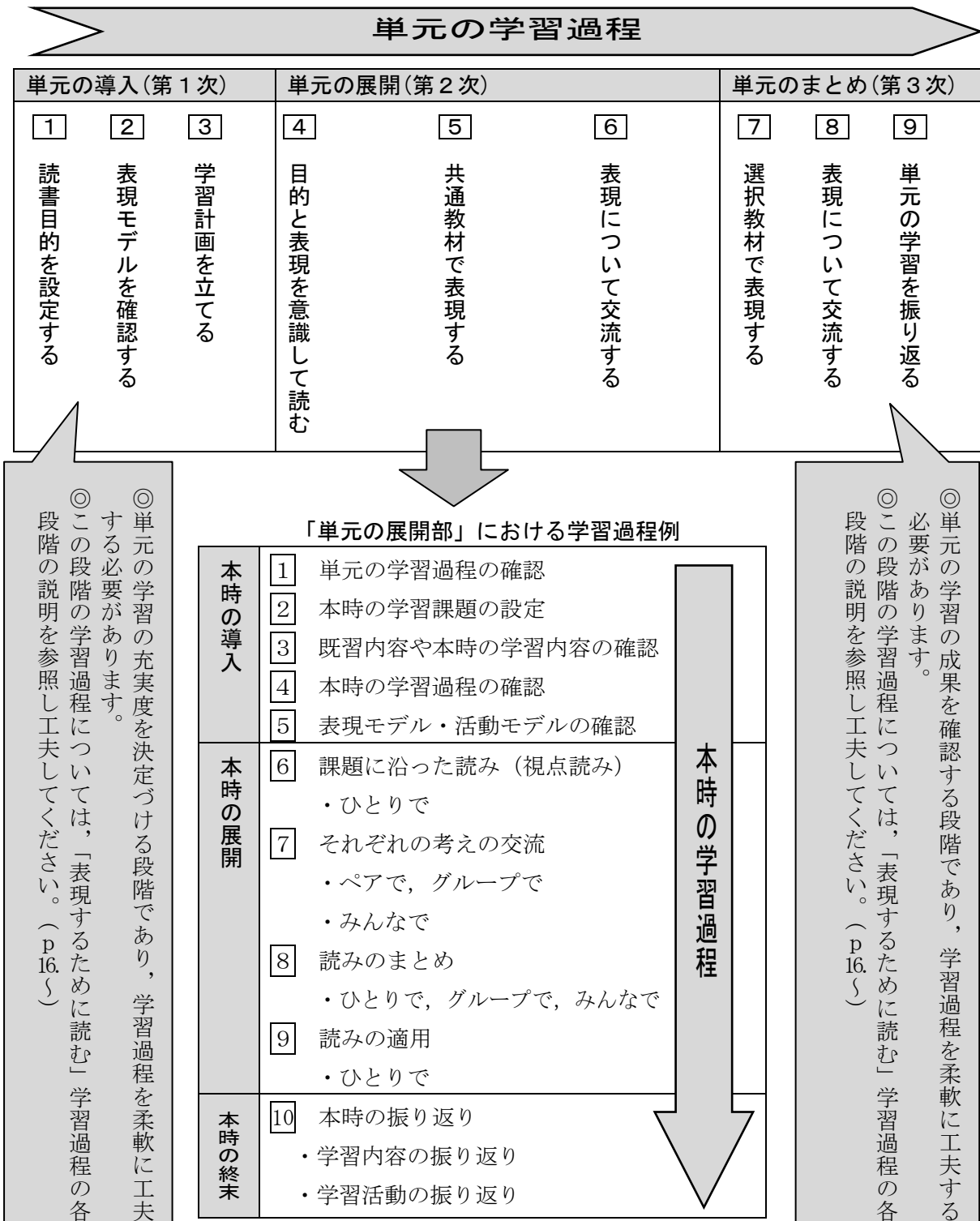
【展開】 25～35分

活動	ポイント
○児童生徒が言語活動を行う ・ひとりで学ぶ ・ペアやグループで学ぶ ・みんなで学ぶ ○教師は言語活動を支援する	○言語活動を高めるために、学習掲示や学習シートを工夫する ○読書環境を整備する ○ひとり、ペアやグループ、みんなでの学習活動を効果的に位置づける ○個人の能力を高めることを目的に行う

【まとめ】 5～10分

活動	ポイント
○ひとり、ペア・グループ、みんなでの振り返りを効果的に取り入れる	○学んだことやさらに学びたいことなどをまとめる

単元の学習過程と本時の学習過程（関係イメージ）



◎単元を通して、すべての単位時間に共通して設定できるとされる学習過程と学習形態

- 【学習過程】**
- 本時の学習課題
 - 本時の学習の見通し
 - 課題解決に向けた言語活動
 - 本時の課題解決
 - 本時の学習の振り返り

- 【学習形態】**
- ひとりで
 - ペアで・グループで
 - みんなで
- という学習形態による学習活動

本時の学習過程の各段階について

1 単元の学習過程の確認

- ◆単元の学習計画表等を使い、本時が単元の学習のどの段階に当たるのかを確認しながら学習を進めることが、単元全体の見通しをもって学習を進めることにつながります。
- ◆児童生徒に今日の学習内容について説明させるなどの工夫をすると、いっそう主体的な学習を推進できるでしょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

2 本時の学習課題の設定

- ◆単元の学習課題解決に向けた本時の学習課題を設定します。
- ◆単元の学習課題と本時の学習課題の結びつきを児童生徒に理解させることが必要です。
- ◆場合によって違いますが、1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

3 既習内容や本時の学習内容の確認

- ◆学習課題の設定が終わったら、課題解決に向けて、すでに知っていること、知りたいことなどを確認する必要があります。
- ◆既習内容と結び付けて学習することが、学習内容の定着を図ったり発展させたりすることにつながります。
- ◆場合によって違いますが、普段は1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

4 本時の学習過程の確認

- ◆「ひとりで」「ペアで・グループで」「みんなで」の学習形態の別、活動内容、活動時間等を確認しましょう。
- ◆黒板に書く、あるいは掲示するなどして一単位時間の学習の流れを児童生徒が視覚的につかむことができるようにしましょう。
- ◆1～2分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。

5 表現モデル・活動モデルの確認

- ◆表現モデルとは、本時の課題解決時の具体的な姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。
- ◆活動モデルとは、本時の課題解決に向けた具体的な学習活動の姿のことです。時間をかけないためには、詳しい解説をワークシートにして配付するなどの工夫が必要です。児童生徒に模範演技をさせることも理解を助けます。
- ◆3～5分程度と、あまり時間をかけないようにしましょう。
- ◆児童生徒がすでに学んだ内容であれば、モデルを示さなかったり時間を短縮したりすることも考えられます。

6 課題に沿った読み

- ◆一人で課題に沿って読み、自分の考えをまとめる段階です。
- ◆一人で作業や思考、表現ができるように、知識を与えたり、理解を深めたり、技能を高めたり、思考操作や言語操作の仕方が分かったりすることのできる解説型シートや、自分で判断力し表現するための作業用シートを準備しましょう。
- ◆「一人で考えてください」と指示した時に、一人で思考や作業ができるように十分に指導しましょう。指導があつての活動です。
- ◆5～10分程度と、たっぷり時間をかけましょう。
- ◆課題や児童生徒の実態、指導構想によっては、最初からペアやグループで活動することも考えられます。

7 それぞれの考えの交流

- ◆ペアやグループ、全体でそれぞれの読みを交流する段階です。
- ◆まず、教師が「どのような交流をどのようにさせようとしているのか」を明確にし、それを児童生徒に的確に指導する必要があります。
留意点には、以下のようなものが考えられます。
 - (1) 目的の確認…何のために何について交流するのか。
 - (2) 方向性の確認
 - ①協議（相互の知識や考え、意見などを出し合いひとつにまとめていく）か、討論（互いの考えの違いを大事にしながらかの考えを関連づけていく）か。
 - ②交流後の発表について
 - ・結論と理由を述べる、出された主な意見を紹介する、話し合いの経過を説明する…等、交流後、どのように発表するのか。
 - ・全グループ発表なのか、代表グループが発表なのか。
 - ・口頭発表なのか、ボード等書いたものの一斉掲示による発表なのか。
- ◆グループで交流させる場合には、次のように役割分担すると交流を充実させることができます。
 - (1) 司会者…交流の充実には、司会力の向上が不可欠です。学年に応じた司会力や「司会の進め方」の系統表を作成するなど、指導の充実が必要です。
 - (2) 記録者…交流が終了してから発表内容を検討する時になって、グループで相談してまとめて記録するものではありません。交流を進めながら発言の要点をまとめる力を育成しなければなりません。その際には、どのような形式の記録用紙にまとめさせるのかも重要です。
 - (3) 計時係…交流の時間や進度を管理する力（自ら時間をコントロールする力）。これまでの指導では十分とは言い切れない「時間内に話し合う力」を育成することも重要です。
 - (4) 発表者…交流後に報告する力。発表力（声の大きさ、視線、反応を見て話す、資料を示しながら話す、身振り手振りを入れて話す…等）を系統的に育成することも重要です。
- ◆「読むこと」における交流のためのグループは4名以内が適切です。ただし、「話すこと・聞くこと」の指導において意図的に4名以上での話し合いを組織することがありますので、その指導と区別しましょう。

☞さらに詳しい交流充実の手立ては、「Ⅲ 資料編 (p136～137)」へ

8 読みのまとめ

- ◆交流を終えて、本時の課題解決として読みを個人でまとめる段階です。
- ◆授業において交流をする最終的な目的は、個人の能力や技能を高めたり、個人の思考力・判断力・表現力を深めたり高めたりすることにあります。全員で同じまとめをして、それをノートに書き写すような授業をしていたのでは、個人の能力や技能、思考力・判断力・表現力は向上しません。
- ◆必ず、各個人が自分の表現でまとめを行う段階を作りましょう。
- ◆この段階になって、改めて追指導しなくてもよいように各段階の指導を充実させ工夫することが最も重要です。

9 読みの適用

- ◆獲得した読みの能力を並行読書教材等に適用させる段階です。この段階は単元の構想によっては省略されることもある段階です。
- ◆国語科の場合は、獲得した力に汎用性があるのかどうかの見極めが重要になります。そういった意味で、本時の学習内容が他のテキストを読む際にも適用できるような指導に改善していかなければなりません。

10 本時の振り返り

- ◆「何が分かり、何が分からなかったのか」「学んだことやさらに学びたいこと」についてまとめる段階です。
- ◆評価シートを活用して、学びの履歴が残るような工夫が必要です。このことが、自覚的・主体的な学習態度を養うことにつながります。学習計画と評価シートを一体化すると、見通しと振り返りが一枚のシートで可能となります。
- ◆評価シートを活用し、教師がコメントを記入したり、一人一人の学びを把握したりすることは評価の確かさにもつながります。

言語活動の充実に向けて、単位時間の中にグループ交流を効果的に位置付ける工夫が求められています。でも、「さあ交流しなさい」というように、具体的な指導をしないで交流させている場合も見受けられるので気を付けましょう。交流の仕方は、一度指導したからできるようになるというものではなく、小学校低学年から発達段階に応じて、指導を積み重ねていく必要があります。

しかも、中学校や高校では、国語科で指導する交流の仕方を他教科でも活用できるように指導していくことが、これからの大きな課題です。他教科の先生とも連携する必要があります。

さらに、学習形態から学習過程を考えると、「少人数から多人数の学習へ」という一方通行的な学習形態の工夫になりがちですが、全体から個に向かうような学習形態や「個⇒全体⇒グループ」のような柔軟な展開を工夫することも、指導過程の硬直化を防ぎ、多種多様な言語活動の充実につながることを意識してください。



3-(5) 評価を工夫改善する

Q1 学習評価の目的について教えてください？

A1 学習評価の目的には、大きく二つの側面があります。一つは、教師の立場から、指導改善に生かすための側面であり、もう一つは、児童生徒の立場から、児童生徒や保護者に実現状況を伝えて学習改善を促すための側面です。

Q2 学習評価の改善に関する基本的な考え方について教えてください？

A2 学習評価の改善に関する基本的な考え方は三つあります。一つ目は、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を引き続き着実に実施すること。二つ目は、学習指導要領の趣旨（学力観等）や改善事項（言語活動を通して指導する等）を適切に反映すること。三つ目は、学校や設置者の創意工夫を一層生かすことです。

Q3 目標に準拠した評価について、もう少し詳しく教えてください？

A3 目標に準拠した評価を実施するためには、教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルのねらいも明確にする必要があります。そのねらいに照らして、児童生徒の学習状況として実現された状態を具体的に評価規準として示さなければなりません。評価規準は、各学校において設定するものです。適切な評価規準の設定による着実な評価の実施が求められています。

Q4 各学校で学習評価を改善するための留意点にはどのようなものがありますか？

A4 まず、観点ごとの評価をバランスよく実施すること、学習評価をその後の学習指導や学校の教育活動全体の改善に結びつけることです。また、学習評価の妥当性や信頼性を高めるための組織的・計画的な取組も求められます。教師間の共通理解を図るため、校内研究・研修を工夫しましょう。さらに、保護者や児童生徒に、学習評価について事前に説明したり、評価結果の説明をしたりすることも重要です。実践事例を着実に継承していくことも重要です。

評価の進め方(手順)について

このガイドブックにおける
「授業づくりの手順」

評価の進め方

評価の留意点

(3) 単元を構想

単元で取り上げる指導
事項と言語活動を確認
する

単元の目標を設定する

単元の評価規準を設定
する

単元の指導計画と
評価計画を作成する

(4) 本時を構想 ・ 授業実践

本時の指導計画と
評価計画を作成する

指導に生かすための評
価と記録に残すための
評価を明確にする

(5) 評価を工夫改善

記録に残すための評価
を工夫する

- ・ ノート, ワークシート
- ・ 作品
- ・ 実演や映像
- ・ ペーパーテスト
- ・ レポート
- ・ 質問紙, 面接 等

○年間指導計画を基に, 重点的
に取り上げる指導事項を確認
する。☞「Ⅲ 資料編(p134)」へ

○学習指導要領の目標と内容を
踏まえる。

○児童生徒の実態, 前単元まで
の学習状況等を踏まえる。

○「評価規準の作成, 評価方法
等の工夫改善のための参考資
料」の「評価規準に盛り込む
べき事項」を参考にする。

○上記で設定した単元の目標を
踏まえる。

☞具体的作成例は,

「Ⅲ 資料編(p138~139)」へ

○どんな評価資料を基に, どの
ような状況等の目安で評価す
るのかを考える。

○指導に生かすための評価を行
い, 学習指導の改善に生かす。

○記録に残すための評価を行
い, 児童生徒や保護者に実現
状況を伝え, 児童生徒の学習
改善に生かす。

○記録に残すために, ノートや
ワークシート, 作品や映像,
ペーパーテスト等を用いて評
価を行う。

○自己評価や児童生徒同士の相
互評価を工夫する。

○観点ごとに評価を整理する。
場合によって, 観点ごとの総
括的評価を記録する。

○学期末や学年末の観点ごとの
総括に生かす。

ノートやワークシートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ 児童生徒の思考・判断・表現を見て取れるノートやワークシートを工夫する。

(1) 思考・判断の視覚化を図る。

- ・ 列挙，順序づけ，予想，整理，分類，比較，類推，推論，多面的思考，統合，関連付け，選択，論理的思考，批判的思考，評価など，思考操作の別を記述させる。
- ・ 思考過程をナンバリング，マッピング，表，フローチャート，KJ法などによって視覚化する。

(2) 自分の考えを表現させる。

- ・ 条件（構成，文数，字数，主語・述語・接続語等の指定，使用語彙の指定など）を提示し，コンパクトに自分の考えを記述させる。
- ・ 本時の課題解決（ゴール）として，自分の考えをまとめさせる。

(3) 自分の考えの変容も記録に残させる。

- ・ 交流後に考えを再構成させる場合，棒線や書き加え等で訂正や修正を行わせるか，新たな考えを隣に記述させる。

(4) 板書事項を書き写すだけ，情報を抜き書きするだけのノートやワークシートにならないよう工夫する。

＜工夫2＞ 児童生徒が自身の学習をメタ認知できるようなノートやワークシートを工夫する。

(1) 学習の見通しや振り返りを記述させる。

- ・ 学習に対する期待や学習計画・学習内容の見通し，学習内容や学習過程の振り返りを記述させる。
- ・ 振り返りにおいては，自身の考えの変容やその経緯なども記載させる。

(2) 学習についての自己評価や相互評価を記述させる。

具体例は，「Ⅱ 実践編(p43)」へ

作品による評価の工夫について

＜工夫1＞ 作品における評価規準を設定する。

(1) 手立てとして次のようなことが考えられる。

- ・ 教師自身が作品をつくることで評価のポイントを明らかにする。
- ・ 単元の評価規準を，明確化・焦点化・細分化・具体化し，作品のどの部分で評価するのかを明らかにする。

(2) 留意点として次のようなことが考えられる。

- ・ 作品における評価規準を設定する際に，評価の観点をバランスよく設定する。
- ・ 作品を比べて考えることで，評価規準をより確かなものに修正していく。
- ・ 複数の評価者を工夫したり，児童生徒の自己評価や相互評価を参考にしたりする。

＜工夫2＞ 場合によって，「国語への関心・意欲・態度」や「言語に関する知識・理解・技能」（※高等学校では「知識・理解」）も評価する。

実演や映像による評価の工夫について

＜工夫1＞ 音声表現による評価をする場合には，映像を利用することも考えられる。

＜工夫2＞ 音声表現は，すぐに消えてしまうものであるため，文字表現による評価以上に事前に評価規準を具体化したり観点を絞り込んだりして，その場で即座に評価できるよう準備しておく必要がある。途中で評価規準を変えることのないようにし，評価規準がぶれることのないように留意しなければならない。

ペーパーテストによる評価の工夫について

<工夫1> 評価規準（学習指導要領の目標や内容）を具体化した出題とする。

- (1) ペーパーテストは、指導によってどんな力が身に付いたのかを図るためのものであることを自覚する。指導した（学習した）内容を評価しなければならない。
- (2) 思考・判断・表現を伴う基本的出題例として、次のようなものが考えられる。出題例は、これまでに出版されることが少なかったのではないかと考えるものを象徴的に取り上げた。選択問題にしたり、記述問題でも条件を付したりすることで、採点基準を明確にする工夫が必要となる。

<出題例・小学校>

- ・説明の順番がこうになっているのはなぜですか。（低学年イ）
- ・登場人物がこうに行動したのはなぜだと思いますか。（低学年ウ）
- ・好きな登場人物の行動を書き抜き、理由を体験と結び付けて説明しなさい。（低学年エ、オ）
- ・○段落と○段落はどのような関係にありますか。（中学年イ）
- ・この意見はどのような事実から導き出されたものですか。（中学年イ）
- ・登場人物の心情がこうに変化したのはなぜですか。（中学年ウ）
- ・登場人物○○と△△は、どのような関係にありますか。（中学年ウ）
- ・この場面は作品の中でどのような役割を果たしていますか。（中学年ウ）
- ・○○という目的で、文章を○字に要約しなさい。（中学年エ）
- ・○○という思いを表現するには、どのように朗読しますか。理由も説明しなさい。（高学年ア）
- ・筆者はどのように論を展開して読者を説得しようとしていますか。（高学年ウ）
- ・この表現は、○○という表現に比べてどのように優れていますか。（高学年エ）
- ・文章Aと文章Bを比べ、考え方の共通点と相違点を説明しなさい。（高学年カ）

<出題例・中学校>

- ・この文章において「○○」とはどういう意味ですか。（1学年ア）
- ・○段落を○○という目的で、○字で要約しなさい。（1学年イ）
- ・この文章の要旨を条件に従ってまとめなさい。（1学年イ）
- ・「○○」という情景描写が意味しているものは何ですか。（1学年ウ）
- ・文章の表現の特徴を説明したものを次の選択肢から選びなさい。（1学年エ）
- ・根拠を文章Bから見つけ、文章Aでの筆者の考え方に対する批判的な立場での考えを述べなさい。（1学年オ、カ）
- ・「○○」の意味は辞書に「A」・「B」・「C」と三つ記載されていますが、ここでの意味はこのうちのどれですか。また、ここでの文脈上の意味を具体的に説明しなさい。（2学年ア）
- ・この段落は、文章全体の中でどのような役割を果たしていますか。（2学年イ）
- ・この段落は、文章中のどこに位置づける必要がありますか。（2学年イ）
- ・この文（段落）があるのとないのでは、文章における効果として何が違いますか。（2学年イ）
- ・筆者はなぜこのような文末表現や比喻を用いたのですか。（2学年ウ）
- ・文章Aと文章Bの表現の仕方の違いは何で、なぜ違うのですか。（2学年ウ）
- ・筆者の考えに対する自分の考えを、自分の経験と結び付けてまとめなさい。（2学年エ）
- ・「○○」という立場で、本文中から情報を引用して考えをまとめなさい。（2学年オ）
- ・「○○」という語句を用いた筆者の意図は何だと思いますか。（3学年ア）
⇒例；『少年の日の思い出』では、なぜ「情熱」ではなく「熱情」と翻訳していますか。
- ・筆者がこの事例を取り上げて論を展開している意図は何ですか。（3学年イ）
- ・登場人物はどのような性格で、この作品でどのような役割を果たしていますか。（3学年イ）
- ・文章Aと文章Bで、どちらが目的にふさわしい構成や展開、表現の仕方をしているか評価しなさい。（3学年ウ）
- ・筆者の考えに対する自分の意見を、根拠を明らかにしてまとめなさい。（3学年エ）

<出題例・高等学校>

- ・小説のこの部分を戯曲の様式に直して書きなさい。（国語総合ア）

- ・「〇〇」について、文章中から関連する内容を取り上げて詳述しなさい。（国語総合イ）
- ・なぜこのように書いているのか、文章中の表現に即して説明しなさい。（国語総合ウ）
- ・表現の仕方について、規準を明確にし、あなたの判断を説明しなさい。（国語総合エ）
- ・筆者はなぜこのように書いたのか、その意図を説明しなさい。（国語総合エ）
- ・文章の構成や展開の仕方を説明しなさい。（現代文Bア）
- ・文章における登場人物の心情の推移を説明しなさい。（現代文Bイ）
- ・文章中の表現を他の表現と置き換えて、比較しながら効果を説明しなさい。（現代文Bイ）
- ・相反する立場で書かれた文章Aと文章Bについて、自分の立場を論じなさい。（現代文Bウ）
- ・古典作品の構成や展開の仕方がどのようになっているか説明しなさい。（古典Bイ）
- ・古典作品に表れている考え方について、現代と通じる共感できるものか違和感を覚えるものを取り上げ、その理由を説明しなさい。（古典Bウ）
- ・古典作品やその評論文から、この作品の普遍的価値について考察しなさい。（古典Bエ）

＜工夫2＞ ペーパーテストと授業を連動させて考える。

- (1) どんなペーパーテストにするかを考えながら授業をする。または、ペーパーテストを考えてから授業をする。

例えば

- ・高等学校（現代文Bウ）「相反する立場で書かれた文章Aと文章Bについて、自分の立場を論じなさい。」の場合
 - 相反する立場で書かれた文章を比べて読むこと。（何をどう比べて読むか）
 - 自分の立場を決めること。（文章Aの立場、文章Bの立場、それ以外の立場のどれか）
 - 自分の立場を論じるとはどういうことか。（何について、どのように論じるのか）
- などを授業で指導しなければ評価することはできない。

- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

＜工夫3＞ 具体的言語活動の設定を意識した出題とする。

- (1) 平成25年3月に総合教育センターが、中学校国語・数学・英語の3教科で作成した評価規準表とその評価問題である「いわてスタンダード」「Gアップシート」の考え方を参考にする。
- (2) 全国学力・学習状況調査問題から授業を改善する。

レポートによる評価の工夫について

＜工夫1＞ レポートを書かせる目的を明確にもつ。

- (1) 何を評価するためのレポートなのかを明確にする。
- (2) ペーパーテストや作品等でははかりきれない内容か確認する。

＜工夫2＞ レポートの様式や内容を指導する。

- (1) 評価規準に照らして、何をどのように書かせるのかを明確にする。

質問紙、面接による評価の工夫について

＜工夫1＞ 学習意欲や児童生徒の学習内容に関する変容を把握する。

- (1) 国語への関心・意欲・態度に反映させる。
- (2) 質問紙と、作品やペーパーテストなどを組み合わせて判断するようにする。

＜工夫2＞ 質問紙やペーパーテストなどでは把握しきれない内容について、面接によって把握する。

Ⅱ 実践編

A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程例

小学校第3学年単元構想表（光村図書；「三年とうげ」）

※平成25年11月に実践した授業の一部を改めたもの

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

- ・低学年からの学習で、「物語の設定をとらえる」「あらすじをつかむ」という学習は積み重ねている。場面の様子について読むことは学習してきているが、場面分けを自分で行う経験はまだない。
- ・3年生になってからの2つの物語文の学習で、「人物の会話や行動、気持ちなどを自分と比べながら読むこと」「場面の移り変わりを読み、想像して読むこと」を学習している。
- ・「ちいちゃんのかげおくり」の学習では、引用と感想を用いて、3年生の友達に感想文を紹介するという活動を経験している。

- 場面の移り変わりとらえる力（C - ウ）
- ◎文章の細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりして、自分の考えをまとめる力（C - エ）
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付く力（C - オ）
- 目的に応じて、いろいろな本を選んで読む力（C - カ）

【単元を貫く言語活動】

1年生に紹介するために、文を引用したり要約したりして、昔話リーフレットを作る。

【言語活動の特徴】

昔話リーフレットとは、「あらすじ、引用、感想、おすすめの言葉」の4つの要素で構成されたものである。児童は、1年生に紹介するためのリーフレットを作成するという目的で、あらすじ、お気に入りの場面の引用、昔話を読んだ自分の感想、読んでほしいおすすめのポイントをまとめていくこととなる。

1. 単元名 心に残った文を引用したり要約したりして、お気に入りの昔話を紹介しよう

2. 単元の目標

- 読んで感じたことを、文を引用したり要約したりしてまとめることができる。
- 昔話紹介リーフレットを交流し、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆文章を読んで気に入った文を引用したり要約したりして紹介しようとしている。

【読む能力】

- ☆場面の移り変わりとらえている。（C - ウ）
- ☆心に残った場面の文を引用し、それについての感想を自分なりの言葉で書いている。（C - エ）
- ☆感想を発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。（C - オ）
- ☆目的にあった昔話の本を選んで読んでいる。（C - カ）

【言語についての知識・理解・技能】

☆言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（伝国イ(ア)）

4. 教材 「三年とうげ」（光村図書3年下）、「たぬきの糸車」（光村図書1年下）

5. 単元の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		・朝学習や週末読書の時間を利用して、昔話の絵本を読む。	
第1次	第1時	1. 読書経験を基に、昔話について話し合う。 ○お気に入りの昔話 ・どんなお話か、どんなところが気に入っているか 2. 単元名を知る。 3. 感想の言葉やお薦めの言葉について話し合う。 ・楽しいときの言葉、悲しいときの言葉など	○今まで学習してきた感想の言葉集を基に、おすすめする時に使える言葉について考えさせる。 関 お気に入りの昔話を見つけ、紹介しようとしている。 言 感想の言葉やお薦めの言葉の働きに気付いている。
	第2時	1. 昔話リーフレットのモデルを提示し、要素や発表のしかたについて話し合う。 ○要素：あらすじ、感想、引用、理由 ○内容：1年生へ話す工夫 ○話し方：声の大きさ、視線 2. 単元の学習計画を立てる。	○「たぬきの糸車」で教師がモデルを作成する。 ○紹介する相手が1年生であることを意識させる。 ○紹介は、リーフレットを用いて音声で紹介することを確認する。 関 お気に入りの昔話を見つけ、紹介しようとしている。
第2次	第3時	1. 「三年とうげ」の全文を読み、設定を捉える。 ○時、場所、登場人物を捉える 2. 「三年とうげ」の場面分けをする。 ○時間、場所、人物の変化で場面を捉える 3. お気に入りの昔話の大体の設定を捉える。	○場面が変わるときに設定も変化していることに気付かせる。 読 場面の移り変わりを捉えている。 読 目的にあった昔話の本を選んで読んでいる。
	第4時	1. 「三年とうげ」のあらすじを捉える。 ○どのような場所で、どのような中心人物が、どのような出来事によって、どのように変わった話 2. お気に入りの昔話の大体のあらすじを捉える。 ○どのような人が、どのように変わった話	○登場人物の行動や会話に着目させ、場面ごとに内容を短くまとめさせる。 ○読み手が読みたくなるようなあらすじの紹介のしかたについて考えさせる。 読 場面の移り変わりを捉え、紹介するためにあらすじをまとめている。
	第5時	1. 「三年とうげ」のお気に入りの場面の文を引用し、その理由を説明する。 ○お気に入りの場面の一文を選ぶ（引用） ○選んだわけをまとめる（理由） 2. お気に入りの昔話のお気に入りの場面の文を引用し、その理由を説明する。	読 交流をとおして、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。
	第6時	1. 「三年とうげ」のおすすめの言葉を考え、その理由を説明する。 ○読むとどのような気持ちになるか ○どうしてそのような気持ちになったか 2. お気に入りの昔話のおすすめの言葉を考え、その理由を説明する。	○第1時の学習を基に、「おすすめ言葉」について考えさせる。 読 交流をとおして、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。
	第7時	1. お気に入りの昔話リーフレットを仕上げる。 ○自分で選んだ昔話について、あらすじ、お気に入りの場面の引用、昔話を讀んでの自分の感想、讀んでほしいおすすめポイントをもとめる	読 場面の移り変わりを捉えている。 読 心に残った場面の文を引用し、感想を自分なりの言葉で書いている。 読 目的にあった昔話の本を選んで読んでいる。
第3次	第8時	1. 昔話リーフレットで交流する。 ○交流の観点（内容：もっと伝えたいこと、よりよい表現など、話し方：声の大きさなど） 2. 単元の学習を振り返る。	読 交流をとおして、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 関 文章を讀んで、気に入った文を引用したり要約したりして紹介しようとしている。
	第4次	○冬休み読書カード（おすすめの本の紹介）を、物語のあらすじ、お気に入りの文の引用・感想を用いて書く。 ○朝学習で1年生にお気に入りの昔話を紹介する（昔話リーフレット発表会）。	

お気に入りの昔話の並行読書

「三年とうげ」リーフレットモデル

本の題名

たぬきの糸車

⑥ おすすめの言葉

よむと、
あつたかいきもちになるよ

④ あらすじ

いたずらばかりしていたたぬきが、
おんがえしに糸をつむいだお話。

第四時【あらすじ】

「三年とうげ」では、あらすじを場面に沿って、「どのような場所で、どのような中心人物が、どのようなことによって、どのような話。」という一文で表す。
※お気に入りの昔話のあらすじは、読みたくなるように工夫する。

⑤ 感想

たぬきがまいばん山のいけん屋にやってきて、おかみさんのまねをしているところがおもしろいです。いたずらばかりしていたたぬきなのに、かわいいなと思ってしまっておかみさんの気もちがよくわかります。

第六時【おすすめの言葉】

第一時で考えたおすすめの言葉集を見ながら、昔話を読んで感じたことを書く。
※「読むと、くな気持ちになるよ」で表す。
一年生に伝わる言葉を選ぶ。

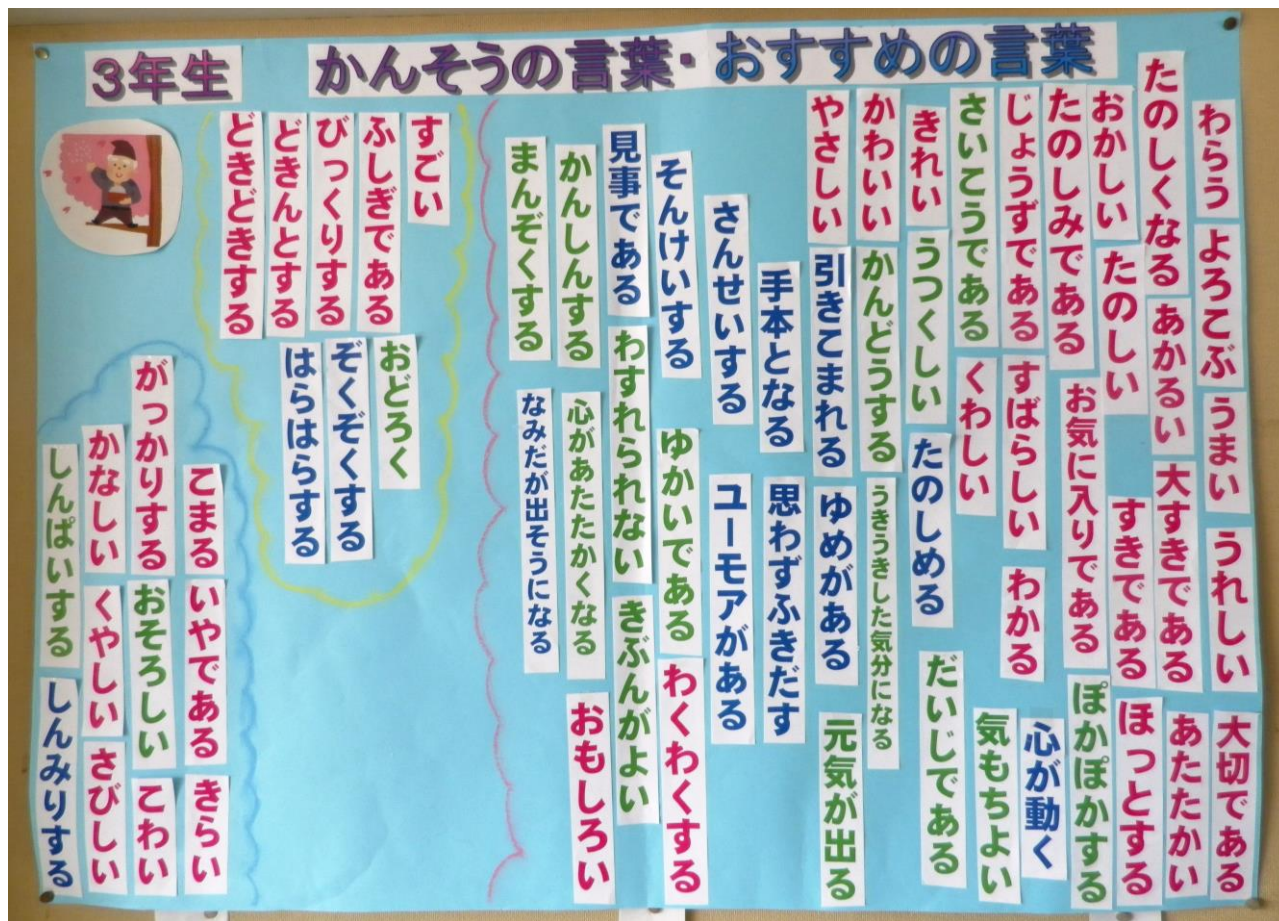
第五時【引用と感想】

お気に入りの一文を書きぬいて、その場面の感想を書く。
※引用と感想は関連付けること

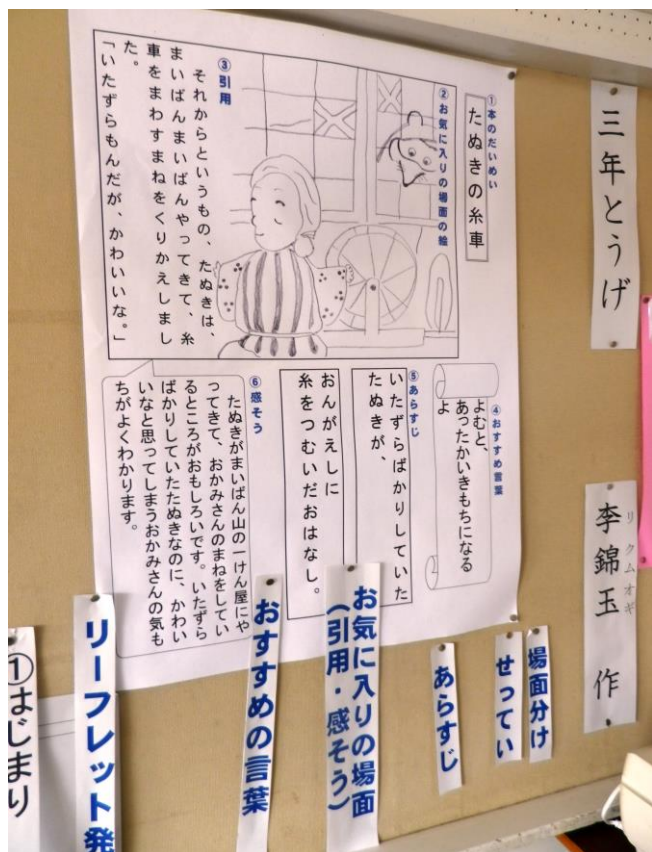
⑤ 引用

それからというものの、たぬきは、まいばんまいばんやってきて、糸車をまわすまねをくりかえしました。
「いたずらもんだが、かわいいな。」

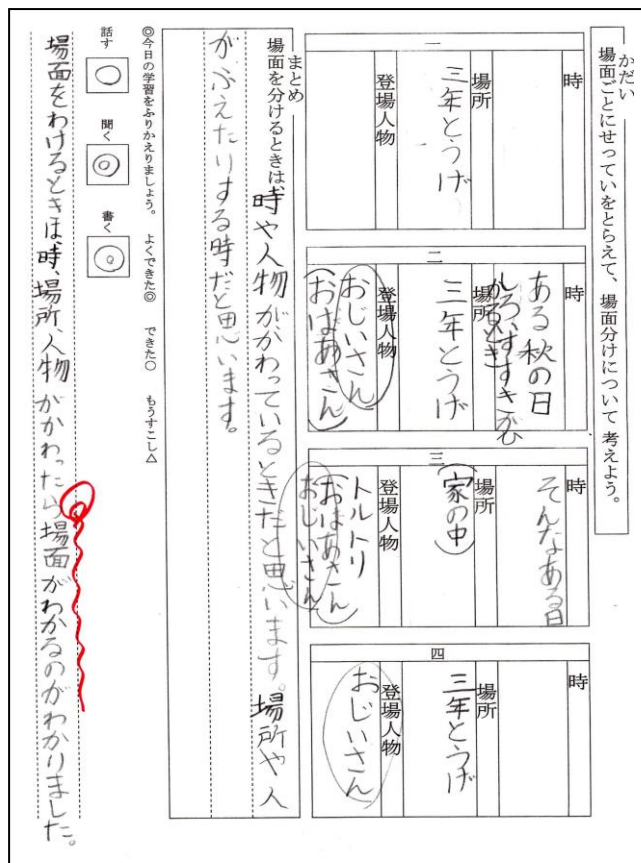
【第1時 かんそうの言葉・おすすめの言葉集作り】



【第2時 モデル分析と学習計画作り】



【第3時 設定・場面分け学習シート】



【第6時 おすすめの言葉を考え、その理由を説明する】

かだい
おすすめという言葉とその理由を交流しよう。

【おすすめという言葉
読むと、

はらはらするよ、

【りゆう】

転んだししゃんかんが本当になおる
のかたと田心うのではらはらしちゃ
います。読んだ後もすこくはらはら
した気もちが心にくっちゃうからで
す。

【振り返り】◎・・・よくできた ○・・・できた △・・・もう少し

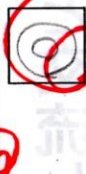
話す



聞く



書く



おすすめという言葉を使うと読んだときの
気もちがわかるし友だちと見せあうの
もべん強にかえるんだと田心いました。

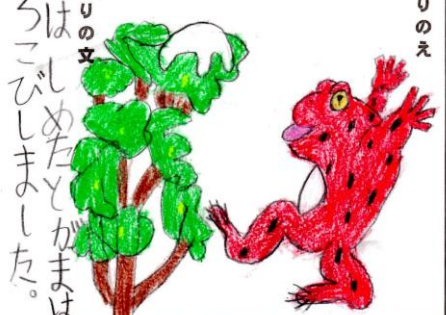
【えらんだむかし話のおすすめ言葉】
読むと、

引キニまねるよ

【第7時 児童が作成した昔話リーフレット】

①本のだめい
がまとうキキのもちがどせい

お気に入りのえ



お気に入りの文
これにしめたがまは
大よろこびしました。

②どんなおはなし
いばるつキギ


③かんそう
もちがたべられなくなかた
おはなし。

④おすすめのことば
よむとわくわくする

⑤かんそう
がまがえるが大よろ
こびました。

①本のだめい
三まのおんだ

お気に入りのえ



お気に入りの文
「こぞうくしてえ
こぞうくしてえし
といでました」

②どんなおはなし
おはぼいおいかれた
こぞう

③かんそう
おしょうさんになすけ
られた
おはなし。

④おすすめのことば
よむとちよと
こわい

⑤かんそう
おしょうさんになすけ
られた
おはなし。

【第8時 単元の振り返りシート】

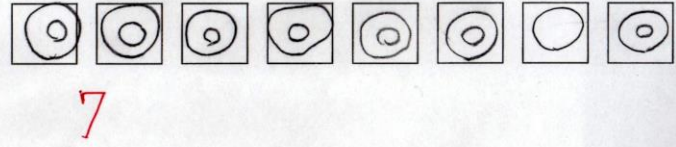
☆学習をして、楽しかったことを書きましょう。

できるようになった事は場面分けです。前は場面分けかにか手だたけどいまはよくに分ける事ができるようになりました。

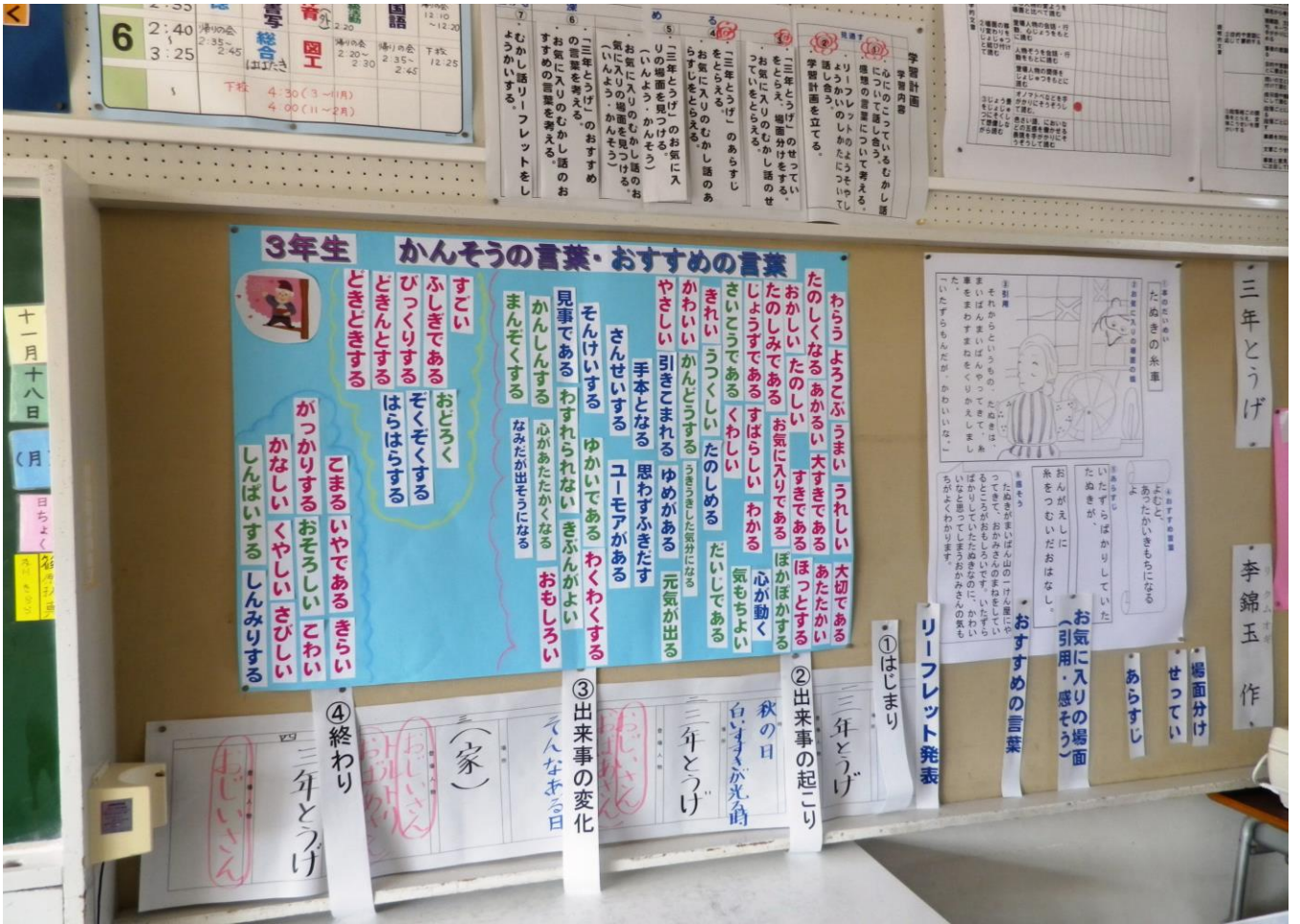
☆学習をして、楽しかったことを書きましょう。

楽しかった事はリーフレットを書いたり発表したりです。はじめリーフレットってなんだろとおもいましたが、せつめいも書いて発表射るんが、おもしろそうとおもい発表したらとても射るんが、おもしろいと思いました。

- ◎ 「三年とうげ」を学習したことをふりかえりましょう。
よくてきた◎ できた○ もうすこし△
- ① せっつい(時・場所・登場人物)をとらえる。
- ② 場面分けをする。
- ③ あらすじを書く。
- ④ 引用と感そうを書く。
- ⑤ リーフレットをかく。
- ⑥ グループ交流をする。
- ⑦ リーフレット発表をする。
- ⑧ リーフレット発表を聞く。



【学習環境を整備した教室の壁面】



第3学年単元構想（光村図書；「モチモチの木」）

※平成26年11月に実践した授業

【子どもの実態】

【身に付けさせたい力】

- ・朝読書や読み聞かせを楽しみにし、読書に興味をもっている子が多いが、自分で本を借りて読む等、日常の中に読書が位置付いている子は多くはない。
- ・既習「海をかつとばせ」の学習では、登場人物の性格を捉えるために、行動や会話に着目して考えることを学習した。読みの根拠となる叙述を指摘し、自分の読みをもつことはできるが、断片的な読みに留まっており、いくつかの叙述を関連付けて読む力は、十分ではない。

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや人柄を叙述を基に想像して読むこと。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくこと。
- 目的に応じて、いろいろな本を選んで読むこと。

【単元を貫く言語活動】

複数の本を読み、自分にとって心に残る登場人物について、理由を明確にして紹介する。

【言語活動の特徴】

「物語の中で出会った、心に残る人物」を紹介したい内容とし、リーフレットで表現することで、場面の移り変わりの印象的などころや、人物の人柄や気持ちの変化を捉えて読むことができる。また、紹介するために必要な語や文を書き抜いたり、引用したりして紹介する文章を書くことができる。

リーフレットの内容は、「①人物の人柄を表すキャッチコピー、②人物プロフィール、③あらすじ（80字程度）、④人柄を捉える根拠となった文章の引用と自分が捉えた人柄、⑤他の登場人物の説明（紹介する人物との関わり）、⑥紹介文（100字程度）、⑦作品を表す象徴的なイラスト」の7つの要素で構成する。さらに、同一作者の物語を並行読書することにより、登場人物を比べながら読む楽しさを味わうことができる。

1. 単元名 齋藤隆介作品を読み、心にのこる登場人物をしょうかいしよう

2. 単元の目標

- ・登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや人柄をとらえて読むことができる。
- ・紹介を基に、意見や感想を伝え合うことができる。
- ・興味のある本を選んで読むことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・登場人物に着目して同じ作者の作品を読むことを楽しもうとしている。

【読む能力】

- ・会話や心情表現、行動を表す文などから人柄が分かることを知り、それらに着目して読んでいる。
- ・登場人物について考えたことを交流し、一人一人の感じ方の違いに気付いている。
- ・同じ作者の作品から興味のある本を選んで読んでいる。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・言葉に登場人物の心情が表れていることに気付いている。

4. 教材 ○中核教材 『モチモチの木』（光村図書：3年下）
 ○補助教材 齋藤隆介作品 『火の鳥』『八郎』『三コ』『半日村』『花さき山』
 『ひさの星』『猫山』『ひばりの矢』『ソメコとオニ』
 『かみなりむすめ』『ふき』 全11冊
 ※上記11冊を並行読書材とする。そのうち、太字の4冊は、『必読図書』とし、
 全員が必ず読む本とする。

5. 単元の展開（全15時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		<ul style="list-style-type: none"> ・輪番で本の紹介を行い、日常的に読書意欲を喚起する。 ・齋藤隆介作品に興味をもたせるために、教師による齋藤隆介作品の読み聞かせを行い、齋藤隆介ブックリストの活用の仕方を知らせる。 ・人柄や性格を表す言葉集めをし、子どもたちから出た言葉を教室に掲示する。 ・「みんなで集めた人柄・性格言葉集」としてカードにまとめ、一人一人に配布し活用させる。 ・家庭学習で行っている日記のテーマとして「人物紹介」を設定し、エピソードを基に紹介をさせ、言葉集を活用して書くことを奨励する。 	
第1次	第1・2時	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの読書生活を振り返り、心に残っている登場人物を交流する。 ○教師の心に残っている登場人物紹介を聞き、学習の見通しをもつ。 ○学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 齋藤隆介作品を読んで、心にのこった登場人物をしようかいしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○既習教材「スイミー」「お手紙」「スーホの白い馬」を活用して、心に残った登場人物の紹介をすることで、これまでの紹介と違い人物を視点として紹介することに気付かせる。 ○既有的知識・技能と照合し、自分たちが身に付けた学び方を使って学習を進めていくことを確認する。 関 単元名から学習活動を考えて、学習の見通しをもととしている。
第2次	第3・4時	<ul style="list-style-type: none"> ○『モチモチの木』を読み、初発の感想を書く。 【感想を書く視点】 ・心に残ったこと ・豆太はどんな子どもか ・そんな豆太をどう思うか ○感想を交流し、類型化する。 ○並行読書を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵からも登場人物の気持ちの変化を読むことができるように「モチモチの木」大型絵本を活用して、読み聞かせをする。 ○これまでに学習した感想の言葉や人柄を表す言葉を選んで使えるようにする。 読 感想を書く視点に応じて、課題についての考えや自分の感想を書いている。
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を読み、物語の構成要素と組み立てを捉え、あらすじをまとめる。 ・「時」「場」「人物」 ・中心場面 ・あらすじ 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の物語を想起させながら、「時」「場」「人物」の3つの観点から場面構成を検討させる。 ○中心場面を考えさせることで、物語の組立てを捉えさせる。 ○「時」「場」「人物」にかかわる大切な言葉を落とさずに、あらすじにまとめていくようにする。 読 読みの観点を基に、物語の構成要素や組み立てを捉え、あらすじをまとめている。
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○豆太の人柄が分かる叙述に着目し、色分けした付箋紙に書き出す。 ・行動（ピンク） 会話（水色） ・行動や会話を基に、気持が変化していることを関連付けて、豆太の人柄や性格について分かったことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人柄を捉える根拠になった箇所が分かるように、行動や会話の付箋紙の色を変える。 ○付箋紙に書き抜いたことを関連付けて考えるようにさせる。 読 性格を捉える根拠となった箇所を書き抜き、考えたことをまとめている。

	第7・8時	<p>○グループで付箋紙を出し合い、豆太の人柄について分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠にした叙述を基に、自分の捉えた登場人物の人柄や性格を交流する。(グループ) ・全体交流を通して自分の考えを再構築する。 	<p>○グループで、根拠となる語や文を書き抜いた付箋紙や考えを共有できるように、拡大したワークシートを用意する。</p> <p>読 地の文や会話文などから、登場人物の人柄が分かる語や文を抜き出し、話し合ったことを基に、分かったことや考えたことを書いている。</p>
	第9時	<p>○『モチモチの木』の紹介リーフレットを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物のプロフィール ・人物の人柄 ・それが分かるところ(引用) ・そう考えた理由 ・あらすじ ・紹介文 	<p>○1次で紹介したモデルの紹介リーフレットを掲示し、自力で学習を進めることができるようにする。</p> <p>読 紹介したいことがよく伝わるように書いている。</p>
	第10時	<p>○『モチモチの木』の紹介リーフレットを基に交流する。</p> <p>【交流の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介内容について(自分の考えと比べて) ・友だちの紹介の仕方やリーフレットの書きぶりのよさについて 	<p>○交流の観点を示して交流するようにし、自分の考えと比べて考えさせるようにし、考え方は1つではないことに気付かせる。</p> <p>○友達への紹介の仕方や書き方でよかったところは、自分の選んだ本での紹介やリーフレット作りの参考にさせる。</p> <p>読 友達の紹介を聞き、自分の考えを広げたり、深めたりし、感想をもっている。</p>
第3次	第11・12時	<p>○自分の選んだ本の登場人物の人柄が分かる部分に着目し、色分けした付箋紙に書き出す。</p> <p>○行動や会話を基に、気持が変化していることと関連付けて。登場人物の人柄について分かったことを書く。</p>	<p>○『モチモチの木』で使用したワークシートや学習の手引きを活用し、自力で学習が進められるようにする。</p> <p>○登場人物の言動を総合的に考えること、変容がありえることに留意させる。</p> <p>読 人柄を捉える根拠となった箇所が分かるように、付箋紙に書き抜き、それを基に人柄を考えている。</p>
	第13時	<p>○同じ本を選んだ同士でグループピングをし、書き出した付箋紙を基に、人柄について考えたことを交流する。</p> <p>○選んだ本の紹介リーフレットを書く。</p>	<p>○話し合いの目的が明確になるように、登場人物の人柄について分かったことを、類型化しながら整理させる。</p> <p>読 グループでの話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。</p> <p>読 紹介カードを書くために、人柄が分かるところや気持ちの変化が分かるところの文章を引用したり、要約したりしている。</p>
	第14時	<p>○「斎藤隆介作品」に登場する人物について紹介し合い、感想や考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ本の心に残った登場人物を紹介し合う。 ・斎藤隆介作品を読んで気付いたことについて話し合う。 	<p>○様々な見方、考え方があることに気付かせるために、交流の中では書きためておいた「斎藤隆介ブックリスト」をもとに、友達との共通点や相違点を見付けながら聞くようにさせる。</p> <p>関 自分の選んだ本の心に残った登場人物について紹介している。</p> <p>関 自分の考えと比べながら聞いている。</p>
	第15時	<p>○単元全体の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、新しく習得したことを交流し、まとめる。 ・登場人物の人柄の捉え方 ・人物の紹介のしかた ・同一作者の作品を重ねて読むこと 	<p>○自分のこれまでの読書生活と関係付けて、自分の読書生活を振り返り、これからの読書生活を広げていくようにする。</p> <p>○新しく習得した学び方を学習の手引きとしてまとめ、いつでも活用できるようにする。</p> <p>関 単元を振り返り、自分の付けた力と今後の課題を確認している。</p>
第4次	<p>○学校図書館に「斎藤隆介コーナー」を設置し、児童が作成した紹介リーフレットを掲示する。</p> <p>○紹介リーフレットを基に、興味をもって読んだ児童には、「読んでみたよ」カードに感想を書いてもらい、コーナーのそばに掲示をする。紹介するだけでなく、双方向の交流ができるようにする。</p>		

【第2時 単元のゴールを設定する】

三年 国語 ワークシート②
◎斎藤隆介作品を読み、心にのこる登場人物をしようかいしよう
この学習を始めて() (時間目) 月 日 () (名前) ()
学習課題

○これまでににおこなった本のしようかいを振り返ろう。

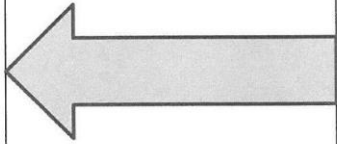
○自分の読書記録を振り返ってみよう。

三年生になってから () ()
そのうち、物語は () ()

○登場人物をしようかいするために、どんな学習が必要ですか。

物語を読んで、心にのこる登場人物は
いたかな。
物語のおもしろさを、登場人物を
中心につたえてみよう。

単元のゴール



【第3時 感想を書きまとめる】

名前 ()

☆感想交流ワークシート③
○「モチモチの木」を読み、心ひかれたこと、心にのこったことなど感想を書きましょう

○「モチモチの木」を読んで、一番心にのこった登場人物はだれですか。それはどうしてですか。

200字

☆友達との交流を通して気付いたことをまとめましょう。

【第6時 豆太の人柄を読む】

単元名 斎藤隆介作品を読み、心にかかる登場人物をしようかいしよう
この学習を始めて 6 時間目 名前 ()

(豆太) の人がらについて、グループや全体で交流したことをもとに、自分の考えをまとめよう。

【 】 ながら
(キーワード)

<p>医者様をよびかき ひも大すきな 豆太は、小太かたいに んでしまう。体を動かして、体をこわす から、おきなをいれて、体をこわす。</p>	<p>行動</p>
<p>それやあおらうは、どうも もだめたし モクモクの木に灯がともる スの子ももしかかみり できぬを、おぼえたい。</p>	<p>会話</p>
<p>豆太は、じまにこび ついた。 「じま」 豆太は、モクモクの木に灯がとも る。じまの声を聞いて、じまにこ びついたら、ぐらぐらおびやう ということがわかりました。</p>	<p>分かったこと</p>

(豆太) に対する自分の考え

豆太は、夜はいつもおびやうたけ、じまのため、にゆう
キを、かりしほつて、ふもとまでおりて、ゆう気のあるあつて
いい子だと思いました。そこが、ほくはすきなところですよ。

単元名 斎藤隆介作品を読み、心にかかる登場人物をしようかいしよう
この学習を始めて 六 時間目 名前 ()

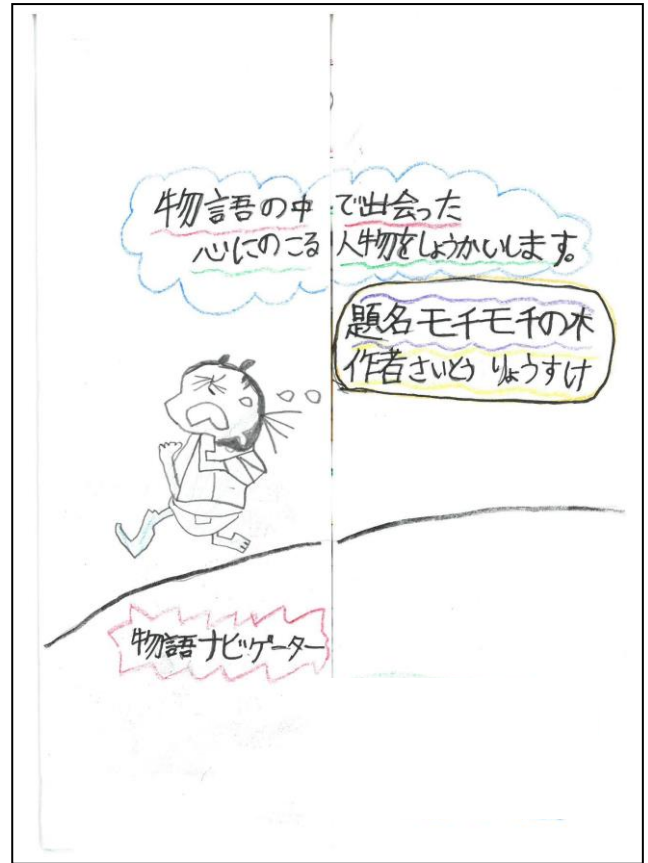
(豆太) の人がらについて、グループや全体で交流したことをもとに、自分の考えをまとめよう。

【 】 ながら
(キーワードで書く)

<p>はじめてから、あきこらめて よい口から、ぬてきました。 「風間、たつみて、いま」 「それ、あおらうは、どうも だめたし」 夜中には、じまについて て、もちあないとし、いん てきな。</p>	<p>行動</p>
<p>豆太は、かき、はき、走ら いたくて、寒くて、こわかた からな 「人を夜道に、医者様よびに、けり は、おきなの子と、た、た、た、</p>	<p>分かったこと</p>

(豆太) に対する自分の考え

豆太は、夜中外を、医者様よびに行けるほど、勇気があるけど、私は
こわくて、行けない。豆太の、じまを、助けるために、だした、勇気
と、じまへの、やさしさ、が、私は、心に、のこった。



【豆太】はこんな人
 やい木いモチモチ
 の木い実い落とせよ
 と昼間は木の下に
 立ってかた足で足はみは
 さいをきいて昼間は
 いはりんぼうな世
 に夜になると豆太はお
 くびょうな子です。

医者様をよびにいぬか
 ち
 豆太は体をこめて表戸を
 かとはして走りだした。
 足から血がでておじさまの
 ためにかかっても走って
 やう気のある子です。

じさまのためならなんでもする 豆太!

・名前(豆太)

・せいべつ 男の子

・人から おくびょう やう気



・年れい 五つ

・家族 じさま

・きょうぐう じさまと二人でくらしている。

・住んでいるところ とうげのりょうし小屋


☆しょうかい文

モチモチの木に灯がとるのを豆太は見るこ
 ことができました。はじめからあきらめてねて
 まったのにじさまがはいたをおこして真夜中に
 医者様をよびに一人で行って豆太はじさ
 まを助けたいという強い気もちがあつ
 たわてきます。

☆物語のあらすじ

しも月二十日の夜に
 おくびょうで一人でせ
 ちんにもいない豆太が
 じさまかしてほくはない
 ら医者様をよびにいぬ
 かにモチモチの木に灯が
 ともっているところをみて
 やうきのある子どもに
 なった話です。

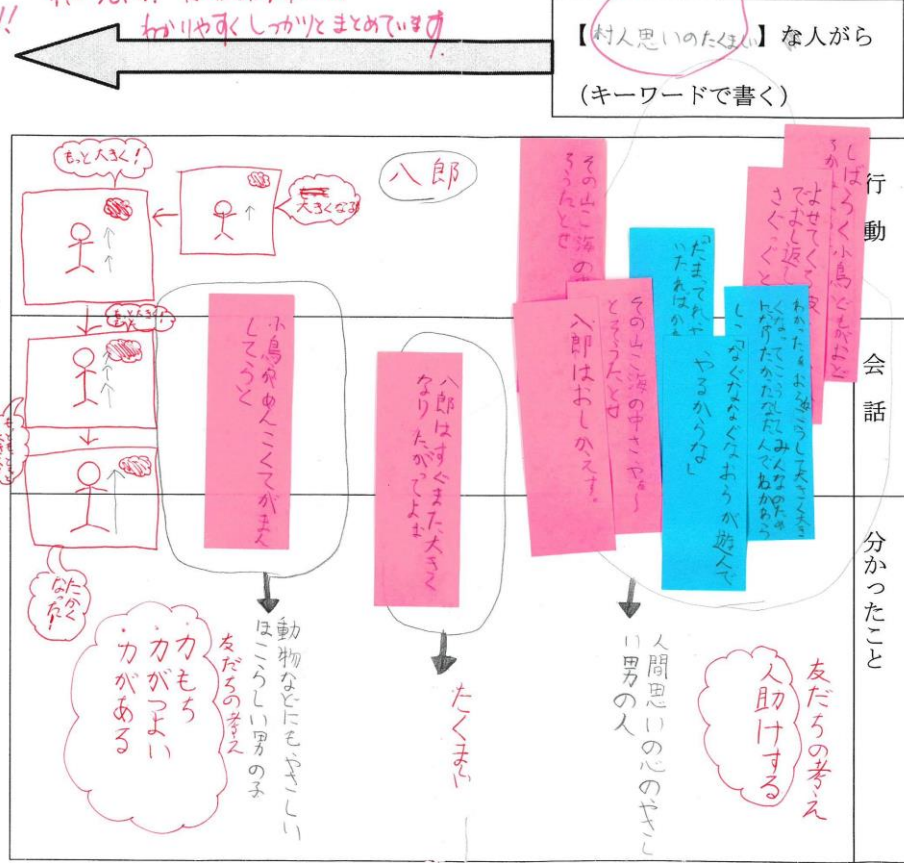
☆こんな人物も登場!

 じさま
 (男、64さい)
 ・豆太のおじいさん
 ・豆太のめんどうを
 みています。
 ・豆太をかかわいからてる
 ・きもちすけ

【第 11・12 時 自分が選んだ本の登場人物の人物をまとめる】

単元名 斎藤隆介作品を読み、心にくる登場人物をしようかいしよう
この学習を始めて 時間目 名前 ()

(八郎) の人がらについて、グループや全体で交流したことをもとに、自分の考えをまとめよう。



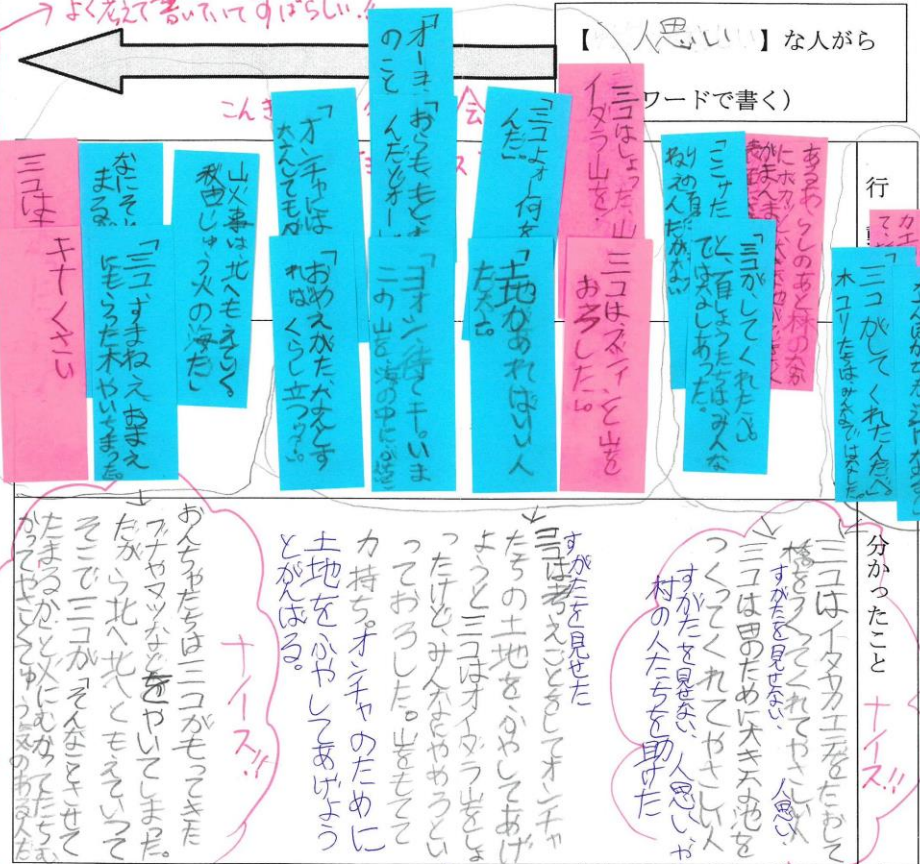
八郎は、体が大きくても、自分の命より大切な人の命をゆつせんに海のなみせきに心をやさしくたくましく男の人だと思いました。

八郎より小さい人にもやさしく、

〜に対する自分の考え

単元名 斎藤隆介作品を読み、心にくる登場人物をしようかいしよう
この学習を始めて 時間目 名前 ()

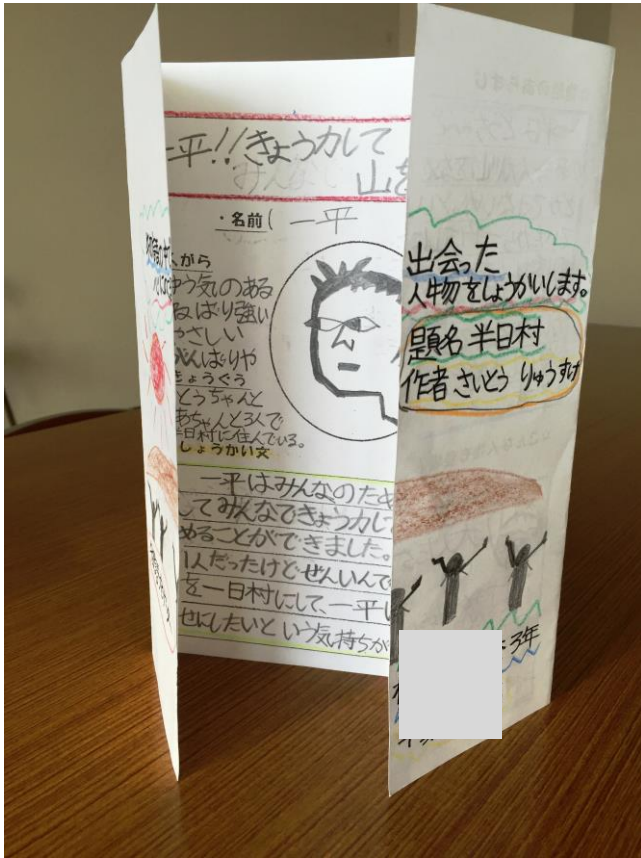
(三三三) の人がらについて、グループや全体で交流したことをもとに、自分の考えをまとめよう。



三三三は村の人たちのことをたすけて、でもすがたを見せなかつた。でもすがたを見せ、フナ太のきをもちてきたのにオネエたちがやいややって秋田が火の海になるところを三三三はかむわってってゆう気があってやさしい人と思いました。

〜に対する自分の考え

【第13時 自分が選んだ本の紹介リーフレットを書く】



「一平」はこんな人
 1人おはあの山
 をみすうみにうめら
 まあとおもってあ
 だ

と、一平がたると
 みんなは大わらいた
 一平はみんなをわか
 ても山をしあやうして
 中気のある子だと思はは

ある朝半日村
 にわたりがなくとそれ
 といよに村のたは
 に朝日がさした。
 一平がが人ば
 たらみんなで半日
 村を1日村として中
 気があてやさしい
 人だと思いました。

一平!!きょうかして
 山をしすめた!!

・名前 (一平) ・せいべつ

・人から
 中気のある
 ねほり強い
 やさしい
 がんほりや
 ・きょうごう
 どうちゃん
 があちゃんといふで
 半日村に住人ている。
 ☆しょうかい文



男
 ・年れい
 わかたしい
 子ども
 ・家族
 どうちゃん
 があちゃん
 ・住んでいるところ
 半日村

一平はみんなのために山を動かそうと
 してみんなをきょうかして山を海にし
 めることができました。一平はさよは
 1人だったけどせんいんてがんほり半日村
 を一日村にして、一平はみんなをしあ
 せたいといふ気持ちがあつたわてきました。

☆物語のあらすじ

一平はどうちゃん
 があちゃんから山をな
 とかできないかとい
 ていたから一平は山に
 のぼり、したいに子
 どもたちや大人がき
 かけてみんなて山を
 海にしすめた話
 です。

☆こんな人物も登場!

大人たち
 (男)
 ・一平や子どもたち
 にもつこをかくれた。
 ・一平や子どもたち
 のかどうを手たてて
 くれた。
 ・村人

名前

☆「斎藤隆介」作品を読んで、心にのこる登場人物をしようかいしよう
○単元の振り返りをしましょう。

☆この学習では、「モチモチの木」だけでなく、他の本もいっしょに読むへいこう読書をしました。

・楽しい学習でしたか。

楽しい学習でした。本をよんで登場人物のこころがわかったからです。

・人からの読み方が分かりましたか

登場人物のこころや会話に目をつける。

・自分にどんな力がつきましたか

本をよみながら会話や行動に目をつける力。

人の考えをきいて次の学習にいかす力をつけた。

○作者読みをして（同じ作者の本を重ねて読む）をしてどんなことに気づきましたか

本をよむくらべて次の本につくひみつがわかりました。花さき山は、2つの本のことばがまとめられていてわかりました。

☆この学習は、今日で終わりです。感想を書きましよう。

グループの話があってみんなおもっていることばかりから広がってたのしかったです。

本をよむことについていろいろなことがわかりました。

名前

☆「斎藤隆介」作品を読んで、心にのこる登場人物をしようかいしよう
○単元の振り返りをしましょう。

☆この学習では、「モチモチの木」だけでなく、他の本もいっしょに読むへいこう読書をしました。

・楽しい学習でしたか。

楽しい学習でした。わけは、はじめにノートでなくワークシートを使ってやるとワークシートは、かくことがすぐわかり、かきやすかったからです。

・人からの読み方が分かりましたか

登場人物の会話と行動に注目して人から読む。

・自分にどんな力がつきましたか

今まで、本を読むときに人から注目して読むことがなりました。

たけと人からの会話や行動に注目して読むようになりました。

○作者読みをして（同じ作者の本を重ねて読む）をしてどんなことに気づきましたか

斎藤さんの書く本でみつけたひみつや気づいたことは、花さき山に八郎と三つがでてくることです。気づいたことは、さいとうさんの本は、主人公がみんな人助けをするということです。

☆この学習は、今日で終わりです。感想を書きましよう。

この勉強をしようと思ったことは、さいとうさんの本は、

読みつけていくと、いろんなつながりや、気づくことがた

くさんあることが楽しかったです。次は、たくさんさんのシリーズがある本を読んで自分でつながりなどをみつけてみ

たいと思いました。

かっこよくなるポイントシート①

【会話文と地の文】

かぎ「」でしめしている人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文といいます。

物語は、地の文によって話が進みます。地の文を語る人を語り手（ナレーター）ということがあります。

【登場人物の人がらや気持ち】

会話文には、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多いので、その人物の人がらや気持ちがよく分かりま

す。
地の文にも、次のような部分には、人物の人がらや気持ち
が表れていることが分かります。

★行動を表しているところ

★様子やひょうじょうを表しているところ

※登場人物どうしの会話や行動をくらべると、人がらがよく分かることがあります。

かっこよくなるポイントシート②

話し合いには二つのしゃべりがあります。

○広げる話し合い

○一つにしぼる話し合い

【グループの話し合いのしかた】

司会 これから、くについて話し合いをします。○さんからおねがいます。

①全員がじゅんばんに自分の考えを話す。

司会 みなさんから出た考えを整理しましょう

②みんなから出た考えをくらべて、同じ考えどうしに
なかまわけをする。

◎広げる話し合い

司会 今日は、広げる話し合いです。

他に、どんなことが考えられますか。

③ほかの考えを話し合う。

司会 まとめます。ほかたちのグループの考えは3つになりました。く
とくとくということですか。

◎一つにしぼる話し合い

司会 今日は、一つにしぼる話し合いです。
考えを出し合って、一つにしぼっていきま
しょう。みんなの考えをもとに、話し合いま
しょう。

③話し合いのかんてんにそって話し合う。

司会 まとめます。ほかたちのグループは、
くという考えになりました。わけは、くだか
らです。

○こんな話し合いができたらいっぱい！

①と②までは、できるように頑張ってききましたね。

グループの考えを出し合ったあとの③ができるようにしましょう！

みんなから出た考えをもとに、話し合って、新しい考えを見つけよう！

二人よればもんじゅのちえ」話し合うことで考えを広げ、深めよう！

【単元の学習で作成した「斎藤隆介作品ブックリスト」】

さいとうりゅうけい
「斎藤隆介作品」ブックリスト 3年「モチモチの木」

No.1 松園小学校 名前()

本の名前	心にのこった人物	一言でいうと ○○☆人
ミコ	ミコ	やさしい人
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 村の人たちのために、村をひろくして、 まど、木をうえたけど、やけてしまっ、ミコ は、木の人たちをまも、て、ミコは、しんふし、 た。とてもミコは、やさしいとおもいました。 ☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? ミコは、八郎ににています。わけは、いのち をかけて、村をまも、たところが、とても にているとおもいます。		
八郎	八郎	人思のやさし い人
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 八郎は村の人たちのために、山をもちよ けて、うみのまへにおいて、うみはあこ、て、 八郎は、うみにおほ、れてしま、て、しんでし ましたおはなしです。 ☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? 八郎はミコに、にています。村の人たち のためにゆうきをふりしぼ、て村の人たちをまも、 たところが同じです。		

火の鳥	あさ	人思いの やさしい女の子
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 3 ある日、火の鳥がくるとわがて、みんなの、ために、いのちを かけたのでとても人思の人だと思います。		
☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? あさは、三平に、にているとおもいます。 三平も命をかけて、人たちをまも、たので、 にているとおもいます。		
半日村	一平	あきらめない子
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 4 一平は町の人たちのために、で、かい山を小さくす るためにまいにちぼ、て、町のみんなも ほりだして、小さいやまになって、町のみんなが うれしくな、た。一平はあきらめづ、よい子だとおもいます。 ☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? 一平は、八郎に、にていると思います。 八郎みたいに、大きくもな、いしからむさでもな、い、 人で、山を小さくするき、たが、たが、す、いとおもいました。		

猫山	三平	ゆうきのある子
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 5 子ねこたちがかわい、うで、三平は、ゆうきを ぶりしぼ、て、ねこば、あをやつたのが とても、やさしく、て、ゆうきのある人だとおも います。 ☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? 三平は、あさに、にているとおもいます。あさもゆう きをぶりしぼ、たので、わるい生物をた、ふし て人をた、すけたところが同じです。		
花さき山	あや	母思いの子ども
☆その人物のどんなところが心にのこりましたか? 6 あやちゃん、母のことを思、てあこが、れていたものをがまんした。 けど、山はば、かとてもやさしく、てがまんを、しているか ら、花はさい、て、とてもかわい、い赤い、ゆかた をきるこ、たができました。 ☆ほかの本の登場人物と、にているところや、気づいたことはありますか? この本は、ミコと八郎が、て、く、話したと思、たしあさに にていると思、いました。		



小学校第5学年単元構想表（光村図書；「声に出して楽しもう（論語）」）

※平成25年12月に実践した授業の一部を改めたもの

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

- これまで全校での取り組みとして「論語」「学問のすすめ」「奥の細道」などを暗唱する活動をしているが、意味についての理解はない。
- 5年生の1学期には、古典「竹取物語」「枕草子」「平家物語」を音読中心に学び、言葉の響きやリズムに慣れ親しんでいる。その後、「わたしの枕草子を書こう」という学習を行い、枕草子の形式にならって、自分なりの美しさを感じたものを書く活動を行った。
- 昔の人のものの見方や感じ方について考えたり、感想を交流しあったりする活動が十分ではなかった。

- ◎自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。(C-ア)
- ◎親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。(伝ア(ア))
- ◎古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。(伝ア(イ))

【単元を貫く言語活動】

気に入った論語の言葉を選び、お気に入り論語発表会を開く。

【言語活動の特徴】

「お気に入り論語カード」＝画用紙に「気に入った論語の言葉」を書き、その下に「言葉の意味、お気に入りの理由」を書いたカードを貼り付ける。

お気に入りの論語を選び、学級の友達に向けて紹介したり、暗唱したりする。発表会後は、感想を交流し合う。繰り返し音読をすることを通して、論語の言葉の響きやリズムを味わったり、昔の人の見方や感じ方に関心を持ち、自分自身の生活と比べて考えたりする。

1. 単元名 お気に入りの論語発表会をしよう

2. 単元の目標

- 自分で選んだ論語の言葉を紹介することを通して、論語の言葉やリズムを味わい、昔の人の見方や感じ方に関心をもつことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆漢文特有の言い回しやリズムを楽しみながら声に出して読もうとしている。

【読む能力】

☆論語を読み、書かれている言葉から、読み手である自分に強く伝わってきたことを明確にして音読している。(C-ア)

【言語についての知識・理解・技能】

☆親しみやすい漢文の文章について、内容の大体を知り、音読をしている。(伝国ア(ア))

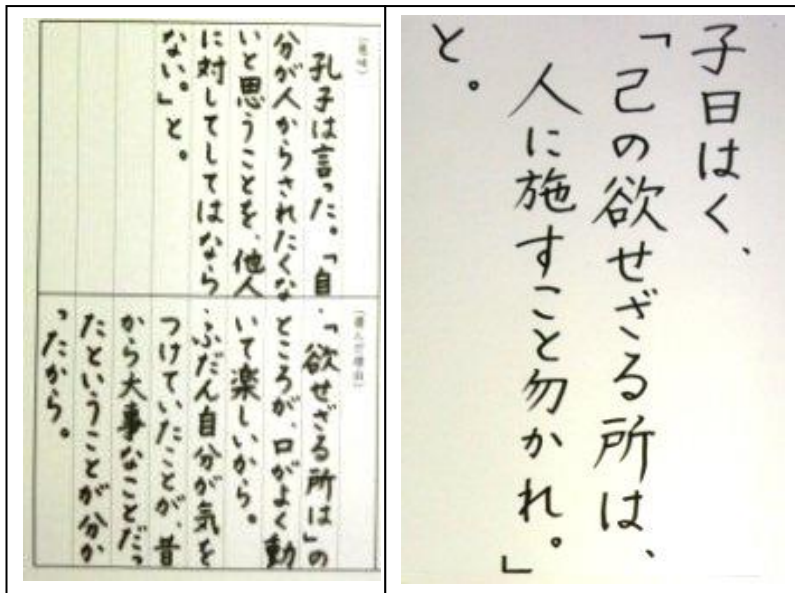
☆論語について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を、現代人のものの見方や感じ方と比べている。(伝国ア(イ))

4. 教材 「声に出して楽しもう(光村)」「心育てるこども論語塾(ポプラ社)」

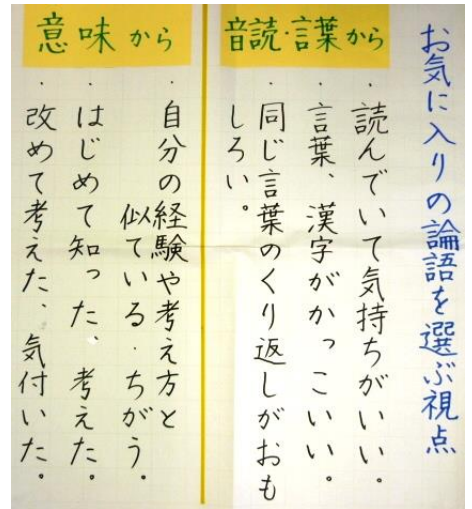
5. 単元の展開（全5時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		教師が選んだ論語を宿題として音読する。	
第1次	第1時	1. 論語とは何かを知る。 2. 教師のお気に入りの論語紹介によって、論語発表会のやり方を理解する。 ○論語の暗唱、「お気に入りの論語の言葉、言葉の意味、お気に入りの理由」の要素を押さえたモデルを提示する。 3. 単元の学習計画を立てる。 （見通しをもつ）	関 論語発表会に関心をもち、漢文特有の言い回しやリズムを楽しみながら声に出して読もうとしている。 ○論語の暗唱について、よいモデルと悪いモデルを提示し、発表する時の注意点に気付けるようにする。
第2次	第2時	1. お気に入りの論語を選ぶ視点を確認する。 ○論語を繰り返し音読する。 ○論語の語感や響き、言葉の意味のよいと思ったところを交流する。 ・個人⇒グループ⇒全体 2. お気に入りの論語を選ぶ視点で、自分のお気に入りの句を探す。	読 論語から、読み手である自分に強く伝わってきたことを明確にして音読している。 ○繰り返し音読させ、語感や響きの面からお気に入りの論語を選ぶ視点をつかませる。
	第3時・第4時	1. お気に入りの論語の「紹介カード」を完成させる。 ○お気に入りの論語を選ぶ視点に沿って自分のお気に入りの論語を選ぶ。 ○「お気に入りの論語、言葉の意味、お気に入りの理由」をカードに書く。 2. 発表会に向けて練習する。 ○個人⇒ペア⇒グループ	言 論語について、内容の大体を知り、音読をしている。 言 論語について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を、現代人のものの見方や感じ方と比べている。 読 お気に入りの理由について語感や響きのよさから自分の考えをまとめている。 ○発表する時の注意点を想起させてから練習を始める。 ○発表する時の注意点に合わせた練習の評価の観点を示し、ペアやグループで評価し合いながら練習させる。
第3次	第5時	1. 論語発表会をする。 ○発表会の練習を行う。 ・個人⇒グループ ○発表会を行う。 ○感想を交流する。 2. 単元の学習を振り返る。	関 論語発表会に関心をもち、漢文特有の言い回しやリズムを楽しみながら声に出して読もうとしている。 読 論語から、読み手である自分に強く伝わってきたことを明確にして音読している。 言 論語について、内容の大体を知り、音読をしている。 言 論語について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を、現代人のものの見方や感じ方と比べている。
第4次		☆論語カードを廊下に掲示し、他学年にも紹介する。 ☆朝の会で、紹介された論語をみんなで音読して言い回しやリズムを楽しみ、関心を高める。	

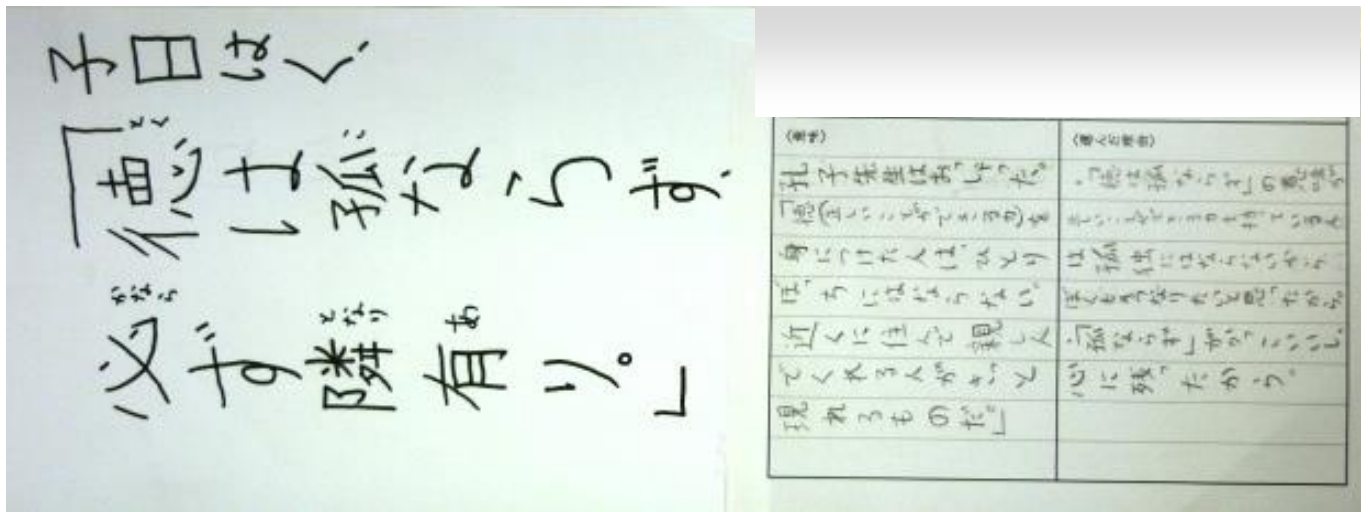
【第1時 教師が示したモデル】



【第2時 お気に入りの論語を選ぶ視点】



【第3時 お気に入りの論語の「紹介カード」】



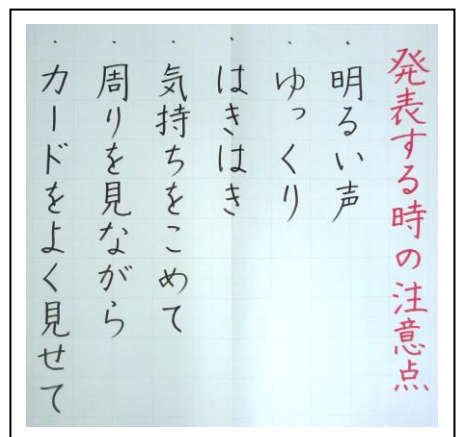
【第4時 発表会に向けた練習】

紙をよく見せて	周りを見ながら	気持ちよこめて	はきはき	ゆっくり	明るい声
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○

☆練習をしよう

お気に入りの論語
 子曰はく、
 己の欲せざる所は、
 人に施すこと勿かれ。
 仁に依り、若に遊ぶ。

【第4時 発表する時の注意点】



【学習計画と振り返り】

お気に入りの論語を紹介し合おう 名前

時間目	1	2	3	4	5	
日付	12/3	12/4	12/5	12/6	12/9	
学習内容	学習の見直しをもつ。	お気に入りの論語の選び方を考える。 どんな論語を選ぶといいかな。	お気に入りの論語紹介カードを作る。 (お気に入りの論語、意味選んだ理由)	発表の練習をする。 準備オツケー?	お気に入りの論語発表会を行う。	
振り返り	😊 今日、論語について始めて知りました。論語の発表会の際に注意することもおぼろげに覚えておきました。	😊 班の人の選ぶ方を聞いて、意味が面白いと知りました。その考えに気が付きました。みんなも教えてくれたので良かったです。	😊 すぐ理由まで書いて、うまくカードを作れたので良かったです。発表会が楽しかったです。	😊 練習ではじめは、なかなか進まなかったけど、みんなと一緒に進めました。発表会の準備が持ったので良かったです。	😊 今日まで練習おぼろげにやりましたが、全部のめあてを自分ではクリアできませんでした。頑張りました。楽しかったです。	😊 今日まで練習おぼろげにやりましたが、全部のめあてを自分ではクリアできませんでした。頑張りました。楽しかったです。

お気に入りの論語を紹介し合おう 名前

時間目	1	2	3	4	5	
日付	12/3	12/4	12/5	12/6	12/9	
学習内容	学習の見直しをもつ。	お気に入りの論語の選び方を考える。 どんな論語を選ぶといいかな。	お気に入りの論語紹介カードを作る。 (お気に入りの論語、意味選んだ理由)	発表の練習をする。 準備オツケー?	お気に入りの論語発表会を行う。	
振り返り	😊 論語とは、何かかかたし発表会の際は、自分もやろうと思った。発表会をする時は、注意点を覚えておいて、みんなと一緒に頑張りたい。	😊 お気に入りの論語の選び方を考えた。みんなも一緒に考えてくれたので、発表会も楽しかった。みんなも発表会を楽しんでくれたので、良かったです。	😊 紹介カードを書いて、みんなに見せました。みんなも興味を持って見てくれました。発表会の時、注意点を覚えておいて、みんなと一緒に頑張りたい。	😊 発表会の練習をした。みんなと一緒に練習した。みんなも一緒に練習した。みんなも一緒に練習した。みんなも一緒に練習した。	😊 今日まで練習おぼろげにやりましたが、全部のめあてを自分ではクリアできませんでした。頑張りました。楽しかったです。	😊 今日まで練習おぼろげにやりましたが、全部のめあてを自分ではクリアできませんでした。頑張りました。楽しかったです。

中学校第1学年単元構想表（光村；「竹取物語」）

※平成23年11月に実践した授業の一部を改めたもの

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

- 『かぐや姫』を絵本として読んだことのある生徒は半数ぐらいいるが、「竹取物語」の内容を詳しく知っている生徒はほとんどいない。
- 小学6年生で、「狂言 柿山伏」を音読中心に学んでおり、古文特有の言い回しやリズム、狂言の内容的な面白さについて理解している。古文に書かれてある内容を想像して読む学習経験はなく、中学校での初めての古典学習である。

- 報道記事にまとめるという目的をもちながら、
- ◎場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読む力。(C-U)
- 古文から必要な情報を読み取る力。(C-カ)
- 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(ア))

【単元を貫く言語活動】

「竹取物語」の事件を、必要な言葉を引用して報道記事の形式にまとめる。

【言語活動の特徴】

「なよ竹新聞」；新聞を作成することが学習活動のメインになると指導のねらいから外れてしまう。そこで、トップ記事を除いて教師が作成した「新聞の枠」を準備し、生徒にはトップ記事のみを書かせることとした。また、生徒の作成意欲を高める工夫として、トップ記事を空欄にした2種類の「新聞の枠」を準備した。

生徒が考えるトップ記事は600字程度とした。『竹取物語』の一つ一つの事件には、5W1Hが必ず書かれているわけではなく、出来事を報道記事にまとめるためには想像力で補う必要がある。そのことが叙述を基に想像して読む力や必要な情報を読み取る力を育成するという指導のねらいを達成するのにふさわしいと考えた。

生徒が考えるトップ記事のモデルは、実際の新聞のスポーツ記事を参考にして教師が作成した。

1. **単元名** 報道記事で紹介する「竹取物語」 ～家の人に「なよ竹新聞」の感想を聞こう！～

2. **単元の目標** 「竹取物語」から自分が紹介したいと考えた事件や場面を選び、叙述を基に想像力をはたらかせ、必要な情報や内容を補いながら、報道記事としてまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力をはたらかせて報道記事にまとめている。

【読む能力】

☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。(C-U)

☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C-カ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(ア))

4. **教材** 蓬萊の玉の枝、『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語（全）』、
新聞記事（朝日新聞・岩手日報）

5. 単元の展開（全8時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		<ul style="list-style-type: none"> ○「竹取物語」の絵本を廊下に掲示し、興味・関心を高める。 ○『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語（全）』を宿題として読ませる。 	
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 単元の見直しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ○活動目的；「なよ竹新聞」で、竹取物語を家の人に紹介する。 ○ゴール；「なよ竹新聞」のモデルを知る。 ○学習目的；「なよ竹新聞」を作ること、どんな力が付くのかを確認する。 ○学習過程；単元の学習計画を確認する。 2. 出来事とコメントを表す語彙を集める。 3. 『竹取物語』の展開と登場人物をとらえる。 <ul style="list-style-type: none"> ○十の場面構成をとらえる。 ○人物の相関関係をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なよ竹新聞」（モデル1号，2号）を提示する。 関 報道記事にまとめるという目的をもって『竹取物語』を読もうとしている。（学習振り返りカード） ○語彙集めシート，場面構成図，人物相関図（モデル＝ハリー・ポッター）を提示する。
第2次	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 古典の基礎を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○歴史的仮名遣い ○古語 ○助詞の省略 ○文末表現 ○係り結び 2. 「竹取物語」冒頭を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ○古文の言い回しや歴史的仮名遣いの読みに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○古典の基礎のまとめシートを提示する。 言 文語のきまりを知り，古典特有のリズムを味わいながら，古文を音読している。（自己評価，相互評価，教師の観察）
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教師の提示した報道記事を読み，記事のまとめ方を理解する。 2. 冒頭部分をモデルにならって記事にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル記事の分析をする。 ○下書きシートにまとめる。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 前時にまとめた冒頭の記事をグループで読み合い，最も良かった記事を選ぶ。 2. グループごとに一番良かった記事と選んだ理由を全体で紹介する。 3. 自分が好きな場面をまとめるときに，どのようなことに気をつけたいかをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み，叙述を基に想像して読み，内容の理解に役立っている。（下書きシート①，話し合いシート，聞き取りシート）
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分が記事にまとめたい場面を選ぶ。 2. 原文をくり返し練習し，読み慣れる。 <ul style="list-style-type: none"> ○同じ場面を選んだ者でグループを作り，読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 言 文語のきまりを知り，古典特有のリズムを味わいながら，古文を音読している。（自己評価，相互評価，教師の観察）
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分で紹介したい場面を選び，原稿用紙にまとめる。 2. 見出しとリード文を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 自分が紹介したい事件や場面を選び，想像力を働かせて報道記事にまとめている。（下書きシート②） 読 古文から必要な情報を読み取っている。（下書きシート②）
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 新聞用紙に清書する。 <ul style="list-style-type: none"> ○清書用として，モデル1号，2号のどちらかを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 読 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み，叙述を基に想像して読み，内容の理解に役立っている。（新聞用紙） 読 古文から必要な情報を読み取っている。（新聞用紙）
第3次	第8時	<ul style="list-style-type: none"> 1. 各自が作った「なよ竹新聞」を読み合って感想を交流する。 2. 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関 感想交流を通して古典への関心を高め，古典の世界に触れようとしている。（学習振り返りカード）
	第4次	<ul style="list-style-type: none"> ○家の人に「なよ竹新聞」を見せて感想を書いてもらう。（感想用紙） ○感想用紙を回収し，国語通信として家の人にフィードバックする。 	

なが竹新聞

平成23年11月1日 行 誌

不死の薬ももろいるぬ 翁女姫血の涙流し悲しむ

かぐや姫昇天

竹取の公卿と出会って約十年後の八月十五日、かぐや姫は後ろ髪を引かれる思いで月の都へ帰っていった。

かぐや姫を見送った翁と姫は血の涙を流し悲しみ次のように語った。「何せ心にか命も惜しからむ。誰が為にか。何ごとも益ない。何のために命など惜しむのだ。誰のために命を惜しむのだ。ああもう私たちは、この世に何の用もない」

竹取物語をいのまま利用している。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。



昔の人も駄じゃれ好き

ない世界で長生きしてむ仕方ない」と。姫から献上された不死の薬と手紙を、日本で一番天に近い山で燃やすよう命じた。兵士がたぐさん登ったので、その山を「富士山（に富む山）と名づけた。富士山が今も人の心をひきつけるのは、かぐや姫への思いがこめられていからに違いない。

天が？宇宙人が？

たまた、三月でりはな娘になり、どんな貴公子や帝の子どもも受けず月を見ながら泣くかぐや姫。帝にめ

温故知新

子供用の絵本アソビ物語も実は江戸時代に書かれた『仮名草子』に「伊曾保物語」として収録されている。ゆずみ達が相談して猫に鈴をつけようとする話の資料総覧七巻に載っている。同じ頁にある「醒睡笑は古典落語のものになった笑話。小僧さんが棒を振って屋をさうろうとしている。そこに来たお餅屋さんがアトバクするのぞき……。今読んでも新鮮で笑える。古文もたくさんあります。まず声に出して読ませよう。

『竹取物語』をいのまま利用している。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。『竹取物語』には、話の切れ目ごとに語源が記されている。

た時、帝もその死を惜しんだと公文書に記されるほどの重臣。その大伴氏が没落するの

【第3時 モデルの記事の書かれ方を学ぶ】

報道記事で紹介する「竹取物語」 学習シート⑤ (3時間目) 学習日

1年 組 番・氏名

【モデル記事】

かぐや姫を見送った翁と姫は血の涙を流し悲しみ、次のように語った。「何せむにか命も惜しからむ。誰が為にか。何ごとも益なし」(何のために命など惜しむのだ。誰のために命を惜しむのだ。ああもう私たちは、この世に何の用もない。)

竹の中にいた女の子を冥の二人として大切に育てた二人に比べて、かぐや姫はかけがえない存在だったのだ。

竹取のやしきを囲んでいた兵士達は「突然体が動かなくなり、戦闘不能になってしまった。」と語った。かぐや姫を閉じこめていた部屋の戸が自然に開いてしまったという報告もある。なんとも不思議な話である。

帝は、「かぐや姫のいない世界で長生きしても仕方ない」と、姫から献上された不死の薬と手紙を、日本で一番天に近い山で燃やすよう命じた。兵士がたたくさん登ったので、その山を「富士山」(土に富士山)と名付けた。

富士山が今も人の心をひきつけるのは、かぐや姫への思いが込められているからに違いない。

【叙述通りの出来事の報道】

「どうした(修飾)・だれが・どのように・どうした(て)・どうした」

*叙述をもとに正確に書く。

*5W1H1Dを意識する。

【会話文の引用】

古文から翁の会話文を原文のまま書き出し、その後現代語訳を()内に記している。

*自分が書くときには、字数の関係で現代語訳は書かなくてもよい。

前段落の「出来事と会話の内容」から、翁と姫の気持ちを推測し、「記者のコメント(考え)」として書いている。

【叙述をもとに想像した出来事の報道】

古文中で実際に兵士達が語っているわけではないが、地の文にある叙述をもとに、筆者が想像を働かせ、インタビュールしたように工夫して書いている。

【叙述をもとに想像した出来事の報道】

古文中で実際に誰かが語っていないわけではないが、これらも、地の文にある叙述をもとに、記者が想像を働かせ、聞いたことのように工夫して書いている。

前の二つの文「出来事」を受けて、「記者のコメント(感想)」を書いている。

【叙述通りの出来事の報道】

叙述をもとにして、「だれが・なぜ・何を・どこで・どのように・どうした」と「なぜ・どうした」の成分(5W1H1D)で出来事を報道している。

前段落の「古典の出来事」を「現在の事実」と関連付けて、「記者のコメント(推測)」を書いているところが、工夫している点である。

【モデル記事について】

○このモデル記事は、世界体操選手権大会での内村選手の活躍を報じた記事を参考にしている。本物の新聞がとも参考になる。

○「出来事の報道」「記者としてのコメント」が三回繰り返されているところに工夫がある。二度目の「出来事」は想像によって戻らさせている。

○読者が飽きないように「出来事の報道」の仕方でも、「コメント」の書き方も、それぞれが工夫している。

【5W1H1D】(*Dは長根オリジナル)

① when	いつ
② where	どこで
③ who	だれが
④ what	何を
⑤ why	なぜ
⑥ how	どのように
⑦ do	どうした

【第3時 冒頭部分をモデルの記事の書かれ方になってまとめる】

報道記事で紹介する「竹取物語」 学習シート⑥ (3時間目) 学習日

1年 組 番・氏名

【冒頭部を報道記事にする】

今は昔、竹取の翁というふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。

翁いふやう、「われ朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。子になり給ふべき人なめり」とて、手にうち入れて家へ持ちてき來ぬ。妻の嬬に預けて養はず。美しきことかぎりなし。いと幼ければ籠に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけて後に、竹を取るに、節をへだてて、よごと、黄金ある竹を見つくること重なりぬ。かくて翁やうやうゆたかになりゆく。この児養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。帳の内よりも出ださず、いつき養ふ。

この児のかたちのけうらなること世になく、屋の内は暗き所なく光満ちたり。翁、心地あしく苦しき時も、この子を見れば、苦しきこともやみぬ。腹立たしきことも慰みけり。

翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛る者になりけり。

この子いと大きになりぬれば、名を三室戸斎部の秋田と呼びつけさせ。秋田、なよ竹のかぐや姫と付けつ。このほど三日うちあげ遊ぶ。よろづの遊びをぞしける。男はうけきらはず呼び集へて、いとかしこく遊ぶ。

【出来事の報道】

○5W1H1Dに注意して、出来事(事実)を三つ程度に書き分けてみよう。

【会話の引用】

○実際に誰が何と言ったか書き出そう。

○誰か言いそうなことを、叙述をもとに想像して書いてみよう。

【記者のコメント】

○「疑問に思ったこと・想像したこと・感動したこと・不思議に思ったこと・こうだといいなと思ったこと」などを自由に書いておこう。

中学校第1学年単元構想表（東京書籍；「矛盾『韓非子』より」）

※平成25年11月に実践した授業の一部を改めたもの

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

<p>○日常生活で故事成語をたくさん活用するという ことはないが、言葉に対する興味関心はある。 「矛盾」という言葉は知っている生徒が多いが、 その背景については知らない生徒が多い。</p> <p>○読書が好きで、物語を中心に積極的に読んでい る生徒が多い。</p> <p>○中学校では初めての漢文の学習である。</p>	<p>故事成語をクラスオリジナル辞典にまとめて紹介する という目的をもちながら、</p> <p>◎場面の展開や登場人物に注意して読み、内容を理解す る力。(C-ウ)</p> <p>○文章の構成や展開・表現の特徴について考える力。 (C-エ)</p> <p>○漢文の基本的な訓読ができる力。(伝国ア(ア))</p> <p>○様々な故事成語の存在を知る力。(伝国ア(イ))</p>
---	--

【単元を貫く言語活動】

故事成語を「クラスオリジナル故事成語辞典」にまとめて紹介する。

【言語活動の特徴】

中学校の古典学習の大きな目標は、「古典に親しみ、継承発展する態度を育てる」ことである。この目標を達成するために、「矛盾」だけでなく、たくさんの故事成語があることを知り、それに慣れ親しませたいものである。初めて漢文を学習する生徒が興味関心を持つために、故事成語の成り立ちや意味・用法をクラスオリジナルの故事成語辞典にまとめて紹介するという言語活動を位置付けた。

生徒は、故事成語を任意で一つずつ選び、それについてA4判1枚のカード（故事成語カード）にまとめていく。これに、故事成語、背景となった故事、意味、用法、簡単なイラストをまとめていく。故事については、書き下し文（あるいは現代語訳）を読みながら、起承転結を意識させつつ分かりやすくまとめさせたい。また、漢文は登場人物の気持ちや会話が簡素に書かれていることが多い。書き下し文や現代語訳を読みながら、登場人物の性格や気持ちを想像させてストーリーをまとめさせたい。用法については、身近な例で、誰もが分かりやすいような例文を考えさせたい。一般に「故事成語辞典」というと、非常に難解な辞典が想像されるが、中学生が読んで理解しやすいような形でまとめていくことを意識させたい。

できたものは、クラスで交換したり図書室に掲示したりするなどして、さらに表現の工夫を学び合いたい。また、故事成語カードを最終的に編集し、1冊の辞典としてまとめたい。

1. 単元名 クラスでオリジナル故事成語辞典を作ろう！

2. 単元の目標 自分が紹介したいと考えた故事成語を選び、叙述をもとに想像力を働かせ、故事成語の遣い方を理解しながら故事成語辞典をまとめることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆辞典にまとめ紹介するという目的を持って、漢文の世界に触れ、自分が紹介したい故事成語を選び、想像力を働かせて故事成語カードにまとめようとしている。

【読む能力】

☆故事成語カードにまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述をもとに想像して読み、内容の理解に役立てている。(C-ウ)

☆故事成語カードにまとめるために、起承転結を意識しながら故事をまとめている。(C-エ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆漢文の基本的な訓読の仕方を知り、音読している。(伝-ア(ア))

☆様々な故事成語があることを知り、故事成語を用いた短文を書いている。(伝-ア(イ))

4. 教材 矛盾「韓非子」より、国語便覧、故事成語を抜粋したもの（教師作）、漢和辞典、関連書籍など

5. 単元の展開（全6時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		○故事成語のもとになった話を配布し、朝読書などで読む。	
第1次	第1時	1. 学習課題を設定する。 ○活動目的；故事成語辞典の1ページを担当し、クラスメイトに故事成語を紹介する。 ○学習目的；故事成語辞典をつくることで、どんな力がつくのかを確認する。 2. 教師が提示した故事成語カードを見て、そのまとめ方を理解する。 3. 単元の学習計画を確認する。 4. 「矛盾」の書き下し文を読む。 ○漢文のリズムに親しむ	関 辞典にまとめるという目的を持って「矛盾」や他の故事成語の元になった文章を読もうとしている。 ○教師のモデル「故事成語カード」を分析させる。 ○前単元の古文の読み方を復習しながら読ませる。
第2次	第2時	1. 漢文の基礎を学ぶ。 ○漢文の読み方 2. 「矛盾」の訓読文を朗読する。 ○訓読文の読みに慣れる。	○漢文の訓読の仕方の学習シートを提示する。 言 漢文の基本的な訓読の仕方を理解し、音読している。（自己評価・相互評価・教師の観察）
	第3時	1. 「矛盾」をカードに表現する。 ◎起承転結を意識した故事 ○意味 ○用例 ○関係するイラスト	読 故事成語カードにまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述をもとに想像して読み、内容の理解に役立っている。（学習シート）
	第4・5時	1. カードにまとめた「矛盾」について交流する。 ○グループで交流する。（No.1を選ぶ） ○全体で交流する。（No.1を選ぶ） 2. 故事成語カードの良いまとめ方についてまとめる。 3. 自分が故事成語カードにまとめたい故事成語を選ぶ。 4. 個人で選んだ故事成語の故事を読み、カードにまとめる上でどのように構成するか考え、まとめる。 ○起承転結を意識した故事 ○意味 ○用例 ○関係するイラスト	○故事成語を抜粋したシートを読む。 言 様々な故事成語があるということを理解している。（自己評価） 読 故事成語カードにまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述をもとに想像して読み、内容の理解に役立っている。（学習シート）
第3次	第6時	1. 故事成語カードを読み合う。 ○グループで交流する。 ○全体で交流する。 2. 単元の学習を振り返る。	関 交流を通して故事成語への関心を高め、漢文の世界に触れようとしている。（振り返りシート）
第4次		○出来た作品を図書室などに掲示する。	

矛盾 (むじゆん)

故事

楚の人で、盾と矛を売っている武器屋がいました。武器屋は売り物の盾を取り出して自慢げに言いました。

「この盾はとつても堅くて、突き通せるものはないぞ。さあ、買った買った。」

続けて矛を取り出してまた自慢げに言いました。

「この矛はとつても鋭くて、どんなものでも突き通すぞ。さあ、買った買った。」

それを聞いて、お客の一人が言いました。

「ご主人、あなたのその矛で先ほどの盾を試してみたら、一体どうなるのかね。」

武器屋は何も言うことができません、そそくさと帰って行きました。

意味 つじつまの合わないこと。

用例 彼の話は矛盾だらけで、全く説得力がない。

出典 「韓非子」

漱石枕流 (そうせきちんりゅう)

故事

西晋の文人の孫楚は、若い時に俗世間を離れ、山奥に隠居しようと思いました。

そのことについて友人の王済に「石を枕にし、川の流れに口をすすぐような生活をするのだ」と言うべきところを、間違えて「石に口をすすぎ、川の流れを枕とする」と言ってしまうした。

それを聞いた王済は、「川の流れは枕にするものじゃないでしょ。石もすすぐものじゃないし。」と間違いを指摘しました。

孫楚はこれに対して、顔を真っ赤にして、「川の流れを枕とする理由は、自分の耳を世俗のけがれから洗おうとするからだ。石に口をすすぐ理由は、俗世間の汚いものを食べた歯を磨こうとするからだ。全然間違いじゃないぞ。」と大きな声で反論しました。

意味 自分の失敗を認めず、屁理屈を述べて言い逃れをするこ

と。負け惜しみの強いこと。

用例 漱石枕流のごとき言い訳をしても無駄なことだ。

出典 「晋書」

豆知識 夏目漱石の雅号の由来として有名。

【第1時 モデルの分析】

クラスオリジナル故事成語辞典を作ろう！「矛盾」 学習シート②（1時間目）

起

物語の始まり・つかみ

承

物語の発展・進展

転

物語の変化・さらなる進展

結

物語の終わり・まとめ

文章の構成（四段構成）

〔モデル文〕

西晋の文人の孫楚は、若い時に俗世間を離れ、山奥に隠居しようとしていました。そのことについて友人の王済に「石を枕にし、川の流れに口をすすぐような生活をするのだ」と言うべきところを、間違えて「石に口をすすぎ、川の流れを枕とする」と言っていました。

それを聞いた王済は、「川の流れは枕にするものじゃないぞよ。石もすすぐものじゃないし。」と間違いを指摘しました。

孫楚はこれに対して、**顔を真っ赤にして**「川の流れを枕とする理由は、自分の耳を世俗のけがれから洗おうとするからだ。石に口をすすぐ理由は、俗世間の汚いものを食べた歯を磨こうとするからだ。**全然間違ってないぞ。**」と**大きな声で反論**しました。

〔現代語訳への補足〕

直訳の現代文に対し、読者が内容をとらえやすいように言葉を補っている。

※直訳の現代語訳を読んで、背景を想像して書く。

※分からない言葉は、国語辞典・漢和辞典・資料集などを活用して参考にする。

〔想像した会話文の口調〕

会話主のその時の気持ちや性格を想像して口調を表現する。

※過去の物語文や朝読書の物語文を参考にしてよい。

〔想像した動作の様子行動〕

動作主のその時の気持ちや性格を想像して行動や様子を表現する。

※過去の物語文や朝読書の物語文を参考にしてよい。

【第4時 交流の仕方の学習シート】

クラスオリジナル故事成語辞典を作ろう！「矛盾」 学習シート⑦（4時間目）

1年 組 番 氏名

◎学習課題◎

1 【学習の流れ】

① グループ協議（相談）

目的 最もわかりやすく表現している文章を選ぶ。

◎選ぶ視点◎

① 構成（起承転結）を意識しているか。

② 現代語訳だけでは分かりにくい部分を効果的に補足しているか。

③ 登場人物の気持ちや性格を意識して、動作や会話をいきいきとえがいているか。

② 全体発表

目的 自分のグループ以外の文章の良いところを学ぶ。

(1) 選んだ理由を説明する人と、選ばれた人が前に出る。

(2) 発表用紙を持ち、選んだ理由を説明する。

(3) 選ばれた人が自分の作品を読む。

※聞いている人は、よいと思ったりまねたいと思ったところをメモしよう。

③ 個人でのまとめ

目的 自分が選んだ故事成語のまとめ方を考える。

(1) グループ協議や全体での発表を振り返りながらどのようにまとめたいかを考える。

① 【メモ】

グループ協議

① 一番に選んだ人 ()

◎選んだ理由

③ 個人でのまとめ

.....

.....

.....

.....

.....

② 全体発表

3	2	1	発表		
				よいと思ったところなど	

中学校第1学年単元構想表（光村；「少年の日の思い出」）

※平成23年12月に実践した授業の一部を改めたもの

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

<p>○「虹の見える橋」では、情景描写や擬人法の表現から、登場人物の心情を読み取った。「麦わら帽子」では、場面がどう展開しているかについて自分の考えを発表しあった。「大人になれなかった弟たちに」で、「僕」の行動・考え方に共感しながら読み取り、主題について考えた。</p> <p>○「麦わら帽子」で、「主人公、あらすじ、主題、自分の好きな表現(名セリフ、名文)、読んでほしい人、文章表現の良さ」を要素として、自分のお薦めの本を紹介する学習活動を行った。紹介文を書く活動は個人で行なっており、グループで協同的に文章等をまとめるという学習経験はない。</p>	<p>「読書ボード」で紹介するという目的をもちながら、</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもつ力。(C-エ)</p> <p>○文章に表れているものの見方や考え方に共感したり疑問をもったりして、自分の考えを広げる力。(C-オ)</p> <p>○意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえる力。(伝イ(イ))</p>
--	--

【単元を貫く言語活動】

読書会を通して読む力を高め、自分で選んだお薦めの本を「読書ボード」にまとめる。

【言語活動の特徴】

「読書会」＝「思い出し係、質問係、選び出し係、イラスト係」を分担し、話合いのシートにそって話合いを進める。

「読書ボード」＝A4判の色画用紙に「本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト」を配置してまとめたボード。グループで「構成・展開・表現の特徴(書きぶり)」が話題となるような読書会を工夫し、「読書ボード」の本の魅力の説明の中に、要素として「構成・展開・表現の特徴」が記載されるように配慮する。「キャッチコピー、本文の引用、イラスト」には、文章に表れているものの見方や考え方に共感したり疑問をもったりした内容が表現される。

<p>1. 単元名 ○中1学年「どくしょ甲子園」開催！ ～その本を読みたくなるような「読書ボード」を作ろう～</p> <p>2. 単元の目標 自分で選んだお薦めの本を「読書ボード」にまとめることを通して、文章の構成や展開、表現の特徴、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、それについて自分の考えをもつことができる。</p> <p>3. 単元の評価規準</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 ☆友達に紹介するために、読書会によって読みを深め、本の内容をまとめようとしている。</p> <p>【読む能力】 ☆友達に紹介するために、文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(C-エ) ☆友達に紹介するために、選んだ本の文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして自分の考えを広げている。(C-オ)</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 ☆文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(伝国イ(イ))</p> <p>4. 教材 「少年の日の思い出」、生徒各自が選んだ本、「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」、第2回どくしょ甲子園 受賞作 (http://www.asahi.com/shimbun/dokusyo/koushien/)、朝日新聞の記事(平成23年11月21日)</p>

5. 単元の展開（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・言）等
第0次		「どくしょ甲子園」の入賞作品や新聞の紹介記事を廊下に掲示し、読書に対する興味関心を高める。	
第1次	第1時	1. 単元の見通しをもつ ①「どくしょ甲子園」の目的を知る。 ②活動のゴールを知る。(モデル) ○高校生の作品と教師の作品を比べる。 ③学習過程を知る。(読書会⇒読書ボード) 2. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫について気付いた内容を、個人で付箋に書いて「読書ボード」に貼る。 3. 今日の学習を振り返る。	○教師作成の3つの「読書ボード」(カラー印刷)のモデルを各グループに配付する。 関 友達に紹介するという目的をもって、本を読もうとしている。(学習振り返りカード)
	第2時	1. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をグループでまとめる。 2. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒中心にまとめる。 3. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒が説明する。 4. 自分はどのパターンでまとめたいと思ったか発表する。	○各自に付箋、グループにまとめの短冊を用意する。 ○役割の名札を用意する。
第2次	第3時	1. 「少年の日の思い出」を読み、意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえる。 2. グループ読書会のやり方を確認する。 3. グループ読書会の分担をする。 ①思い出し係 ②質問係 ③選び出し係 ④イラスト係 を分担する。	言 文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(学習シート)
	第4時	1. グループ読書会をする。 2. グループ読書会の内容を全体で発表する。 3. グループ読書会を振り返る。	読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(観察)
	第5時	1. グループ読書会を受けて、「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」の内容を考える。 ①個人で考える。 ○本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト ②グループで話し合う。	読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(学習シート、読書ボード)
	第6時	1. 「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで完成させる。 ○本を薦めるキャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力(300～400字程度)、イラスト	○A4色画用紙を準備する。 読 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。(読書ボード)
	第7時	1. 「読書ボード」を交流する。(代表が2分以内で発表) 2. 学級で最優秀賞と優秀賞を選ぶ。 ①個人でよいと思ったもの(理由)2点を選ぶ。 ②グループでよいと思ったもの2点を選ぶ。 ③全体で最優秀賞と優秀賞を協議によって選ぶ。	読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
	冬休みの宿題(自分のおすすめの本を「読書ボード」にまとめる)		「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」などを利用して本を選び、「読書ボード」を完成させる。
第3次	第8時	1. 各自の「読書ボード」をグループで交流する。 ○1人3分で紹介する。 2. グループで入賞作品を決める。 ○よいと思ったもの2点を選ぶ。	○各自が「読書ボード」を冬休みの宿題として完成させる。 読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
	第9時	1. 学級で入賞作品を決める。 ①グループでよいと思ったもの2点を紹介する。 ②全体で最優秀賞1点と優秀賞数点を協議によって選ぶ。 2. 理由や良さ(工夫)について意見交換する。 3. 単元の学習を振り返る。	読 文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして考えを広げている。(観察)
第4次		学年で入賞作品を決める。 図書館や廊下に掲示する。	

【第1時 単元の学習過程】

学習	学習活動計画	評価
1	○単元の見直しをもつ ○モデルの「読書ボード」の工夫を見つめる ○モデルの「読書ボード」の工夫を見つめる ○自分達がどのパターンでまとめるか決める	感想（わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、これから頑張りたいことなど）
2	○「少年の日の思い出」を読む（意味調べ） ○読書会の分担をする	
3	○「少年の日の思い出」について、グループ読書会をする	
4	○「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで作る	
5	○「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで完成させる	
6	○完成した「読書ボード」を交流する	
7	○最優秀と優秀を決める	
8	冬休み ①「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」などを利用しておすすめ図書を選ぶ。 ②「読書ボード」作成のための学習シートを使って「読書ボード」の原案を作る。 ③「読書ボード」を完成させる。	
9	○個人で良いものを選ぶ ○学級で入賞作品を選ぶ ○単元の学習を振り返る	

◎学年でも優秀作品を決めます。作品は、廊下や図書室等に掲示します。

【単元の目標】
グループ読書会を通して
①文章の構成や展開、表現の特徴をとらえる力を身に付けよう。
②文章に表れているものの方考え方をとらえる力を身に付けよう。
そして、お薦めの本を「読書ボード」にまとめる力を身に付けよう。
(評価 よく理解できた4 理解できた3 あまり理解できない2 理解できない1)

中1学年「どくしよ甲子園」開催！ 学習評価シート (1時間目～9時間目まで)
1年 組 番・氏名

【第2時 グループ交流の進め方】

◎三つの「読書ボード」それぞれの良さや工夫を見つけよう。

学習課題

本時の流れ

- 役割を確認する。(司会者⇨ファシリテーター・オブザーバー、代表者)
- グループで協議のやり方を知る。
- グループで協議する。
- A B Cに分かれて協議する。
- 学級全体で交流する。
①ファシリテーターの協議内容の発表。
②オブザーバーのコメント。
- 個人で学習を振り返る。

グループ協議の流れ

- 司会者と記録者の役割を確認する。
- 司会者の進め方。
(1) グループで、どの「読書ボード」の協議に誰が参加するかを確認する。
自分が代表者となった「読書ボード」について、それぞれがまとめを短冊に書く。
↓三つにわかれての全体協議時に、司会者は、自分が見たい「読書ボード」の協議のオブザーバーとなる。代表者は、自分が書いた短冊をもって協議に参加する。(注：司会者全体の中からファシリテーター三人⇨進行役)
(2) 一人の人に、自分が気付いた工夫を発表してもらう。
↓「読書ボード」の工夫箇所に付箋を貼る。
(3) 同じような意見、あるいは質問がないか確認し、あった場合は出してもらう。
↓まったく同じ場合は付箋を重ね、似ているが少し違う場合は隣に貼る。
(4) 出された意見は工夫と考えて良いか、また、どんな効果があるかをまとめて短冊に書く。
(5) グループの考えがまとまったら、記録者が、キーワードとして短くまとめて短冊に書く。
(6) 一人の人が気付いた工夫がなくなるまで、(2)～(5)を繰り返す。
(7) 一人の人が気付いた工夫がなくなったら次の人進む。
(8) 最後に、話し合っている中で気付いたことがあった人がいた場合には、その意見を出してもらう。
(9) 閉会宣言をして終わる。

司会者(一人)：全員に平等に発言させる。考えを広げたり、深めたり、質問を取ったりする。
代表者(三人)：自分の分担の読書ボードについてグループでまとめた考えを短冊に書く。
三人グループのところは、司会者が代表者を兼ねる。

中1学年「どくしよ甲子園」開催！ 学習シート② (2時間目) 学習日
1年 組 番・氏名

1年 組 番・氏名

読書会をうけて「読書ボード」を作成する

「読書ボード」作成の準備

読書会が終わったところで、いよいよ「読書ボード」作りです。ここまではできるだけ自由に話し合ってきましたが、それはいったん打ち切り。今度は話し合いを、以下のような形にまとめる方向で振り返ります。

★ この本の面白さはどこか。その理由は？ どこで一番盛り上がったかなど、全体について話し合います。

★ 読書会で発見したこと、気づいたことを出し合ってみましょう。本の内容に限らないで話し合います。

★ 一番印象に残った文章はどれか、話し合ってみましょう。

「読書ボード」の項目

◆ 読んだ本を薦めるキヤッチコピーを考えよう。

① 読書会を通して一番盛り上がった事柄や印象的だった友だちの言葉、本の魅力を短い言葉で伝えると何になるかなど、キーワードを見つけてよう。

② 一つのキーワードから、連想できることや新たなキーワードを書きだしてみよう。

③ いくつかのキーワードをつなげたり、分けたり、順番を入れ替えたりして箇条書きにしてみよう。

④ いろいろ工夫してみよう。
・思い切って短く。(学園祭に行こう！ ↓ 学園祭、行こー！)
・他の言い方を考える。(安い！ ↓ 激安！ ↓ お得！)
・ひらがな、カタカナ、漢字に置き換えてみよう。

(危ない！ ↓ アブナイ ↓ あぶない、行こう ↓ レッツゴー)
・洒落、語呂合わせ、体言止め、比喻、限定など表現を工夫してみよう。

・そのものになったつもりで考えてみよう。(作者、登場人物、読者、本、…)
・キヤッチコピーを読んだ人に考えさせる工夫もあるかもしれませぬ。

◆ 印象的な本文の引用(掲載ページを明記)

独立して記載するのか、文章の中で記載するのか、どちらにするか考えましょう。

① キヤッチコピーにつながる登場人物のセリフ、情景描写、人物描写、など。

② 感動した場面、怒りを覚えた場面など、心が揺さぶられた叙述。

③ 本の魅力が説明するのに必要なセリフ、描写。

◆ 「私たちが見つけたこの本の魅力」(4000〜6000字で)

① 一学期の「本の紹介文」や二学期の「報道記事」の書き方を参考にしましょう。

② モデルとして示した「読書ボード」の書き方を参考にしましょう。段落構成、その段落に記述する要素、引用、など、魅力的な文章となるよう工夫してみよう。

レイアウト会議

◆ 絵や写真、文章とキヤッチコピーを合わせてみる。

◆ 色合いを考える。(ボードの台紙、本文の台紙、文字の色、絵の色、…)

◆ 大きさのバランスを考える。(キヤッチコピー、文章、絵、…)

◆ 配置(レイアウト)を考える。
(キヤッチコピーの位置、絵の位置、文章を縦書きと横書きどちらにするか、…)

【第9時 単元の振り返りカード】

1年 組 番・氏名

1 「グループ読書会」「読書ボード作り」の活動や「自分の読書力」について、考えたことを書きなさい。

縦線が引かれた空白の書き込み欄

2 「少年の日の思い出」や「自分が読んだ本」の内容について、友だちとの交流や「読書ボード作り」を通して新たに気づいたことや深まったことなど、普段とは違う読みの深化などについて書きなさい。

縦線が引かれた空白の書き込み欄

3 グループでの交流内容を全体で発表しよう。

4 単元の学習を振り返ろう。

4 あてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない (○をつけてください)

①	これから何をするのか、見通しをもって勉強することができた。	4	3	2	1
②	文章の構成や展開について考えながら読むことができた。	4	3	2	1
③	文章の表現の特徴について考えながら読むことができた。	4	3	2	1
④	語句の意味を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえることができた。	4	3	2	1
⑤	「少年の日の思い出」を、じっくり読むことができた。	4	3	2	1
⑥	自分の選んだ本を、じっくり読むことができた。	4	3	2	1
⑦	友だちの「読書ボード」を見て、その本を読んでみたいと思った。	4	3	2	1
⑧	単元の学習を通して、もっと読書したいという意欲が向上した。	4	3	2	1
⑨	自分で納得できる「読書ボード」を仕上げることができた。	4	3	2	1
⑩	友だちどうしで、読書(本)が話題になることが多かった。	4	3	2	1

【生徒が作成した読書ボード①】



少年の日の思い出

大切な蝶を自らつぶしてしまった少年の思いとは—？

人生には、苦しいことやつらいことが必ずやって来る。それと同時に、盗みを犯したいときもやって来るだろう。しかし、自分が盗みを犯してしまった時の感情や、不安は、盗みを犯してしまった人にしか分からない。ところが、ヘルマン・ヘッセのこの作品からは、「僕」が盗みを犯してしまい、誰かに見つからないかという不安が、まるで自分が盗みを犯してしまったように、ひしひしと伝わってくる。

この本には、正義を盾に主人公を軽蔑しているエーミールの冷淡な態度や、盗みを犯し自分自身におびえている「僕」の心情が描かれているが、「僕」の母の愛情も垣間見ることができる。

読む者のほとんどは、クジャクヤママユの誘惑に負けてしまった「僕」の心に、驚きや悲しみを持つだろう。

人間は、罪を犯していいのか？
なぜ、クジャクヤママユの誘惑に負けてしまったのか？
なぜ、自分のちょうを粉々につぶしたのか？

そんな疑問が頭の中を閃光のように走り抜ける。ヘルマン・ヘッセは、この物語で何を伝え、考えさせようとしているのか。ヘルマン・ヘッセが伝えようとしているメッセージを、あなたにも感じ取ってほしい。

「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ 作 高橋健二 訳

【生徒が作成した読書ボード②】



喜怒哀楽、欲望、興奮…。感情とは人の行動の原動力であり、時に制御できなくなる。

ヘルマン・ヘッセのこの作品からは、主人公のおさえきれえない欲望、後悔をこえた怒り・悲しみが伝わってくる。

この本は、人間なら誰もが感じたことのある気持ちと、その果てにある「本心」を考えさせられる作品である。

読む者は一人残らず、登場人物の本心を深く知りたくなるだろう。

こみあげる欲望。

つぶれたクジャクヤママユ。

なぜ「僕」はちょうを粉々にしてしまったのか。

消えない「罪」
粉々のちょう

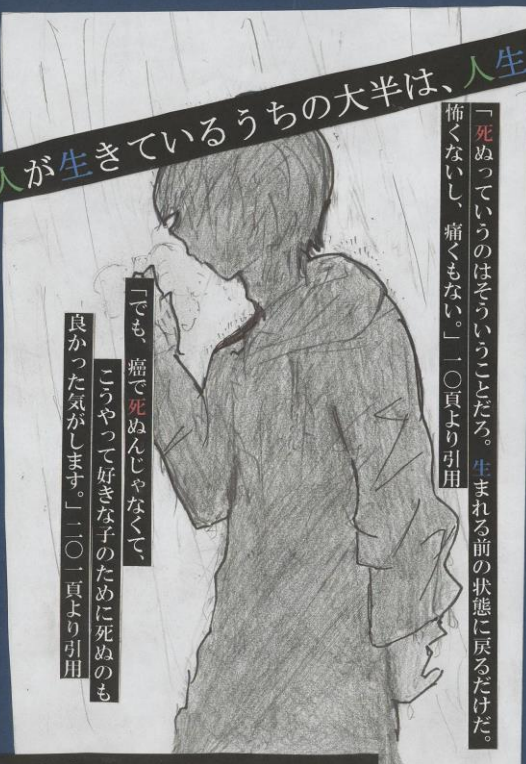
読めば読むほど、深まる疑問。ヘルマン・ヘッセは、私たちに何を感じてほしいのか。それを、あなたにも考えてほしい。

少年の日の思い出

ヘルマン・ヘッセ

【生徒が作成した読書ボード③】

「人が生きているうちの大半は、人生じゃなくて、ただの時間だ。」



「死ぬっていうのはそういうことだ。生まれる前の状態に戻るだけだ。怖くないし、痛くもない。」一〇頁より引用

「でも、癌で死ぬんじゃないか、こうやって好きな子のために死ぬのも良かった気がします。」二〇頁より引用

人は、いつか必ず「死」を迎える。しかし、多くの人間は「死」を迎える最後の時までそのことを現実的に受け止めることはまずない。

ところが伊坂幸太郎の作品からは、「死」というもののリアルさが胸に強く伝わってくる。

もし、死神の力によって死ぬことがなければ「あの人」はどうなったのか。大きな疑問が読者に襲いかかる。だが生きるべきだったか、死ぬべきだったか、その謎は読者に解くことはできない。

この本には、「死」というものが中心に描かれているが、その中に「生」というテーマを感じとることができる。

読む者は一人残らず、「死」と「生」を深く考えさせられるだろう。

人は何故生きていくのか？
 幸せを手に入れるためか？ 憎しみをはらすためか？
 —それとも、大切な「誰か」のためか？—

読者の頭の中は、そういう疑問で埋め尽くされる。
 伊坂幸太郎は「死神の精度」という題名にどんな思いを込めたのか。それをあなたに考えてほしい。

死神の精度 / 伊坂幸太郎 / 文春文庫


人が生まれ死んでいく、
 その本当の意味とは——？

【生徒が作成した読書ボード④】

盗まれた 時間 を取り戻しに行く モモ

おわり、そして新しいはじまり
 「いいんだーこれいいんだー
 なにもかもーあつたー」
 として最後の灰色の男が消えていた
 これを灰色の男達が考えていた計画は
 モモの手によって暴かれた、だからモモが
 取り戻したあつたかえるような時間は
 町のみんなの新しいはじまりとなった
 時間は、その時間にもんなことが
 あたかによて
 ほんの一瞬と感ずることもある
 遠永の長きに感ずられることもある
 そんな時間を私達は
 大切にしていかなければならない

~~~~~時間~~~~~  
 人間は生きていくうえで時間か、刃になる。もし身の回りから時間か、うばおれたら、あなただたらどうする？  
 この本は、「モモ」が盗まれた時間を取り戻しに行く。「モモ」は、これだけ町の人達の時間を取り戻したのかがわかる。  
 過去と現在と未来をあわせるに……  
 モモは、時間の意味、本当の幸せを私達に教えてくれた。  
 モモは現在の時間の使いかたに忠告をしているんだぞう。  
 みんな、時間について考えてみてはどうか？



モモ  
 モモの冒険記

# 中学校第2学年単元構想表（光村；「明日」）

※平成24年4月に実践した授業の一部を改めたもの

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

○第1学年の「麦わら帽子」の学習では、場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写に着目して紹介文を書く学習経験をしている。「少年の日の思い出」では、「読書ボード」にまとめるために、文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもつ学習経験をしている。

○生徒はこれまで、教科書に掲載されている一編の詩の読解中心に学習を進めており、推薦するために詩の多読をした経験はない。また、紹介は経験しているが、読者を想定した推薦という言語活動も初めてである。

◎「推薦カード」をまとめるという目的をもって、

- 心情を表す語句をとらえる力。(C-ア)
- 詩の構成や展開、表現の仕方について、根拠をもとに自分の考えをまとめる力。(C-ウ)
- 詩に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ力。(C-エ)
- 自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめる力。(C-オ)

## 【単元を貫く言語活動】

詩の「構成や表現の仕方・表現されているものの見方や考え方」について、自分の考えを「推薦カード」にまとめる。

## 【言語活動の特徴】

「推薦カード」＝A4サイズ。上半分にお薦めの詩、下半分に「どんな人にどんな時に読んでほしいのか」「自分の考え」を推薦の文章（600字程度）にまとめる。

お薦めの詩を選び推薦するという言語活動は、幅広く読書活動を行うことの意味を実感し、必要に応じて自ら読書を進めていくことのできる自立した読み手を育成することにつながる。

また、詩の推薦カードをまとめるという言語活動は、詩の表現や内容を自分がどのように捉えたのかが、「どんな人に」「どんな時に」読んでほしいのかという考え方に表わされる。

1. 単元名 中学生にお薦めの「詩の推薦カード」を作ろう！

2. 単元の目標 詩の構成や表現の仕方、作者のものの見方考え方を読み取り、自分の考えをまとめて友だちに推薦することができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆友だちに推薦するために、相手にぴったりの詩を見つけ、詩の内容についての理解を深めようとしている。

#### 【読む能力】

☆友だちに推薦するために、心情を表す語句をとらえている。(C-ア)

☆友だちに推薦するために、詩の構成や展開、表現の仕方について、根拠をもとに自分の考えをまとめている。(C-ウ)

☆友だちに推薦するために、詩に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。(C-エ)

☆友だちに推薦するために、自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめている。(C-オ)

#### 【言語についての知識・理解・技能】

☆比喩や反復などの表現の技法について理解している。(既；1年伝イ(オ))

4. 教材 「明日」、詩集（自分のお薦めの詩を選択できるもの）

## 5. 単元の展開（全6時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                          | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                                                                 |
|-----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | ○教師の推薦する詩を掲示し、詩に対する関心を高めておく。                                                                                  |                                                                                                                                                             |
| 第1次 | 第1時 | 1. 自分の詩の読書体験を思い起こす。<br>2. 「推薦カード」を利用した教師の推薦を聞く。<br>3. 学習の見通しをもつ。（単元の学習の意義）<br>4. 教師が提示した「推薦カード」の書かれ方を理解する。    | <b>関</b> 見通しをもって取り組もうとしている。<br>（学習計画表・評価シート）<br>○「心情を表す語句、詩の構成や展開、表現の仕方、ものの見方や考え方」の要素を押さえたモデルを提示する。                                                         |
| 第2次 | 第2時 | 1. 「明日」の「推薦カード」を書く。<br>○個人で考える。（学習シート②）<br>○4人グループでお互いの学習シート②を読み、推敲しあう。<br>○「明日」の「推薦カード」を書く。                  | <b>読</b> 心情を表す語句をとらえている。<br><b>読</b> 詩の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめている。<br><b>読</b> 詩に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。<br><b>言</b> 比喩や反復などの表現の技法について、考えをまとめている。 |
|     | 第3時 | 1. 4人グループで「明日」の「推薦カード」を読み、より多くの人が共感できると思うものを選ぶ。<br>○4人グループで選ぶ。<br>○全体で発表する。<br>（発表者、理由説明者）<br>○お互いの良さを意見交流する。 | ○根拠を明確にしてお互いの考えを交流させる。<br>○グループ交流の仕方のモデルを示す。                                                                                                                |
| 第3次 | 第4時 | 1. 自分の好きな詩の「推薦カード」を完成させる。<br>○推薦メモ（学習シート③）を書く。<br>○4人グループで、お互いに推敲し合う。<br>○「推薦カード」を書く。                         | <b>読</b> 自分の読書体験や図書館などからお薦めの詩を選び、自分の考えをまとめている。                                                                                                              |
|     | 第5時 | 1. 自分の好きな詩の「推薦カード」を紹介し合う。<br>○4人グループで全体に紹介したい詩を選ぶ。<br>○代表が全体で発表する。<br>（グループで選んだ理由を説明する）                       | <b>読</b> 心情を表す語句をとらえている。<br><b>読</b> 詩の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめている。<br><b>読</b> 詩に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。<br><b>言</b> 比喩や反復などの表現の技法について、考えをまとめている。 |
|     | 第6時 | 1. 単元の学習のまとめを行う。<br>○「推薦カード」を清書して提出する。<br>2. 単元の学習を振り返る。                                                      | ○推薦カードを集めて、全員分印刷する。<br><b>関</b> 詩の良さを実感し、進んで読もうとしている。                                                                                                       |
| 第4次 |     | ☆全員の「推薦カード」を冊子にまとめ、保護者に届け、感想をもらう。                                                                             |                                                                                                                                                             |

並行読書（自分が推薦する詩を選ぶ）

【第一冊 教師が作成した詩の推薦モデル①】

みんなを好きに

金子みすゞ

私は好きになりたいな、  
何でもかんでもみいんな。

葱も、トマトも、おさかなも、  
残らず好きになりたいな。

うちのおかずは、みいんな、  
母さまがおつくりになったもの。

私は好きになりたいな、  
誰でもかれでもみいんな。

お医者さんでも、鳥でも、  
残らず好きになりたいな。

世界のものはみいんな、  
神さまがおつくりになったもの。

この詩は、「苦手な友だちがいる人」や「友だち関係で悩んでいる人」に読んでほしい詩です。

この詩では、「みんな」という言葉を、一般的な「みいんな」から、嫌いな食べ物を含める「みいんな」、この世のすべてのものという強い気持ちを含めた「みいんな」と三通りに使い分けています。

詩の構成は、第一連から第三連までの前半と、第四連から第六連までの後半に分けられます。全体に反復と対句が用いられ、前半は読者の共感が得られやすい食事のことを具体例とし、後半では読者に訴えたいことを書いています。しかし、後半は抽象的な表現なので、読者それぞれの体験によって伝わってくることは違うでしょう。

私は、小学生の頃、特定の友だちが好きになれず、意地悪を繰り返していた時期があります。私にとって、後半部分は、意地悪されていた友だちの声のように聞こえてきます。そういう悲しい思いを友だちにさせていた自分に気付かされました。

友だちの良さに気付かず嫌いになってしまっている人、自分は嫌われているのではないかと不安に感じている人、すべての人が、相手を思いやる温かい心を思い出してほしい。

二年〇組〇番 〇〇 〇〇

【第一冊 教師が作成した詩の推薦モデル②】

梨の芯

金子みすゞ

梨の芯はすてるもの、だから  
芯まで食べる子、けちんぼよ。

梨の芯はすてるもの、だけど  
そこらへほうる子、ずるい子よ。

梨の芯はすてるもの、だから  
芥箱へ入れる子、お伶俐よ。

そこらへすてた梨の芯、  
蟻がやんやら、ひいてゆく。  
「ずるい子ちゃん、ありがとよ。」

芥箱へ入れた梨の芯、  
芥取爺さん、取りに来て、  
だまってごろごろひいてゆく。

この詩は、「柔軟な考え方を身に付けたい人」に おすすめの詩です。

この詩では、「梨の芯はすてるもの」と三回繰り返して、題名でもある「梨の芯」が、不要なものであることを印象付けています。

また、第一連から第三連まで繰り返して対句を用いることで、動きのあるリズムを出しています。声に出して読むときに意識してほしいところです。

第四連では、前半の常識を覆すものの方・考え方が描かれています。人間にとっては無用の長物である「梨の芯」も、蟻にとっては大切な食べ物になるのです。人間にとって常識的でお伶俐な行動も、地球上の他の生物からすれば、資源の無駄遣いになってしまうのかもしれない。

私たちは、もしかしたら他で役立つかもしれないたくさんものを気付かず捨ててしまっているのかもしれない。この詩では、使い捨て社会を見直してみませんかと訴えているようです。

ゴミだと思っていたものが資源だったりするよ うに、物事を決めつけずに、いろいろな立場に立って、様々な見方や考え方ができるようになりたいものです。

二年〇組〇番 〇〇 〇〇

【第1時 詩の推薦文の書かれ方の分析】

|                                                             |                                                                               |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中学生にお薦めの「詩の推薦カード」を作ろう<br/>                 二年 組 番・氏名</p> | <p>◎二つの推薦文の書かれ方を読み取ろう！<br/>                 それぞれの段落でどのようなことを書いているのか確認しよう。</p> | <p>「梨の芯」<br/>                 この詩は、「柔軟な考え方を身に付けた人」におすすめの詩です。</p>                                                      | <p>この詩では、「梨の芯はすてるもの」と三回繰り返して、題名でもある「梨の芯」が、不要なものであることを印象付けています。</p>                                                                                             | <p>また、第一連から第三連まで繰り返すと対句を用いることで、動きのあるリズムを出しています。声を出して読むときに意識してほしいところです。</p>                                                                                      | <p>第四連では、前半の常識を覆すものの見方・考え方が描かれています。人間にとつては無用の長物である「梨の芯」も、蟻にとつては大切な食べ物になります。人間にとつて常識的でお利巧な行動も、地球上の他の生物からすれば、資源の無駄遣いになってしまいうるかもしれません。</p>                                                                                                 | <p>私たちは、もしかしたら他で役立つかもしれない皆さんのものを気付かずに捨ててしまっているのかもしれない。この詩では、使い捨て社会を見直してみませんかと訴えているようです。</p>                                                                                                                  | <p>ゴミだと思っていたものが資源だったりにするように、物事を決めつけずに、いろいろな立場に立つて、様々な見方や考え方ができるようにしたいものです。</p>                                      |
|                                                             | <p>「みんなを好きに」</p>                                                              | <p>この詩は、「苦手な友だちがいる人」や「友だち関係で悩んでいる人」に読んでほしい詩です。</p>                                                                    | <p>この詩では、みんなという言葉を用いて、一般的な「みんな」から、嫌いな食べ物を含める「みいんな」、この世のすべてのものという強い気持ちを込めた「みいんな」と三通りに使い分けています。</p>                                                              | <p>詩の構成は、第一連から第三連までの前半と、第四連から第六連までの後半に分けられます。全体に反復と対句が用いられ、前半は読者の共感が得られやすい食事の例を具体例とし、後半では読者に訴えたいことを書いています。しかし、後半は抽象的な表現なので、読者それぞれの体験によって伝わってくることは違ってくるでしょう。</p> | <p>私は、小学生の頃、特定の友だちが好きになれず、意地悪を繰り返していた時期があります。私にとって、後半部分は、意地悪されていた友だちの声のように聞こえてきます。そういう悲しい思いを友だちにさせていた自分に気付かされました。</p>                                                                                                                   | <p>友だちの良さに気付かず嫌になっってしまった人、自分は嫌われているのではないかと不安に感じている人、すべての人が、相手を思いやる温かい心を出してほしい。</p>                                                                                                                           | <p>友だちの良さに気付かず嫌になっってしまった人、自分は嫌われているのではないかと不安に感じている人、すべての人が、相手を思いやる温かい心を出してほしい。</p>                                  |
|                                                             | <p>書かれている事柄(要素)</p>                                                           | <p>☆どんな人に読んでほしいか。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・こんな人に読んでほしい<br/>                 ・こんな人におすすめです</p> | <p>☆心情を表すなど、キーワードとなりそうな語句についての自分の考え。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・印象付ける<br/>                 ・強い気持ちを込めた<br/>                 ・使い分けている</p> | <p>☆表現の特徴についての自分の考え。<br/>                 【ポイント】<br/>                 ・表現技法(反復、対句、体言止め、倒置など)<br/>                 ・リズム、音読<br/>                 ・文末表現</p>        | <p>☆構成や内容についての自分の考え。<br/>                 【ポイント】<br/>                 ・連と連との関係<br/>                 ・反復と対句<br/>                 ・最も伝わってくることを<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・描かれている、くになる、かもしれない、分けられる、書いている、くでしょう</p> | <p>☆詩の内容と自分の知識や体験との関連。<br/>                 【ポイント】<br/>                 ・こういう体験がある<br/>                 ・こういうことと同じだ<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・かもしれない、くのようにだ、くがある、くのように思える、気付かされた</p> | <p>☆どんな人に読んでほしいのかを、詩から受け取られる内容と関連付けて、具体的にもう一度書く。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・こうなりたい、してほしい</p> |

【第2時 「明日」で推薦できる内容をまとめる】

|                                                             |                             |               |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------|-----------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中学生にお薦めの「詩の推薦カード」を作ろう<br/>                 二年 組 番・氏名</p> | <p>◎「明日」で推薦できる内容をメモしよう！</p> | <p>事柄(要素)</p> | <p>☆どんな人に読んでほしいか。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・こんな人に読んでほしい<br/>                 ・こんな人におすすめです</p> | <p>☆心情を表すなど、キーワードとなりそうな語句についての自分の考え。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・印象付ける<br/>                 ・強い気持ちを込めた<br/>                 ・使い分けている</p> | <p>☆構成や内容についての自分の考え。<br/>                 【ポイント】<br/>                 ・表現技法(反復、対句、体言止め、倒置など)<br/>                 ・リズム、音読<br/>                 ・文末表現</p> | <p>☆詩の内容と自分の知識や体験との関連。<br/>                 【ポイント】<br/>                 ・こういう体験がある<br/>                 ・こういうことと同じだ<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・かもしれない、くのようにだ、くがある、くのように思える、気付かされた</p> | <p>☆どんな人に読んでほしいのかを、詩から受け取られる内容と関連付けて、具体的にもう一度書く。<br/>                 【表現の例】<br/>                 ・こうなりたい、してほしい</p> |
|                                                             | <p>メモ(簡条書きでよい)</p>          |               |                                                                                                                       |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                     |

## 第2学年単元構表（光村図書；「盆土産」）

※平成26年12月に実践した授業

### 【生徒の実態】

### 【身に付けさせたい力】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○今年度は、「アイスプラネット」「旅する絵描き」などを通し、人物像、心情描写などの読みとりを行ってきているが、その表現の効果について、分析的に捉える学習はほとんど行っていない。</p> <p>○「枕草子」「短歌」の学習を通し、評価語彙を意識的に使う学習は行ってきたが、継続的な学習とはなっていない。</p> <p>○「字のない葉書き」で随筆の構成、「モアイは語る」で説明的な文章における構成については学習してきている。しかし、小説の構成の効果については、学習が不足している。</p> <p>○少人数であるが故に、一斉指導による活動が多くなってしまい、主体的なグループ活動に慣れていない。</p> | <p>◎登場人物の言動の意味や描写の効果について自分の考えをまとめる力（C-I）</p> <p>○文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして、自分の考えをまとめる力（C-U）</p> <p>○文章に表れているものの見方や考え方について知識や体験と関連付けて自分の考えを持つ力（C-E）</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【単元を貫く言語活動】

作品の魅力に対する考えを、グループ交流を通しながら深め、ブックボードにまとめる。

### 【言語活動の特徴】

様式：小説のブックボード                      構成：キャッチコピー、引用、魅力を説明する文章

○中学生に読んでほしい作品の魅力を名古屋の人に伝えるために、ブックボードを作成するという言語活動である。グループ交流を通し、互いの意見を交流しながら、読みを深め、項目ごとにまとめていく。最終的には、自分で選んだ本について、ブックボードを作成する。

○「構成や展開、表現」についての評価を盛り込めるように工夫する。

○震災後、交流のある名古屋市の中学生に読んでもらうことを前提に作成することで、より読み手を意識した活動としたい。

1. 単元名                      名古屋に発信！「読書で絆交流！ブックボード」を作ろう！

2. 単元の目標                      自分で選んだお薦めの本を「ブックボード」にまとめることを通して、登場人物の言動の意味や描写の効果、構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつができる

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆名古屋市の中学生に紹介するために、グループ交流によって読みを深め、本の魅力をまとめようとしている。

#### 【読む力】

☆名古屋市の中学生に紹介するために、登場人物の言動意味やの描写の効果について、自分の考えをまとめている。（C-I）

☆名古屋市の中学生に紹介するために、文章の展開、表現の仕方について自分の考えをまとめている。（C-U）

☆文章に表れているものの見方や考え方を、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめている。（C-E）

#### 【言語についての知識・理解・技能】

☆文章を読んで意味のわからない語句を調べて文脈上の意味を考えている。（伝国イ-(イ)）

4. 教材                      「盆土産」、生徒が選んだ本



## 5. 単元の展開（全9時間）

| 次                        | 時     | 学習活動                                                                                                                                                                                                        | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                            |
|--------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次                      |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックボード、本の帯、チラシポスターなどを掲示し、興味・関心を高める。</li> <li>・本の紹介（本選びへのアドバイス）</li> </ul>                                                                                           |                                                                                                        |
| 第1次                      | 第1時   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単元の目標を持つ。</li> <li>2. モデルを分析する。<br/>・教師が作成したモデルの書かれ方について考える。（グループ→全体）</li> <li>3. 学習の振り返り。</li> </ol>                                                             | <p>○教師が作成したブックボードを3種類モデルとして各グループに配布する。</p> <p>関他の中学生に紹介するという目的を持って本を読もうとしている。</p>                      |
| 第2次                      | 第2・3時 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「盆土産」を読み、意味のわからない語句を調べ、文脈上の意味をとらえる。</li> <li>2. 「盆土産」のあらすじをグループで話し合う。（学習シート）</li> <li>3. 全体で交流。</li> <li>4. 自分考えをまとめる。</li> </ol>                                 | <p>○事前に宿題で音読をしてくる。</p> <p>言意味のわからない語句を辞書で調べて、文脈上の意味を考えている。</p> <p>読作品に表れている作者の考え方について、自分の考えを持っている。</p> |
|                          | 第4時   | <p><u>名古屋の中学生に伝えたい一文について交流する。（引用）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブックボードのパターンを決める。</li> <li>2. 個人で引用したい文選び、理由を書く。（1～2か所）</li> <li>3. グループで話し合う。</li> <li>4. 個人で、自分が使いたい一文を決める。</li> </ol> | <p>読人物の行動の意味、表現の仕方について、自分の考えを持っている。（学習シート）</p>                                                         |
|                          | 第5時   | <p><u>キャッチコピーを交流する。（キャッチコピー）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人で考える。</li> <li>2. グループで話し合う。</li> <li>3. 全体で交流。</li> <li>4. 個人でキャッチコピーを修正する。</li> </ol>                                    | <p>読文章に表れている物の見方や考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えをまとめている。</p>                                                 |
|                          | 第6時   | <p><u>魅力を説明する文章を交流する。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 魅力を説明する文章を書く。（300～400字程度）<br/>・構成、表現の工夫<br/>・この作品を読んだ感想</li> <li>2. グループで交流</li> <li>3. 個人で修正</li> </ol>                            | <p>読文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えを持っている。（学習シート）</p> <p>読文章に表れている物の見方や考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えをまとめている。</p>   |
|                          | 第7・8時 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人でブックボードを完成させる。</li> <li>2. 学級で交流する。<br/>・互いの作品を手に取り、感想を交流する。</li> </ol>                                                                                         | <p>読文章に表れている物の見方や考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えをまとめている。</p>                                                 |
| 冬休みの宿題→各自、ブックボードを作成してくる。 |       |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                        |
| 第3次                      | 第9時   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級内で交流する。</li> <li>2. 単元の学習を振り返る。</li> </ol>                                                                                                                      | <p>読文章に表れている物の見方や考え方について、知識や体験と関連づけて、自分の考えをまとめている。</p>                                                 |
| 第4次                      |       | 名古屋市の中学校に送る。（可能であれば、感想をいただく。）<br>校舎内に掲示する。                                                                                                                                                                  |                                                                                                        |

【第1時 モデルを分析し見通しをもつ】

国語学習プリント 「名古屋に発信！読書絆交流」ブックボードを作ろう1

学習課題 モデルを分析し、ブックボード作りの見通しを持つ。

学習の見通し

- ①モデル文を読み、書かれている内容、工夫点をふせんに書く。
- ②グループで交流する。
- ③全体で交流する。
- ④単元の見通しを持つ。

【グループのまとめ】

書かれている内容・工夫されているところ

A

- ・読書を引きこけるキャッチコピー
- ・物語の中から引用
- ・物語の構成

B


- ・読書へのこいかけ
- ・本と日常生活を結びつけている
- ・ストーリー展開
- ・まぶたのちようものをせてインパクトがある
- ・心情描写

C

- ・物語の主題
- ・心情描写と情景描写を合わせてついている
- ・キャラクターを合わせた絵

【これからの学習に向けて】

読む人が引きこまれるような、また読みたくなるようなブックボードを作りたいです。



【第2時 「盆土産」のあらすじを確認する】

国語学習プリント 「名古屋に発信！読書絆交流」ブックボードを作ろう2

学習課題 盆土産のあらすじを話し合おう (二時間)

☆学習の見通し☆

- ①「盆土産」を読み、わからない言葉の意味を調べる。
- ②場面設定などを確認する。
- ③個人であらすじをまとめる。
- ④グループで一つにまとめる。
- ⑤全体で交流する。

【個人の考え】

夕親の少年が父親からの盆土産をき、けり、家族との絆を深める物語。

【最終的な自分のまとめ】

父親の愛情の証であるえびフライを食べて、少年が父親の思いに気づき家族との絆を深める物語


【あらすじのまとめ方のコツ】

☆☆☆な(主人公)が☆☆☆にやって☆☆☆に変わった物語。

☆☆☆と☆☆☆との、☆☆☆を通して、☆☆☆を描く。

【例】一人で鬼退治を決意したもも太郎が、仲間と出会い、協力して戦うことで、仲間の大切さに気付く物語。

【例】正義感の強いもも太郎と、仲間との、村の人々を苦しめる鬼退治の様子を通し、信念を貫く心を描く。



【第4時 伝えたい一文を選ぶ】

国語学習プリント 「名古屋に発信！読書絆交流」ブックボードを作ろう3

学習課題 名古屋の中学生に伝えたい一文を選ぼう

☆学習の見通し☆

- ①自分のブックボードのイメージを持つ。
- ②ブックボードに使用したい引用文を選び、理由を書く。
- ③グループで交流する。
- ④最終的な自分の考えをまとめる。
- ⑤全体で紹介する。

【ブックボードのパターン】

☆モデル（A B **C**）

☆どんなブックボードにしたいですか？（イメージ、盛り込みたい要素）

・少年と父親の絆をまです ↓イラストと文で

☆引用文を選び、発表用紙に記入しよう。（表に引用文、裏に選んだ理由を説明した文を書く。）

【引用文の選び方のコツ】

- ☆人物の気持ちの変化を強く表していると感じた文はどれ？
- ☆構成の展開や表現の工夫が、わかる文はどれ？
- ☆あなたが、名古屋の中学生に感じてもらいたいものが、表わされている文はどれ？
- ☆作品を読んだあなたの考えを導きだしてくれた文はどれ？

☆最終的に自分が選んだ引用文

|                                                              |                                                                        |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 選んだ文<br>祖父のことは知らないが……<br>……見られなくなった。<br>……バスが来る……<br>……と揺ぶ…… | 理由<br>母親は食べたことがないので、自分へだけ↓申しわけない。<br>父親は少年の絆を守ってほしい。↓思いが立のられている。まかせられる |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|



【第5時 キャッチコピーを考える】

国語学習プリント 「名古屋に発信！読書絆交流」ブックボードを作ろう4

学習課題 名古屋の中学生に伝えたいキャッチコピーを考えよう

☆学習の見通し☆

- ①キャッチコピーとそこに込めた思いを書く。
- ②グループで交流する。
- ③自分のキャッチコピーを修正する。
- ④全体で交流する。
- ⑤振り返り

☆ブックボードに書くキャッチコピーを考え、発表用紙に記入しよう。（表にキャッチコピー、裏にそこに込めた自分の思いを記入する。）

【構想メモ】

父親との絆

【キャッチコピー作りのコツ】

- ☆作品の中の人物と、自分の体験とを比較し、共通点はないか？（共感できる部分）
- ☆作品の魅力を短く伝えるとしたら？
- ☆この作品を読んで、どんなことをあなたは感じた？
- ☆この作品を読んで、読者にどんなことを感じてもらいたい？
- ★キャッチコピー集を参考にしてみよう！

☆最終的な自分のキャッチコピー（みんなの意見をもとに、修正しよう）

い、その事このまま時間が止ま、てしまえばいい。  
 誰もがもっている家族として父親への思い  
 少年は父親と離れたくないと思、っているから、



【単元の振り返りカード】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 6                                                                                                            | 5                                                                                                            | 4                                                                                                            | 3                                                                                                            | 2                                                                                                            | 1                                                                                                            |                                                                                                              |
| 作品の魅力や展開、表現の特徴をとらえる力を身に付けよう。<br>①文章の構成や展開、表現の特徴をとらえる力を身に付けよう。<br>②登場人物の言動の描写の効果についてとらえる力を身に付けよう。<br>③文章に表わされているものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けてとらえる力を身に付けよう。                                                                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        | 作品の魅力を説明する文章を書き、交流する。                                                                                        |
| B                                                                                                                                                                                                                                                                                               | B                                                                                                            | B                                                                                                            | B                                                                                                            | B                                                                                                            | B                                                                                                            | B                                                                                                            | B                                                                                                            |
| 振り返り(学んだこと)<br>ブックボードのイラストは、引用した言葉の組み合わせられていることが分かった。また、文章の問いかけにしているところや、登場人物、簡単なストーリー、主題を一文にするだけではない話を読み取ることができた。また、相手や伝わりやすい文章を書くことが分かった。元は同じなので、他のグループも似たような文章を書いていて、主題は同じように書かれていた。主人公の気持ちや描かれているところを使うことが分かった。また、引用文だけを使って伝えることが分かった。最初はキッチコピーをうまく書くことができなかった。しかし、最後は他のキッチコピーを参考にすることができた。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 | この作品の魅力は、前半と後半のギャップが分かった。また、家族に対するやさしさも描かれているのを見つけた。また、自分の文章も互いの文章を読み、みんなの文章を書いていくことができた。また、自分の文章も、よくなると思った。 |

学習の振り返り「名古屋に発信！読書絆交流」ブックボードを作ろう！

【単元の振り返り】

【単元の目標】

ブックボード作りを通して、

①文章の構成や展開、表現の特徴をとらえる力を身に付けよう。  
②登場人物の言動の描写の効果についてとらえる力を身に付けよう。  
③文章に表わされているものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連付けてとらえる力を身に付けよう。

具体的(目的)の振り返り  
「いい」と思っていたけど、アドバンスの考えに納得しなかった。  
グループ交流で読み取った内容を、自分の文章で表現することができた。  
どの目的も取り入れてみた。  
思っているよりも、文をまとめることができた。  
引用文や、登場人物、簡単なストーリー、主題を一文にするだけではない話を読み取ることができた。  
相手や伝わりやすい文章を書くことが分かった。  
元は同じなので、他のグループも似たような文章を書いていて、主題は同じように書かれていた。  
主人公の気持ちや描かれているところを使うことが分かった。  
また、引用文だけを使って伝えることが分かった。  
最初はキッチコピーをうまく書くことができなかった。しかし、最後は他のキッチコピーを参考にすることができた。

|                           |                                 |                                |                              |                                     |                                 |                                |                            |                            |                               |
|---------------------------|---------------------------------|--------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| ⑩                         | ⑨                               | ⑧                              | ⑦                            | ⑥                                   | ⑤                               | ④                              | ③                          | ②                          | ①                             |
| ブックボード作りを通して、読書への関心が高まった。 | 楽しくブックボード作りを行ったり、友達の作品を読んだりできた。 | 自分の選んだ本をじっくり読み、自分の考えをもつことができた。 | 「盆土産」をじっくり読み、自分の考えをもつことができた。 | 自分の知識や体験と関連付けながら、作品に対する考えをもつことができた。 | 文章に表わされているものの見方や考え方をとらえることができた。 | 文章の意味を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえることができた。 | 文章の表現の特徴について考えながら読むことができた。 | 文章の構成や展開について考えながら読むことができた。 | これから何をするのか、見直しをもって学習することができた。 |
| 1<br>2<br>3<br>4          | 1<br>2<br>3<br>4                | 1<br>2<br>3<br>4               | 1<br>2<br>3<br>4             | 1<br>2<br>3<br>4                    | 1<br>2<br>3<br>4                | 1<br>2<br>3<br>4               | 1<br>2<br>3<br>4           | 1<br>2<br>3<br>4           | 1<br>2<br>3<br>4              |

|                      |                                                        |        |
|----------------------|--------------------------------------------------------|--------|
| 9                    | 8                                                      |        |
| 自分が選んだ本のブックボードを交流する。 | ブックボードを完成させ、学級内で交流する。                                  | 学習活動計画 |
|                      | A                                                      | 評価     |
|                      | 振り返り(学んだこと)                                            |        |
|                      | ブックボードを作ったことで、自分と他人の考えを比較して書くことができた。他人の意見も参考にすることができた。 |        |

初めての頃に、これだけの時間で、ここまで振り返りができたのは、本当に素晴らしいです！！

【第7時に生徒が完成させた「盆土産」のブックボード①】

「田畑を作っているところに早死にした母親は、あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなかろうか——」(p103)

あなたにとって父親はどんな存在だろうか？

家族——いるのが当たり前、そう思う人がほとんどだろう。しかし、この作品の少年は、小さい頃母親を亡くし、父親は年に2回しか帰ってこられない。この少年にとって、家族はいるのが当たり前ではない。あなたは少年と同じ生活を想像してみたことがあるだろうか。『盆土産』という作品は、家族への思いを描いた作品だ。

この話には、「えびフライ」という言葉が何回もでてきている。この言葉は何を意味しているのか。特に、最後に少年がうっかり言ってしまった「えびフライ」……。ここには、離れたくないという言葉にできない少年の思いが込められているだろう。

この物語の前半には一家の楽しそうな様子が描かれている。しかし、後半になり、母の存在が明らかになる。ここで、読者は少年が、さみしさの中でけなげに生きていることを感じるだろう。また、少年の気持ちにも気付くだろう。

母や父を思う少年のせつない気持ちに……

父と子とが……  
家族とは何か……

「それが、いつもより手荒くて、それで頭が混乱した。」(p105)

私達の周りには、大切な物がたくさんある。しかし、なくなってから気付くのが、わたしたち人間。失ってから気付くのはもう遅い。だから、この作品は私たちに問いかけるのだ。

いつその事そのまま時間が  
止まってしまえばいいのに……  
かけがえない家族  
そして父親への思い

【第7時に生徒が完成させた「盆土産」のブックボード②】

「ただこの六尾のえびだけのために、一晩中眠りを寸断して冷やし続けながら帰ってきたのだ。」(P100)

道に突然帰ってくるようになった土産中の父親。土産に帰ってきたのは、冷たい六尾のえび。だが父親は、これだけのために、家族のためだけに眠らないで帰ってきたのだ。

この作品の描く主題は家族への絆。現代では宅急便などで簡単に運んで送ることができる。だがこの作品の父親は、九時間という時間をかけてまで、自分で持ってきた。

昭和の物の無い時代だからこそ感じることのできる思いとは……

「早死にした母親は、あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなかろうか」(P103)

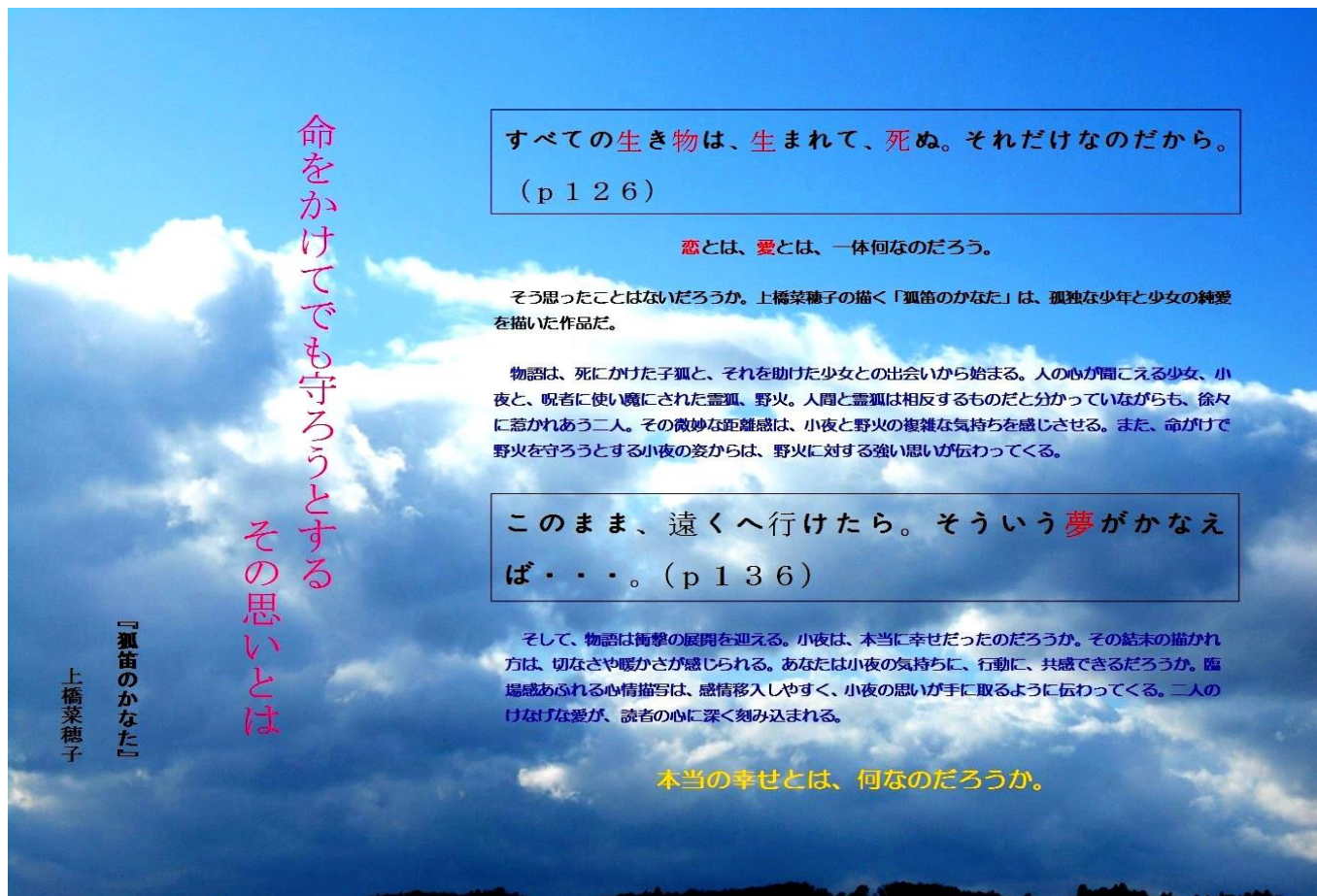
少年が初めてえびフライを食べて考えたことは、家族のことだった。楽しい家族の場面から突如現れる母親の存在。明るい情景から一気に悲しい情景となることでギャップがうまれ物語が展開する。

中学生になり今、家族とケンカなどをして、家族を嫌いな人は今考えてみてください。

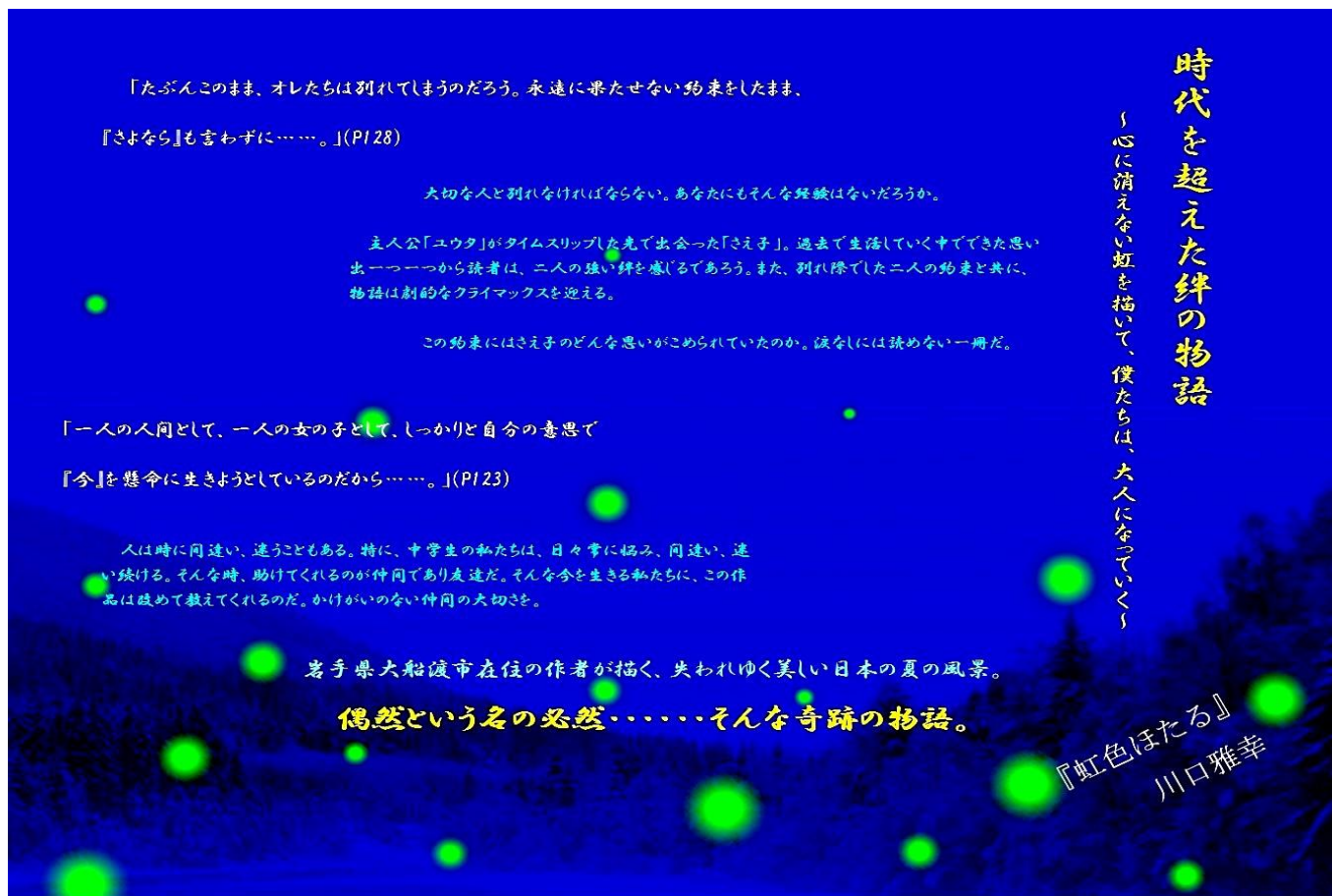
本当に大切なものは……

父親の心のこもった土産。  
少年は何を思うのか——

【冬休みの宿題として生徒が完成させたブックボード①】



【冬休みの宿題として生徒が完成させたブックボード②】



# 中学校第3学年単元構想表（光村；「握手」）

※平成25年5月に実践した授業の一部を改めたもの

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

○第1学年では、場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写に着目して紹介文を書く学習経験をしている。  
○第2学年では、詩の構成や表現の仕方、詩に表れているものの見方や考え方について知識や体験と関連付けて自分の考えもち、詩の推薦文を書く学習経験をしている。  
○感想交流をするためや、紹介したり推薦したりするために文学作品を読むという経験をしているが、評価するために本を読むという経験はない。また、文学作品を評価することが自分たちにとってどのような価値があるのかについては実感できていない。

◎批評するという意図をもちながら  
○登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を理解し、評価する力。(C-イ)  
○構成や展開、表現の仕方について評価する力。(C-ウ)  
○書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方について評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考えを深めること。(B-エ)

## 【単元を貫く言語活動】

登場人物の設定の仕方、構成や展開、表現の仕方について、「文芸批評文」にまとめる。

## 【言語活動の特徴】

「文芸批評文」＝600字詰め原稿用紙1枚。これまでの学習経験を生かし、序論・本論・結論の3段落構成とし、第1段落に評価語彙を用いた作品評価、第2段落に評価の根拠（場面設定・人物設定・構成や展開・表現の仕方について）、第3段落にまとめを書くものとする。

「文芸批評文」は、文学作品の価値を論じ、その価値を広めることに目的がある。自分がその書き手となるためには、評価の根拠を整理しつつ、相手が納得するように論じなければならない。文芸評論を書くことは、文学作品の深い内容理解に役立ち、評論を交流することは、自分の表現に役立つとともに、ものの見方や考え方を深めることにつながる。

1. 単元名 「文芸批評文」に挑戦しよう！ ～小説を批評し、人間について考えを深める～

2. 単元の目標 課題の芥川作品の中から批評したい小説を選び、登場人物の設定の仕方、構成や展開、表現の仕方をとらえ、「文芸批評文」にまとめることができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆自分が批評したい小説を選び、評価の理由を明らかにしながら対象となる作品を読み返し、相手が納得できるように考えて批評文を書いている。

#### 【書く能力】

☆取材として文章を繰り返し読み、評価とその根拠を明確にして、構成を工夫している。(B-ア)

☆書いた批評文を読み合い、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について評価し、自分のものの見方や考え方を深めている。(B-エ)

#### 【読む能力】

☆小説を読んで批評するために、登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。(C-イ)

☆複数の小説を読み比べ、構成や展開、表現の仕方の違いに気付き、文章の形式の特徴や効果について評価している。(C-ウ)

#### 【言語についての知識・理解・技能】

☆小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。(イ(ア))

☆学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。(ウ(イ))

4. 教材 「握手」, 「走れメロス」(教師モデル), 『『批評』の言葉をためる』, 『藪の中』(文庫本)



## 5. 単元の展開（全 10 時間）

| 次     | 時      | 学習活動                                                                                                                | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第 0 次 |        | ○朝読書等で教師自作の紹介文、推薦文、感想文、批評文を読ませる。<br>○可能な範囲で、芥川龍之介の『藪の中』<br>（『藪の中』『蜘蛛の糸』『羅生門』『地獄変』『鼻』『杜子春』が収められた文庫本）を読ませる。           |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 第 1 次 | 第 1 時  | 1. これまでの学習経験を思い起こす。<br>2. 紹介文、推薦文、感想文、批評文を区別し、違いを整理する。<br>3. 単元名を確認する。<br>4. モデル文の書かれ方の良さを見つける。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文、推薦文、感想文を書いたことを想起させる。</li> <li>・分析表を利用させる。</li> <li>○「登場人物の設定、構成や展開、表現の仕方」の要素を押さえたモデルを提示する。</li> <li>関 批評するという目的をもって読もうとしている。（学習計画表・評価シート）</li> </ul>                                                                                          |
|       | 第 2 時  | 1. 『『批評』の言葉をためる』を読んで、「批評」の良さについて確認する。<br>2. 学習計画を立てる。                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>関 批評の意味や意義を知り、批評の言葉を集めようとする。</li> <li>○学習過程カードをヒントにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
| 第 2 次 | 第 3 時  | 1. 「握手」の人物設定を読む。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。（交流内容の発表）<br>2. 人物設定から「握手」を批評する。<br>3. 自分が批評したい芥川作品を読む。   | <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">並行読書（芥川 6 作品の中から自分が批評したい小説を選んで読む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関 評価の理由を明らかにしながら、対象となる作品を読み返している。</li> <li>読 批評するために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。</li> <li>言 小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目して読んでいる。</li> </ul> |
|       | 第 4 時  | 1. 「握手」の構成や展開を読む。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。（交流内容を発表）<br>2. 構成や展開から「握手」を批評する。<br>3. 自分が批評したい芥川作品を読む。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 第 5 時  | 1. 「握手」の表現の仕方を読む。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。（交流内容の発表）<br>2. 表現の仕方から「握手」を批評する。<br>3. 自分が批評したい芥川作品を読む。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 第 6 時  | 1. モデル文の書かれ方を再確認する。<br>2. 「握手」の批評文を書く。<br>○個人で書く。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 第 7 時  | 1. 「握手」の批評文を交流する。<br>○批評文の書き方として、良いと思ったものを理由を明らかにして選ぶ。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 第 8 時  | 1. 自分が選んだ芥川作品の批評文を書く。<br>○個人で書く。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|       | 第 9 時  | 1. 自分が選んだ芥川作品の批評文を交流する。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 第 3 次 | 第 8 時  | 1. 自分が選んだ芥川作品の批評文を書く。<br>○個人で書く。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>関 自分が批評したい小説を選び、相手が納得できるように考えて批評文を書いている。</li> <li>書 文章を繰り返し読み、評価とその根拠を明確にして、構成を工夫している。</li> <li>言 学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。</li> </ul>                                                                                                     |
|       | 第 9 時  | 1. 自分が選んだ芥川作品の批評文を交流する。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>書 書いた文芸批評を読み合い、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について評価し、自分のものの見方や考え方を深めている。</li> </ul>                                                                                                                                                                     |
|       | 第 10 時 | 1. 単元の学習のまとめを行う。<br>○芥川作品の批評文を清書して提出する。<br>2. 単元の学習を振り返る。                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>関 相手が納得できるように考えて批評文を書いている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                              |
| 第 4 次 |        | ○各生徒の批評文を、それぞれの保護者に届け、感想をもらう。                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

三年 組 番・氏名

『走れメロス』は、登場人物の心情が巧みに描かれた太宰文学の最高傑作である。

この小説には「正義と信実の牧人メロス」と「人の心を疑ってやまない暴君ディオニス」が登場する。この二人は対立する人物ともとらえられるが、人間や希望を信じたいという同じ気持をもった人物とみることもできる。

クライマックスでは、たび重なる困難のために投げやりになっていたメロスが、わき出る清水を飲むことで、以前よりも強く、王との約束を果たそうと決意する。悩みや迷い、誘惑を乗り越え、人間として気高く生きようというメロスの心情が話の展開とともに最高潮に達する。

話は第三者の視点から語られ、語り手は、複数の人物の内面に立ち入って心情を説明している。「走れ！メロス」のように、読者に成り代わって語り手の気持ちを吐露している箇所もある。このことで、読者は、それぞれの人物に感情移入し、多面的に物語を理解できる。「初夏、満天の星である」のように、鮮やかな情景描写により心情を表現するなど、多彩な表現も用いられている。

このように、対立する登場人物の心の共通点、困難を乗り越えていく心の高まり、人物になり切った語り方や巧みな情景描写によって、心情の機微を見事に描いているのである。

＊注意：モデル文に書き込みながら考える。分析の視点を順番に全部考える必要はない。

【良さを見つけるヒント】…ヒントそのものが良さになることもある。

- 1 形式段落に番号をつける。
- 2 文章の構成を考える。
- 3 序論と結論の役割を考える。
- 1 序論の役割
- 2 結論の役割
- 3 「頭括型・尾括型・双括型」
- 4 本論を検討する。
- 1 本論の意味段落に何が書かれているか。
- 2 意味段落の要素（事例・事実・根拠）
- 3 意味段落の順序
- 4 本論と序論、あるいは本論と結論の結びつき。
- 5 表現を検討する。
- 1 文末表現、つなぎ言葉、対比表現、引用、など。

【第1時 モデル文の良さを見つけるための交流】

三年 組 番・氏名

自分たちで気付いた、モデル文の良さをグループピングでまとめよう。

【グループワークの進め方】

- 1 全員が起立して、司会者、記録者、計時、発表者の役割を決めます。
- 2 役割が決まったら、着席をして、先生の指示で、話し合いを始めます。
- 3 話し合いの進め方

進行の言葉

- 1 それではこれから、モデル文の良さについてグループの考えをまとめます。時間は八分です。
- 2 計時係は四分前、一分前を知らせてください。
- 3 それでは、初めに◎◎さんが気付いた良さを発表してください。
- 4 次に、△△さんが気付いたことを発表してください。

- 5 次に、□□さん、お願いします。
- 6 最後に、私の考えです。
- 7 四人の気付いたことをまとめると、△△という良さ、△△という良さ、△△の〇〇になりそうですが、どうですか。
- 8 （意見がまとまるまで、みんなから意見をとり。○○さんどう思いますか）
- 9 意見がまとまったので、記録者は短冊用紙に、良さを短い言葉にまとめたものを書き写してください。
- 10 発表者の人は、短冊をもとに発表の練習をしてみてください。

- 11 これで、グループの話し合いを終わります。
- 12 残りの時間は、もう一度モデル文を読み返し、話し合いには出なかつた良さが他にないか各自で考えてみてください。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>みなさんの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各自の付せんは、鉛筆で縦書き。</li> <li>* 記録者が書く短冊は、ペンで縦書き。</li> <li>* 計時係は、タイマーを見ながら話し合いに参加する。</li> <li>* ◎◎さんは、A3用紙に付せんを貼りながら自分が気付いたことをすべて簡潔に説明する。付せんは、内容的に近いと思ったものを近くに、遠いと思ったものを遠くに貼っていく。</li> <li>* △△さんは、○○さんと同じか近いと思ったものは、○○さんの付せんの近くに貼りながら説明する。（グループピングする）</li> <li>* △△さんのグループピングの仕方に意見がある場合は、意見を述べる。</li> <li>* 以下は、△△さんと同じ方法で進める。</li> <li>* 司会者がグループピングしたものをまとめて、良さを短い言葉にまとめて、A3用紙に書く。</li> </ul> | <p>みなさんの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 短冊をもとに、グループで気付いたモデル文の良さを説明してみる。</li> <li>説明の例：「グループで出た良さは、△です。これはこういう点で良さと言えます。」</li> <li>* 他のグループの人が聞いて分かるように説明しているか聞いて、分かりにくい場合には、どうすれば分かりやすくなるか意見を出す。</li> <li>* 時間がある場合は、各自もう一度考える。</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

4 発表の仕方

- 1 グループ目は、すべてを説明する。
  - 2 先生の指示で、他のグループは、1グループと同じものを黒板に貼る。
  - 3 2グループ目は、残った短冊のみ説明する。
  - 4 先生の指示で、他のグループは、2グループと同じものを黒板に貼る。
- \* 以下同じことを繰り返して、学級でグループピングを完成させる。

時間の目安：「4分前」全員の発表がおわっている。「1分前」短冊に書き終わっている。

【第2時 批評の言葉について学ぶ】

文芸批評文に挑戦しよう！

学習シート④（二時間目）

三年 組 番・氏名

この單元では、「批評の言葉」を用いて批評文を書く学習を行います。読み手を共感させたり納得させたりできるような「批評の言葉」をためてみましょう。  
先生が集めた「批評の言葉」を参考にして、新聞記事や本のあとがきなどから見つけた言葉や表の言葉からヒントを得て思い浮かんだりしたことを一つでも多く書き足してください。自分が批評文を書くときに参考にできます。

| 分類 | 「批評の言葉」の内容                      | 「批評の言葉」の具体                                                                                                        |
|----|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 受賞やランキングなどの評価や反響や知名度などで権威付ける。   | ▼大人気 ▼超人気 ▼話題沸騰 ▼大好評<br>▼も絶賛                                                                                      |
| 2  | 内容の特色を説明することで強調する。              | ▼どれよりも味わいがある ▼最も意義がある<br>▼世界で一番心に染みる ▼欠かせない本<br>▼心の不思議を解き明かす                                                      |
| 3  | あらすじや表現などで物語を特色づけて強調する。         | ▼ととの交流を描く ▼私たちの愉快なお話<br>▼心をゆさぶる愛と感動の物語<br>▼とびきり上等の恋愛小説<br>▼楽しくもおそろしい物語<br>▼幻想的な雰囲気をかもしだす作品<br>▼の心情を鮮やかに描きだす心に残る物語 |
| 4  | 読者の立場に立ったり、問いかけたりなど読書を限定して強調する。 | ▼に贈る本 ▼誰が読んでも…<br>▼はじめて（読者が）する物語<br>▼を知らない世代におすすめる本<br>▼子どもから大人まで楽しめる本                                            |
| 5  | 作者の著名さや評価等を強調する。                | ▼が描くこの神秘と不思議<br>▼を代表する作家                                                                                          |
| 6  | 作品世界へのお誘い                       | ▼ページをめくれば、そこは美しいの世界<br>▼愛と優しさのふるさとへようこそ                                                                           |

\*参考 井上一郎著 『誰もがつけたい説明力』 明治図書 二〇〇五年より

【第6時 モデル批評文の書かれ方を確認する】

文芸批評文に挑戦しよう！

学習シート⑤（六時間目）

三年 組 番・氏名

◎モデル批評文の書かれ方を確認しよう。

| モデル批評文                                                                                                                                                                           | 書かれ方の解説                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 『走れメロス』は、登場人物の心情が巧みに描かれた太宰文学の最高傑作である。                                                                                                                                          | ○批評の言葉「最高傑作」を、詳しく説明する言葉（修飾語）を使っている。                                                                                                                                                                                                      |
| ② この小説には「正義と信実の牧人メロス」と「人の心を疑ってやまない暴君ディオニス」が登場する。この二人は対立する人物ともとらえられるが、人間や希望を信じたいという同じ気持をもった人物とみることもできる。                                                                           | ○一文目で、叙述をもとにとらえた人物像と共に、主な登場人物二人を紹介している。<br>○二文目で、登場人物相互の関係や、自分がどのような人物ととらえたかを自分の言葉で説明している。                                                                                                                                               |
| ③ クライマックスでは、たゞ重要な困難のために投げやりになっていたメロスが、わき出る清水を飲むことで、以前よりも強く、王との約束を果たそうと決意する。悩みや迷い、誘惑を乗り越え、人間として気高く生きようというメロスの心情が話の展開とともに最高潮に達する。                                                  | ○一文目で、クライマックスを中心として話の展開を説明している。<br>○二文目で、この展開をどのようにとらえたかを自分の言葉で説明している。<br>↓（人間として気高く生きようというメロスの心情が話の展開とともに最高潮に達する）                                                                                                                       |
| ④ 話は第三者の視点から語られ、語り手は、複数の人物の内面に立ち入って心情を説明している。「走れ！メロス」のように、調者に成り代わって語り手の気持ちを吐露している箇所もある。このことで、読者は、それぞれ的人物に感情移入し、多面的に物語を理解できる。「初夏、満天の星である」のように、鮮やかな情景描写により心情を表現するなど、多彩な表現も用いられている。 | ○一文目で、誰の視点でどのように書かれているかを説明している。<br>○二文目で、引用を用い、視点にかかわって、特に特徴のある書き方を取り上げている。<br>○三文目で、このような書き方による効果を説明している。                                                                                                                               |
| ⑤ このように、対立する登場人物の心の共通点、困難を乗り越えていく心の高まり、人物になり切った語り方や巧みな情景描写によって、心情の機微を見事に描いているのである。                                                                                               | ○四文目で、よく使われている表現方法の中から一つを引用し、その効果を説明している。<br>○「このように」という言葉を用い、第二段落から第四段落の内容をまとめている。<br>第二段落↓対立する登場人物の心の共通点<br>第三段落↓困難を乗り越えていく心の高まり<br>第四段落↓人物になり切った語り方や巧みな情景描写<br>○最後の部分は、第一段落の「心情が巧みに描かれた」を言いかえている。<br>○「のである」  最高傑作の理由を示す文末表現として使っている。 |

# 中学校第3学年単元構想表（光村；「高瀬舟」）

※平成25年12月に実践した授業の一部を改めたもの

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

|                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○第1学年の「少年の日の思い出」の学習では、文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをまとめる学習経験をしている。</p> <p>○第2学年の「走れメロス」の学習では、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる学習経験をしている。</p> <p>○生徒はこれまで、社会的な出来事をテーマにした批評文を書くことは経験しているが、小説を批評するという言語活動は初めてである。</p> | <p>◎小説の批評をするという目的をもって、</p> <p>○場面や登場人物の設定の仕方をとらえる力（C-イ）</p> <p>○構成や展開、表現の仕方について評価する力（C-ウ）</p> <p>○人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をまとめる力（C-エ）</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 【単元を貫く言語活動】

小説を読み、登場人物の設定の仕方、構成や展開、表現の仕方について、批評する。

## 【言語活動の特徴】

近代日本文学の代表的な作品を読み、人物設定や構成、表現の仕方などについての自分の考えを批評文にまとめる。批評文は、三段構成で双括型を基本形として600字程度でまとめる。

批評とは、「対象とする物事や作品などについて、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること。」である。客観的、分析的に作品を読んだり、読み取ったことについて、根拠を明確に示して批評文にまとめたりすることは、ものの見方や考え方を深めることやより深い作品理解につながる。

1. **単元名** 文豪の作品の批評に挑戦しよう！～小説を批評し、ものの見方や考えを深める～

2. **単元の目標** 近代日本文学の作品の中から批評したい小説を選び、人物設定、構成や展開、表現の仕方をとらえ、批評文にまとめることができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

○小説を読み、展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとしている。

#### 【読む能力】

○小説を読んで批評するために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解に役立てている。（C-イ）

○小説を読んで批評するために、文章の構成や展開、表現の仕方について評価しながら読んでいる。（C-ウ）

○小説を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。（C-エ）

#### 【言語についての知識・理解・技能】

○小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して読んでいる。（伝国イ-（ア））

4. **教材** 『高瀬舟』『最後の一句』（森鷗外）、『蜜柑』『トロッコ』（芥川龍之介）、『夢十夜』（夏目漱石）『小僧の神様』（志賀直哉）、『女生徒』（太宰治）

5. 単元の展開（全 10 時間）

| 次    | 時   | 学習活動                                                                                                                               | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                |                                                                      |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 第0次  |     | ○新聞や書評サイトの書評を掲示し、批評に対する関心を高めておく。<br>○並行読書を予定している作品を朝読書等で読んでみるよう勧める。                                                                |                                                                                            |                                                                      |
| 第1次  | 第1時 | 1. これまでの学習経験を思い出す。<br>2. 教師の用意した批評文のモデルを読む。                                                                                        | 関 批評文をまとめるという見通しをもって小説を読むようとしている。                                                          |                                                                      |
|      | 第2時 | 1. 批評文の書かれ方を理解する。<br>2. 学習の見通しをもつ。<br>（単元の学習の意義）                                                                                   |                                                                                            |                                                                      |
| 第2次  | 第3時 | 1. 「高瀬舟」の人物設定を読む。①<br>○ベン図を活用し、喜助と庄兵衛を比較する。<br>・個人で考える。<br>・4人グループで交流する。<br>・全体で交流する（交流内容の発表）。                                     | 関 人物の描写に注意して、作品を読み返している。<br>言 作品中の言葉について、時間の経過による変化等について、現在の言葉と比べながら読んでいる。                 |                                                                      |
|      | 第4時 | 1. 「高瀬舟」の人物設定を読む。②<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する（交流内容の発表）。<br>2. 人物設定から「高瀬舟」を批評する。                                      | 読 作品を読んで、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てている。<br>言 作品中の言葉について、時間の経過による変化等について、現在の言葉と比べながら読んでいる。 |                                                                      |
|      | 第5時 | 1. 「高瀬舟」の構成や展開を読む。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する（交流内容の発表）。<br>2. 構成や展開から「高瀬舟」を批評する。                                     | 読 作品を読んで、文章の構成や展開の仕方について評価している。<br>言 作品中の言葉について、時間の経過による変化等について、現在の言葉と比べながら読んでいる。          |                                                                      |
|      | 第6時 | 1. 「高瀬舟」の表現の仕方を読む。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する（交流内容の発表）。<br>2. 表現の仕方から「高瀬舟」を批評する。                                     | 読 作品を読んで、表現の仕方について評価している。<br>言 作品中の言葉について、時間の経過による変化等について、現在の言葉と比べながら読んでいる。                |                                                                      |
|      | 第7時 | 1. モデル文の書かれ方を再確認する。<br>2. 「高瀬舟」の批評文を書く。<br>○個人で書く。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。<br>3. 「高瀬舟」の批評文を交流する。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。 | 読 作品を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。                               |                                                                      |
|      | 第3次 | 第8時                                                                                                                                | 1. 自分が選んだ作品を分析的に読む。<br>○個人で読む。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。                                 | 関 評価の理由を明らかにしながら、作品を読み返している。<br>読 作品を読んで、人物設定、構成や展開、表現の仕方について評価している。 |
|      |     | 第9時                                                                                                                                | 1. 自分が選んだ作品の批評文を書く。<br>○個人で書く。<br>○人物設定、構成や展開、表現の仕方を根拠とする。                                 | 読 作品を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。         |
| 第10時 |     | 1. 単元の学習のまとめをする。<br>2. 書いた批評文を交流する。<br>○4人グループ（同じ作品）で交流する。<br>○全体で交流する。<br>3. 単元の学習を振り返る。                                          | 関 小説を読み、展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとしている。                                                      |                                                                      |
| 第4次  |     | ○批評文を廊下に掲示する。                                                                                                                      |                                                                                            |                                                                      |

並行読書（課題図書の中から自分が批評したい小説を選んで読む）

【第1時 単元の学習計画と本時の振り返り】

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |                                                            |                                                        |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 学習<br>学習活動計画<br>○学習経験を思い出す。<br>○単元名を確認する。<br>○モデルの良さを見つける。 | 評価<br>感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など) |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |                                                            |                                                        |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |                                                            |                                                        |

【単元の目標】  
 文豪の作品の中から批評したい小説を選び、人物設定、構成や展開、表現の仕方と  
 らえ、批評文をまとめる。  
 (評価 とても楽しい4 楽しい3 あまり楽しくない2 楽しくない1)

文豪の作品の批評に挑戦しよう!  
 三年 組 番・氏名  
 学習評価シート

【第2時 批評文の書かれ方を理解する】

文豪の作品の批評に挑戦しよう!  
 三年 組 番・氏名  
 学習シート①(二時間目)

「走れメロス」は登場人物の心の変容が巧みに描かれた太宰治の傑作である。  
 この小説には「邪悪に対しては、人一倍に敏感」なメロスと「邪知暴虐の王」ディオニス  
 が登場する。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。」と語るメロスに対し、「人の心は、  
 あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」と語るディオニス。  
 対比的に描かれる二人ではあったが、ディオニスが最後に「仲間の一人にしてほしい。」と  
 改心したことから、実は共に「人を信じ、正義を愛し、平和を望む」心の持ち主であったと  
 みることもできる。  
 ストーリーは、時間の制約があるせっぱ詰まった状況設定において、多くの困難や誘惑が  
 メロスの行く手を阻み、読者を引きつける。クライマックスでは、疲労回復とともに再度立  
 ち上がったメロスの内面で、走るこの意味が「義務遂行」から「もつと恐ろしく大きいも  
 ののため」へと少しずつ変化していく。葛藤の末に、人として守るべき美しいもの(信実)  
 の存在を信じ、それを実現するために全力を尽くそうとするメロスの心情が、話の展開とと  
 もに最高潮に達する。  
 「メロスは激怒した。」という書き出しに象徴されるように、状況や心情を凝縮した短文  
 や明快な断定の文末表現は、全体に歯切れの良いリズムを生んでいる。また「斜陽は赤い  
 光を木々の葉に投げ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。」のような情景描写により、場  
 面転換のきっかけを印象づけるとともに登場人物の心情を鮮やかに反映させている。  
 このように、対比的に描かれた登場人物の心の共通点、困難を乗り越える中で心が高まっ  
 ていく展開、歯切れの良い文体や巧みな情景描写によって、人間の内面の揺れや葛藤、変化  
 の過程などを見事に描いているのである。

\*モデル文に、線を引いたり書き込みをしたりしながら考えよう。

【書かれ方の良さを見つける視点】

|      |        |     |        |   |
|------|--------|-----|--------|---|
| 5    | 4      | 3   | 2      | 1 |
| 文章構成 | 言葉の使い方 | 説得力 | 分かりやすさ |   |

書かれている内容や表現方法

◎右の視点で考え、自分が気付いた書かれ方の良さを付せんに書く。  
 (気付いたらすぐに、一枚の付せんに一つの良さを箇条書きで書く。)

【書いた付せんは、この欄に貼っておく】

【第4時 人物設定を読む】

文豪の作品の批評に挑戦しよう！

学習シート⑤

三年 組 番・氏名

◎根拠を明確にして「高瀬舟」の人物設定を読もう。

喜助 は、どんな人物か。

|         |                                                                                          |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 根拠となる記述 | どんな人物ととらえるか(自分の考え)                                                                       |
| ページ     | 行目                                                                                       |
|         | 喜助のことがわかる描写を探し、「青色」の付せんに、「喜助は」○○○○な人」とタテ書きして、教科書に貼っていく。<br>グループワークの後、返却された「青色」の付せんにココに貼る |

庄兵衛 は、どんな人物か。

|         |                                                                                              |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 根拠となる記述 | どんな人物ととらえるか(自分の考え)                                                                           |
| ページ     | 行目                                                                                           |
|         | 庄兵衛のことがわかる描写を探し、「ピンク」の付せんに、「庄兵衛は」○○○○な人」とタテ書きして、教科書に貼っていく。<br>グループワークの後、返却された「ピンク」の付せんにココに貼る |

◎人物設定から「高瀬舟」を批評すると？

|         |                    |
|---------|--------------------|
| 根拠となる記述 | どんな人物ととらえるか(自分の考え) |
| ページ     | 行目                 |
|         |                    |

※参考：人物設定から「走れメロス」を批評した例)

この小説には「邪悪に対しては、人一倍に敏感なメロス」と邪知暴虐の王ディオニスが登場する。「人の心を疑うのは、最も取すべき悪徳だ」と語るメロスに対し、「人の心は、あてにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」と語るディオニス。対比的に描かれる二人ではあったが、ディオニスが最後に「仲間の一にしてほしい」と改心したことから、実は共に「人を信じ、正義を愛し、平和を望む」心の持ち主であったとみることもできる。

【第4時 グループワークの進め方】

文豪の作品の批評に挑戦しよう！

学習シート⑥

三年 組 番・氏名

◎根拠を明確にして「高瀬舟」の人物設定を読もう。

1 「グループワークの進め方」

- 1 全員が起立して、司会者、記録者、計時、発表者の役割を決めます。役割が決まったら、着席をして、先生の指示で、話し合いを始めます。
- 2 話し合いの進め方
- 3 進行の言葉

|                                                                                       |                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① それではこれから、高瀬舟の人物設定についてグループの考えをまとめます。時間は八分です。計時係は四分钟前、一分前を知らせてください。                   | みなさんの活動<br>*各自の付せんは、鉛筆で縦書き。<br>*記録者が書く短冊は、ペンで縦書き。<br>*計時係は、タイマーを見ながら話し合いに参加する。<br>*◎◎さんは、グループワーク用の教科書本文の用紙に付せんに貼りながら自分が考えたことをすべて簡潔に説明する。 |
| ② それでは、初めに◎◎さんがとらえた人物像を発表してください。                                                      |                                                                                                                                          |
| ③ 次に、△△さんが考えたことを発表してください。                                                             | *△△さんは、◎◎さんと同じ場合には、一言添えて付せんに貼り、違う箇所の場合は、付せんに貼りながら自分が考えたことを簡潔に説明する。<br>*以下は、△△さんと同じ方法で進める。                                                |
| ④ 次に、□□さん、お願いします。最後に、私(司会者)の考えです。                                                     | *司会者が人物設定、人物像についてまとめる。                                                                                                                   |
| ⑤ 四人の考えをまとめると、喜助は〇〇〇〇な人物、庄兵衛は〇〇〇〇な人物と言えそうですが、どうですか。(意見がまとまるまで、みんなから意見をとり。○○さんどう思いますか) | *記録者は、短冊にペンで書く。                                                                                                                          |
| ⑥ 短冊用紙に、書いてください。                                                                      | *短冊をもとに、グループでまとめた人物像を説明してみる。                                                                                                             |
| ⑦ 発表者の人は、短冊をもとに発表の練習をしてみてください。                                                        | 説明の例：「1グループでは喜助は、〇〇〇〇という人物だと考えました。理由は〇〇〇〇からです。また、庄兵衛は〇〇〇〇という人物だと考えました。理由は〇〇〇〇からです。」                                                      |
| ⑧ これで、グループの話し合いを終わります。                                                                | *他のグループの人が聞いて分かるように説明しているか聞いて、分かりにくい場合には、どうすれば分かりやすくなるか意見を出す。                                                                            |
| ⑨ 残りの時間は、もう本文を読み返し、話し合いには出なかつた人物設定に関する描写が他にないか各自で考えてみてください。                           | *時間があがる場合は、各自もう一度考える。                                                                                                                    |

4 発表の仕方

- 1 グループ目は、すべてを説明する。
  - 2 先生の指示で、他のグループは、1グループと同じものを黒板に貼る。
  - 3 2グループ目は、残った短冊のみ説明する。
  - 4 先生の指示で、他のグループは、2グループと同じものを黒板に貼る。
- \*以下同じことを繰り返し、学級で人物設定を明らかにしていく。

時間の目安：「4分前」全員の発表が終わっている。「1分前」短冊に書き終わっている。

【第5時 構成や展開を読む】

文豪の作品の批評に挑戦しよう！  
三年 組 番・氏名  
学習シート⑦

◎「高瀬舟」の構成や展開を読もう。

○「高瀬舟」を「場面の設定・物語の発端・物語の展開・物語のクライマックス」の四つに分けるとすると、どこで分けられるか。その理由は？

|         |                            |                            |
|---------|----------------------------|----------------------------|
| 展開      | 書かれている内容<br>(簡条書きで簡潔に説明する) | 理由<br>(時・場所・人物の変化、話題の変化など) |
| 場面設定    |                            |                            |
| 発端      |                            |                            |
| 展開      |                            |                            |
| クライマックス |                            |                            |

◎「高瀬舟」のクライマックスを読もう。

※クライマックス・・・最大の事件や問題に直面する物語の一番の見せ場。  
○「高瀬舟」のクライマックスを一文で選ぶとすると、どの文か。

◎構成や展開から「高瀬舟」を批評すると？

※参考(構成や展開から「走れメロス」を批評した例)

ストーリーは、時間の制約があるせうば詰まった状況設定において、多くの困難や誘惑がメロスの行く手を阻み、読者を引きつける。クライマックスでは、疲労回復とともに再度立ち上がったメロスの内面で、走るこの意味が「義務遂行」から「もつと恐ろしく大きいもののため」と少しづつ変化していく。葛藤の末に、人として守るべき美しいもの(信実)の存在を信じ、それを表現するために全力を尽くそうとするメロスの心情が、話の展開とともに最高潮に達する。

【第6時 表現の仕方を読む】

文豪の作品の批評に挑戦しよう！  
三年 組 番・氏名  
学習シート⑧

◎「高瀬舟」の表現の仕方を読もう。

○「高瀬舟」はどのように表現されているか。  
「高瀬舟」の描写  
ページ 行目  
表現効果は？(心情・想像できることなど)

|          |     |    |                                                                                 |
|----------|-----|----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 「高瀬舟」の描写 | ページ | 行目 | 表現効果は？(心情・想像できることなど)                                                            |
|          |     |    | 表現の工夫が見られる描写から、どのような効果があると感じたかを付せんにタテ書き。教科書に貼っていく。<br>グループワークの後、返却された付せんをココに貼る。 |

○比喩表現や擬音語・擬態語で、最も効果的だと思ふ表現は？  
比喩表現や擬音語・擬態語

どんな効果があると思うか

◎表現の仕方から「高瀬舟」を批評すると？

※参考(表現の仕方から「走れメロス」を批評した例)

「メロスは激怒した。」という書き出しに象徴されるように、状況や心情を凝縮した短文や明快な断定の文末表現は、全体に歯切れの良いリズム感を生んでいる。また「斜陽は赤い光を木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている。」のような情景描写により、場面転換のきっかけを印象づけるとともに登場人物の心情を鮮やかに反映させている。



【第9時 批評文を書く】

|                                                                               |                                                  |                                                                   |             |              |              |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------|--------------|--------------|
| <p>◎ 「 」の批評文を書こう。</p> <p>1 自分が選んだ文豪の小説は、どんな小説と言えるか。<br/>(批評の言葉を用いて一文で表すと)</p> | <p>2 その根拠を次の視点から三つあげ、一つの根拠につき二文から三文程度で書いてみる。</p> | <p>3 ②の三つの根拠を受けて、①の批評の言葉を(具体的に)分かりやすく、批評文を読む人が納得できるようにまとめて書く。</p> | <p>人物設定</p> | <p>展開や構成</p> | <p>表現の仕方</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------|--------------|--------------|

文豪の作品の批評に挑戦しよう!

三年 組 番・氏名

学習シート⑩

【第10時 単元のまとめをする】

|                                                                      |                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                  |                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------|
| <p>◎ 「 」の批評文を書く活動を通して考えたことや、小説の読み方としてこれま<br/>では違う変化、などについて書きなさい。</p> | <p>2 「高瀬舟」や「文豪の小説」を読み、「人間の生き方」について、新たに気<br/>づいたことや深まったことを書きなさい。</p> | <p>3 単元の学習を振り返ろう。</p> <p>4 あてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 全くあてはまらない (○をつけてください)</p> <p>① これから何をするのか、見通しをもって勉強することができた。 4 3 2 1</p> <p>② 小説の登場人物やその設定について、考えながら読むことができた。 4 3 2 1</p> <p>③ 小説の構成や展開について、考えながら読むことができた。 4 3 2 1</p> <p>④ 小説の表現の仕方について、考えながら読むことができた。 4 3 2 1</p> <p>⑤ 「高瀬舟」から、人間の生き方について考えを深めることができた。 4 3 2 1</p> <p>⑥ 「自分が選んだ作品」から、人間の生き方について考えを深めることができた。 4 3 2 1</p> <p>⑦ 友だちの「批評文」を読んで、批評の良さが伝わってきた。 4 3 2 1</p> <p>⑧ 単元の学習を通して、ほかの小説も読んでみたいという気になった。 4 3 2 1</p> <p>⑨ 自分で納得できる「批評文」をまとめることができた。 4 3 2 1</p> <p>⑩ 友だちや家族で、小説の批評が話題になるようになった。 4 3 2 1</p> | <p>三年 組 番・氏名</p> | <p>文豪の作品の批評に挑戦しよう!</p> <p style="text-align: right;">学習シート⑪</p> |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------|

# 中学校第3学年単元構想表（光村；「月の起源を探る」）

※平成25年9月に実践した授業の一部を改めたもの

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

- 第1学年では、事実と意見の述べ方に着目し、結論につながる本論を自分で考えて、筆者の文章に一段落を書き加える学習経験をしている。
- 第2学年では、筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる学習経験をしている。
- 感動したこと、憤りを感じたことなど、気になった内容の新聞記事をスクラップにして、コメントをまとめる活動を1年生から行なってきたが、記事の書かれ方の工夫について、自分の考えをまとめる学習経験はない。

- 説明のワザをまとめるという目的をもちながら、
- 文章の論理の展開の仕方を理解する力。(C-イ)
- 構成や展開、表現の仕方について評価する力。(C-ウ)
- 新聞を読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりする力。(C-オ)

## 【単元を貫く言語活動】

文章の構成や展開、表現の仕方の工夫を、「説明のワザ」にまとめる。

## 【言語活動の特徴】

「説明のワザ」＝用紙に、新聞記事の中から見つけた説明の良さや工夫をまとめる。自分が取り上げたい説明の記事をコピーで貼り付け、サイドラインや囲み等を付け、工夫していると思った点を解説する。

「説明のワザ」としては、「文章の構成や展開、見出しの付け方、引用や事例、図や写真、表やグラフ、質疑応答形式、語句の使い方…」などが考えられるが、その一般的な効果については学習シートによって知識を得させ、自分が取り上げた具体的な説明の仕方について解説できるようにさせたい。その際に、伝えたかった事柄と関連付けて解説することが大切である。このことが、構成や展開、表現の仕方について評価する力を高めることにつながるものと考えられる。また、このように、「説明のワザ」を見つけてまとめることは、自分自身が表現する際に活用できる技能的知識を身に付けることにもつながる。

1. 単元名 新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

2. 単元の目標 新聞から自分が評価したいと考えた記事を選び、文章の構成や展開、表現の仕方をとらえ、「説明のワザ」にまとめることができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆自分が評価したい新聞記事を選び、評価の理由を明らかにしながら対象となる記事を読み返し、解説をまとめている。

#### 【読む能力】

☆新聞記事を読んで評価するために、文章の論理の展開の仕方について理解を深めている。(C-イ)

☆複数の新聞記事を読み比べ、構成や展開、表現の仕方の違いに気づき、文章の形式の特徴や効果について評価している。(C-ウ)

☆複数の新聞記事を読み、これまでに気付かなかった伝え方の工夫を見つけ、その良さを解説している。(C-オ)

#### 【言語についての知識・理解・技能】

☆慣用句・四字熟語や、和語・漢語・外来語の使い分けに着目して読んでいる。(伝国イ(イ))

4. 教材 「月の起源を探る」、各自が選んだ新聞記事

5. 単元の展開（全8時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                                               | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                                    |
|-----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | ○昨年度までに取り組んだ新聞記事スクラップを掲示する。                                                                                                        |                                                                                                                                |
| 第1次 | 第1時 | 1. これまでの新聞スクラップの活動を思い起こす。<br>2. これまでのスクラップと「説明のワザ」を解説したスクラップを比べる。<br>3. モデルを分析する。<br>4. 単元名と学習後に身に付く力を確認する。                        | ○内容面と形式面という、記事の取り上げ方の違いに気付かせる。<br><br>関 評価するという目的をもって読もうとしている。<br>(学習計画表・評価シート)                                                |
|     | 第2時 | 1. 「月の起源を探る」を読み、説明の工夫を見つける。<br>2. この単元では「構成や展開、見出しの付け方、引用や事例、図や写真、表やグラフ、質疑応答形式、語句の使い方等」について、伝えたいことと関連付けて評価することを知る。<br>3. 学習計画を立てる。 | ○項目的に取り上げ、具体的にどのような効果があるのかについては、本文を読みながら考えていくことを確認する。<br>○学習過程カードをヒントにする。<br>関 評価するという目的をもって読もうとしている。<br>(学習計画表・評価シート)         |
| 第2次 | 第3時 | 1. 「月の起源を探る」の構成や展開を考える。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。(交流内容の発表)<br>2. 自分が評価したい新聞記事を読む。                                  | 並<br>行<br>読<br>書<br>(<br>新<br>聞<br>か<br>ら<br>自<br>分<br>が<br>評<br>価<br>し<br>た<br>い<br>記<br>事<br>を<br>選<br>ん<br>で<br>読<br>む<br>) |
|     | 第4時 | 1. 「月の起源を探る」の小見出しについて考える。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。(交流内容の発表)<br>2. 自分が評価したい新聞記事を読む。                                |                                                                                                                                |
|     | 第5時 | 1. 「月の起源を探る」の写真や図の役割と効果を考える。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。(交流内容の発表)<br>2. 自分が評価したい新聞記事を読む。                             |                                                                                                                                |
|     | 第6時 | 1. 「月の起源を探る」で筆者が伝えたかったこと、説明の仕方について感想をまとめる。<br>○個人で考える。<br>○4人グループで交流する。<br>○全体で交流する。(交流内容の発表)<br>2. 自分が評価したい新聞記事を読む。               |                                                                                                                                |
|     | 第7時 | 1. 自分が選んだ新聞記事の「説明のワザ」をまとめる。<br>○一つにかぎらず、まとめられる範囲で多くのワザをまとめさせる。                                                                     |                                                                                                                                |
| 第3次 | 第8時 | 1. 単元の学習のまとめとして、各自の「説明のワザ」を交流し、ワザとして素晴らしいと思ったものに「いいねシール」を貼り、コメントを書く。<br>2. 単元の学習を振り返る。                                             | 関 説明の仕方の良さについて理解を深め、自分の表現に生かそうとしている。                                                                                           |
|     | 第4次 | ○各自の「説明のワザ」を教室や廊下に掲示し、ワザとして素晴らしいと思ったものに「いいねシール」を貼り、コメントを書く。<br>○岩手県新聞コンクール・スクラップブックの部に応募する。                                        |                                                                                                                                |

【第2時 学習計画を立てる】

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

学習シート②（二時間目）

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」を読み、説明のワザを見つけよう。

★説明のワザとは、（ ）が（ ）に伝えたいことがよく伝わるように考えた工夫のこと。

【説明のワザの例】

- 文章構成・・・文章の組み立て方（例 序論・本論・結論など）
- 文章展開・・・話の広げ方（例 事例の挙げ方・事例の順番など）
- 見出し・・・文章につける標題（例 文章の要約や要旨など）
- 引用・・・考えの根拠として他の文章や個人の語を用いること
- 事例・・・前例となる事実
- 語句の使い方・・・例 文末表現（断定、不確かな断定など）
- 質疑応答形式 □ グラフや表 □ 図や写真

★「月の起源を探る」で使われている説明のワザのうち、あなたが気付いたものを三つ挙げよう。

（その工夫があることで、伝えたいことが分かりやすくなっていると考えたもの）

|   |
|---|
| ③ |
| ② |
| ① |

みんなで読み解いていく説明のワザを三つに絞ろう。

|   |
|---|
| ③ |
| ② |
| ① |

★この単元の学習計画を立てよう。↓ 左の表に自分の考えを書いてみよう。

- ・「月の起源を探る」を、みんなでどのように読むか。
- ・各個人がモデルのようなスクラップを作るためにはどうすればよいか。
- ・これまでの単元の学習過程を思い出そう。

|   |                                    |
|---|------------------------------------|
| ① | ・これまでの学習を振り返る ・モデルを分析する ・単元の学習を見通す |
| ② | ・「月の起源を探る」から説明の工夫を見つける ・学習計画を立てる   |
| ③ |                                    |
| ④ |                                    |
| ⑤ |                                    |
| ⑥ |                                    |
| ⑦ |                                    |
| ⑧ | ・モデルのようなスクラップを作って交流する ・単元の学習を振り返る  |

※みんなで確認してから、学習評価シートに書こう。

【第3時 構成や展開について考える】

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

学習シート③の1（三時間目）

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の構成や展開を考えよう。

1 学習シート③の2を使って考えよう

- (1) 形式段落に番号を振ろう
- (2) 序論・本論・結論に分けよう
- (3) 序論はどのような役割を果たしているか考えよう（一つだけではないかも）
- (4) 結論はどのような役割を果たしているか考えよう（一つだけではないかも）
- (5) 本論はいくつの意味段落に分けられるか考えよう
- (6) 意味段落がどのように展開されているか考えよう（仮説・検証・実験・考察……）
- (7) 意味段落どうしがどのような関係にあるか考えよう

2 次の表を使って、「説明のワザ」についてまとめよう

|                                                                                            |                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| <p>モデル<br/>構成は<br/>「話題―問い―事例①（宇宙飛行士が浮いていられる理由）―答え（隕石が落ちてくる理由）―事例②（彗星について）」<br/>となっている。</p> | <p>「月の起源を探る」の構成や展開<br/>何を書けばいいの↓（ ）</p> |
| <p>隕石が落ちてくる理由を、宇宙飛行士や彗星と比較しながら説明を進めることで、その仕組みが分かり易くなるよう工夫している。</p>                         | <p>何を書けばいいの↓（ ）</p>                     |

3 グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推敲しよう

- (1) お互いに書いたものを回し読みし、気になるところにサイドラインを引く。
- (2) サイドラインを中心に、それぞれが書いたものに対する意見を述べる。
- (3) 書いたものは、絶対に消しゴムでは消さない。
- (4) それぞれが、空いてところに書き直すか、棒線を引いて書き直す。

【第4時 小見出しについて考える】

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

学習シート④（四時間目）

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の小見出しについて考えよう。

|   |                |                      |
|---|----------------|----------------------|
| 1 | 次の表を使って考えよう    | なぜ、このような小見出しをつけたのだろう |
|   | 小見出し           |                      |
|   | はじめに           |                      |
|   | 不思議な衛星・月       |                      |
|   | 親子か兄弟か、それとも他人か |                      |
|   | 衝突から月へ         |                      |
|   | 月を作る実験         |                      |
|   | 新たな研究へ         |                      |

★他の小見出しが考えられないだろうか  
 ★例えば、「はじめに」を「月の起源の謎」としなかったのはなぜか  
 「新たな研究へ」を「おわりに」としなかったのはなぜか  
 2 次の表を使って、「説明のワザ」についてまとめよう  
 ↓途中まででもいいので、考え付いたことを少しでも書こう

|     |                                                                                                              |                  |                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|------------------|
| モデル | 二つの見出しを「問いー答え」の形で付けることで、この記事で読者に伝えたいことを分かりやすく明確に示している。                                                       | 「月の起源を探る」の小見出し   | 何を書けばいいの↓<br>( ) |
|     | 読者は、見出しを読むだけで、隕石が落ちてくるのは、地球と隕石の軌道がぶつかるからだを知ることができる。さらに、「地球と隕石の軌道がぶつかる」とは「どういふことだろう」と興味をもって記事を読むための工夫にもなっている。 | 何を書けばいいの↓<br>( ) |                  |

3 グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推敲しよう  
 ※進め方は、前の時間と同じ

【第5時 写真や図について考える】

新聞から「説明のワザ」を見つけよう！

学習シート⑤（五時間目）

三年 組 番・氏名

「月の起源を探る」の写真と図の役割や効果について考えよう。

|   |             |       |
|---|-------------|-------|
| 1 | 次の表にまとめよう   | 役割や効果 |
|   | 図や写真        |       |
|   | 探査機から撮影した写真 |       |
|   | 図1          |       |
|   | 図2          |       |
|   | 図3          |       |
|   | 図4          |       |
|   | シュミレーション映像  |       |

2 右の表から一つを選び、「説明のワザ」についてまとめよう  
 モデル  
 地球の軌道と隕石の軌道がぶつかるというイメージを図によって示している。  
 また、話題である博物館の隕石の写真や隕石が落ちたときに湖の上にあいた穴など、実物を写真で示している。

|     |                                                                                                             |                  |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| モデル | 図や写真で示すことで、文章だけでは分かり難い様子を、読者が想像し易いように工夫している。図を見ると、隕石が小惑星帯にある天体で、地球と同じように太陽の周りを回っていることやその軌道がぶつかるという意味が理解し易い。 | 何を書けばいいの↓<br>( ) |
|     | 何を書けばいいの↓<br>( )                                                                                            |                  |

3 グループで交流し、自分がまとめた「説明のワザ」を推敲しよう  
 ※進め方は、前の時間と同じ

## 高校第2学年単元構想表（大修館／新編現代文B；「人工の自然－科学技術時代の今を生きるために」）

※平成26年12月に実践した授業

### 【生徒の実態】

### 【身に付けさせたい力】

|                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1学年で小説のレビューを書く活動を経験し、内容や作者の意見について考えを述べられる生徒は多くなってきたが、構成や展開について評価しながら読む視点がまだ身についていない。</li> <li>● 授業以外で文章を読む機会が少ない。特に、工業高校生として技術や産業を扱う説明的な文章に触れることが求められるが、そのような文章に対する苦手意識を持った生徒が多い。</li> <li>● 授業で学んだことを、実生活に結びつけて考えられる生徒が少ない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する力（ア）</li> <li>○ 人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする力（ウ）</li> <li>○ 収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する力（エ）</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【単元を貫く言語活動】

自分がとらえた評論の良さを、「ビブリオバトル」で発表する

### 【言語活動の特徴】

「ビブリオバトル」は本来、自分の愛読書を紹介するための手立てであり、小説を用いることがほとんどである。5～6人で自分の好きな本を持ち寄り、5分でその本の良さを紹介、その後2～3分のディスカッションを行い、最も読みたいと思ったチャンプ本を決めるというものだ。本単元では、説明的な文章に対する苦手意識を持った生徒が多い中、あえて評論の良さを伝える言語活動として「ビブリオバトル」を取り上げたい。他の人に紹介するためには、自分で読みやすいもの、わかりやすい構成のものを選ぶ必要がある。自分で紹介する評論を選ぶことで、さまざまな評論との出会い、評論に見られる筆者のユニークな視点・発想に気づくことをねらいとする。

ビブリオバトル普及委員会による公式ルールでは、「資料は用意せずにライブ感を大事にして行うこと」とされるが、今回は各自ビブリオレポートをまとめる。構成や筆者の視点についてあらかじめまとめさせておくことで、紹介の準備をさせるとともに、的確にとらえて評価することができていない生徒の把握や、授業後の振り返りに役立てる。また、図書館と連携し、チャンプ本のレポートやビブリオバトルの様子を、本校図書館報である『ビブリオン』への掲載してもらえようようにしたい。

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1. 単元名</b>     | 挑戦！「評論ビブリオバトル」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <b>2. 単元の目標</b>   | 評論の構成や筆者の視点を読み取り、評論の良さについて自分の考えをまとめ、効果的に紹介することができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>3. 単元の評価規準</b> | <p><b>【国語への関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価しようとしている。</li> <li>☆ 人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとしている。</li> </ul> <p><b>【読む能力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価して、評論の良さを紹介している。</li> <li>☆ 効果的に紹介するために、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしている。</li> </ul> <p><b>【知識・理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 語句の意味、用法などを的確に理解している</li> <li>☆ 基本的な文章の構成について理解している</li> </ul> |
| <b>4. 教材</b>      | 「大修館／新編現代文B「人工の自然－科学技術時代の今を生きるために」<br>各自の選んだ新書（評論タイプのもの）」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

## 5. 単元の展開（全7時間）

| 次 時 | 学習活動                                                                                                                                               | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・知）等    |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第0次 | ビブリオバトル用の本選び … 選ぶことができない生徒への手立て<br>図書館報「ビブليون」への掲載の依頼、生徒への予告                                                                                      |                                                |
| 第1次 | 第1時<br>1. これまでの読書体験を振り返る<br>2. 単元の見通しを持つ<br>→「ビブリオレポート」を利用した教師の紹介を聞く<br>(この時間では何も見ずに聞くだけ)<br>→「ビブリオバトル」について知る<br>3. 学習計画を立てる                       | 関 学習のゴールを理解し、どのような力が身につくのかについて確認できている          |
|     | 第2時<br>1. モデルの「ビブリオレポート」の書かれ方について考える（個人→グループ→全体）<br>→「ビブリオレポート」を利用した教師の紹介をもう一度聞く（レポートのモデルを見ながら聞く）<br>→個人の気づきをワークシートに書き込み、その後グループで交流する              | 関 紹介するという目的を持って、レポートをまとめるために必要なことについて考えようとしている |
| 第2次 | 第3時<br>1. 基本的な文章の構成について確認する<br>2. 「人工の自然」を読み、構成・展開について考える<br>(個人→グループ→全体)<br>3. 筆者の主張・要旨について考える                                                    | 読 構成、展開を的確にとらえている<br>知 基本的な文章の構成について理解している     |
|     | 第4時<br>1. 筆者の視点や、用いられている表現について考える<br>(個人→グループ→全体)<br>→「人工の自然」・「自然な自然」という独な表現や、具体例の対比など、書き方の工夫に気づく                                                  | 読 構成、展開を的確にとらえ、評価している<br>知 語句の意味、用法を的確に理解している  |
|     | 第5時<br>1. 自分がとらえた構成・表現をもとに、「ミニビブリオレポートを書く<br>(個人→グループ→全体)<br>→第1次で確認したモデルを参考に記入し、グループで読み合い、うまくまとめられているものを全体に紹介する                                   | 読 要旨を的確にとらえ、筆者の主張に対して自分の考えを深めている               |
| 第3次 | 第6時<br>1. 自分が選んだ本の「ビブリオレポート」をまとめる<br>→本全体の構成や展開をとらえ、筆者の視点・主張についてまとめるのが望ましいが、それが困難な生徒には、部分的な紹介でも可とする<br>2. 次時の「ビブリオバトル」の流れを確認する<br>→グループ作成、発表順の決定など | 関 選んだ本の構成や展開について、自分の言葉でまとめようとしている              |
|     | 第7時<br>1. 「ビブリオバトル」を実施する<br>→グループで予選を行い、グループ毎のチャンプ本を紹介した生徒で決勝を行う<br>2. 単元の振り返り                                                                     | 関 評論の良さを実感し、進んで紹介しようとしている                      |
| 第4次 | チャンプ本のレポートやビブリオバトルの様子を、図書館報『ビブليون』へ掲載してもらう（年度末）                                                                                                   |                                                |

並行読書  
 (自分の選んだ本を読む)

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために 学習プリント①

〔単元の目標〕

- ① 評論の構成や展開、筆者の視点を読み取ることができる。
  - ② 評論の良さについて自分の考えをまとめ、効果的に紹介できる。
- 一 目標を達成するための言語活動を確認しよう。

二 学習の流れを確認しよう。

※PW (パーソナルワーク) GW (グループワーク) CW (クラスワーク) を取り入れて学習していく。

|                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の見通しを持つ</li> <li>・モデルを分析する</li> <li>・本文の構成や展開について考える</li> <li>・筆者の視点や用いられている表現について考える</li> <li>・筆者の主張・全体の要旨について考える</li> <li>・自分が選んだ本のビブリオレポートをまとめる</li> <li>・ビブリオバトルを実施する</li> <li>・単元のふりかえり</li> </ul> | <p>振り返りのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標（学習を通して身に付けたい力）や、学習に取り入れる言語活動、流れがわかる</li> <li>・ビブリオレポートをまとめるために必要なことについて考えている</li> <li>・これまでに学んだものも含め、基本的な文章の構成について確認・理解し、活用することができる</li> <li>・具体例・根拠の挙げ方（対比・並列等の関係）や、表現上の工夫（文体・接続等）について的確にとらえている</li> <li>・全体を通して言いたいことをとらえ、印象に残った部分などを挙げて自分の考えを深めている</li> <li>・選んだ本の構成や展開、筆者の視点等について、これまでの学習をもとに、自分の言葉でまとめようとしている</li> <li>・評論の良さを実感し、進んで発表しようとしている</li> <li>・成果や今後の課題について考えながら、学習活動全体を振り返っている</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【第1・2時 「ビブリオレポート」モデル】

〇話し出し 「私が紹介するのは、〇〇〇〇という新書です。」

| 項目 | 話す内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>仕事柄、このような本を手にする機会が多い。</p> <p>気付けば持っている本はだいたい言葉・コミュニケーション関係。この本は、たまたまビンゴの景品でもらった本だったので読んだ。</p> <p>「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を変える！ 伝える力</p> <p>池上 彰</p> <p>PHP研究所</p> <p>元NHK報道記者。警視庁、気象庁、文部省、宮内庁などを担当。一九九四年から十一年間、「週刊こどもニュース」でお父さん役を務めた。現在はフリージャーナリストとして多方面で活躍。</p> <p>8つの章立て。第1章では、話題提起として「伝える」とはどのようなことを述べ、どのようにしたらその力が身に付くかを紹介。第2・3章は「話す」こと、第4・5章は「書く」ことを中心に、筆者の考えを展開している。第6・7章で「あまりオススメしない表現」について触れ、第8章ではまとめとして「伝える力」をパワーアップさせる方法が紹介されている。</p> <p>V6井ノ原&amp;TKIO国分」の人気の秘密</p> <p>「爆笑問題」の危機管理 などの具体例</p> <p>（良い例を挙げた後は、必ず悪い例も挙げ、対比されている）</p> <p>池上彰の穏やかな人柄を思い起こさせる「です・ます」調</p> <p>「伝える力」が高まったという手応えは、相手の「へえー」</p> <p>普段から、自分自身が「へえー」と思うことが大切！</p> <p>「もう一人の自分」を育てること、アウトプットのためにどんどんインプットすることを大事にしたい。この本を読むと、普段自分ができていること、できていないことに気付ける。</p> <p>周りの人の「伝える力」にも目を向けるようになる。</p> <p>↓ あの人は「伝える力」のある人間だ！ 参考にしよう とか（もちろんその逆も…）</p> |

〇話し終わり 「以上で本の紹介を終わります。何か質問・意見があればどうぞ。」



挑戦！「評論ビブリオバトル」  
11月 25日

科 番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために 学習プリント②

一 「ビブリオレポート」と、それをもとにした紹介のモデルを知ろう。

PW【メモ】

|                                                                                                                                 |                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ★モデル発表を聞いて気付いたこと<br>↓ 何について話している？<br>「読みたい」と思わせる工夫は？<br>「伝える力」<br>本を読もうと思ったきっかけ<br>書いた人は、どんな人か？<br>内容を初め、中、終わりで表す<br>自分の心に残った場面 | ★モデルレポートを見て気付いたこと<br>↓ 書かれている内容は？（項目）<br>何をどうまとめれば良い？<br>本を読もうと思ったきっかけ<br>本の題名<br>書いた人の名前<br>初め、中、終わりの3つで表す<br>自分の思った感想に |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

二 「ビブリオレポート」をまとめるために必要な「項目」を整理しよう。

GW【話し合い】 ※ 話し合いの進め方シート参照

司会 ( ) (記録) ( ) (発表) ( ) (計時) ( ) ( )

★自分の【メモ】以外に気付いたことがあれば挙げておく

メモ出来るだけ短く、  
相像しづらい様に  
聞き手の関心を引く

三 各グループで話し合った内容を共有しよう。

CW【確認】

★グループの話し合いで出なかった意見があれば挙げておく  
本のきっかけで関心を引く

挑戦！「評論ビブリオバトル」  
11月 26日

科 番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために 学習プリント②

一 「ビブリオレポート」と、それをもとにした紹介のモデルを知ろう。

PW【メモ】

|                                                                                                               |                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ★モデル発表を聞いて気付いたこと<br>↓ 何について話している？<br>「読みたい」と思わせる工夫は？<br>伝へる力<br>著者の紹介<br>本の構成や音子の役割<br>最後にもつめ<br>例を上げて紹介の本のよさ | ★モデルレポートを見て気付いたこと<br>↓ 書かれている内容は？（項目）<br>何をどうまとめれば良い？<br>本の出典<br>本の題名をおおまかな伝へたこと<br>著者の紹介や本の活躍<br>本の構成や音子の伝へたこと<br>本の内容をおおまかな例を上げ<br>良い例と悪い例 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

二 「ビブリオレポート」をまとめるために必要な「項目」を整理しよう。

GW【話し合い】 ※ 話し合いの進め方シート参照

司会 ( ) (記録) ( ) (発表) ( ) (計時) ( ) ( )

★自分の【メモ】以外に気付いたことがあれば挙げておく

おおまかな説明、例を上げ

三 各グループで話し合った内容を共有しよう。

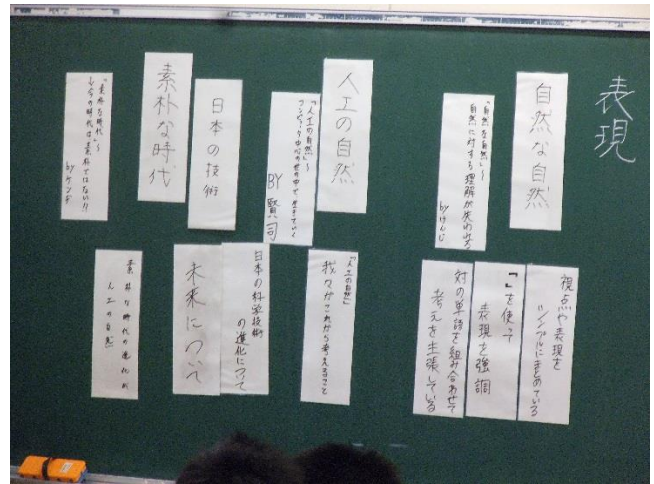
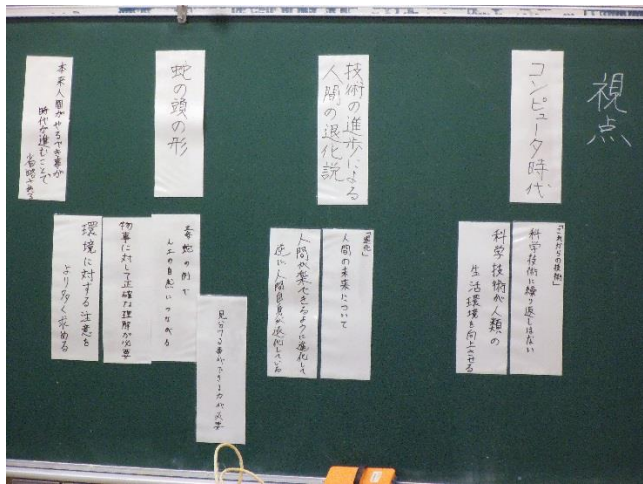
CW【確認】

★グループの話し合いで出なかった意見があれば挙げておく  
本の題名、発表の構成

【第4時 学習プリント③を活用した、生徒による視点・表現の分析】

|                                                |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                            |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>挑戦！「評論ヒリオバトル」<br/>12月 2日</p> <p>科 番 ( )</p> | <p>人工の自然—科学技術時代の今を生きるために 学習プリント③</p> <p>□ 筆者の視点、表現を読み取ろう。<br/>視点：どのようなものに目を向けて説明しているか(「具体例」)<br/>表現：どのような言葉で説明しているか(「キーワード」)<br/>↓ 題名に関連した言葉、繰り返される言葉 ※視点・表現の関係にも注目!</p> | <p>PW (メモ)</p> <p>★自分が注目した筆者の視点</p> <p>例) P109 最近の日本のトイレが優れている話<br/>P110 モノがでんごん気が知くよ、フにな?<br/>P112 人間に環境に「対する」注意<br/>P112 「人工の自然」に対する「理解」</p> <p>★自分が注目した筆者の表現</p> <p>P110 「素朴な時代」<br/>P112 人工の自然</p> | <p>□ 筆者の視点・表現の「役割・効果」を整理しよう。<br/>↓ 具体例は何のために挙げている? キーワードはどういう意味で用いている?<br/>他の視点・表現との関係は?</p> <p>GW 【話し合い】 ※話し合いの進め方シート参照<br/>司会 ( ) 記録 ( ) 発表 ( ) 計時 ( )</p> <p>★自分たちが取り上げた視点・表現の「効果・役割」(多い場合はいくつかに絞る)<br/>人工の自然：日本の技術、人の手で作られたもの</p> | <p>□ 各グループで話し合った内容を共有しよう。<br/>「自然な自然」…身を加えない<br/>「人工の自然」…正しい理解が必要<br/>人工の自然…人工物に囲まれている</p> |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|

【グループワークの様子 … 気付いた点をシートに書き込んで黒板に貼り付けていく】



挑戦！「評論」ビブリオバトル  
12月5日

科 番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために— 学習プリント④

一 「ビブリオレポート」のモデルを参考に、ミニレポートを書こう。

PW【ミニレポート】

| 本の構成                                                                                                  | 主 表 視<br>張 現 点                                                                                                          | 宣 意 感<br>伝 見 想                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| *主な内容を、「序論」「本論」「結論」等に整理する<br>・序論：①② トイの話題提起<br>・本論：③④⑤ 人間退化の否定・生きる力を身につける<br>・結論：⑥⑦⑧ 科学技術教養について考えるべきだ | *具体例の挙げ方、用いられている表現、筆者の主張を整理する<br>・意向性な「トイ」付キトイレ<br>↓技術にたよりすぎでの退化<br>・素朴な時代<br>↓科学技術の向上<br>・トイの話し(見極め)<br>↓より正確な理解はあるほしい | *読んで自分なりに考えたこと、おすすめのポイント<br>・技術にたよりすぎは悪いことではないが、技術に使われるのではなく使う人にならなければならぬ。<br>・科学技術に繰り返しはしない。技術かどの様に進化して来たのかを考慮してみる。 |

二 他の人とミニレポートの書き方を比較しよう。

GW【読み合い】 ↓ まとめ方が優れているものを一つ選ぶ

三 グループで選んだミニレポートを紹介しよう。  
 ミ話し方にまとまりがあり聞きやすかった。内容をだいたいは話をまわしてよくつた。グループで選んだミニレポートを紹介しよう。

CW【発表】 ↓ グループや全体で紹介されたミニレポートのまとめ方と比較し、気付いた点を自己評価シートに記入しておこう。

挑戦！「評論」ビブリオバトル

月 日

科 番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために— 学習プリント④

一 「ビブリオレポート」のモデルを参考に、ミニレポートを書こう。

PW【ミニレポート】

| 本の構成                                                                                                                       | 主 表 視<br>張 現 点                                                                                 | 宣 意 感<br>伝 見 想                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| *主な内容を、「序論」「本論」「結論」等に整理する<br>序論には「トイ」の話題提起をしていく。<br>本論には「人間退化」の否定と生きる力を身につけるということが書かれている。<br>結論には科学技術教養について考えるべきこととまとめていく。 | *具体例の挙げ方、用いられている表現、筆者の主張を整理する<br>手を加えて「自然の自然」と人工物に囲まれている「人工の自然」という対になる言葉を使ってこそ正確な理解が必要と書かれている。 | *読んで自分なりに考えたこと、おすすめのポイント<br>科学技術について自分には筆者は良いこと言っていると思った。この本を讀めば日本の科学技術について人間がどう受け取りか考えさせられると面白かった。 |

二 他の人とミニレポートの書き方を比較しよう。

GW【読み合い】 ↓ まとめ方が優れているものを一つ選ぶ

三 グループで選んだミニレポートを紹介しよう。  
 まとめ方が自分に近かったから。

CW【発表】 ↓ グループや全体で紹介されたミニレポートのまとめ方と比較し、気付いた点を自己評価シートに記入しておこう。

【第6時 自分が選んだ本でまとめた「ビブリオレポート」】

別冊「読書ビブリオレポート」  
月 日

科

番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために ビブリオレポート

○話し出し 「私が紹介するのは、〇〇〇〇という新書です。」

|               |       |      |                                     |                                                                                                                                                             |                                                                                                                   |                                                                                                   |
|---------------|-------|------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| きっかけ          | タイトル  | 著者   | 著者紹介                                | 本の構成                                                                                                                                                        | 主張                                                                                                                | 感想                                                                                                |
| タイトルを見て興味をもった | 原研大崩壊 | 武田邦彦 | 工学博士。環境、原発問題に関心し、独自の見解を述べ、注目を浴びている。 | 4つの章で、第一章では、原発が爆発する原因とした理由などを理論的に述べている。第二章は、原発に対する考え方や対策の必要性が述べられている。第三章には、今、私たちがどうすべきか、その電力会社がどうすべきかが書かれている。第四章は、原子力だけでなく他のエネルギーについても書かれており、著者の主張が述べられている。 | 専門用語を多く使うが、理解しやすい内容に<br>なっている。<br>基本的に、電力会社や原発に関わる学者などを対象として説明<br>今までの政策や対策を振り返り、エネルギーに対しての考え<br>方を考える必要が述べられている。 | 原発が爆発する原因が自分としては、Aメになる内容もあるが、ほぼ否定した内容だらけで、読者が失望することもあるが、本書が面白いことは事実なことを納得させるまで、色々と考えさせられる本となっていた。 |

○話し終わり 「以上で本の紹介を終わります。何か質問・意見があればどうぞ。」

別冊「読書ビブリオレポート」  
12月22日

科

番

人工の自然—科学技術時代の今を生きるために ビブリオレポート

○話し出し 「私が紹介するのは、〇〇〇〇という新書です。」

|          |              |          |                           |                                                                                                                                         |                                                                                                   |                                                                                            |
|----------|--------------|----------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| きっかけ     | タイトル         | 著者       | 著者紹介                      | 本の構成                                                                                                                                    | 主張                                                                                                | 感想                                                                                         |
| 宇宙が好きなから | 宇宙のクワークエネルギー | 土居守 松原隆彦 | 松原隆彦、1966年長野県生まれ、京都大学理学部卒 | 大きく2つに分けられ、それぞれ4つの章立ての計8章で構成されている。第一部は宇宙論やクワークエネルギーの問題に関する事を説明している。<br>第二部は、天体観測はどの様に行われているかなど技術的な内容も交えて説明している。第一部、エロロガ、アロシブは松原が担当している。 | 「です」「です」といった言い回し表現が使われている。<br>また、図などを使って具体的に説明している。<br>筆者はクワークエネルギーについて「宇宙を加速膨張させる原因となるもの」と述べている。 | 筆者が思ったように、好きな事を好きで受け止める、極限まで自分のものにしようというの、という感じが、難しい表現があるかもしれないが、宇宙に興味がある人にはオススメですと心いよました。 |

○話し終わり 「以上で本の紹介を終わります。何か質問・意見があればどうぞ。」

人工の自然 自己評価シート

| 1/20                                                                                         | 1/19                                         | 12/16                                  | 12/5                                                              | 12/2                                                                              | 11/28                                                                         | 11/25                                                                         | 月日                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 構成や視点、表現を詳しく説明しながらバトルする。                                                                     |                                              | 選んだ本の構成や展開について、フリオリポートをまとめる。           | ミニレポートをまとめてから、主眼点を要旨にまとめて考える。                                     | 筆者の視点や表現に注目し、その効果を考える。                                                            | 本文の構成や展開について考えながら読み整理する。                                                      | モデルを分析し、文章から読み取るべき項目を整理する。                                                    | 本日のおさらい                         |
| 4                                                                                            | 4                                            | 4                                      | 4                                                                 | 4 (記録)                                                                            | 4 (討時)                                                                        | 4 (司会)                                                                        | 評価                              |
| 5分の中で、いかに相手にオもしろくつたえるか、といった点を気にしながら話しをすることが出来た。別の人の話しも、しっかりと聞き取り、考えることができたので、まとめとして良い授業ができた。 | レポートでは、自分なりに考えながらまとめられたので、よかった。次も、しっかりとやりたい。 | おもしろい内容の本であったが、しっかりと本を読み内容を理解することが出来た。 | 選んだ本が、なごり、たが新しい本を見つけた。その本で取り組むことが出来た。本の構成も考えながらまとめることが出来たので、よかった。 | 人によって、まとめ方が違ってくる。聞いて、こどもおもしろかった。今まで授業でやっていたことも思い出し、ながら考えることが出来たので、次も協力しながら、まとめたい。 | 文章によって、筆者が何を言っているのか、なにを表現しているのかをさがし、その効果を自分なりに考えることができた。次の授業でも考えを深めながら取り組みたい。 | 一人一人が考えた文章構成を話しあい、整理することが出来た。読む人によって、整理のしかたがちがうのにおもしろい。次の授業でも協力しながら取り組んでいきたい。 | 評価の根拠(新しい発見、わかるようになったこと、次時への課題) |

評価 4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

人工の自然 自己評価シート

| 1/20                                                                   | 1/16 | 12/19                                                                        | 12/5                                                                        | 12/2                                                                            | 11/28                                                                     | 11/25                                                             | 月日                              |
|------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 構成や視点、表現を詳しく説明しながらバトルする。                                               | 右に同じ | 選んだ本の構成や展開について、フリオリポートをまとめる。                                                 | ミニレポートをまとめてから、主眼点を要旨にまとめて考える。                                               | 筆者の視点や表現に注目し、その効果を考える。                                                          | 本文の構成や展開について考えながら読み整理する。                                                  | モデルを分析し、文章から読み取るべき項目を整理する。                                        | 本日のおさらい                         |
| 4                                                                      | 4    | 3                                                                            | 4                                                                           | 4                                                                               | 4                                                                         | 4                                                                 | 評価                              |
| 一番最初の発表だったが、分間を有効に使ったために本の絵を見せるなどの工夫ができた。しっかりと本について、詳しく説明することができて良かった。 | 右に同じ | 例を見ながら書いていくことができた。話し合いと要約しながら書けるようになった。また、次の学習でも分かりやすく構成や視点などをまとめられるよう努力したい。 | 人工の自然について、ミニレポートを書いた。フリオリポートを見ながら構成や表現などをしっかりと注目して書くことができた。選ばれたので、次もがんばりたい。 | 今回の授業では他の先生や自らの職員の人から授業を見て、いたが集中して授業に取り組むことができた。表現に注目してその効果について、しっかりと考えることができた。 | 段落ごとのまとまりを知ることができて、序論が話題起、本論が生かせる力について書かれ、結論がまとめられるという一般的な形について、知ることができた。 | 先生の話を聞き、フリオリポートというのがどういうものかを知ることができた。次の授業では、話についてしっかりと考えながら授業をした。 | 評価の根拠(新しい発見、わかるようになったこと、次時への課題) |

評価 4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

## B 一教材文で表現する学習過程例

### 中学校第3学年単元構想表（光村；「月の起源を探る」）

※平成25年11月に実践した授業の一部を改めたもの

#### 【生徒の実態】

- 第1学年、第2学年では、主に論の展開（序論・本論・結論の持つ構成上の役割）、筆者の意見とそれを支える具体、文・文章・段落の接続について既習している。
- 第3学年で説明的文章を読むのは初である。
- 第1学年から小グループ（3～4人）での活動に慣れており、学習内容や状況に応じて学習隊形を変えている。
- 第3学年になり、グループ毎で文学的文章の課題について話し合いながら、学習材の読解を行い、朗読に生かす活動を行っている。

#### 【身に付けさせたい力】

- 小学6年生に伝わるプレゼンテーションをまとめるという目的をもちながら、
  - 文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容を理解する力。（C－イ）
  - 構成や展開、表現の仕方について理解する力。（C－ウ）
  - ◎筆者の説明の工夫を理解し、活用できる力。（C－ウ）

#### 【単元を貫く言語活動】

筆者の説明の工夫をとらえ、活用し、小学6年生に伝わる魅力的なプレゼンテーションをする。

#### 【言語活動の特徴】

「筆者の説明の工夫」＝本学習材では、「シンプルな構成と展開」、「小見出し」、「図・画像」、「ナンバリング」、「接続語の多様」で、読者に内容をわかりやすく伝える筆者の工夫が見られる。

「小学6年生に伝わるプレゼンテーション」＝時間は10分程度である。発表グループは3つの小グループ（3～4人）で中グループを構成し、行う。中グループは3種類できる。意味段落6つを小グループごとで以下のように分担する（1・2、3・4、5・6）。プレゼンメモ作成は、小グループで行う。プレゼンの内容は説明文の内容である。小6に伝わるように説明するが、容易にしすぎるあまり、論旨を支える要旨を削除しすぎないように指導したい。プレゼンの様式は問わない。プレゼンの方法は、教科書に載っている図を拡大した物以外は授業外で準備する。文章が長く、暗記は困難なため、プレゼンメモを見て発表することは許可する。

プレゼンテーションの様子はビデオ撮影し、生徒の小学6年時の担任の先生に渡し、コメントを頂く。生徒の学習意欲向上に繋がると考える。

1. 単元名 小学生に中学生の説明力を見せよう！

2. 単元の目標 『月の起源を探る』の説明の仕方から、筆者の説明のための工夫をとらえ、内容を理解し、小学6年生にわかるように、プレゼンテーションをすることができる。

#### 3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

☆小学6年生に伝わるように、筆者の説明の工夫を考えながらプレゼンテーションをまとめようとしている。

##### 【読む能力】

☆プレゼン資料作成を通し、文章の論理の展開の仕方や内容について理解を深めている。（C－イ）

☆構成や展開、表現の仕方について理解を深めている。（C－ウ）

☆筆者の説明の工夫を理解し、活用できる力。（ウ）

##### 【言語についての知識・理解・技能】

☆相手に応じて、語句、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解している。（伝国イ(オ)）

4. 教材 中心学習材『月の起源を探る』（「国語3」光村図書）

補助学習材『かんじんなことは、目に見えない？』（「新編現代文B 言葉の世界へ」教育出版）

## 5. 単元の展開（全7時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                       | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                                                                                                    |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | ○朝読書時に『かんじんなことは、目に見えない?』を読む。                                                                                                                                                                                                               | ○高校の教科書教材を読むことで、上位校種の文章内容の難しさを実感させる。                                                                                                                                                           |
| 第1次 | 第1時 | ○プレゼンテーションモデル提示<br>●『かんじんなことは、目に見えない?』でプレゼンの例を提示。<br>○プレゼンテーションモデルの分析<br>●方法の分析<br>●内容の分析（言葉の書き換え・内容の削除）<br>○プレゼンテーションの内容の確認。<br>●目的は教材の内容を小6生に伝えること。<br>●使う道具は自分達で用意。相談には乗る。<br>○単元名、単元の目標、学習の流れを確認する。<br>○グループ毎に本文を音読する。<br>○学習の振り返りを行う。 | ○プレゼン例を提示し、朝読書で読んだ内容と比較し理解しやすかったか聞く。<br><br>○図、道具の使用。動作が大きい。メモを見ない。<br>○プレゼンを文章化したものを配布し、原文と比較させる。<br><br>○道具の作成は休み時間で行うことを告げる。<br><br>関内容理解を目的に読もうとしている。（評価シート）<br>○プレゼンができそうか。どういう点に気をつけたいか。 |
|     | 第2時 | ○本文を小グループで音読する。<br><br>○個人で、筆者の説明の工夫を見つける。<br>○グループ内で発表をする。<br>○全体交流をする。<br>○筆者の説明の確認をした後に、本文にはない説明の工夫について挙げさせる。                                                                                                                           | 関筆者の説明の工夫を見つけるために読もうとしている。<br>○教師が見つけた5つを目標に行わせ、意欲を高める。<br>「シンプルな構成と展開」、「小見出し」、「図・画像」、「ナンバリング」、「接続語の多様」<br>○学習シートをヒントに、可能ならばプレゼンに反映させる。<br>「構成や展開、見出しの付け方、引用や事例、図や画像、表やグラフ、質疑応答形式、語句の使い方」      |
|     | 第3時 | ○プレゼンテーションの内容の確認。<br>●筆者の意見（要旨）が何で、要旨を支える内容は何章か個人で考え、グループで相談し、全体交流。<br>○プレゼンテーション役割分担の説明。<br>●小グループ3つで中グループを構成。<br>●1・2章、3・4章、5・6章の中から1種類を小グループで担当。<br>○中グループの編成と役割分担。<br>○小グループの中の分担決め。                                                   | ○全文要約ではないが、難しさを理由に必要な情報までも省かないことを強調。特に要旨を支える4章・5章「巨大衝突説」は丁寧に読解させる。<br>○作者と作者の書いた文章に敬意を払うことを告げる。<br>読発表するために要旨を支える論旨を読み取っている。<br>○ひとり一回はプレゼンテーション時に話すことを強調する。                                   |
|     | 第4時 | ○小グループで担当の内容読解、メモの作成。<br>●章の中の個人担当を決め、メモを考える。<br>●小グループ内で読み、検討（言葉・内容）<br>●再度、個人で検討する。                                                                                                                                                      | ○章の中でも個人担当を決めて責任を持たせる。<br>言相手に応じた語句や文章の内容に着目して発表を考えている。<br>読発表のために説明の工夫を捉え、文章全体の理解を深めている。<br>○言葉の書き換えと削除を認めるが、要旨を支えている箇所を基にさせる。                                                                |
|     | 第5時 | ○小グループで担当の内容読解、メモの作成。<br>●小グループ内で読み、検討（言葉・内容）。<br>●再度、個人で検討する。<br>○グループでメモの清書を行う。                                                                                                                                                          | 言相手に応じた語句や文章の内容に着目して発表を考えている。<br>読発表のために説明の工夫を捉え、文章全体の理解を深めている。                                                                                                                                |
|     | 第6時 | ○カメラリハーサルを行う。<br>・通し練習で、発声、小グループ間の動きなどの確認をすることが目標。                                                                                                                                                                                         | ○メモを見てよいが、相手に伝わるように読む。<br>関魅力的なプレゼンテーションの完成という目的をもって練習に取り組んでいる。（評価シート）                                                                                                                         |
| 第3次 | 第7時 | ○プレゼンテーション本番。<br>○単元の学習のまとめとして、各グループの「説明の工夫」を批評し、交流する。<br>○単元の学習を振り返る。                                                                                                                                                                     | ○見ているグループは、批評シートにプレゼンテーションの評価を書く。<br>読説明の工夫、語句の選択、発表の仕方について効果を考えながら発表している。<br>読他グループのプレゼン内容の説明の工夫、語句の選択、発表の仕方やその効果に触れながら具体的に評価している。<br>関説明の工夫について理解を深め、自分の表現に生かそうとしている。                        |
| 第4次 |     | ○小学6年生時の学級で集まり、当時の担任の先生に向けたメッセージを録画する。<br>○プレゼンテーションとメッセージを録画したDVD、教科書教材の原文、感想用紙を担任の先生に郵送する。<br>○感想用紙が届き次第、生徒に紹介し、掲示する。                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                |

【第1時 プレゼンテーションモデルを分析する】

|                                                              |                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>自分の考え</p> <p>難しい言葉と簡単な言葉菜にして進めていた。</p>                    | <p>友達の考え</p> <p>重要なことを2回<br/>色々なことを説明してから最後はまとめ<br/>普段の話し言葉？<br/>わかりにくい例え↓言い換え<br/>力有引力↓重カ<br/>省略</p>                                                                                            |
| <p>②プレゼンの内容について</p> <p>プレゼンが伝わるように、内容についてどんな工夫をしていたでしょう。</p> | <p>自分の考え</p> <p>物を使って説明していた。</p> <p>友達の考え</p> <p>大切なところをくわしく<br/>イメージをはきりさせるため<br/>はきりはなして<br/>身振り手振り<br/>ダイクマターの発音↓興味を引いた<br/>↓印を添えて<br/>問いかけ↓話に入りやすいようにした<br/>あえて小さく<br/>質問クイズ形式<br/>くり返した</p> |

①プレゼンの手段(やり方)について  
プレゼンが伝わるように、どんな手段で進めていたでしょう。

【第2時 筆者の説明の工夫を探す】

|                                               |                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>自分の考え</p> <p>ユニーク<br/>グラフ</p>              | <p>友達の考え</p>                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>②教科書にはないが自分で知っている、使っている「説明の工夫」を書きましょう。</p> | <p>自分の考え</p> <p>話のまとまりに、小見出しをつけてわかりやすくしている。</p> <p>友達の考え</p> <p>仮説を否定↓仮説をあげる(興味をひかせるため)<br/>写真などでわかりやすく<br/>わかりにくいところを↓下で説明<br/>問題提示<br/>図を使う(使っている)↓を使って文と関連させている<br/>初めに基本、次に専門的な話<br/>箇条書き(①、②)のような書き方<br/>ナニバリニゲ<br/>古い説↓新しい説<br/>接続語</p> |
| <p>①教科書を読んで、筆者が使っている「説明の工夫」を探しましょう。</p>       | <p>◎今日の目標</p> <p>『月の起源を探る』で筆者が使っている「説明の工夫」を探そう。</p> <p>◎今日の活動</p> <p>①音読する。(グループで立って読み、終わったら座る)</p> <p>②筆者の「説明の工夫」を見つめる。(個人↓グループ↓全体で交流)</p> <p>③教科書では使われていない「説明の工夫」を考える。</p>                                                                  |



### 【第4時 プレゼンテーションの内容を考える】

■はじめに

空を見上げれば、あたりまえのように輝かす月。月日は、私たちに、最も身近な天体の一つだろう。

古来、日本では美しい自然の風物を「花鳥風月」「雪月花」とよび、めでてきたが、月はそのどちらにも入っている。

日本人は月が好きだ。

月を眺めながら、誰もが一度は思ったことがあるのではないだろうか。なぜ、そこにあるのか。

天文学的に言えば、月は惑星である地球の衛星であり、地球半径の約六十倍の所に約二十七日かけて公転している(図1)。

また、地球に最も近く、地球外で唯一、人類が到達した天体でもある。これまでに、月には多くの探査機が打ち上げられ、

### 【単元の学習計画と生徒の振り返り】

| 7                                                                                     | 6                                                                      | 5                                                                       | 4                                                                                                | 3                                                                      | 2                                                                    | 1                                                                | 日                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①プレゼンテーション<br>(聞くグループは批評)。<br>②単元の振り返り<br>③全体交流                                       | ①プレゼンテーション<br>リハーサルを行う。<br>目標：通し練習で、メモを見ないで発表できる。                      | ①小グループで担当部分の内容読解とメモの作成。<br>・小グループで検討<br>・再度、個人で検討。<br>②小グループでメモの清書。     | ①小グループで担当部分の内容読解とメモの作成。<br>・個人でメモ作成。<br>・小グループで検討。<br>・再度、個人で検討。                                 | ①プレゼン内容の確認。<br>②中グループ編成とプレゼン役割分担。<br>③小グループでの分担決め。                     | ①本文を小グループで音読。<br>②個人で「筆者の説明の工夫」を見つける。<br>③グループ・全体交流。<br>④その他の「説明の工夫」 | ①プレゼンモデル分析。<br>②プレゼン内容の確認。<br>③単元名と流れの確認。<br>④グループ毎に本文を音読。       | 学習内容                                                                                                    |
| 4                                                                                     | 4                                                                      | 4                                                                       | 4                                                                                                | 4                                                                      | 3                                                                    | 3                                                                | 評価                                                                                                      |
| 少しかんではまった部分があたけど、ゆっくりは、マリ伝えることができました。図を見せるタイミングも少しずれてしまいましたが、少しずつ速くすすめてきたので良かったと思います。 | 図を見せるタイミングなどを確認することができた。読むスピードも、かり考えて、こうと良い速さをできたと思う。グループ全体でもう少し確認したい。 | 前に書いたときより、難しい言葉が多く出てきた。わかりやすくするのが大変だった。最後まで直してみた結果、意味もちゃんと伝わるようになったと思う。 | どのように書いたらいいのか、わからなかつたけど、他のグループの様子を聞いて、難しい言葉も通すことからはじめた。辞書で調べても、どう説明したらいいのか、とても迷った。たくさん考えることができた。 | 必要だと論旨が何なのかを理解することができた。見つけ方もわかったので、次にやるときは、すぐ見つけられるといい。プレゼンでしっかり説明したい。 | 自分で考えついたことは一つしかなかったけど、他の人の考えに、納得することができた。発表を聞いて、生かせそうなものがたくさんあった。    | 自分でも考えたことは一つしかなかったけど、他の人の考えに、納得することができた。発表を聞いて、生かせそうなものがたくさんあった。 | 感想(学習したこと、わかったこと、わからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいことなど)が書かれてプレゼンができていたことがわかった。うまくできるかわからないけど、同じようにプレゼンができた方がいいと思う。 |

◎単元の目標

①専門的な文章の内容を捉え、わかりやすく説明できる。

②筆者の説明の工夫を理解し、自分の説明に活用できる。

③文章の構成や展開、表現の仕方について理解できる。

(評価) とも頑張った4 頑張った3 あまり頑張れなかった2 頑張れなかった1

# 高等学校第1学年単元構想表（大修館；「夢十夜」）

※平成25年10月に実践した授業の一部を改めたもの

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

|                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○「夏目漱石」を知っている生徒は多く、代表的な作品をいくつか挙げるのできる生徒もいるが、実際に読んだことのある生徒は少ない。</p> <p>○「子供たちの晩餐」、「羅生門」の学習で小説に対する読みを深めた。これまでの作品は、現実的な世界を舞台とするものであったが、「夢」を題材とした、象徴的な作品については初めて学習する。</p> <p>○何となく自分の考えをもつことは出来ているが、それを言葉や文章で表現することに苦手意識を持っている生徒も少なくない。</p> | <p>物語を比較し、批評する活動を通して、</p> <p>○文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう力（C-U）</p> <p>◎文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する力（C-E）</p> <p>○幅広く本を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりする力（C-O）</p> <p style="text-align: right;">を身に付けさせる</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 【単元を貫く言語活動】

内容や構成、表現について評価するために、根拠などを挙げながら客観的にレビューを書く

## 【言語活動の特徴】

本単元では、教科書採録の「夢十夜」第一夜・第六夜から自分の気に入った話を選択し、批評するという活動を設定する。課題を選択する際には、相違点や類似点に気付いたり、その効果について考えたりすることが必要になる。これを通し、より具体的かつ客観的に、内容や表現の仕方について評価する力を育成することができる。評価する文章を書く際は、「夢十夜」を読んだことのない人に内容を知ってもらうという観点で取り組ませる。既習の「羅生門」の批評文をモデルとし、600～800字で完成させる。新聞の書評欄の記事を用いて批評文に使えるような表現を集める活動を通し、表現力を高めることも狙う。

「批評文を書く」という表現を用いると、「難しそう」「苦手」と構える生徒が多い。「批評」を英訳すると「レビュー」となるが、こちらは生徒にとって身近な言葉であるようだ。よって、本単元では「レビューを書く」という表現を用いることとする。小説を読むことから一歩進み、自分が面白いと思った作品の魅力を他者に伝えたり、共感したりすることに取り組ませたい。

1. 単元名 レビューを書く 夏目漱石「夢十夜」

### 2. 単元の目標

- 「夢十夜」の内容を表現に即して読み取り、内容や構成、表現について評価するために、根拠などを挙げながら客観的にレビューを書くことができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価しながら、レビューを書こうとしている

#### 【読む能力】

☆レビューを書くために、文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わっている  
文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価しながら、レビューを書いている

#### 【言語についての知識・理解・技能】

表現の特色を理解している  
常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けている  
語句の意味、用法などを理解している

4. 教材 『新編 国語総合』大修館「夢十夜」第一夜・第六夜、レビューモデル文、新聞書評欄

## 5. 単元の展開（全 10 時間）

| 次   | 時    | 学習活動                                                                                                                                                  | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                            |
|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |      | 夏目漱石について関心を持つ（読んだことのある作品、題名を知っている作品などを挙げる）<br>「夢」のイメージについて話し合う（自分が最近見た夢、よく見る夢などを挙げ、「夢」についての理解を深める）                                                    |                                                                                        |
| 第1次 |      | [目標] レビューのモデルを知る／表現の特色を理解する                                                                                                                           |                                                                                        |
|     | 第1時  | 1. 単元の見通しを持つ<br>[活動]表現に即して読み取り、評価するために根拠などを挙げながら、客観的にレビューを書く<br>[身に付く力]文章の内容や表現の仕方に着目して読み取る力、それを評価できる力<br>2. モデル文をもとに、「書き方の良さ」を考える<br>・グループワークによる意見交流 | ワークシート<br>①学習の流れ<br>②モデルの提示・グループワークの進め方<br><br>関 レビューを書くために必要なことについて理解し、表現に即して読もうとしている |
|     | 第2時  | 1. 「夢十夜」を通読する<br>・漢字の読みを確認<br>・辞書を用いて語句を調べる<br>2. 印象に残った部分、わからない・難しいと感じた部分などを挙げ、共有する                                                                  | 言 常用漢字が読めている／語句の意味を理解している<br><br>他の各話の提示…各自で読み進めておく                                    |
| 第2次 |      | [目標] 文章に描かれた人物・情景・心情などを表現に即して読み味わう／文章の構成や展開を確かめる                                                                                                      |                                                                                        |
|     | 第3時  | 「第一夜」の内容を読み取る<br>1. 人物の描写や会話文に着目し、登場人物の関係について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 登場人物から作品を批評する                                                              | 読 人物・心情などを、表現に即して読み味わっている<br>関 内容について評価しようとしている                                        |
|     | 第4時  | 「第一夜」の内容を読み取る<br>1. 物語の状況設定や展開に注目し、構成について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 構成から作品を批評する                                                                    | 読 物語の展開を、表現に即して整理している<br>関 構成や展開を確かめ、評価しようとしている                                        |
|     | 第5時  | 「第一夜」の内容を読み取る<br>1. 色彩や情景、比喩や擬態語に着目し、表現について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 構成から作品を批評する                                                                  | 読 情景などを、表現に即して読み味わっている<br>関 表現の仕方について評価しようとしている                                        |
|     | 第6時  | 「第六夜」の内容を読み取る<br>1. 人物の描写や会話文に着目し、登場人物の関係について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 登場人物から作品を批評する                                                              | 読 人物・心情などを、表現に即して読み味わっている<br>関 内容について評価しようとしている                                        |
|     | 第7時  | 「第六夜」の内容を読み取る<br>1. 物語の状況設定や展開に注目し、構成について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 構成から作品を批評する                                                                    | 読 物語の展開を、表現に即して整理している<br>関 構成や展開を確かめ、評価しようとしている                                        |
|     | 第8時  | 「第六夜」の内容を読み取る<br>1. 色彩や情景、比喩や擬態語に着目し、表現について考える<br>・個人／グループワーク／全体交流<br>2. 構成から作品を批評する                                                                  | 読 情景などを、表現に即して読み味わっている<br>関 表現の仕方について評価しようとしている                                        |
|     | 第3次  |                                                                                                                                                       | [目標] 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する                                                     |
| 第9時 |      | 1. レビューのモデルを分析する<br>2. 「第一夜」・「第六夜」どちらかのレビューを書く                                                                                                        | 関 より具体的に、わかりやすく内容や表現の仕方について評価しようとしている<br>読 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価している             |
|     | 第10時 | 1. グッドレビュー者を選ぶ<br>・全体で読みあい、「夢十夜」の世界の多様な読みを交流し、読書意欲へと結びつける<br>2. 単元の振り返り<br>・ワークシートによる自己評価                                                             | 関 幅広く本を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとしている                                                    |

【第1時 単元の見直しをもつ】

月 日 科 一年

「夢十夜」 学習プリント①

**目標** 「夢十夜」の内容を表現に即して読み取り、内容や構成、表現について評価するために、根拠などを挙げながら客観的にレビューを書く

**学習の流れ**

| 学習日 | 学習活動計画                                                                                                                                                                                                                                                          | 振り返りのポイント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の見直しを持つ</li> <li>レビューのモデルを知る</li> <li>漢字、語句を確認する</li> <li>印象に残った部分を共有</li> <li>登場人物を読む</li> <li>構成や展開を読む</li> <li>表現を読む</li> <li>新聞書評欄から表現を集める</li> <li>レビューを書く(六〜八百字)</li> <li>レビューの交流をする</li> <li>単元の振り返り</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>これからのように学習していくかがわかる</li> <li>レビューの良さや、書くために必要なことについて理解している</li> <li>常用漢字が読めている、語句の意味を理解している</li> <li>人物・情景・心情などを、表現に即して味わおうとしている</li> <li>登場人物の設定を、とらえることができる</li> <li>場面を分けながら、どのように話が進んでいるか整理している</li> <li>色彩表現や比喻表現、擬音語・擬態語などの特徴をとらえている</li> <li>レビューを書く時に参考になりそうな表現に着目している</li> <li>内容や構成、表現に対する評価と根拠を明確にして書いている</li> <li>レビューを読み合い、自分の見方や考え方を深めようとしている</li> <li>自分の成果や課題について考えながら、学習を振り返っている</li> </ul> |

頑張りたいこと

月 日 科 一年

「夢十夜」 学習プリント② 書き方の良さを見つけよう

**モデル文から、レビューを書く上で必要なことを探し出す**

盗人になるか、飢え死にするか。生きるためには、手段を選んでいいるとまはない。芥川龍之介が「羅生門」の中で描き出す、「善」と「悪」の間で揺らぐ人間の心理描写は、実に巧みである。

小説では、雨の羅生門の楼上で、四、五日前に主人から暇を出された下人と、死人の髪を抜く老婆とが出会う。老婆の行為に、下人は憎悪を抱いている。死人の髪を抜くこと自体が許せなかったからだ。しかし老婆も、自分の行為には罪悪感を抱いており、「生きるために仕方なくすること」だと話す。これを聞き、下人は自らも生きるために他者を犠牲にする道を選ぶ。登場人物は、どちらも生きるために必死になっているのだ。

物語の鍵になるのは、老婆が口ごもりながら語る場面である。これまで心情が表現されることのなかった老婆の胸の内は、老婆自身によって語られる。下人に生きる道を決意させた、山場とも言える場面である。そして、物語の最後を締めくくる「下人の行方は、誰も知らない。」の一文。下人の生きる道に、何が起ころのか…。読者の想像をかき立てる構成である。

物語作品全体には、暗く重い雰囲気漂う。それは、雨、夕闇、さびれた京都、荒れ果てた羅生門という場面設定による効果だ。これによって下人の追いつめられた状況が浮き彫りになっている。この作品世界の中で、「六分の恐怖と四分の好奇心」や「あらゆる悪に対する反感」などのように、語り手が淡々と下人の心情を述べていく。だからこそ、読者はその移り変わりに引き込まれていくのである。

このように、登場人物の必死に生きようとする姿、「悪」に対する考え方を、効果的な情景描写や、心情表現によって描き出している。題名の「羅生門」は、もとは羅城門と呼ばれていたものを書き換えている。「生」きるための「悪」について、作品を通して考えさせられる物語である。

【第1時 教師作成のモデル文を分析する】

「夢十夜」 学習プリント② 書き方の良さを見つけよう

【良さを見つづけるポイント】

- わかりやすさはどうか
  - 説得力はあるか
  - 書かれている内容はどうか
- 自分で見つけた「書き方の良さ」をふせんに書き、左のスペースに貼る  
(ふせん一枚につき、一つの良さを簡潔に書く) ※ 縦書き

序論・本論・結論のつながり  
事例・根拠はどう挙げられているか  
文末表現、引用について

【二】グループワークで「書き方の良さ」をまとめる。

↓司会者・記録者・発表者・計時係を決める(記録者は複数いても良い)  
★話し合いの進め方

|                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① それではこれから「書き方の良さ」についてグループの考えをまとめます。時間は○分です。</p> <p>② それでははじめにAさんが気付いた良さを発表してください。</p> <p>③ 次にBさんお願いします。(以下同様に)</p> <p>④ 最後に私の考えを発表します。</p> <p>⑤ 全員の気付いた点をまとめると、どうなるでしょうか。</p> <p>⑥ 意見がまとまったので、記録者は用紙にまとめてください。</p> <p>⑦ 発表者は、用紙をもとに説明の練習をしてください。</p> <p>⑧ 以上でグループワークを終わります。</p> | <p>司会者</p> <p>活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計時係は時間を確認しながらグループワークに参加する。</li> <li>・Aさんは、自分が書いたふせん全てを用紙に貼りながら説明する。関係する内容は近くに並べて貼るようにする。</li> <li>・Bさんは、Aさんと同じか近いものをまとめて貼り、異なる考えの場合には離れたところに貼るようにする。(以下同様に)</li> <li>・全員で、良さを短い言葉にまとめる。</li> <li>・記録者は用紙にペン・縦書きで書く。(意見が多い場合は計時者も協力する)</li> <li>・「グループで出した良さは○○○です。……という意味です。」など</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【三】クラス全体で「書き方の良さ」を確認する。

月 日 科 一年

「夢十夜」 学習プリント③ モデル文を再分析してレビューを書く

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>モデル文</p> <p>盗人になるか、飢え死にするか。生きるためには、手段を選んでいいとまはない。芥川龍之介が「羅生門」の中で描き出す、「善」と「悪」の間で揺らぐ人間の心理描写は、実に巧みである。</p> <p>小説では、雨の羅生門の楼上で、四、五日前に主人から暇を出された下人と、死人の髪を抜く老婆とが出会う。老婆の行為に、下人は憎悪を抱いている。死人の髪を抜くこと自体が許せなかったからだ。しかし老婆も、自分の行為には罪悪感を抱いており、「生きるために仕方なくすること」だと話す。これを聞き、下人は自らも生きるために他者を犠牲にする道を選ぶ。登場人物は、どちらも生きるために必死になっているのだ。</p> <p>物語の鍵になるのは、老婆が口ごもりながら語る場面である。これまで心情が表現されることのなかった老婆の胸の内は、老婆自身によって語られる。下人に生きる道を決意させた、山場とも言える場面である。そして、物語の最後を締めくくる「下人の行方は、誰も知らない。」の一文。下人の生きる道に、何が起るのか…。読者の想像をかき立てる構成である。</p> <p>物語作品全体には、暗く重い雰囲気がある。それは、雨、夕闇、さびれた京の都、荒れ果てた羅生門という場面設定による効果だ。これによって下人の追い詰められた状況が浮き彫りになっている。この作品世界の中で、「六分の恐怖と四分の好奇心」や「あらゆる悪に対する反感」などのように、語り手が淡々と下人の心情を述べていく。だからこそ、読者はその移り変わりに引き込まれていくのである。</p> <p>このように、登場人物の必死に生きようとする姿、「悪」に対する考え方を、効果的な情景描写や、心情表現によって描き出している。題名の「羅生門」は、もとは羅城門と呼ばれていたものを書き換えている。「生」きるための「悪」について、作品を通して考えさせられる物語である。</p> | <p>書かれ方の説明</p> <p>一文目～二文目…本文からの引用</p> <p>三文目…作品の特色</p> <p>一文目…登場人物の人物像</p> <p>二文目～五文目…人物のやりとりや、相互関係、心情の理由など</p> <p>六文目…自分がどのような人物ととらえたか</p> <p>一文目…山場の紹介(「鍵」という表現を用いている)</p> <p>二文目…書かれている内容</p> <p>三文目…山場と考える理由</p> <p>四文目…結末の紹介(引用)</p> <p>五文目…六文目…読者の立場に立った評価</p> <p>一文目…どのような印象を受けたか</p> <p>二文目…印象にかかわる表現を挙げる</p> <p>三文目…表現の効果</p> <p>四文目…効果が引き立てられる内容を挙げる</p> <p>五文目…読者の立場</p> <p>一文目…この文章の第二、四段落の内容のまとめ</p> <p>二文目…三文目…作品の主題</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【第9時 モデルを再分析する】

# 高等学校第2学年単元構想表（大修館；「情報の力関係」）

※平成26年12月に実践した授業

## 【生徒の実態】

## 【身に付けさせたい力】

- これまでの論理的な文章の学習では、「何が書かれているか」について読解することを中心に進めてきている。
- 筆者が「どのように論を展開しているのか」についてとらえる力や、筆者の論の展開を評価する学習は、これまでほとんど経験していない。

◎文章を読んで、構成、展開、要旨を的確にとらえる力。（現代文Bーア）

この単元では、これまでの学習で生徒に十分に身に付いていないと思われるこの力の育成に絞って指導したい。

## 【単元を貫く言語活動】

説明文の構成、展開、要旨などを的確にとらえ、家形構造図を作る。

## 【言語活動の特徴】

家形構造図＝形式段落、意味段落、構成、役割、要約、要旨を図に表したもの。

（※二瓶弘行氏の考案した説明文の構成図を授業者が名付けたもの。）

この構造図を完成させるために、

- 1 基本構成をとらえる（①序論・本論・結論に分ける、②序論・本論・結論の役割を考える、③本論に小見出しを付ける）
- 2 論の展開を検討する（①意味段落の順序、②意味段落相互の関係、③意味段落と結論の関係、④段落内の構成）
- 3 要旨をまとめる（筆者の伝えたい事実や意見・考えの中心をとらえる）

という読み方を身に付けることを目指したい。

1. 単元名 構成、展開、要旨をとらえて、家形構造図を作ろう！

### 2. 単元の目標

○文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、家形構造図を作ることができる。

### 3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆説明的文章に興味をもち、進んで読もうとしている。

#### 【読む能力】

☆文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえている。（現代文Bーア）

#### 【知識・理解】

☆文体などの表現上の特色をとらえている。（現代文Bーオ）

4. 教材 「情報の力関係」（大修館書店）、「いろいろなふね」（東京書籍）  
「ちょっと立ち止まって」（光村図書）

## 5. 単元の展開（全4時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                           | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（ <b>関</b> ・ <b>読</b> ・ <b>知</b> ）等                                                                                                    |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | ○この単元では設定しない。                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                           |
| 第1次 | 第1時 | ○自己紹介，座席作り（5分）<br>○これまでの説明的文章の学習を思い出す（5分）<br>○説明文とは何かを確認する（5分）<br>○説明文を学ぶ目的を確認する（5分）<br>○単元の学習課題を設定する（5分）<br>・構成，展開，要旨をとらえて，家形構造図を作ろう<br>○「いろいろなふね」で家形構造図のつくり方を知る（20分）<br>○本時の学習を振り返る（5分）                                                                                      | <b>関</b> 説明的文章に興味をもち，進んで読もうとしている。<br><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。<br><br>○グループ隊形で相談や既習事項の確認をさせながら授業を進める。                                                                  |
| 第2次 | 第2時 | ○学習課題を設定する（3分）<br>・「ちょっと立ち止まって」の構成，展開，要旨をとらえ，家形構造図を作ろう<br>○本時の見通しをもつ（5分）<br>・構成，展開，要旨のとらえ方の見通し（既習の確認）<br>・本時の学習過程の見通し<br>○課題を解決する<br>・要旨・要約から，構成・小見出しからを分担して，一人で考える。（10分）<br>・グループで考える（10分）<br>・みんなで考える（10分）<br>○本時の学習を振り返る<br>・一人で振り返る（4分）<br>・グループで振り返る（4分）<br>・みんなで振り返る（4分） | <b>読</b> 文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえている。<br><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。<br><br>○学習過程（学習形態，学習内容，時間）を黒板に明示する。<br><br>○グループ学習の進め方を示す。                                          |
|     | 第3時 | ○学習課題を設定する（3分）<br>・「情報の力関係」の構成，展開，要旨をとらえ，家形構造図を考えよう<br>○本時の見通しをもつ（10分）<br>・構成，展開，要旨のとらえ方の見通し<br>・本時の学習過程の見通し<br>○課題を解決する<br>・4人で「情報の力関係」を音読し，語句の意味を確認する。（10分）<br>・一人で家形構造図を考える（20分）<br>○本時の学習を振り返る<br>・一人で振り返る（4分）<br>・みんなで振り返る（3分）                                            | <b>読</b> 文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえている。<br><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。<br><br>○学習過程（学習形態，学習内容，時間）を黒板に明示する。<br><br>○グループ音読の進め方を示す。                                          |
| 第3次 | 第4時 | ○学習課題を設定する（2分）<br>・「情報の力関係」の構成，展開，要旨をとらえ，家形構造図を完成させよう<br>○本時の見通しをもつ（3分）<br>・本時の学習過程の見通し<br>○課題を解決する<br>・グループで考える（15分）<br>・みんなで考える（15分）<br>○単元の学習を振り返る<br>・一人で振り返る（5分）<br>・グループで振り返る（5分）<br>・みんなで振り返る（5分）                                                                       | <b>読</b> 文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえている。<br><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。<br><br>○学習過程（学習形態，学習内容，時間）を黒板に明示する。<br><br>○グループ学習の進め方を示す。<br><br><b>関</b> 説明的文章に興味をもち，進んで読もうとしている。 |
| 第4次 |     | ○この単元では設定しない。                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                           |

【第1時 これまでの学習を振り返り、単元の学習課題を設定する】

学習シート①

2年 番・氏名

◎小学校からこれまでの説明文の学習を振り返り、自分が学んだと思うことを

箇条書きにまとめてみましょう。どんなことを学びましたか。 32人中

- ① 文章の構成に関すること 11人 ⑦ 説明の仕方 2人
- ② 筆者が伝えたい内容 9人 ⑧ 要点まとめ 1人
- ③ 説明を正しく読む力 6人 ⑨ ぬき出し 1人
- ④ 記述なし 5人 複数回答 6人
- ⑤ 接続詞や文末表現 3人
- ⑥ 教材名を書いているもの 2人

◎説明文とは何ですか？

筆者が伝えたくてたまらないことを書いたもの。  
↓そのために美しいしくみを使っている。

◎私たちは、何のために説明文を学んでいるのでしょうか？

- | 形式 | 内容                             |
|----|--------------------------------|
| ④  | ① 伝えたいことを正確に受けとるため。↓ <b>要旨</b> |
| ③  | ② 伝えたいことに対して自分の意見をもつため。        |
| ②  | ③ 伝え方を学ぶため。↓ <b>構成・展開・表現</b>   |
| ①  | ④ 伝え方について自分の意見をもつため。           |

★単元の学習課題★

構成・展開・要旨をとらえて、「家形構想図」を作ろう。

【第1時 モデルとして扱った小学校教材「いろいろなふね」での家形構想図】

学習シート③

2年 番・氏名

◎「いろいろなふね」の書き方を家のつくり方に例えて「家形構想図」を作ろう！

| 構成 | 役割  | 形式段落                     | 要約（小見出し）と要旨                                                                                                                                    |
|----|-----|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 序論 | 話題  | ①                        | ふねには、いろいろなものがある。 <b>要約</b>                                                                                                                     |
| 本論 | 例示  | ②③④<br>⑤⑥⑦<br>⑧⑨⑩<br>⑪⑫⑬ | きやくせんのやく目とつくり<br>左リーボートのやく目とつくり<br>ぎよせん <small>（ぎよせん）</small> のやく目とつくり<br>しょうぼうていのやく目とつくり<br>いろいろなふねが、それぞれ<br>のやく目にあうように<br>つくられている。 <b>要旨</b> |
| 結論 | まとめ | ⑭                        |                                                                                                                                                |

「家形構想図」の作り方

- 1 構成とは、説明文の基本三構成のこと。
- 2 役割を、この単元では三つずつ押さえよう。
  - 序論 「…話題、問い、まとめ」
  - 本論 「…例示、理由、方法、…」
  - 結論 「…考え、答え、まとめ」
- 3 形式段落は、内容的に合わせると「意味段落」になる。
- 4 要約とは、文章を短くすること。要旨とは、筆者の伝えたいこと。
- 5 小見出しは、要旨のキーワードと関連付け、兄弟のように付けよう。



【第2時 グループ協議の進め方】

【グループ協議の進め方】

グループ司会者用

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 役割を確認する        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会は〇〇、記録は〇〇さん、計時係は〇〇さん、発表者は〇〇さんです。</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |
| 2 課題と交流の方向性を確認する | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから、～ するために話し合いを始めます。</li> <li>・この話し合いは、グループとして考えをひとつにまとめるために行います。</li> </ul>                                                                                                                                                     |
| 3 交流時間の確認する      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの時間は、〇分です。</li> <li>・計時係は、まともに入らなければならない 〇分前になったら、指示してください。</li> </ul>                                                                                                                                                         |
| 4 意見を出し合い、分類する   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、皆さんの考えたものを出して比べてみましょう。</li> <li>・比べてみて、同じもの、違うものはどれですか。</li> <li>・考えが同じものについては、まとめてもよいですか。<br/>(⇒記録係さんはまとまった分を書いてください。)</li> </ul>                                                                                              |
| 5 意見を広げる・深める     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えが違うものについて、なぜ、そのように考えたのか、理由を説明してください。〇〇さんどうぞ。</li> <li>・〇〇さんが、このように考えたのは、なぜですか。</li> <li>・～という考えと～という考えの他に考えられることはありませんか。</li> <li>・私は、～ とも考えられると思いますが、どうですか。</li> <li>・～について、もう少し詳しく教えてください。</li> <li>・〇〇さんは、どう思いますか。</li> </ul> |
| 6 意見を整理する        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・～という考えと、～という考えが出ましたが、どのようにまとめればよいと思いますか。</li> <li>・～という考えから、～としてよいですか。</li> <li>・一番、良いと思う考えはどれですか。</li> </ul>                                                                                                                      |
| 7 意見をまとめる        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間になったので、みんなの意見をまとめます。</li> <li>・話し合いの結果、～のようにまとめていいですか。</li> <li>・記録係は、まとめの用紙にまとめてください。</li> <li>・皆さんは、自分の学習シートに書き足してください。</li> </ul>                                                                                             |
| 8 話し合いを終える       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これでグループの話し合いを終わります。</li> <li>・〇〇さんは、発表の準備をしてください。</li> <li>・話し合いの様子について、感想を述べて終わる。</li> </ul>                                                                                                                                      |

【第3時 全体司会の進め方】

【国語科授業の進め方】

全体司会者用

|                   |                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 授業の開始・単元の学習の確認  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから国語の授業を始めます。</li> <li>・今日の授業は、〇〇という単元、〇 時間のうちの 〇時間目です。</li> <li>・これまでの学習では、1時間目は 〇〇、2時間目は 〇〇 について学んできました。<br/>(単元の学習の1時間1時間を振り返る)</li> </ul>       |
| 2 学習課題の設定・学習内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習課題を確認します。学習課題は、 〇〇 です。</li> <li>・今日の学習では、～ (これまでの学習内容とのつながりを説明する)</li> </ul>                                                                     |
| 3 本時の学習過程の確認      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習過程について説明します。</li> <li>・今日の学習では、最初に～、次に～、最後に～、 (学習形態と活動内容、時間配分を説明する)</li> </ul>                                                                   |
| 4 学習活動のやり方の確認     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは先生、学習活動の進め方について説明をお願いします。</li> </ul>                                                                                                              |
| 5 学習活動①           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、これから〇分間、～ します。始めてください。</li> <li>・時間なのでやめてください。</li> </ul>                                                                                        |
| 6 学習活動②           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、これから〇分間、～ します。始めてください。</li> <li>・時間なのでやめてください。</li> </ul>                                                                                        |
| 7 学習活動③           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、これから〇分間、～ します。</li> <li>・先生、お願いします。</li> </ul>                                                                                                   |
| 8 本時の振り返り         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習活動は、ここまでです。学習シート〇 に、振り返りを書いてください。</li> <li>・まず、一人で〇分間、書いてください。</li> <li>・それでは、これからグループで〇分間、交流してください。</li> <li>・全体での振り返りをします。先生お願いします。</li> </ul> |
| 9 全体司会者から         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体司会者として、今日の学習を振り返ります。(今日の授業で友達のよかったところ、自分のよかったところ、次の授業で頑張りたいと思ったことなどを述べる)</li> <li>・以上で、国語の授業を終わります。</li> </ul>                                      |

2年 番・氏名

★要旨をとらえるコツ★

- (1) 要旨が書かれていると思われる段落に見当をつける。
- (2) 要旨が書かれている段落で、題名、あるいは題名に関係ある言葉をマークする。
- (3) 本論で述べられている事例に関係した言葉をマークする。
- (4) 本論と関係付けて、どの文とどの文を中心にとめるかを考える。
- (5) (4)の文をつなげて、意味の通じる短い文にする。(字数制限や条件などを守る)
- (6) (5)を読み返して、筆者が伝えたいことの中心かどうかを吟味する。

★個人学習からグループ学習への進め方★

- (1) 一人で「家形構造図」を考える順番をグループで分担する。
- ① 「家形構造図」の①～⑤と順番に考える人 二人
- ② 「家形構造図」の④・⑤から先に考える人 二人

- (2) 役割分担をして、グループで考える

○ 司会：個人で考えた学習シートを出し合い、全員が同じところを確認する。

違うところを、どうして意見を出し合って、グループとしての考えをまとめる。

○ 記録：同じだったところを構造図に書く。

違うところを、協議でまとめたものを構造図に書く。

○ 発表：グループ協議後、「家形構造図」を黒板に貼る。

九グループあるので、他のグループと見比べて、同じあるいは近いものを近づけて貼る。

全体司会者から質問や発表の指示があった場合に、答えたり発表したりする。

○ 計時：話合いの時間をみんなに知らせ、時間内に「家形構造図」がまとめられるように、司会者に進行を促す。

★全体交流の進め方★

- (1) 全体司会者が司会をする。

① 同じところは、そのままでよいかみんなに確認する。

② 違うところを、どうしたらよいかみんなが納得するまで意見をとる。

③ 困ったときには、先生に助言を求める。

④ まとめ終わったら、全体を通しての助言を先生に求めた後、席に戻る

(2) 全体記録者が「家形構造図」に清書する。司会者とともに、席に戻る。

(3) 全体計時は、自分の席で、話合いの時間をみんなに知らせ、時間内に「家形構造図」をまとめられるように、司会者に進行を促す。

【第4時 単元のゴールとしての家形構想図】

2年 番・氏名

◎「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえ、家形構造図を考えよう

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                               |             |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 結論     | 本論                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 構成                                                                                                                                                                            | 要約（小見出し）と要旨 |
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 役割                                                                                                                                                                            |             |
| 考え・まとめ | 例示                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 形式段落                                                                                                                                                                          |             |
| ⑤      | ④ ③ ② ①                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                               |             |
| 逆も言える。 | 情報 <small>の</small> 図形 <small>や</small> 写真 <small>や</small> 文字 <small>や</small> 音 <small>などの</small> 要素 <small>には</small> 力関係 <small>があり、</small> それをうまく使うこと <small>で</small> 情報 <small>を</small> スムーズ <small>に</small> 送る <small>ことも</small> できる <small>し、</small> その逆 <small>も</small> 言える。 | 図形 <small>と</small> 文字 <small>の</small> 力関係<br>・図形 <small>が</small> 強い例<br>・文字 <small>が</small> 強い例<br>絵 <small>と</small> 図形 <small>の</small> 力関係<br>・図形 <small>が</small> 強い例 |             |

「家形構想図」の作り方

- ① 説明文の基本三構成（序論・本論・結論）を考えよう。
- ② 序論・本論・結論のそれぞれの役割を考えよう。
- ③ 本論を意味段落に分けよう。
- ④ 序論と結論を要約しよう。どちらが要旨になるか考えよう。
- ⑤ 要旨と関連付けながら、本論の意味段落に小見出しを付けよう。

【第4時 グループ交流を通して生徒が作成した家形構想図①】

| 結論                                                                                    | 本論                  |                      | 序論                                                            | 構成                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------|
| まとめ                                                                                   | 例示                  |                      | 話題                                                            | 役割                 |
| (5)                                                                                   | (3)<br>(4)          | (2)                  | (1)                                                           | 形式段落               |
| <p>どんなメディアにおいても、情報の要素に力関係が生じていて、図形や写真や文字や音などの要素をうまく使うことで情報をスムーズに送ることができる。その逆も言える。</p> | <p>絵と図形の情報の力関係。</p> | <p>図形と文字の情報の力関係。</p> | <p>文字としては「左を見よ」と書かれていても、矢印が放つ力が眼差しを右の方に持っていき、ように感じないだろうか。</p> | <p>要約（小見出し）と要旨</p> |

【第4時 グループ交流を通して生徒が作成した家形構想図②】

| 結論                                                                     | 本論                  |                      | 構成                 |
|------------------------------------------------------------------------|---------------------|----------------------|--------------------|
| まとめ                                                                    | <del>話題</del> 例示    |                      | 役割                 |
| (5)                                                                    | (3)~(4)             | (1)~(2)              | 形式段落               |
| <p>図形や写真や文字や音などの、さまざまな情報の要素に生じる力関係をうまく使うことで、たくさんの情報をスムーズに送ることができる。</p> | <p>〈絵〉と〈図形〉の力関係</p> | <p>〈図形〉と〈文字〉の力関係</p> | <p>要約（小見出し）と要旨</p> |

【生徒の振り返りシート①】

|                                       |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。    | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。         | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。       | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。    | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ 単元の学習を通して何が分かったかを説明できる。             | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ④ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。            | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ③ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。   | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ② 何ができるようになるか、見通しをもつて学習することができた。      | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ① これから何をするのか、見通しをもつて学習することができた。       | 4 | ③ | 2 | 1 |

あてはまる4 だいたいあてはまる3 あまりあてはまらない2 あてはまらない1 (○をつけてください)

|                                                                                                                |                                                          |                                                                 |                                                                                                 |                                                  |             |                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------|--------------------------------|
| 12/16 ④                                                                                                        | 12/16 ③                                                  | 12/15 ②                                                         | 12/18 ①                                                                                         | 学習<br>学習活動計画                                     | 評価<br>分かった4 | 1<br>単元の見通しと振り返り<br>(評価 分かった4) |
| ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                                          | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える                      | ○「ちよつと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る                          | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る | 評<br>価                                           | 3           | 3                              |
| 3                                                                                                              | 3                                                        | 3                                                               | 4                                                                                               | 感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など) | 3           | 3                              |
| 今頃は最後の授業でしたが、班の話合いも活発で自分の意見も言えてよかったと思えます。また、他の班の意見を聞く、違っていた点、どうしてという理由を深めることができました。この4回の授業をこれから活かせられればよいと思えます。 | 自分だけでなく家形構造図を考えるのはむずかしいけど、またまた読解の力が足りないと思いました。速読もがんばりたい。 | 本論の形式段落を考えると、わかってはいても大変だった。だから、グループで自分たちの力だけで考える活動は、すごくいいなと思った。 | 説明文のしくみがわかった。これまでは説明文も学ばず、ただわかんないまま勉強していたが、これからはしっかりと上へへんまうといくらもめえがする。                          | 4                                                | 3           | 3                              |

学習シート④  
2年 番・氏名

【生徒の振り返りシート②】

|                                       |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。    | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。         | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。       | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。    | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ 単元の学習を通して何が分かったかを説明できる。             | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ④ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。            | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ③ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。   | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ② 何ができるようになるか、見通しをもつて学習することができた。      | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ① これから何をするのか、見通しをもつて学習することができた。       | ④ | 3 | 2 | 1 |

あてはまる4 だいたいあてはまる3 あまりあてはまらない2 あてはまらない1 (○をつけてください)

|                                                                                                                       |                                                |                                        |                                                                                                 |                                                  |             |                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------|--------------------------------|
| 12/16 ④                                                                                                               | 12/16 ③                                        | 12/15 ②                                | 12/18 ①                                                                                         | 学習<br>学習活動計画                                     | 評価<br>分かった4 | 1<br>単元の見通しと振り返り<br>(評価 分かった4) |
| ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                                                 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える            | ○「ちよつと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る | 評<br>価                                           | 4           | 3                              |
| 4                                                                                                                     | 3                                              | 3                                      | 3                                                                                               | 感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など) | 3           | 3                              |
| 自分だけでなく構造図を書いているときにも序論がなく本論と結論だけで構成されてるって考えたけど、三構成で考えたら二構成で考えたら上手い理由付けできなかった。読んでいて楽しかった。司会も2回目だったので、スムーズに進められて良かったです。 | 少し時間が足りなかったけど、なんとかならなくて序論と本論をどきどき分けた。とても考えました。 | 一度読んだ説明文をもう一度読むと違って見えてくるなと思えました。       | 説明文を段落ごとに分けて読み取り、要約をするのは中学校ぶりだったので楽しかったです。一通り自分でもできたので安心しました。                                   | 3                                                | 3           | 3                              |

学習シート④  
2年 番・氏名

【生徒の振り返りシート③】

|                                       |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| ⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。 | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。    | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。         | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。       | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。    | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ⑤ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。            | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ④ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。   | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ③ 何ができるようになるか、見通しをもって学習することができた。      | 4 | ③ | 2 | 1 |
| ② これから何をやるのか、見通しをもって学習することができた。       | 4 | ③ | 2 | 1 |

|       |   |                                                                                                 |   |                                                                                                 |
|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12/16 | 4 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                           | 4 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                           |
| 12/16 | 3 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える                                                             | 3 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える                                                             |
| 12/15 | 2 | ○「ちょっと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る                                                          | 3 | ○「ちょっと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る                                                          |
| 10/28 | 1 | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る | 3 | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る |

学習シート④  
2年 番・氏名  
1 単元の見通しと振り返り  
(評価) 分かった4 だいたい分かった3 あまり分らなかった2 分からなかった1

【生徒の振り返りシート④】

|                                       |   |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---|---|---|---|---|
| ⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。 | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。    | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。         | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。       | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。    | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ⑤ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。            | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ④ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。   | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ③ 何ができるようになるか、見通しをもって学習することができた。      | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |
| ② これから何をやるのか、見通しをもって学習することができた。       | 4 | ④ | 3 | 2 | 1 |

|       |   |                                                                                                 |   |                                                                                                 |
|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12/16 | 4 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                           | 4 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる                                                           |
| 12/16 | 3 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える                                                             | 2 | ○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える                                                             |
| 12/15 | 2 | ○「ちょっと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る                                                          | 3 | ○「ちょっと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る                                                          |
| 10/28 | 1 | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る | 3 | ○これまでの説明的文章の学習を思い出す<br>○説明文とは何かを確認する<br>○説明文を学ぶ目的を確認する<br>○単元の学習課題を設定する<br>○「家形構造図」のつくり方を<br>知る |

学習シート④  
2年 番・氏名  
1 単元の見通しと振り返り  
(評価) 分かった4 だいたい分かった3 あまり分らなかった2 分からなかった1

## C 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程例

### 中学校第2学年単元構想表 光村；「枕草子（古典）」

※平成24年6月に実践した授業の一部を改めたもの

#### 【生徒の実態】

#### 【身に付けさせたい力】

- 第1学年教材「竹取物語」では、登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、想像した内容を報道記事にまとめる学習を行った。
- これまでに古典作品でも現代文でも、随筆という形式を意識して読み取った経験はない。また、教材文そのものを自分が表現するためのモデルと考えて内容と形式を分析的に読み取った経験はない。

- 随筆を書くという目的をもって、
- 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめる力。(C-エ)
  - ◎文章に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像する力。(伝-ア(イ))

#### 【単元を貫く言語活動】

清少納言の書きぶりをまね、現代の清少納言として「現代版枕草子」を書く。

#### 【言語活動の特徴】

「現代版枕草子」；A4判用紙の上段に「枕草子第一段」を視写し、その書きぶりを分析的に読み取る。下段には、清少納言がタイム・スリップして現代に現れたと仮定し、それぞれの生徒が現代の清少納言になりきり、自分の体験と関連付けて「現代版枕草子」として、300字以上400字以内にまとめる。

枕草子を、形式だけでなくその内容や表現をとらえ、書きぶりをまね、自分の体験と関連付けて考え（四季折々に趣を感じるもの）をまとめることは、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いなどを想像する力を育成することにつながるものとする。

1. 単元名 清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう！

2. 単元の目標 『枕草子（第一段）』の内容や表現をとらえ、筆者のものの見方考え方を読み取り、自分の体験と関連付けて四季折々に趣のあるものを随筆にまとめることができる。

#### 3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

☆随筆を書くために、随筆作品を表現モデルとして読み、参考にしながら、自分なりの考えを表現しようとしている。

##### 【読む能力】

☆随筆を書くために、文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめている。  
(C-エ)

##### 【言語についての知識・理解・技能】

☆随筆を書くために、文章に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いを想像している。(伝ア(イ))

☆随筆を書くために、「さらなり」「をかし」「あはれなり」「いとをかし」「言ふべきにあらず」「言ふべきにもあらず」「いとつきづきし」「わるし」などの古典における評価語彙について理解している。(1年言イ(ウ))

4. 教材 「枕草子 第一段」

## 5. 単元の展開（全5時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                                          | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                            |
|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | ☆枕草子第一段を模造紙に書き、廊下や教室に掲示するなどして関心を高めておく。<br>☆清書用の「現代版枕草子」の上段に枕草子第一段の原文を視写する。（清書用紙）                                              |                                                                                                                        |
| 第1次 | 第1時 | ○生活の中で、四季折々に「趣」を感じているものを出し合い、整理する。<br>（個人⇒グループ⇒個人⇒全体）<br>○「枕草子 第一段」と比べる。<br>○「清少納言になりきって『現代版枕草子』を書こう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。   | 関 見通しをもって単元の学習に取り組もうとしている。<br>・学習評価シート                                                                                 |
| 第2次 | 第2時 | ○「枕草子 第一段」を読む。<br>・音読をして読み慣れる。<br>（個人⇒ペア⇒全体）<br>・文種（随筆）を確認する。<br>・書きぶりを読む。（構成、内容、表現）<br>・分析を参考にシートにまとめる。<br>（全体確認⇒個人⇒グループ⇒全体） | 関 第一段を進んで音読しようとしている。<br>読 枕草子を音読して、リズムを味わいながら、古典の世界に触れている。                                                             |
|     | 第3時 | ○「枕草子 第一段」を読む。<br>・評価語彙をとらえる。<br>（個人⇒グループ⇒全体）<br>○補助資料で枕草子を読む。                                                                | 読 枕草子に表れたものの見方や考え方に触れ、<br>筆者の思いを想像している。<br>・補助資料                                                                       |
|     | 第4時 | ○自分なりの「現代版枕草子」を書く。<br>（個人⇒グループ）<br>・個人でまとめる。<br>・下書き練習する。<br>・清書用紙に清書する。                                                      | 関 四季折々に趣のあるものについて、自分なりの考えを表現しようとしている。<br>読 枕草子に表れたものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめている。<br>言 古典における評価語彙を文章で適切に使用している。 |
| 第3次 | 第5時 | ○グループで「現代版枕草子」を読み合い、感想を交流する。<br>・良さを見付ける。グループで最優秀を決める。<br>○学級で最優秀（1作品）と優秀（2作品）を選ぶ。<br>○単元の学習を振り返る。                            | 読 枕草子に表れたものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを広げている。<br>・振り返りシート                                                             |
| 第4次 |     | ☆学級の「現代版枕草子」を冊子にまとめ、保護者に届け、感想をもらう。                                                                                            |                                                                                                                        |

【第2時 構成, 内容, 表現を読む】

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1       | 文  |
|---|---|---|---|---------|----|
|   |   |   |   | 春はあけぼの。 | 春  |
|   |   |   |   | 夏は夜。    | 夏  |
|   |   |   |   | 秋は夕暮れ。  | 秋  |
|   |   |   |   | 冬はつとめて。 | 冬  |
|   |   |   |   |         | 内容 |

清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう 学習シート② 学習日  
 二年 組 番・氏名  
 【枕草子 第一段】  
 枕草子のジャンルは↓ ( ) Ⅱ ( )

【第2時 構成, 内容, 表現を読む】

|  |                                                                                                                                |  |  |  |  |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|
|  | ◎四季それぞれの段落の5の文には、何がどのように書かれているか。書かれ方(表現の特徴や文末表現など)書かれているもの                                                                     |  |  |  |  |
|  | ◎四季それぞれの段落の4の文には、何がどのように書かれているか。書かれ方(表現の特徴や文末表現など)書かれているもの                                                                     |  |  |  |  |
|  | ◎四季それぞれの段落の3の文には、何がどのように書かれているか。書かれ方(表現の特徴や文末表現など)書かれているもの<br>・2の文と内容的につながりがある事柄について補足している。(蛍、鳥の飛ぶ姿)<br>・趣があると思った情景について補足している。 |  |  |  |  |
|  | ◎四季それぞれの段落の2の文には、何がどのように書かれているか。書かれ方(表現の特徴や文末表現など)書かれているもの<br>「あけぼの・夜・夕暮れ・つとめて」のカテゴリは何か↓ ( )                                   |  |  |  |  |
|  | ◎四季それぞれの段落の1の文には、何がどのように書かれているか。書かれ方(表現の特徴や文末表現など)書かれているもの                                                                     |  |  |  |  |

清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう 学習シート②の2 学習日  
 二年 組 番・氏名



【第4時 現代版枕草子を書く】

|  |  |  |  |  |  |  |  |                                                                    |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  | 清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう 学習シート④ 学習日<br>二年 組 番・氏名                     |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | ◎下書きをしよう。(全文を三百字以上く四百字以内にまとめよう)                                    |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | カテゴリーは何か↓(                                                         |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 春                                                                  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 夏                                                                  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 秋                                                                  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 冬                                                                  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 春は○○○。<br>夏は○○○。<br>秋は○○○。<br>冬は○○○。                               |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 例) くだる。<br>例) くだる。<br>例) くらへあはれなり。<br>例) くらひふべきにあらず、もいとつきつきし。      |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 例) くらをかし。<br>例) また、くらをかし。<br>例) まいでくいとをかし。<br>例) くらひふべきにあらず、くらわらし。 |  |

【第5時 現代版枕草子を読み合い、感想を交流する】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |                                                                                       |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 清少納言になりきって「現代版枕草子」を書こう 学習シート⑤ 学習日<br>二年 組 番・氏名                                        |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 1 友だちの「現代版枕草子」を読んで良さを見付けよう。                                                           |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 名前                                                                                    |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 見付けた良さ                                                                                |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | さん<br>さん<br>さん                                                                        |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 自分<br>さん                                                                              |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | *良さを見付ける視点<br>古語を上手に使っている<br>こういふ感じ方は素敵だ<br>考えられた構成<br>共感できる体験<br>表現が巧み<br>ものの見方が興味深い |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 2 グループで「ナンバー1」を決めよう。<br>ナンバー1<br>その理由<br>さん                                           |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 3 グループの「ナンバー1」を、学級全体で紹介しよう。<br>4 発表をきいて、学級の「ナンバー3」を考えよう。                              |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 理由<br>さん<br>理由<br>さん<br>理由<br>さん                                                      |  |

# III 資料編

## PISA 調査における「読解力」の定義

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組む能力」

読解力はただ単に読む知識や技能があるというだけでなく、様々な目的のために読みを価値付けたり、用いたりする能力によっても構成されるという考え方から、「読みへの取り組み」(engaging with written texts) という要素が加えられた。つまり、読むことに対してモチベーション(動機付け)があり、読書に対する興味・関心があり、読書を楽しみと感じており、読む内容を精査したり、読書の社会的な側面に関わったり、読書を多面的にまた頻繁に行っているなどの情緒的、行動的特性を指す。

文部科学省 国立教育政策研究所

『OECD生徒の学習到達度調査 2009年デジタル読解力調査 ～国際結果の概要～』より

([http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2009\\_Result\\_Outline.pdf](http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2009_Result_Outline.pdf))

## 学校教育法における「教育の目標」と「学力の三要素」

第二十一条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第一百二十号）第五条第二項 に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。

第三十条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

## 学習指導要領「国語科改訂の趣旨」

小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けさせること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

## 第2期教育振興基本計画（平成25年6月14日閣議決定）

基本施策1 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

### 【基本的考え方】

- 子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力を身に付けさせるため、教育内容・方法の一層の充実を図る。その際、特に、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などの育成を重視する。
- このため、グループ学習やICTの活用等による協働型・双方向型の授業への革新、学校と家庭・地域との連携の推進を図りつつ、新学習指導要領を着実に実施する。また、高等学校段階においては、高校生としての基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせるため、生徒の学習の到達度を適切に把握する仕組みを導入するなど、高等学校教育の質保証に向けた取組を進めるとともに、各学校における地域の実情や生徒の実態を踏まえた育成すべき資質・能力に応じたきめ細かい施策を講じる。

指導系統表の整理例 小学校 [C 読むこと]

|           | 第1学年及び第2学年                                                                                                                                                                                                                                                     | 第3学年及び第4学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 第5学年及び第6学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標        | (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                  | (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|           | (1)前段＝読む能力、後段＝読書態度(全学年共通)                                                                                                                                                                                                                                      | (2)目的に応じ＝読むことによって何をしようとするのか、どのように活用しようとするのか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | ⇒文章全体に対応する(高学年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|           | (3)本や文章の内容や構成の特徴に着目して読む<br>①科学的な内容の本や文章<br>・時間や事柄の順序に従って内容を押さえて読む<br>②文学的な絵本や物語<br>・場面の様子を押さえながら想像を広げて読む<br>(4)楽しんで読書する態度＝自ら楽しんだり知識を得たりするために読書しようとする態度<br>(5)本や文章を読むことが楽しく、生活の中で役立つことなどを実感させるため、日常的に読む習慣を付ける                                                   | (3)目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読む<br>①内容の中心をとらえる<br>②段落相互の関係を考慮して全体の構成を把握<br>③自分の考えをまとめたりしながら読む<br>(4)幅広く読書する態度<br>①読書の量的向上、読書分野を広げる質的向上<br>②読書の大切さや価値を理解する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | (3)目的に応じて計画的に読書する<br>①楽しむために、調べるために、知的欲求を満たすためになど、<br>②複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握し、自分の考えをまとめる<br>(4)読書により考えを広めたり深めたりする態度<br>・書き手の思考に即して読むことで、自分の思考も論理的になり、思考が深められる                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 音読        | 【音読の働き】 ①自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする ②他が理解するのを助ける<br>ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。                                                                                                                                                                               | ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|           | (1)語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて<br>①明瞭な発音 ②ひとまとまりの語や文<br>③言葉の響きやリズム<br>(2)「A話すこと・聞くことウ」と関連付けて指導する<br>①姿勢や口形 ②声の大きさや速さ<br>③はっきりした発音<br>(3)指導事項イ～カとかかわらせて指導<br>①繰り返し音読する機会を設ける<br>②自分の声を自分で聞きながら音読する習慣<br>③他の人に聞いてもらうなど、聞くことを意識する<br>(4)音読の方法<br>①教師が読んだ後に読む ②グループでの役割読み | (1)文章の内容をよく理解し、自分の思いや考えと合わせながらよく分かるように音読する<br>(2)内容の中心や場面の様子がよく分かるように<br>①一文一文などの表現だけでなく、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する<br>②軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変える<br>③物語では、各場面を意識して、様子が分かるように<br>(3)指導事項カと関連付けて⇒音読の目的や方法を工夫<br>(4)「A話すこと・聞くことウ」と関連付けて指導する<br>①相手を見る ②言葉の抑揚や強弱 ③間の取り方<br>(5)黙読も活用し、文章の内容の理解を深める<br>①事柄を関連付ける ②重要な箇所を見付ける<br>③必要に応じて速さを変えて読む                                                                                                                                                                  | (1)文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたことが相手に伝わるように音読や朗読をする<br>(2)音読では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化する。物語や詩では、語り手や登場人物がどのように語りたかを決める必要がある<br>(3)朗読は<br>①読者として文章のイメージを明確にし、相手に伝えようとして音声化するものである<br>②自分なりに解釈したこと、感心や感動したことを、思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝える<br>③一人一人の感じ方や思い、考えの違いを大事にし、どのように音声化すれば聞き手によく伝わってもらえるか考え、相互に朗読し合って楽しむ<br>(4)音読や朗読の工夫＝音読や朗読の発表会、朗読劇や群読、身体的な表現なども交えた劇など                                                                                            |
| 効果的な読み方   |                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。<br>(1)目的に応じ、効果的な読み方を選択し、活用する<br>○比べ読み、速読、摘読、多読(重ね、並行)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 説明的な文章の解釈 | イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の全体を読むこと。<br>(1)時間的な順序や事柄の順序などとは<br>①時間の順序<br>②事物の作り方の手順など、文章に取り上げられた話題自体に内在する事柄の順序<br>③どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序<br>(2)順序に沿って内容の全体を読んで理解することが重要                                                                                      | イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。<br>(1)読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため取り上げる中心となる語や文も変化してくる<br>(2)中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして内容を整理する<br>(3)「イ言葉の特徴やよきまりに関する事項」(カ)と関連付け、指示語や接続語、文末表現に注意して読ませる<br>(4)事実と意見の区別、記述の仕方の違いに気付かせる<br>①事実＝現実の事象や出来事、科学的事実、社会的・歴史的事実、直接経験した事実、間接的な事実<br>②意見＝断定的な意見や推論による不確実な意見、助言や勧告、提案、私的な見解と公的な見解<br>(5)事実と意見との関係を考えることは、段落相互の関係をとりえるとともに、段落の内部においても必要<br>(6)事実に対して、意見を表す語句、文、段落を取り出し、これを関係付け、筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、どのような考えや意見を述べようとしているのかをとらえることが重要 | ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読みとらえること。<br>(1)要旨＝書き手が取り上げている内容の中心となる事柄、書き手の考えの中心となる事柄<br>(2)前段＝目的に応じて、求められている分量や表現の仕方にあわせてまとめる<br>(3)内容を的確に押さえるためには、話題、理由や根拠、構成の仕方や巧みな叙述に注意する<br>(4)後段<br>①筆者の意図や思考(どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているか、どのような感想・意見・判断・主張を行い、自分の考えを論証したり説得したりしようとしているのか)を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしておくこと<br>②自分の知識や経験、考えなどと関係付ける<br>③自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読む<br>(5)「B書くことウ」と関連付けて指導すると効果的 |
| 文学的な文章の解釈 | ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。<br>(1)物語の基本的な構成要素<br>①時間や場所<br>②問題状況などの設定<br>③情景や場面の様子の变化<br>④主人公などの登場人物<br>⑤登場人物の性格や行動<br>⑥会話及び心情の変化<br>⑦事件の展開と解決<br>(2)全文<br>①物語の展開に即して各場面の様子の変化したり、<br>②中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握した上で、<br>③その様子を豊かに想像しながら読むことを意味している | ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。<br>(1)場面の移り変わりに注意しながら読む＝各場面の様子に気を付けながら場面と場面とを関係付けて読む<br>(2)登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて読む＝登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格を押さえ、登場人物同士の関係、登場人物の役割などを考えながら、それらの人物像を中核に読む<br>(3)「イ言葉の特徴やよきまりに関する事項」(カ)と関連付けて、登場人物の気持ちをとらえることが大切<br>(4)叙述を基に想像して読む<br>①フィクション(虚構)の世界が描かれている物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読むこと<br>②それぞれの登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話から関連的にとらえる<br>③自分を取り巻く現実や経験と照らし豊かに具体的に感じ取ったり、感想や感動を大切にしたりする                                 | エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。<br>(1)前段<br>①登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえ、そのことで、内面にある深い心情をとらえる<br>②登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通した暗示的な表現の仕方から、想像豊かに読む<br>(2)後段<br>①場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめる<br>②象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付き、評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文にまとめる<br>(3)優れた叙述⇒同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むことで、優れた叙述に気付くよう工夫<br>(4)「イ言葉の特徴やよきまりに関する事項」(カ)と(ケ)などと関連させて指導すると効果的                            |

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>自分の考えの形成及び交流</p> | <p>本や文章を読んで感じたことや思ったこと考えた事などを一人一人の児童がまとめ発表し合う指導事項</p> <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。<br/>オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。</p> <p>(1)大事な言葉や文を書き抜く<br/>時間や事柄の順序、場面の様子や登場人物の行動、文章の要点やあらすじなどにかかわって、<br/>①文章の中で大事な言葉や文、<br/>②自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文、<br/>③思いや考えを表現するために必要となる言葉や文などを、適切に書き抜くということ<br/>(2)書き抜いた言葉や文について、感じたこと経験したこと、思ったことや考えたことを書き添えたり、それらの言葉や文を関連付けて整理したりすることが大切<br/>(3)書き抜いたものに書き足したり、書き換えたりして、整理することへ発展させることも考えられる<br/>(4)文章の内容と自分の経験を結び付ける＝本や文章の内容や構成を自分の知識や経験、読書体験と結びつけて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりすること<br/>(5)自分の思いや考えをまとめ＝本や文章の内容や構成に対する児童一人一人の思いや考えを明確に書きまとめること<br/>(6)発表し合う<br/>①互いの思いを分かち合う ②感じ方や考え方を認め合う<br/>③読みの世界を広げる ④話し言葉による発表<br/>⑤書き言葉で表したものを読み合う ⑥劇で演じる<br/>(7)児童一人一人が自分の思いや考えをもてる工夫<br/>○本や文章との関連を考えながら、現実的な経験や読書体験を十分想起できるようにする<br/>(8)発表は、共感的な態度で受容する雰囲気をつくる配慮が必要<br/>(9)読む目的に照らして読書生活を振り返りにより、どのような読む力を身に付けたか確かめ、読書生活に生かす態度を養う必要</p>                                                                                                                                                                  | <p>エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。<br/>オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>(1)目的や必要<br/>①自分の考えや感想を高める ②調べたことを報告する ③紹介する<br/>(2)文章の要点や細かい点に注意する<br/>○自分の考えや感想を組み立てる場合に、<br/>①文章の中心となる大事な事柄、<br/>②読み手がそのような考えや感想をもつようになった理由、<br/>③事例として挙げられている事実、<br/>④人物や情景の描写などの表現の細かい点に注意しながら読むことを大切にすること<br/>(3)引用<br/>①本や文章の一節や文、語句などを引くこと<br/>②引用の仕方(「 」でくくる) ③出典を明示する<br/>④適切な量 ⑤著作権を尊重し保護する<br/>⑥引用したことに自分の思いや考えを書く<br/>⑦文章の表現や情報、図表やグラフ、絵や写真も含む<br/>(4)要約<br/>①目的や必要に応じ、話や本、文章を短くまとめる<br/>②元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめる<br/>③自分の言葉で短くまとめる<br/>④要約するときの目的や必要に応じて元の文章のどの部分を取り上げるかが変わってくる<br/>⑤目的を明確にし、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考え、要約する経験を重ねることが重要<br/>(5)一人一人の感じ方が違うことを大事にしながら、学級全体で読書を楽しんだり進んで読書しようとしたりする態度を養う<br/>(6)「A話・聞のイヤエ、オ」「B書のウヤカ」と関連させる</p>                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>(1)本や文章を読んで考えたことを発表し合い<br/>①多様な本や文章を読み、目的に応じて報告や意見、解説や新聞の記事、推薦などの文章として考えをまとめ発表し合う<br/>②話し言葉による発表と交流だけでなく、書きままとめたものを読み合う交流も含まれる<br/>③感想文集などにまとめた後、読書発表会などをしたりする言語活動に結び付けて考えることが大切<br/>(2)自分の考えを広げたり深めたりする<br/>①共通の課題、一人一人に応じた課題について学習しながら、考えを広げたり深めたりすること<br/>②選択した課題、解決のための読み方、まとめた考えについて、互いの違いを認め合う雰囲気をつくり、積極的に自分の考えをまとめ、発表し合うことの意義を感じ取るように工夫することが大切</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>目的に応じた読書</p>     | <p>カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。</p> <p>(1)低学年においても、読む目的を意識して本や文章を選び、読書活動に関する見通しをもって取り組ませる必要がある<br/>(2)入門期においては、易しい読み物の読み聞かせやストーリーテリングなどを通して、読書に興味をもつようにすることが考えられる</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。</p> <p>(1)目的<br/>①楽しむ ②調べる ③読みたい内容を絞って読む<br/>④書き手を絞って読む<br/>(2)読書の範囲を広げる<br/>①学校図書館などの施設の利用方法を学ぶ<br/>②図書を紹介するブックトークなどの活動や読書案内、新刊紹介などを積極的に利用する態度を養うことが必要<br/>③友達同士で面白かった本の紹介をし合ったり、同じ題材の本を交換して読んだりするなど、学級の読書生活を豊かにすることが大切<br/>(3)難解語句に出合うことが多くなるので、「言葉の特徴やまじりに関する事項」(カ)との関連を図る</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>力 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p> <p>(1)複数の本や文章＝同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ書き手の本や文章のこと<br/>(2)適切な本や文章を選ぶ<br/>①学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識、情報モラルを見につけさせることが求められる<br/>②十進分類法の概略や本の配置についての知識、索引の使い方、事典などの特色などを知っておくことが必要<br/>③図書館、資料館、博物館等の内容について知り、どこに行けばどのような資料が入手できるのか、どのような観点から必要な情報を探るかといった知識を身に付ける必要がある<br/>(3)比べて読む＝様々な違いを発見する喜びを知り、知識や情報を豊かにしたり、読書の範囲を広げたり、多読の意義や楽しさを実感させる<br/>(4)日常的な読書生活の構築<br/>①新聞や雑誌、パンフレット、インターネットなど、様々な資料を活用できるよう工夫する<br/>②国語辞典中心から各種の事典へ、本や情報を検索するメディアの活用を身に付けさせる<br/>③読書環境を整備して児童の読書生活を高める</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>言語活動例</p>        | <p>ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。<br/>イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。<br/>ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。<br/>エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。<br/>オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。</p> <p>(1)本や文章を読書の対象として取り上げる言語活動<br/>①一つの文章を読むだけでなく、科学的な読み物や物語集、絵本などを問わずに読むことを求めている<br/>②想像豊かに読むことが必要<br/>③音読発表会や感想の交流会などを通して交流し合う読書活動も有効<br/>(2)物語を読み聞かせてもらったり、劇にしたりする言語活動<br/>①読み聞かせは、語り手の声そのもの、声の大小、速さ、間の取り方、表情などに触れて、文字などの抵抗なしに文学作品の世界に浸ることができ<br/>②読み聞かせによって、音読する楽しさを知り、自分でも読み聞かせや、身振り手振りを伴った簡単な劇活動を行いたいと思うようになる<br/>③役割を決めて読んだり、人形劇、音読劇、紙芝居などの活動へとつなげていく<br/>④「A伝統的な言語文化に関する事項(7)」と関連させる<br/>(3)事物を取り上げ、仕組みを説明した本や文章を読む言語活動<br/>「A話・聞(2)ア」や「B書(2)ウ」と関連させて指導すること<br/>(4)感想を書く言語活動<br/>①日常生活の中で自分が疑問に思っていることや興味のあること、今までの学習経験や読書経験との関連、本や文章を読むことになったきっかけと結び付けて読むことが必要<br/>②「心に残る」「すばらしい」「よく分かる」などの感想を表す言葉の指導を行い、自分の思いや考えを明確に表現できるようにする<br/>(5)人に紹介することによって自分の思いを深める言語活動<br/>①紹介する相手と、本を読みたい気持ちや共有して読書の輪を広げる(紹介の内容は好きなところが中心)<br/>②「一人て読める」「面白くてつまらない」などの言葉表を配布したり<br/>③実際の本の紹介文、本の帯(モデル)などを示したりして、紹介文の書き方の要素を見付け出させるなど自らの気付きを大切にしたい学習が進められるようにする</p> | <p>ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。<br/>イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。<br/>ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。<br/>エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。<br/>オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。</p> <p>(1)文学的な文章を読み、感想を述べ合う言語活動<br/>①一冊の本だけでなく、同じ主人公や作家、詩人のシリーズ、ファンタジーのシリーズなど、物語集や詩集などにも読書範囲が広がるようにする<br/>②「感激する」「上手に説明している」などの感想を表す言葉を増やすことが求められる<br/>③感想がどの叙述に基づいているのか、自分が経験したこと、普段考えていることや関心のあることなど、どのように関連しているのかなどを説明することも必要<br/>④自分の感想が、友達との感想と比べてどのような特徴をもつのかを認識させていくことが大切<br/>(2)記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する言語活動<br/>①課題を解決しようとするために必要な本や文章である<br/>②本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導する<br/>(3)説明的な文章を読み、内容や表現の仕方について感想をまとめ交流する言語活動＝記述や説明から、目的や必要に応じて知識や情報を選択すること、表現の仕方に注目すること、以前に読んだ本や文章と比べて、自分のもっている知識や情報、現実などと結び付けたりして、自分の考えを深めることなどが重要<br/>(4)紹介したい本を取り上げて紹介する言語活動<br/>①紹介するにふさわしい理由を十分説明することが必要<br/>②選んだ本の内容や構成全体をよく理解することが欠かせない<br/>③必要な文や語句を書き抜いたり、要約したり引用したりなどの準備が欠かせない<br/>④本を提示したり、要約や引用した部分のページをめくって見せたり、音読したりするなどして、紹介が効果的に行われるよう工夫する<br/>(5)必要な情報を得るために、関連した本や文章を読む言語活動＝疑問や課題を解決するためには、一つの本や文章だけでは解決できないこともあり、関連する本や文章を併せて読む必要</p> | <p>ウ 本を読んで推薦の文章を書くこと。</p> <p>(1)伝記を読み、自分の生き方について考える言語活動<br/>①伝記に描かれた人物の行動や生き方と、自分の経験や考えなどの共通点や相違点を見付け、共感するところや取り入れたいところなどを中心に考えをまとめることが大切<br/>②伝記(偉人伝、史伝)には、文学的な描写や事実の記述や説明の表現が用いられる＝随筆と表現方法に共通性がある<br/>(2)自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する言語活動<br/>①意見を述べた文章や解説の文章など＝本以外にも、新聞、雑誌、地域の情報誌などに掲載された意見、論説、報道、解説、テレビ・ラジオ番組の意見や解説などを利用する<br/>②意見や解説の文章は、書き手の立場や考え方が強く反映しているため、それらに注意して読み、自分との相違点などに注意して利用することが重要<br/>(3)編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む言語活動<br/>①編集＝活字や図、写真などの大きさや行数、割付<br/>②記事＝見出し(結論)、リード、本文、の逆三角形<br/>③記事＝報道記事、社説、コラム、解説などの特徴の理解<br/>(4)本を読んで推薦の文章を書く言語活動<br/>①自分の目的とともに相手の目的も考慮し、どのような本を取り上げるのか、何を主に推薦するのかを決める必要<br/>②本の特徴をとらえて推薦する<br/>③本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦の言葉などに注意して叙述の言葉を整える<br/>④本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについて調べたりすること大切<br/>⑤推薦の方法<br/>・本の帯、ポップ、ポスター、読書郵便、リーフレット、パンフレットなど</p> |

指導系統表の整理例 中学校 [C 読むこと]

|          | 第1学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 第2学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 第3学年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標       | (3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | (3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方について注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | (3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|          | (1)前段＝読む能力、後段＝読書態度（全学年共通）<br>(2)目的や意図に応じ＝読むことで何を得て、どう活用するのという意識をもち、内容や形態に応じて読む（全学年共通）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|          | (3)様々な本や文章などを読む＝内容、形態ともに多様な文章、社会生活で触れる様々な種類の文章を読む<br>(4)内容や要旨を的確にとらえる能力＝文章全体を概括したり細部の表現に注意したりしながら読み、内容について自分の考えをもつ<br>(5)読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度＝読書によって新しい知識や情報を得たり文学を味わったりすることで、自分のものの見方考え方を広げようとする                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | (3)文章の内容や表現の仕方について注意して読む能力＝文章の内容や表現の仕方について、自分の考えをもちながら読む<br>(4)広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力＝実際の社会生活に即して目的や意図に応じて情報を収集し活用する能力<br>(5)読書を生活に役立てようとする態度＝読書で得た知識や広げることのできたものの見方や考え方を、実際の生活に役立てる＝多様な本や文章などを読むことを通して、生活を豊かなものにしていく                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | (3)文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む＝内容を分析したり表現の仕方を批評したりして読む＝文章の内容や形式などの価値を判断し、自らの目的や意図に応じて活用する能力が求められる<br>(4)読書を通して自己を向上させようとする態度＝生涯にわたって読書に親しんでいくために必要な態度の育成をめざしたもの                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 語句の意味の理解 | ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。<br>(1)文脈の中における語句の意味＝語句の一般的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて、文脈の中における具体的、個別的な意味をとらえる⇒文章を的確に解釈することにつながる<br>(2)文脈の中で、どのように的確にとらえ、理解するかに重点を置いて指導する（第1学年、第2学年）<br>(3)「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)、(ウ)との関連を図って指導することが効果的                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。<br>(1)抽象的な概念を表す語句については、辞書を活用するなどして、論の展開を追いながら理解することが大切<br>(2)心情を表す語句については、読み手自身の体験や読書経験を生かしながら理解することが大切<br>(3)文脈の中で、どのように的確にとらえ、理解するかに重点を置いて指導する（第1学年、第2学年）<br>(4)「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」(イ)との関連を図るようにする                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。<br>(1)文章中に使われる語句は、書き手の立場や意図、感情などを反映している<br>(2)文脈における語句の効果的な使い方、表現上の工夫＝語句の選択や配列など書き手が行う表現上の工夫に注意して読むことが大切<br>(3)語句の用い方がどのような効果を生んでいるかに目を向けさせる（第3学年）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 文章の解釈    | イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。<br>ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。<br>(1)説明的な文章の特徴<br>①論の展開の中心となる部分と例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり<br>②事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりする<br>(2)段落ごとに内容をとらえたり、段落相互の関係を押さえたり、意味段落の役割をとらえさせることが大切<br>(3)要約したり要旨をとらえたりする活動は、目的や必要によって内容や方法が異なる<br>(4)文学的文章の解釈<br>①言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読むことが必要<br>②文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進めることが大切                                                                                                                                                                 | イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。<br>(1)文章全体と部分との関係<br>①各段落が文章全体の中で果たす役割、<br>②叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているかなどを考えながら読む<br>(2)例示の効果<br>○具体的な例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考えることが重要<br>(3)描写の効果<br>○情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果について考えることが重要<br>(4)登場人物の言動の意味<br>○登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようなかわっているかを考える⇒文章の理解を深める                                                                                                                                                                                                                | イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。<br>(1)文章の論理の展開の仕方<br>①主として説明的な文章を想定しているが、文学的文章も含んでいる<br>②文章の論述の過程には、書き手のものの見方や考えの進め方が表れている<br>⇒書き手の論理の展開についての意図をとらえる＝文章の内容を的確に理解することができる<br>(2)場面や登場人物の設定<br>○作品の展開や内容は、場面や登場人物の設定と深いかわりがある<br>⇒これらの要素をとらえることで、文章全体への理解が深まる                                                                                                                                                                                                                                               |
| 自分の考えの形成 | エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。<br>オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。<br>(1)構成や展開<br>①文章の組立や作品の場面を静的にとらえて構成を理解するだけでなく、<br>②文章を思考の流れや登場人物の心情の変化に沿って動的にとらえて展開を把握する<br>(2)表現の特徴<br>①説明、評論、物語、詩歌等、文章の種類による叙述の特徴<br>②手紙、案内等の様々な形態の文章も取り上げることが大切<br>(3)自分の考えをもつ<br>①文章について印象をもつことにとどまらない<br>②様々な形態の文章の構成や展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつこと<br>(4)自分のものの見方や考え方を広げる＝読み手として、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりすること<br>(5)書き手のものの見方や考え方<br>①説明的な文章＝文章に直接書かれていたり、文章全体を通して表れていたりする<br>②文学的文章＝語り手の言葉、登場人物の言動、情景の描き方などに表れている | ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。<br>エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。<br>(1)表現の仕方<br>①書き手の目的や意図、その効果についても考えさせることを想定している<br>②文章類型（口語体と文語体、常体と敬体、和文調の文体と漢文調の文体）<br>③叙述にかかわる表現全般（簡潔な述べ方と丁寧な述べ方、断定的な述べ方と婉曲な述べ方、中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係、描写の仕方や比喩の用い方）<br>(2)根拠を明確に<br>①自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げる<br>②書き手の目的や意図との関連を考えさせることが重要<br>(3)知識や体験と関連付ける<br>①好悪などの感想にとどまらず、<br>②知識や体験と結び付けて賛否を明らかにしたり、<br>③問題点を指摘したりするなど、<br>具体的なものに基づいて考えを形成する<br>(4)自分のものの見方や考え方を深める<br>①書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして、<br>②読み手が自分の問題としてとらえることが重要 | ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。<br>エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。<br>(1)文章を読み比べるなどして、<br>○一つの文章では気が付かなくても、複数の文章を比較しながら読むことで、構成や展開、表現の仕方等の違いが分かってくる<br>(2)構成や展開、表現の仕方について評価する<br>①評価する対象（教科書や本などの掲載された文章、新聞や広告、パンフレットやポスターなど）<br>②書き手の意図と表現の仕方とのかわりや考えを<br>③自分が文章を書く際に役立てることにつなげていく<br>(3)文章を読んで、人間、社会、自然などについて考え<br>①様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせること<br>②このような学習から確かな思想が形成され、豊かな心情が養われ、人間としての成長が期待される<br>(4)意見をもつ<br>①ある事柄について自分の立場や根拠を明確にした考えをもつこと<br>②文章全体を受けて自分の意見をもつことを求めている |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>読書と情報活用</p> | <p>カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。</p> <p>(1)必要な情報を集めるための方法を身に付けるとともに、身に付けた方法の中から適した方法を自ら選択し、目的に合った複数の資料を集め、集めた資料から必要な情報を読み取ることを求めている</p> <p>(2)必要な情報を集めるための方法</p> <p>①必要な情報があるかどうかを、本の表題、目次、索引等から判断したり、</p> <p>②新聞の紙面構成等に基づいて、必要な部分を探して読んだりするなど、資料の特性を生かした読み方をする</p> <p>③様々な資料の形式について理解することや、</p> <p>④読む目的や対象によって読み方が変わるということを理解することが大切</p> <p>(3)目的に応じて必要な情報を読み取る</p> <p>①必要だと思った部分に印を付したり、</p> <p>②必要な部分を書き抜きしたりしながら読み進める</p> <p>③一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなどの様々な読み方を学習活動に取り入れる</p> <p>④本や文章を目的に応じて的確に読み進める活動を通して、読書の範囲を広げ、手に取る本や文章などの質を向上させることも重要</p> <p>⑤集めた資料を使用する際には、著作権にも十分留意させる</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。</p> <p>(1)多様な方法</p> <p>①学校図書館や地域の図書館</p> <p>②公共施設</p> <p>③コンピュータ</p> <p>④情報通信ネットワーク</p> <p>それぞれの特徴を生かした情報収集の仕方について指導する必要がある</p> <p>(2)適切な情報</p> <p>①真偽や適否を見極める</p> <p>②目的に応じて整理したり分類したりすることが大切</p> <p>③情報を収集し整理する過程で自分の考えが明確になっていく</p> <p>(3)自分の考えをまとめる</p> <p>①得た情報をどのように引用すればよいかを考えさせることなどを指導することが大切</p> <p>(4)幅広く読書活動を行うことの意味を一人一人に実感させ、日常生活の中で必要に応じて自ら読書をすすめていくことのできる自立した読み手を育成することが重要</p> <p>(5)「A話すこと・聞くこと」と「B書くこと」における取材の指導と関連を図ることが重要</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。</p> <p>(1)本や文章を読む目的</p> <p>①ある事柄についてもっと深く知ること</p> <p>②課題について探究するために適切な情報を得ること</p> <p>③教養を身に付けること</p> <p>④余暇を充実させること</p> <p>(2)知識を広げたり、自分の考えを深めたりする</p> <p>①書き手のもの見方や考え方と自分のもの見方や考え方を対比させて新しい考え方を知ったり、</p> <p>②自分の考えを再構築したりすることが大切</p> <p>(3)新たな知識や考えが次の読書に結び付いていくことを実感させる</p> <p>①興味をもった作家の複数の作品を読み味わったり、</p> <p>②幅広い分野の文章を読む機会をもったりするなどの指導が考えられる</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>言語活動例</p>   | <p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。</p> <p>イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</p> <p>ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。</p> <p>(1)様々な種類の文章を音読したり朗読したりする言語活動</p> <p>①相手に分かるように正確に音読したり、</p> <p>②作品の形態や特徴を生かしながら朗読したりすることを通して、</p> <p>③文章の理解を一層深める活動を行う</p> <p>(2)文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読む言語活動</p> <p>①図表が文章の内容をわかりやすくするために使われている場合</p> <p>②文章が図表の解説になっている場合</p> <p>③図表が文章の中心的部分、付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認させる</p> <p>④書き手の伝えたい内容を的確に読み取らせる</p> <p>⑤「B書くこと」(2)イと関連させて指導することが効果的</p> <p>(3)課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する言語活動</p> <p>①課題に沿って本を読む</p> <p>○疑問に思っていることや解決したいことに資する本を読む</p> <p>○書評や広告を見て、気になっている本や面白そうだなと思った本を読むなど、生徒一人一人の読書生活によるものを含んでいる</p> <p>②引用して紹介する</p> <p>○他人ともの見方や感じ方に違いがあることを学んだり、新しい発見をしたりするなど、考えの広がりや深まりを生む授業が展開できる</p> <p>○表現方法</p> <p>・本の帯や広告カード(ポップ)作り、ブックトークなどが考えられる</p> <p>○引用の際</p> <p>・「」でくくる</p> <p>・出典を明示する</p> <p>・引用部分が適切な量であること</p> <p>・著作権の尊重と保護</p> | <p>ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。</p> <p>イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</p> <p>ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p> <p>(1)詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流する言語活動</p> <p>①作品に表れている登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて感想をもち交流するようにする</p> <p>②交流を前提とすることで、感想の対象となった部分や表現の特徴を指摘するなど、自分の感想を具体的に考えるようになる</p> <p>(2)説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動</p> <p>①「説明」＝事実や事柄について何かを解き明かしたり解説したりする文章</p> <p>②「評論」＝物事の善し悪しや価値等について書き手の考えを述べた文章</p> <p>③書き手のもの見方考え方をとらえることで、読み手自身のもの見方や考え方を豊かなものにしていくことができる</p> <p>④書き手のもの見方考え方がどのように表されているかなど、表現の仕方について考えさせることも重要</p> <p>⑤書き手の工夫がみられる表現、書き直した方がよいと思われる表現について、根拠を具体的に挙げながら検討することが重要</p> <p>⑥視点を変えて文章を書き換えさせるなど、内容や表現の仕方について理解を促す工夫も考えられる</p> <p>(3)新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較する言語活動</p> <p>①新聞、雑誌、コンピュータ、情報通信ネットワーク、学校図書館などから得た情報を比較することにより、情報手段や施設の特徴及び情報の特徴について考えさせる</p> <p>②その上で、得た情報を自分の考えの根拠にしたり具体例として取り上げたりすることが考えられる</p> | <p>ア 物語や小説などを読んで批評すること。</p> <p>イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。</p> <p>ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。</p> <p>(1)物語や小説を読んで批評する言語活動</p> <p>①「批評」＝対象とする物事や作品などについて、よさや特性、価値などについて論じたり、評価したりすること</p> <p>②文章を主観的に味わうだけでなく、客観的、分析的に読む力が求められる</p> <p>③語句や描写について、その意味や効果を評価しながら読むことが大切</p> <p>④分析する力を高めるには、同じ作家による複数の作品、類似したテーマの作品を読み比べることが考えられる</p> <p>(2)論説や報道の情報を比較して読む言語活動</p> <p>①「論説」＝物事の是非を論じる文章</p> <p>②書き手が、どのような立場からどのような論を展開しているかを読み取ることが大切</p> <p>③「報道」＝新聞や雑誌等の文章を想定</p> <p>④起こった出来事をとらえ、それについて書き手がどのように報道しているかを読み取ることが大切</p> <p>(3)自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考える言語活動</p> <p>①どんな本に興味をもち読んできたのか、</p> <p>②読んでいない分野は何か、</p> <p>③今後はどんな本を読みたいのかなど、読書生活全体を取り上げて授業を展開すると効果的</p> |

指導系統表の整理例 高等学校 [C 読むこと]

|          | 国語総合                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 現代文B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 古典B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目の目標    | <p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p> <p>(1)小学校及び中学校国語の目標を受け継いでいる</p> <p>(2)前段</p> <p>①国語による表現と理解の能力の育成(「国語総合」の基本的な役割)</p> <p>②人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力=伝え合う力を高める(「国語総合」の中心的なねらい)</p> <p>(3)後段</p> <p>①思考力や想像力の伸長</p> <p>②豊かな感性や情緒(他人を思いやる心や感動する心)</p> <p>③言語感覚</p> <p>④表現の効果について適切に判断する能力</p> <p>⑤言語文化への関心</p> <p>⑥国語を尊重し、国語の向上を図る態度</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1)総合的な言語能力を育成する科目としての性格を一層明確にした</p> <p>(2)前段</p> <p>①教科の目標とは逆に、「的確に理解」するを、前に置いているのは、読むことを中心とする科目であることを示すため</p> <p>②文章を理解することは、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それについて思考したり、想像したり、批評したりする活動であり、それには表現活動を伴うことが多い</p> <p>(3)理解と表現の能力を高める⇒日常的に、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するために必要不可欠なこと</p> <p>(4)進んで読書する=小学校、中学校及び「国語総合」と一貫して「C読むこと」の領域を中心に、その指導を重視している</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。</p> <p>(1)教科の目標を主として読むことの中で受ける</p> <p>(2)古典は、適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべきものであり、そのためには、それを読む能力が求められる</p> <p>(3)古典に表れている、人間、社会、自然などに対する、ものの見方、感じ方、考え方には、現代と共通するものがあるとともに、古文には古文特有の、漢文には漢文特有のものもある。それらの様々なものの見方、感じ方、考え方を、古典についての解説や随筆なども必要に応じて参考にしながら、的確に読み取ることを通して、思考力や想像力を伸ばし、豊かな感性や情緒をはぐくむことにより、人間としての資質の形成に資することをねらいとしている</p> <p>(4)自己の内面を見つめ発展させ、人生をより豊かにしていくこととする態度を育成する</p> <p>(5)古典は、先人が何を考えたのか、いかに生きたのかということを教えてくれる</p> |
| 表現に即した理解 | <p>ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。</p> <p>(1)語句の効果的な使い方のみならず、幅広く内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むことへ発展</p> <p>(2)内容についての理解と表現についての理解とが相まって、初めて深い理解に到達する</p> <p>(3)形態とは</p> <p>①文学的な文章=詩歌、小説、随筆、戯曲など</p> <p>②論理的な文章=説明、論説、評論など</p> <p>③実用的な文章=記録、報告、報道、手紙など</p> <p>(4)表現の特色(例:小説)</p> <p>①長編小説か短編小説か、書かれた時代、による違い</p> <p>②描写や会話などにおける書き手の工夫=表現技法(比喩、反復、倒置)、感覚的な語句や表現の使用、文の長短など</p> <p>③文章の種類や類型=文語体と口語体、和文体と漢文体と翻訳文体、散文体と韻文体、常体と敬体など</p> <p>④書きぶり=簡潔な表現と丁寧な表現、断定的な表現と婉曲的な表現など</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。</p> <p>(1)古典の内容や表現の特色を理解して読み味わう</p> <p>①文章の修辞、文体などの表現の仕方の特徴をとらえ、</p> <p>②思想や感情などがどのように表現されているかを理解し、</p> <p>③巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調などを味わうこと</p> <p>(2)作品の価値について考察する⇒古典の原文のみならず、古典についての評論文なども活用して、古典の普遍的価値や、その作品が古典として現代まで読み継がれてきた意味について考えることが大切である</p>                                                                                                                                                                                                                |
| 文章の解釈    | <p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</p> <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</p> <p>(1)叙述に即して的確に読み取る</p> <p>○読み取りが恣意的なものとならないよう、文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを、間違いないく、過不足なく理解すること</p> <p>(2)必要に応じて=読み手の読む必要に応じて</p> <p>(3)要約</p> <p>①文章の要点を押さえながら短くまとめること</p> <p>②文章全体の要約が必要なのか、特定の項目に関してまとめる必要があるのかなど、目的に応じて要約の仕方は異なってくる</p> <p>(4)詳述</p> <p>①文章の難解な部分、含蓄のある部分などを詳しく説明したり解説したりすること</p> <p>②抽象的な事柄を、具体例を示しながら分かりやすく説明すること</p> <p>③同じ文章の中から、関連する表現や内容を取り上げて説明すること</p> <p>(5)読み味わう(対象:主に文学的な文章)</p> <p>①人物(だれが)、場面(いつ、どこで)、出来事(何を、どうした)などが、どのように設定され、どのように描かれているかを把握する</p> <p>②何が書いてあるか、どのように書いてあるか、なぜこのように書いてあるかにまで迫ることが大切</p> <p>(6)人物</p> <p>○行動、性格、その人物のものの見方、感じ方、考え方、生き方、心情の変化、人物相互の関係の変容を読み取る必要がある</p> <p>(7)情景=場面や自然の風景</p> <p>①人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されることが多い</p> <p>②人物の言動、置かれている状況を理解する手掛かりとなる</p> <p>(8)心情=人物の心的状況</p> <p>○自らの生き方と重ね合わせ、人物に対して共感したり反発したりする中から、想像力、豊かな心情や感性が養われていく</p> <p>(9)表現に即して</p> <p>①読み取りが恣意的なものとならないよう、文や文章、語句から離れない</p> <p>②内容のみならず、言葉の美しさや深さを発見し、それに感動することができる</p> <p>③自らの文章表現を豊かにし、国語を尊重し、その向上を図る態度を育成していくことにつながる</p> <p>(10)特に避けたいこと</p> <p>①指導者の説明を通して生徒に文章に理解を促すというような指導=生徒は、文章を主体的に読むのではなく、説明された内容を知識として覚えることになりやすい</p> <p>②あまりにも細部を分析的に読むことに偏ると、文章全体の味わいを損なうことになる場合もある</p> | <p>ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。</p> <p>イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。</p> <p>(1)構成、展開を的確にとらえる</p> <p>①その文章はどのような題材に関して述べ</p> <p>②材料としてどのようなものを選び、</p> <p>③どのように組み立て、</p> <p>④どのような筋道で考えなどを述べているのかを間違いないく把握すること</p> <p>⇒文章の組み立てをたどりつつ、書き手や文章中の人物のものの見方、感じ方、考え方を追究することが、生徒の思考力や想像力の伸長につながる</p> <p>(2)構成、展開を的確にとらえる(論説や評論)</p> <p>①「序論一本論一結論」の三段構成で論述されている場合、文章のどの部分がそれに当たるかを明らかにし、序論から本論、結論にかけてどのように論が展開しているかを把握する</p> <p>②文章の中心となる主要な論点と、具体例、説明、補足、反証などを述べる従属的な論点とがある</p> <p>⇒主要な論点と従属的な論点とを判別し、その関係を押さえ、主要な論点を的確に読み取る</p> <p>(3)構成、展開を的確にとらえる(小説)</p> <p>○書き出しから結びに至る文章の骨組みをとらえ、その上で、場面や人物などの設定が、その後の話の推移にどのように有機的にはたらいっているかを把握する</p> <p>(4)論理性を評価する</p> <p>①論理=考えの筋道の通し方</p> <p>②論理性を評価する=文章の構成や展開の有り様や、それが、要旨などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じること</p> <p>(5)書き手の意図を的確にとらえる</p> <p>①文章に表れている書き手の思考の進め方に着目し、</p> <p>②書き手の考えや強調点を読み取る</p> <p>③文章の内容に表れている書き手の考えのみならず、</p> <p>④なぜ、この文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということも含まれる</p> <p>(6)人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる</p> <p>①書き手によって設定され、表現された人物の状況、</p> <p>②その人物が行動する場面の情景、</p> <p>③人物の心情の推移などを間違いないく把握することが大切</p> <p>(7)表現を味わう</p> <p>①書かれている内容だけでなく、</p> <p>②それらの内容がどのように書かれているのかなどという点にも着目し、</p> <p>③叙述が醸し出すものを味わうこと</p> <p>④他の表現と置き換えた場合と比較してその効果を確認したり、ひたすら読み浸ったりするなどして表現を味わうことが大切</p> | <p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。</p> <p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。(再掲)</p> <p>(1)構成や展開に即して</p> <p>①内容や要旨を本文の叙述を離れて観念的にとらえたり、部分にこだわり生徒が読みを狭めたりすることがないように</p> <p>②語句の意味の理解や、文の解釈が中心になりがちであるが、表面的な意味をとらえることに終わらせず、内容の理解の上で、ウ以下の指導事項を重視した学習活動を展開することが、学習意欲を高めるためには大切</p> <p>(2)的確にとらえる</p> <p>①古典Bにとって大切な指導事項</p> <p>②内容を間違いないく把握するためには、文脈や段落相互の関係を押さえ、文章の構成や展開を正しく読み取る必要がある</p>                                                                                                                |



|                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>考<br/>え<br/>の<br/>形<br/>成<br/>・<br/>読<br/>書<br/>・<br/>情<br/>報<br/>活<br/>用</p> | <p>エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。<br/>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p> <p>(1)内容や表現の仕方について評価する<br/>①その価値、優劣、是非などを判じること<br/>②規準や根拠を明確にするなど、客観的に文章の内容や表現の仕方について判じることが大切<br/>③その結果を自分の表現に生かすなど、目的や意図に応じて活用することも必要</p> <p>(2)表現の仕方＝中第2学年「C読むことウ」<br/>(3)書き手の意図をとらえる<br/>①文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、<br/>②書き手の考えの強調点を読み取り、<br/>③なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということにまで迫ること</p> <p>(4)幅広く本や文章を読む<br/>①文章の形態（文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章）<br/>②内容や分野（芸術的、社会科学的、自然科学的）<br/>③本や文章を手に入れる方法や場（図書館、ウェブページ）</p> <p>(5)情報を得て用いる（その過程にかかわる指導が必要）<br/>①適切な情報源の選択<br/>②得た情報の評価<br/>③目的に応じた適切な加工</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>ア 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。（再掲）<br/>イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。（再掲）<br/>ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。</p> <p>(1)文章を読んで批評する<br/>①相反する立場で書かれた文章や評価の異なる文章などと読み比べ、<br/>②物事を多角的に見て考え、<br/>③それについて論じたり、評価したりする<br/>④社会人として読むことになる文章は多種多様であり、その評価は読み手に委ねられる</p> <p>(2)人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする<br/>①文章から得た様々な知識や思想及びその文章からもたされた感動などを通して、自分自身の感じ方や考え方をより深めたり広げたりしつつ、自分の生き方について考えること<br/>②文章を読むことは、単に文章から一方的に知識や情報を受け取るという受け身の活動ではない<br/>③文章に表れた、ものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察することを通して、生徒の人間観、社会観、自然観などを確立することが大切</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。（再掲）<br/>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。（再掲）<br/>ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>(1)古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる<br/>①古典には、書かれた時代や環境の違いによって、書き手や文章中の人物の「人間、社会、自然などに対する思想や感情」が様々な表現されている<br/>②現代にも通じ、生徒からみて共感できるものや、逆に、違和感を覚えたり理解が難しかったりするものがある<br/>③優れた洞察力や創造性に感動するものなどがある</p> <p>(2)古典の指導においても、生徒の思考力や想像力、判断力を伸ばし、心情を豊かにして、人間形成に資することが大切</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>言<br/>語<br/>活<br/>動<br/>例</p>                                                 | <p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。<br/>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。<br/>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。<br/>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。<br/>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。<br/>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。<br/>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。<br/>イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。<br/>ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。<br/>エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                  | <p>(1)脚本にしたり、書き換えたりする言語活動<br/>①翻案をする言語活動において、文章を自分の知識、思考、体験などと照合させながら繰り返して読むことは、読み手の認識の変容を促すとともに主体的な読みの確立につながる<br/>②脚本にするとは、自分が読み取った、人物、情景、心情などを、せりふと書きによって描き出すことである<br/>③脚本にする前提として、戯曲に触れている必要がある<br/>④古典を現代の物語に書き換える過程では、古典の言葉と現代の言葉との関係を意識したり、古典の書き手や文章の人々、現代の人々との共通点や相違点を考えたりすることができる<br/>⑤我が国の言語文化においては、しばしば翻案が新しい言語文化の担い手として機能してきた（和歌の本歌取りや謡曲）<br/>⑥近世や近代以降の小説の多くも我が国や中国の伝統的な言語文化を基にしている</p> <p>(2)情報を読み取り、まとめて発表する言語活動<br/>①ウェブページには、新しくない情報、正しくない情報、書き手の主観が入った情報なども含まれている<br/>②情報をまとめる際には、引用部分や出典を明示するなど、著作権を尊重することも大切<br/>③情報科担当教員や司書教諭と連携して、インターネットを利用したり、情報の収集、選択を行ったりする必要がある</p> <p>(3)実用的な文章を読んで話し合う言語活動<br/>①実用的な文章とは、報道や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼、手紙、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書、法律の条文、宣伝、インターネット上の様々な文章、電子メールなどと考えることができる<br/>②実用的な文章を読んで内容を理解することは、社会において自立的に生き、様々な活動に参画する基礎となる<br/>③その上で、自分の考えをもち、話し合いを通して主体的に社会とかかわり合うことが、現代社会では強く求められている</p> <p>(4)読み比べたことについて、感想を述べたり批評したりする言語活動<br/>①古典で描かれた話が近代以降の文章にどのように書き直されているのか、和歌や俳句のように同じ形式をとりながら近世までと近代以降とでどのように異なるのかなど、視点を定めて読み比べることが大切<br/>②読み比べるに当たっては、文章の内容だけでなく、表現の仕方にも着目する必要がある<br/>③生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで読み比べて話し合ったり、発表し合ったりするなど、学習の形態や方法に様々な工夫を凝らすことも、学習意欲を高める上で大切</p> | <p>(1)人物の生き方や、その表現の仕方などについて話し合う言語活動<br/>①自分はどうしてそのように読み取ったのか、どうしてそのような考えや感想をもつに至ったのかなどを、文章中の表現を取り上げながら話し合うことや、相手の話の内容の妥当性を判断しながら聞いたり、分からないところを質問したりすることなどが大切<br/>②話題としては、戯曲に関するものも含めるようにする<br/>③話し合いにおいては、ペアやグループで話し合い、様々な意見を聞きながら自分の考えを深めることが大切<br/>④話し合った内容を発表して、ホームルーム全体で話し合いを更に深めることもできる<br/>⑤このような交流を通して、読みを深化させる必要がある</p> <p>(2)書き手の考えや、その展開の仕方などについて意見を書く言語活動<br/>①文章中で述べられている主張が、確実な根拠に基づいた妥当な推論を伴って導かれているかどうかを読み取り、その適否を判断するなど、文章の内容と、論理の構成や展開との相関がいかにか文章全体の明晰さに寄与しているかなどを考察する<br/>②書き手の表現意図や読者についての意識が、表現の仕方などにどのように反映しているのかについて自分の意見をもつという能動的な学習につながる<br/>③意見を書く際には、事実と意見を明確に書き分けることや、適切な論拠に基づくことなどに注意する必要がある<br/>④結論の述べ方や、具体的な事例の挙げ方など、文章の構成や展開にも工夫を凝らすことが大切</p> <p>(3)表現の仕方を変えたり、創作的な活動をしたりする言語活動<br/>①メディアの特色をとらえるとは、個々のメディアとしての文字、音声、画像などの特色を把握することのみならず、それらがかわり合わせて情報を表現していることに気付くことでもある<br/>②創作的な活動とは、目的や場に応じたメディアを用いて、自ら表現活動を行うことであり、生徒の学習意欲を高め、主体的な読書や表現へとつながるものである<br/>③戯曲や脚本に翻案したり、実際に演じたりすること、読んだ本の紹介を、書評、本の帯、広告カード（ポップ）などによって行うことなども含まれる</p> <p>(4)課題を探究し、成果を発表したり編集したりする言語活動<br/>①様々な資料を調べるとは、学校図書館、地域の図書館、インターネット、現地に出かけて取材したりするなど、情報を収集、整理し、それについて分析、考察を行うことである<br/>②報告書や論文集の編集に当たっては、一人の生徒のものを編む場合、グループごとやホームルーム全体など、複数の生徒のものを編む場合などがある<br/>③この言語活動は、生徒を学習の入り口に立たせることになり、大学や社会で調査研究活動を行い、成果を発表する礎となる</p> | <p>(1)言葉の変遷について調べて分かったことを報告する言語活動<br/>①国語は長い年月にわたって変遷しつつ現代に至っている<br/>②時代の推移の中で大きく変化した言葉、変化した小さい言葉などを様々な角度から取り上げて比較対照することは、国語の特質の一端に触れることになる<br/>③「ありがたし」「あからさまなり」「やがて」「故人」「迷惑」「遠慮」などを取り上げ、古典の言葉と現代の言葉との間で意味や用法に相違点や類似点があるか、またどのような変遷の過程を経てきているかなどについて調べることは、国語の認識を深めることにつながる<br/>④分かったことを報告するという表現活動を行うことは、一連の学習について成就感を味わわせ、古典を学ぶ意欲を高めることにつながる</p> <p>(2)読み比べたことについて説明する言語活動<br/>①書かれた時代は異なるが、同じ題材を取り上げた文章を読み比べることで、時代を超えて我が国の文化の底流にある、ものの方、感じ方、考え方に触れることができる<br/>②同じ時代に同じ題材を取り上げた文章を読み比べることで、文章から受けるイメージの違いを感じ取ったり、書き手の意図による違いを見いだしたりすることもできる<br/>③古典に表れた人間の生き方や考え方について話し合う言語活動<br/>①例えば、中世の無常観についての文章を読んで、現代の視点も含めて話し合ったり、中国の思想を読んで、日本への影響などを身近な例を取り上げつつ話し合ったりすることは、古典に表れた思想や感情を具体的に考える契機となり、意義ある学習となる<br/>②読み手によって評価が分かれるような事柄を取り上げることは、話し合いを活性化することにつながる<br/>③文章中の表現を根拠にすることは、常に文章に戻り、文章を更に読み深めることにつながり、読むことと話し合うこととが乖離することを避けることになる<br/>④課題を探究し、成果を発表したり文章にまとめたりする言語活動<br/>①「現代文B」の言語活動例エと同じである<br/>②科目の性格に応じて、探究する対象を「古典を読んで関心をもった事柄など」としている</p> |

# 同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例 1

| 段 階           | ポスター作成の方向性                                                                                                                                                                                                                                                      | ポスターにまとめる内容（指導事項）について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ポスターの構成要素に内容（指導事項）を組み入れる例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>小学校低学年</b> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">本のすきなところを紹介</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介する相手と、本を読みたい気持ちを共有して読書の輪を広げる</li> </ul>                                                                                     | <p>ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①時間や場所</li> <li>②問題状況などの設定</li> <li>③情景や場面の様子の変化</li> <li>④主人公などの登場人物</li> <li>⑤登場人物の性格や行動</li> <li>⑥会話及び心情の変化</li> <li>⑦事件の展開と解決</li> </ol> <p>エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①場面の様子や登場人物の行動</li> <li>②あらすじに係る言葉や文</li> <li>③自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文</li> <li>④思いや考えを表現するために必要となる言葉や文</li> </ol> <p>オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の知識や経験、読書体験と結びつけて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりする</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー（20字以内） <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきな理由を端的に表す</li> </ul> </li> <li>(2)本文の書き抜き（2箇所以内） <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきなセリフ、行動、場面</li> <li>・感じたこと経験したこと考えたことを書き添える</li> <li>・書き抜いた言葉や文を関連付けて整理したりする</li> </ul> </li> <li>(3)感想文的紹介（150字以内） <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人で読める」「面白くてたまらない」などの語彙</li> <li>・情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結びつけて書く</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・すきな行動、場面</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p> |
| <b>小学校中学年</b> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">紹介したい本の説明</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介するにふさわしい理由を十分説明する</li> <li>・選んだ本の内容や構成全体をよく理解する</li> </ul>                                                                    | <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①場面の移り変わり</li> <li>②登場人物の性格</li> <li>③登場人物の気持ちの変化</li> <li>④登場人物同士の関係</li> <li>⑤登場人物の役割</li> <li>⑥情景</li> <li>⑦叙述</li> </ol> <p>エ 文章などを引用したり要約したりする</p> <p>引用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「 」でくくる</li> <li>②出典を明示する</li> <li>③適切な量</li> <li>④引用したことに自分の思いや考えを書く</li> </ol> <p>要約</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①目的に応じて</li> <li>②表現をそのまま生かして</li> <li>③自分の言葉で</li> </ol>                                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー（20字程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想の言葉を反映させる</li> <li>・感想語彙</li> </ul> </li> <li>(2)本文の引用（2～3箇所程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介したい登場人物の言動の変化</li> </ul> </li> <li>(3)紹介文（300字程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらすじ（要約）</li> <li>・場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品世界を表す象徴として自分がとらえたもの</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>                                                                                                     |
| <b>小学校高学年</b> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">本を推薦</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目的とともに相手の目的も考慮し、どのような本を取り上げ、何を主に推薦するのか決める</li> <li>・本の特徴をとらえて推薦する</li> <li>・本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについて調べたりする</li> </ul> | <p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①登場人物の相互関係から <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物像、その役割、内面にある深い心情をとらえる</li> </ul> </li> <li>②登場人物の相互関係に基づき、想像豊かに読む <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や会話、情景などの暗示的な表現</li> </ul> </li> <li>③感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめる</li> <li>④象徴性や暗示性の高い表現や内容</li> <li>⑤メッセージや題材を強く意識させる表現や内容</li> </ol>                                                                                                                                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー（20字程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・お薦めの言葉を反映させる</li> <li>・評価語彙</li> </ul> </li> <li>(2)本文の引用（3箇所程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の相互関係を表す叙述</li> <li>・感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述</li> <li>・象徴性や暗示性の高い表現や内容</li> </ul> </li> <li>(3)推薦文（400字程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような人にお薦めの本かを想定する</li> <li>・優れた叙述について</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージや題材を強く意識させるもの</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>                                                  |

| 段 階         | ポスター作成の方向性                                                                                                                                                                              | ポスターにまとめる内容(指導事項)について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ポスターの構成要素に内容(指導事項)を組み入れる例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学校<br>1 学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、引用して紹介</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の読書体験や、書評や広告などを見て、気になっている本や面白そうだと思う本から紹介する本を探す</li> </ul>               | <p>ウ 場面の展開や登場人物などの描写を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉を手掛かりにしながら視点を定めて読む             <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間的、空間的な場面の展開</li> <li>・登場人物の心情や行動</li> <li>・情景描写</li> </ul> </li> </ul> <p>エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①場面を静的にとらえて構成を理解する</li> <li>②登場人物の心情の変化にそって動的にとらえて展開を把握する</li> <li>③文章の種類による叙述の特徴</li> <li>④文章の印象をもつ</li> <li>⑤分析的にとらえ、文章の工夫や効果について自分の考えをもつ</li> </ol> <p>オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①書き手のものの見方や考え方に             <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感する</li> <li>・疑問をもつ</li> <li>・批判する</li> </ul> </li> <li>②発見した新たなものの見方や考え方や、多面的な考え方</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー (20 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなものの見方や考え方や、これまでと違う視点から物事について考えられるようになった内容を反映させる</li> </ul> </li> <li>(2)本文の引用 (4 箇所程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情や行動</li> <li>・情景描写</li> </ul> </li> <li>(3)紹介文 (600 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開について</li> <li>・表現の特徴について</li> <li>・書き手のものの見方や考え方について</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト             <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチコピーや本文の引用と関連付けたイラスト</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>              |
| 中学校<br>2 学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、内容や表現の仕方について感想交流</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書ボード」を活用して本の内容や表現の仕方について感想を交流する</li> </ul>                    | <p>イ 文章全体と部分との関係、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考える</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文章全体におけるその場面の果たす役割</li> <li>②情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果</li> <li>③登場人物の言動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方にどのようにかかわっているか</li> </ol> <p>ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①表現の仕方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き手の目的や意図とその効果</li> <li>・口語体と文語体、常体と敬体など</li> <li>・簡潔と丁寧、断定と婉曲、中心と付加</li> <li>・描写の仕方や比喩の用い方</li> </ul> </li> <li>②根拠となる場面や部分</li> </ol> <p>エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①知識や体験と結び付けて賛否を明らかにする</li> <li>②問題点を指摘する</li> <li>③書き手の考え方と自分の考えを対比したり置き換えたりする</li> </ol>                              | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー (20 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き手のものの見方考え方への賛否や問題点、自分の考えとの対比</li> </ul> </li> <li>(2)本文の引用 (4 箇所程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの根拠となる叙述</li> </ul> </li> <li>(3)感想文的紹介 (600 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体におけるその場面の役割</li> <li>・情景や人物の描写の効果</li> <li>・知識や体験と結び付けた賛否や問題点</li> <li>・書き手の考え方と自分の考えの対比や置き換え</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の表紙や写真など</li> <li>・情景や人物の描写</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p> |
| 中学校<br>3 学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本を読み、批評</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とする作品についてよさや特性、価値などを論じたり、評価したりする</li> <li>・同じ作家、類似したテーマの作品を読み比べる</li> </ul> | <p>イ 場面や登場人物の設定をとらえる</p> <p>ウ 構成や展開、表現の仕方について評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①書き手の意図と表現の仕方のかわり</li> <li>②語句や描写の意味や効果を評価する</li> </ol> <p>エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ある事柄について自分の立場や根拠を明確にした考えをもつ</li> <li>②文章全体を受けて自分の意見をもつ</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)キャッチコピー (20 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品への評価</li> <li>・評価語彙</li> </ul> </li> <li>(2)本文の引用 (4 箇所程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価にかかわる語句や描写</li> </ul> </li> <li>(3)批評文 (600 字程度)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価語彙</li> <li>・書き手の意図と表現の仕方</li> <li>・語句や描写の意味や効果</li> </ul> </li> <li>(4)イラスト             <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価にかかわるイラスト</li> </ul> </li> </ol> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>                                                                               |

| 段 階  | ポスター作成の方向性                                                                                                                                                                          | ポスターにまとめる内容(指導事項)について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ポスターの構成要素に内容(指導事項)を組み入れる例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語総合 | <p>本を読み比べ、内容や表現の仕方の感想や批評</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容だけでなく、表現の仕方も読み比べる</li> <li>生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで読み比べて話し合ったり、発表し合ったりする</li> </ul>                        | <p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>読み取りが恣意的なものとならないよう、文脈をとらえ、語句や表現に注意して、過不足なく理解する</li> <li>目的に応じて要約する</li> <li>文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする</li> <li>抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する</li> <li>同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する</li> </ol> <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているかを把握する</li> <li>何を書いてあるか、どのように書いてあるか、なぜこのように書いているかにまで迫る</li> </ol> <p>エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>その価値、優劣、是非などを判じる</li> <li>規準や根拠を明確にする</li> <li>なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る</li> </ol>                         | <p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(3)の感想文的紹介 or 批評文を、的確に要約した内容</li> <li>本の魅力</li> </ul> <p>(2)本文の引用(4～5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているか</li> </ul> <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて要約する</li> <li>文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする</li> <li>抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する</li> <li>同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する</li> <li>価値、優劣、是非を判じる</li> <li>規準や根拠を明確にする</li> <li>なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る</li> </ul> <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文中の情景や、そこから触発された絵</li> </ul> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p> |
| 現代文B | <p>本を読み、人物の生き方や表現の仕方について交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容だけでなく、表現の仕方についても話し合う</li> <li>生徒各自が読み比べるだけでなく、ペアやグループで話し合ったり、発表し合ったりする</li> </ul>                        | <p>ア 文章を読んで、構成、展開などを的確にとらえ、表現性を評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>書き出しから結びに至る文章の骨組みをとらえ、その上で、場面や人物などの設定が、その後の話の推移にどのように有機的にはたっているか把握する</li> <li>文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる</li> </ol> <p>イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>書き手の考えや強調点を読み取る</li> <li>なぜ、この文章を書いたのか、なぜこのように書いたのか</li> <li>人物の状況、場面の状況、心情の推移などを把握する</li> <li>他の表現と置き換えた場合と比較してその効果を確認する</li> </ol> <p>ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相反する立場で書かれた文章や評価の異なる文章を読み比べる</li> <li>文章に表れた、ものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察することを通して、人間観、社会観、自然観などを確立する</li> </ol> | <p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本の魅力</li> <li>書き手の考えや強調点</li> </ul> <p>(2)本文の引用(4～5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き手の考えや強調点</li> <li>人物の状況、場面の状況、心情の推移</li> </ul> <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や展開、場面や人物の設定が、話の推移にどのように有機的にはたっているか</li> <li>文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる</li> <li>書き手の考えや強調点</li> <li>他の表現と置き換えた場合との比較やその効果</li> <li>相反する立場で書かれた文章や異なる評価との比較</li> <li>自分の人間観、社会観、自然観</li> </ul> <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文中の情景や、そこから触発された絵</li> </ul> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>          |
| 古典B  | <p>文章を読み比べ、共通点や相違点などについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書かれた時代は異なるが、同じ題材を取り上げた文章を読み比べる</li> <li>書かれた時代が同じで、同じ題材を取り上げた文章を読み比べる</li> <li>古典に表れた思想や感情を具体的に考える</li> </ul> | <p>ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの</li> <li>優れた洞察力や創造性に感動するもの</li> </ol> <p>エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>理解して読み味わう <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色をとらえる</li> <li>思想や感情がどのように表現されているか</li> <li>巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調</li> </ul> </li> <li>作品の価値について考察する <ul style="list-style-type: none"> <li>古典の普遍的価値</li> <li>その作品が現代まで読み継がれてきた意味</li> </ul> </li> </ol>                                                                                                                                        | <p>(1)キャッチコピー(25字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(3)の感想文的紹介 or 批評文を、的確に要約した内容</li> <li>古典の魅力</li> </ul> <p>(2)本文の引用(4～5箇所程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの</li> <li>優れた洞察力や創造性に感動するもの</li> </ul> <p>(3)感想文的紹介 or 批評文(800字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色</li> <li>思想や感情</li> <li>巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調</li> <li>古典の普遍的価値</li> <li>現代まで読み継がれてきた意味</li> </ul> <p>(4)イラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文中の情景や、そこから触発された絵</li> </ul> <p>※「読書ポスター」のレイアウトも工夫</p>                                                                         |

## 同一言語活動（本の紹介ポスター）の系統表例2

| 段 階        | キャッチコピー                                             | 引用（書き抜き）                                                                | 本文（感想・紹介・推薦・批評）                                                                                                                                                                               | イラスト                     |
|------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 小学校<br>低学年 | ○すきな理由を端的に表す（20字以内）                                 | ○すきなセリフ、行動、場面<br>○感じたこと経験したこと考えたことを書き添える<br>○書き抜いた言葉や文を関連付けて整理する（2箇所以内） | ○情景や場面の様子の変化、事件の展開と解決、登場人物の性格や行動、心情の変化などと、すきな理由を自分の知識や経験、読書体験等に結び付けて書く（150字以内）                                                                                                                | ○すきな行動、場面                |
| 小学校<br>中学年 | ○感想の言葉を反映させる（20字程度）<br>・感想語彙                        | ○紹介したい登場人物の言動の変化（2～3箇所程度）                                               | ○あらすじ（要約）<br>○場面の移り変わりから発見したこと、想像したこと（300字程度）                                                                                                                                                 | ○作品世界を表す象徴としてとらえたもの      |
| 小学校<br>高学年 | ○お薦めの言葉を反映させる（20字程度）<br>・評価語彙                       | ○登場人物の相互関係を表す叙述<br>○感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述<br>○象徴性や暗示性の高い表現や内容（3箇所程度）  | ○どのような人にお薦めの本かを想定する<br>○優れた叙述について（400字程度）                                                                                                                                                     | ○メッセージや題材を強く意識させるもの      |
| 中学校<br>1学年 | ○新たなものの見方や考え方、これまでと違う視点から考えられるようになった内容を反映させる（20字程度） | ○登場人物の心情や行動<br>○情景描写（4箇所程度）                                             | ○文章の構成や展開について<br>○表現の特徴について<br>○書き手のものの見方や考え方について（600字程度）                                                                                                                                     | ○キャッチコピーや本文の引用と関連付けたイラスト |
| 中学校<br>2学年 | ○書き手のものの見方や考え方への賛否や問題点、自分の考えとの対比（20字程度）             | ○自分の考えの根拠となる叙述（4箇所程度）                                                   | ○文章全体におけるその場面の役割<br>○情景や人物の描写の効果<br>○知識や体験と結び付けた賛否や問題点<br>○書き手の考え方と自分の考えの対比や置き換え（600字程度）                                                                                                      | ○本の表紙や写真など<br>○情景や人物の描写  |
| 中学校<br>3学年 | ○作品への評価<br>○評価語彙（20字程度）                             | ○評価にかかわる語句や描写（4箇所程度）                                                    | ○評価語彙<br>○書き手の意図と表現の仕方<br>○語句や描写の意味や効果（600字程度）                                                                                                                                                | ○評価にかかわるイラスト             |
| 国語<br>総合   | ○本文を、的確に要約した内容<br>○本の魅力（25字程度）                      | ○人物、場面、出来事が、どのように設定され、どのように描かれているか（4～5箇所程度）                             | ○目的に応じて要約する<br>○文章の難解な部分、含蓄のある部分を詳しく説明したり解説したりする<br>○抽象的な事柄を、具体例を示しながら説明する<br>○同じ文章から、関連する表現や内容を取り上げて説明する<br>○価値、優劣、是非を判じる<br>○規準や根拠を明確にする<br>○なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかに迫る（800字程度）           | ○文中の情景や、そこから触発された絵       |
| 現代文<br>B   | ○本の魅力<br>○書き手の考えや強調点（25字程度）                         | ○書き手の考えや強調点<br>○人物の状況、場面の状況、心情の推移（4～5箇所程度）                              | ○文章の構成や展開、場面や人物の設定が、話の推移にどのように有機的にはたっているか<br>○文章の構成や展開が、主題などを伝えるために果たしている効果などを分析、考察し、その価値を判じる<br>○書き手の考えや強調点<br>○他の表現と置き換えた場合との比較やその効果<br>○相反する立場で書かれた文章や異なる評価との比較<br>○自分の人間観、社会観、自然観（800字程度） | ○文中の情景や、そこから触発された絵       |
| 古典B        | ○本文を、的確に要約した内容<br>○古典の魅力（25字程度）                     | ○共感できるものや、違和感を覚えたり理解が難しかったりするもの<br>○優れた洞察力や創造性に感動するもの（4～5箇所程度）          | ○文章の修辞、文体などの表現の仕方の特色<br>○思想や感情<br>○巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調<br>○古典の普遍的価値<br>○現代まで読み継がれてきた意味（800字程度）                                                                                                  | ○文中の情景や、そこから触発された絵       |



マトリックス型年間指導計画表例（中学校第1学年～第3学年「読むこと（説明的文章）」光村図書）

| 配当時数                                                  |                                                             | 7                                          |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------|-------------------|----------------|------------------|-------------|---------------------|----------------------|------------|-----------------|-------------|--------------------|---------------|------------|------------|------------------|---------------|------|---------|--|--|
| 1年時数（年間55～75時間）<br>2年時数（年間45～65時間）<br>3年時数（年間45～65時間） |                                                             | 教科書教材名                                     |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| (1) 指導事項                                              |                                                             | 【説明】<br>ダイコンは大きな根？                         | ちよっと立ち止まって【説明】 | 江戸からのメッセージ【読書・随筆】 | シカの「落ち穂拾い」【記録】 | 流水とわたしたちの暮らし【説明】 | やさしい日本語【説明】 | 五重の塔はなぜ倒れないか【読書・説明】 | 君は「最後の晚餐」を知っているか【評論】 | モアイは語る【論説】 | 【批判】の言葉をためる【論説】 | 月の起源を探る【説明】 | 光で見せる展示デザイン【読書・随筆】 | 【記憶】と【資料】【随筆】 | 読もう【論説の比較】 | 論理の展開に着目して | ネット時代のコペルニクス【論説】 | アラスカとの出会い【随筆】 | 【評論】 | 聴くということ |  |  |
| 語句の意味の理解                                              | ア 文脈における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。                                | 文脈の中での語句の意味                                | ○              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。                           | 抽象的な概念を表す語句                                |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。                     | 文脈の中での語句の効果表現上の工夫                          |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 文章の解釈                                                 | イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 | 段落の役割・段落の関係<br>中心と部分・事実と意見<br>要約する・要旨をとらえる | ○              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。        | 全体と部分の関係<br>例示や描写の効果                       |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。               | 論理の展開の仕方                                   |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 自分の考えの形成                                              | エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。                            | 構成や展開について<br>表現の特徴について                     | ◎              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの方や考え方を広くすること。                 | 文章を読みものの見方や考え方を広げる                         |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。                  | 構成や展開について根拠を明確に<br>表現の特徴について根拠を明確に         |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。              | 文章に表れたものの見方や考え方について考える                     |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。                       | 構成や展開を評価する<br>表現の仕方を評価する                   |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。                        | 人間・社会・自然などについて考える                          |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 読書と情報                                                 | カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。           | 情報の集め方を知り、適切に読み取る                          |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。                   | 適切な情報を得て考えをまとめる                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。                   | 知識を広げ、考えを深める                               |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| (2) 言語活動                                              | イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。                          |                                            | ☆              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。                              |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。                    |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。                   |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。                                |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
|                                                       | ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。                          |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| エ その他（リライト、                                           |                                                             |                                            | ★              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 言語活動工夫の視点                                             |                                                             |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 関連する[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]                            |                                                             |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 補助教材など                                                |                                                             |                                            |                |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |
| 単元を貫く言語活動                                             |                                                             |                                            | ★              |                   |                |                  |             |                     |                      |            |                 |             |                    |               |            |            |                  |               |      |         |  |  |

# 交流充実のための手立て

## 1 司会の進め方

### 【グループ交流はパブリックに！】

グループ交流と「学び合い」における指導は、区別する必要があります。特に、国語科におけるグループ交流は、日常的会話と区別し、公の場での意見交流の在り方を指導すべきです。

- (1) 役割を分担する。  
「司会は〇〇，記録は〇〇，計時係は〇〇，発表者は〇〇です。」
- (2) 課題と交流の方向性を確認する。  
「これから～のことについて話し合いを始めます。」  
「この話し合いは，考えをひとつにまとめる（考えを深め合う）ために行います。」
- (3) 交流時間を確認する。  
「話し合いの時間は〇分間です。」
- (4) 意見を出し合い，分類・整理する。  
「どんな意見があるか言ってください。」
  - ① 意見を引き出す  
「〇〇さんと同じ(似た)意見の人はいませんか。」  
「〇〇さんの意見に付け足しの人はいませんか。」  
「今の意見に意見や質問はありませんか。」  
「～から，思いつく意見はありませんか。」  
「近くの友だちと相談してください。」  
「〇〇さんの意見を聞かせてください。」
  - ② 意見を広げる・深める  
「他に意見はありませんか。」  
「なぜ，そう考えたのですか。」  
「～について，もう少し詳しく教えてください。」
  - ③ 意見を整理する  
「今までに出た意見を整理します。」  
「〇〇と△△の意見は似ているので，ひとつにまとめていいですか。」  
「一番，～な考えはどれでしょう。」  
「つまり，～ということですか。」
  - ④ 意見の方向を修正する  
「もう一度，交流の目的を確認します。」  
「みんなが，～する意見を出してください。」
- (5) 意見をまとめる  
「時間になったので，みんなの意見をまとめます。」  
「どの意見が似ていますか。意見を〇つに絞りたいと思います。」  
「どの意見がいいですか。わけも言ってください。」  
「それでは，～ということに決めていいですか。」  
「～が一番多いので，～でもいいですか。」

### 【質問の例】

- (1) 話した内容を明確にするための質問  
「～とは，どういう意味ですか。」  
「～とは，～という意味ですか。」  
「～と考えたのは，なぜですか。」  
「～については，どう考えますか。」
- (2) 自分の意見の深化のための質問  
「私は，～と思うのですが，どうですか。」  
「～は～とも考えられますが，どう思いますか。」  
「どのようにすると，～について考えが深まると思いますか。」

\*平成23年度 京都市立御所南小学校の実践を基に作成



## 2 司会力育成のポイント

- (1) タイムスケジュールを考えさせる。
- (2) セリフを考えさせる。
- (3) 決定方法を考えさせる。(協議, 挙手, 拍手…)
- (4) マニュアルを準備する。(徐々に見ないようにし, 最終的に即興でできることを目指す)
- (5) 人の話し方を真似させる。
- (6) 友だちの意見を受け入れさせる。  
(なるほど, そうですね, わかりました, どうぞ, ありがとうございます…)
- (7) 経験を積ませ, 慣れさせる。
- (8) 進行を相談できる副司会をおく。

\*井上一郎著『話す力・聞く力の基礎・基本』(明治図書) P73~90 参照

## 3 記録用紙の工夫(記録係への指導)

- (1) ナンバリングに基づく記録…事項ごとに番号を付けながら記録する。
- (2) 時間進行に基づく記録…時間の進行に基づいて, 事項ごとに記録する。
- (3) 対比チャート…内容を大きく2つに分けて対比しながら記録する。
- (4) 座標軸…座標軸を活用して事項を分類整理しながら記録する。
- (5) 多角形チャート…話した人ごとにまとめるなど, 三角形, 四角形…に対比しながら記録する。
- (6) ツリーチャート…上位と下位の関連, 本流と派生の関連, 抽象と具体の関連など, 関係するものを分類整理して記録する。

\*井上一郎著『話す力・聞く力の基礎・基本』(明治図書) P57~60 参照

## 4 質問力を高める

- (1) 話した内容を明確にするための質問(的確性, 妥当性, 正確性, 客観性, 現実性…など)
- (2) 自分の意見の深化のための質問(サポート的, アドバイスの, 論理的思考を促す質問…など)

## 5 全体(学級)交流の充実の工夫

- (1) 発表ボードを活用して交流を充実させる。(同じ内容を繰り返さない, 一斉に掲示する, 児童生徒に分類させる, 児童生徒に説明させる, 発表ボードを掲示した後に意見を述べさせる…)
- (2) 氏名カードを活用して一人一人の立場を明確にさせながら交流する。

# 思考力・判断力・表現力向上のための手立て

## 1 言語活動モデルの工夫

- (1) 単元を貫く言語活動のモデルに指導事項をちりばめる。
- (2) 学習場面における言語活動の充実を図るため, 話し合いのモデル, 発表のモデル等も工夫する。

## 2 ワークシートの工夫

- (1) 思考操作や言語操作を示したワークシートを準備する。
- (2) 思考や表現をするために必要な知識を示したワークシートを準備する。
- (3) 児童生徒が表現するための条件を整理して提示する。

## 3 言語環境(教室掲示)の整備

- (1) 児童生徒が主体的に学習できる教室掲示を整備する。(司会の進め方, 質問の仕方, 発表の仕方, 意見の出し方, 語彙集, 思考操作, 言語操作…など)
- (2) 学習に必要な図書を教室に整える。

## 単元の評価計画例

中学校第1学年 報道記事で紹介する「竹取物語」の場合の例（「Ⅱ 資料編 p55～58」）

【児童生徒ごと・単元の観点別評価表】(例) ⇒ 個人への支援・指導に利用する。児童生徒、保護者に学習改善を促すための評価シート。

第1学年 ○組 ○番・氏名 ○○ ○○

| 評価の観点                               | 単元の評価規準                                                                | 学習活動に即した評価規準                                                                                                                                           | 評価材料・方法                                                     | 評価                                                 | 総括                               |       |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------|-------|
| 国語への関心・<br>意欲・態度                    | ☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。 | ○報道記事で紹介するという目的をもって『竹取物語』を読もうとしている<br>○自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。<br>○感想交流を通して古典への関心を高め、古典の世界に触れようとしている。                                | 振り返りカード<br>観察<br>ワークシート<br>観察<br>振り返りカード<br>観察              | A B C<br>A B C<br>A B C                            | A B C                            |       |
|                                     | ☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立てている。(C-ウ)    | ○報道記事にまとめるために、場面の展開に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。<br>○報道記事にまとめるために、登場人物の描写に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。<br>○報道記事にまとめるために、登場人物の会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容を理解している。 | ワークシート<br>ペーパーテスト<br>ワークシート<br>ペーパーテスト<br>ワークシート<br>ペーパーテスト | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C | A B C |
|                                     | ☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C-カ)                                  | ○報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。<br>○文語のきまりを理解している。<br>○古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。                                                                     | ワークシート<br>ペーパーテスト<br>ワークシート<br>ペーパーテスト                      | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C                   | A B C<br>A B C<br>A B C<br>A B C | A B C |
| 読む能力                                | ☆文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア(ア))                            | ○古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。                                                                                                                            | ワークシート<br>観察<br>実演                                          | A B C<br>A B C<br>A B C                            | A B C                            |       |
| 言語についての知識・理解・技能<br>(※高等学校では「知識・理解」) | 特記事項                                                                   | *個人内評価等を記載する。(過去と現在の比較、個人内の特性など)<br>*児童生徒が自身のよい点や可能性に気付くような内容を記載する。                                                                                    |                                                             |                                                    |                                  |       |

※「A・B・C」の評価に○を付けることで個人の傾向をつかみやすい。

【学級ごと・単元の観点別評価表】(例)

⇒ 学級全体の傾向から、教師が授業改善に利用するための評価シート。

| 評価の観点        | 国語への関心・意欲・態度                                                            |                                                                         | 読む能力                                                                 |                                        | 言語についての知識・理解・技能                           |                         | 特記事項 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------|------|
|              | ☆ 報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。 | ☆ 報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめようとしている。 | ☆ 報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意し、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。(C・ウ) | ☆ 報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。(C・カ) | ☆ 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。(伝ア) | ☆ 文語のきまりを味わいながら、音読している。 |      |
| 単元の評価規準      | ○ 目的をもって読もうとしている                                                        | ○ 古典の世界に触れようとしている。                                                      | ○ 登場人物の描写に注意し、内容を理解している。                                             | ○ 登場人物の会話に注意し、内容を理解している。               | ○ 古文から必要な情報を読み取っている。                      | ○ 文語のきまりを理解している。        | 総括   |
| 学習活動に即した評価規準 | 観察                                                                      | 観察                                                                      | ワークシート                                                               | ワークシート                                 | ワークシート                                    | ワークシート                  | 総括   |
| No.          | 観察                                                                      | 観察                                                                      | ワークシート                                                               | ワークシート                                 | ワークシート                                    | ワークシート                  | 総括   |
| 1            | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | A                                                                    | A                                      | A                                         | A                       | A    |
| 2            | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | A                                                                    | B                                      | C                                         | C                       | C    |
| 3            | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | B                                                                    | B                                      | B                                         | B                       | B    |
| 4            | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | A                                                                    | A                                      | A                                         | A                       | A    |
| 5            | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | ○ 〇〇 〇〇                                                                 | B                                                                    | C                                      | B                                         | A                       | B    |

※高等学校では「知識・理解」

特記事項  
 \* 個人内評価等を記載する。(過去と現在の比較、個人内の特性など)  
 \* 児童生徒が自身のよい点や可能性に気付くような内容を記載する。

※「A・B・C」を記入することで学級全体の傾向をつかみやすい。

※「A・B・C」の総括の考え方は、国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』を参照すること。

## 単元構想表の書き方

〇〇校第〇学年単元構想（発行者名；「教材名」）

日付  
作成者 所属・氏名

### 【児童・生徒の実態】

### 【身に付けさせたい力】

- この単元で身に付けさせたい力に関わって、何が身に付いていて、何が身に付いていないのか。
- この単元における身に付けさせたい力や言語活動に関わって、どのような学習歴があり、その結果どうだったのか。（学習の様子や学習の結果）
- この単元で児童生徒にプラスしたいものは何か。

- ◎「読むこと」の目標：どんな目的や意図に応じて
- どんな能力を身に付けさせるのか（内容の記号）
- 内容すべてではなく、本単元で取り上げる中心となる内容を取り上げる。

### 【単元を貫く言語活動】

言語活動例を参考にしながら、この単元における言語活動を具体的にまとめる。

### 【言語活動の特徴】

- 取り上げた言語活動の一般的な特徴を説明する。
- 構想者が創意工夫を凝らして考えた言語活動であれば、その言語活動について読者が理解できるようにその様式や内容について説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容が身に付けさせたい力を付ける上で、どのように有効なのか説明する。
- 言語活動の特徴や様式・内容と身に付けさせたい力との関連から、どのように指導したいのか説明する。

- 1 **単元名** ○教科書単元にとらわれず、児童生徒の実態や興味・関心、身に付けさせたい力から単元名を付けること。
- 言語活動と身に付けさせたい言語能力をミックスさせて考える。
  - 児童生徒が理解できる表現とし、単元名は児童生徒にも示す。

- 2 **単元の目標** この単元の学習を終えた時に、児童生徒がどのような姿になっていればよいのかを想定して、文末表現を「～できる」という形で表す。

### 3 単元の評価規準

- 「読むこと」の単元では、【国語への関心・意欲・態度】、【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】⇒高等学校では【知識・理解】の3観点は必ず設定すること。
- 複合単元とする場合に、【話す・聞く能力】や【書く能力】を加える場合もある。
- 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考として設定する。
- 「指導事項×言語活動」で、具体的に設定する。

（例）小学3・4年 書くこと

指導事項イ 「～段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」

言語活動例イ 「疑問に思ったことを調べて報告する文章～」

評価規準 △段落相互の関係などに注意して、「はじめ—中—おわり」の文章構成を考えている。（不十分）

- 「調査目的や方法—調査結果—そこから考えたこと」など、調査報告文の構成上の特徴を踏まえて、構成を考えている。

- 4 **教材** 共通教材、並行読書教材等、この単元で使用する教材名を記す。  
並行読書教材等は、可能な限り出版社名等も記す。

## 5 単元の展開（全 ○ 時間）

| 次   | 時   | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 言語活動に関する指導上のポイント（○）<br>学習活動に即した評価規準（関・読・言）等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第0次 |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒を単元の学習に誘う段階として工夫が求められる。</li> <li>○単元の学習に入る前に、単元の言語活動や学習材について児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容について考えさせたり予備知識をもたせたりすることが考えられる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 第1次 | 第1時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 読書目的を確認したり、2 表現モデルを分析したりする。</li> <li>○単元の導入にあたる。児童生徒の興味・関心を高める工夫や、児童生徒に単元の学習過程や学習のゴールを見通させる工夫が求められる。</li> <li>3 単元の学習計画を立てる。</li> <li>○必要に応じて単位時間を設定する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>□特に、【関心・意欲・態度】は、本時の評価規準として設定したい。</li> <li>○言語活動のモデルが重要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>☞モデルの質が言語活動充実の決め手 <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が自分の知識・技能や経験のみに頼って作成するのではなく、本や新聞、プロのアナウンサーや役者など、実社会で評価されているものを手本として、子どもの実態に合わせてモデルを作成することが望ましい。実社会からモデルとなる表現を子ども自身が探す工夫も考えられる。</li> <li>☞大切なのは単元を貫いていること <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、「感想を読書会で交流しよう」という言語活動を設定したとする。モデルを示すとすれば「読書会のモデル」である。しかし、「感想の書き方」をモデルとしている授業に出会うこともある。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> |
|     | 第2時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>4 目的と表現を意識して読んだり、5 自分で表現したり、6 交流したりする。</li> <li>○目的を意識して読むことや、読みの視点に従って読むこととなる。読みの視点は、指導事項からも設定できる。（中学2年の例＝例示や描写、言動の意味、構成や展開、表現の仕方…）</li> <li>○段落ごと詳細に読んでいく指導が多く見受けられたが、必ずしも第一段落から最終段落まで順番に詳細に読み取っていくことが読解力を高める指導とはならない。</li> <li>○個性を生かした表現となるような指導の工夫として、語彙（評価・判断を表す言葉、感情を表す言葉…）や文末表現（事実、考察、意見…）の使い分け、トリックなどの指導の充実が考えられる。</li> <li>○グループや個人で表現したものを検討する。「目的が何であったか、表現者の意図と表現の結びつきはどうか、読みの視点の確かさはどうか、表現のよさがどこにあるか」等について意見を交流させたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定する。</li> <li>□必ずしも、毎時間すべての観点を設定する必要はない。</li> <li>□単元の評価規準をそのまま設定したり、単元の評価規準を分割したり具体化したりして設定する。</li> <li>○第3次の言語活動につながる並行読書をさせることが考えられる。</li> <li>○内容と形式の両面を読むことに留意したい。</li> <li>○学級全体で教師が中心となって子どもの発言をつなげるような交流ではなく、ペアやグループで、子どもどうしで充実した交流ができるように指導を工夫する必要がある。</li> <li>○「何を明らかにするか（交流の視点）、協議か討論か（意見をひとつにまとめるか複数に分類するか）」、「交流後にどのように発表するか、司会や記録などの役割分担をどうするか」を明確にする。</li> <li>○交流のモデルを示すことも工夫の一つとなる。</li> </ul>                                        |
| 第3次 | 第3時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>7 自分の好きなもので表現したり、8 みんなで交流したり、9 学習を振り返ったりする。</li> <li>○「何を学んだか、上手く表現できたか、今後の読書生活に生かしたいことや継続して考えたいことは何か、分からなかったこと・できなかったことは何か」等の成果や課題を確認する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>□単元の構想にふさわしく、【関心・意欲・態度】や【読む能力】、【言語についての知識・理解・技能】を本時の評価規準として設定したい。</li> <li>○自分の力をさらに高め、実生活に生きてはたらく力に結び付けることができるように工夫する。</li> <li>○交流の際は、ペアやグループ編成を変えることも考えられる。</li> <li>○次単元への課題を明らかし、学びの連続性を意識する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|     | 第4次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての単元に位置付ける必要はないが、児童生徒の国語に対する興味・関心を高めたり、実社会に役立つ有用感を味わわせたりする段階として工夫が求められる。</li> <li>○学級の学びを同学年や他学年に広げたり、家庭や地域に広げたりすることが考えられる。大切なのは発信するだけでなく、受け手の感想など学習に対する評価を、児童生徒にフィードバックすることである。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

○この研究では、単元の段階を3段階と考え、単元の導入を第1次、単元の展開を第2次、単元の終末を第3次と呼ぶこととする。これに付け足して、単元の学習（授業）に入る前段階を第0次、単元の学習（授業）後あるいは発展的段階を第4次と呼ぶこととする。

## 【引用文献】

- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本』, 明治図書
- 京都市立御所南小学校 (2011), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
- 京都市立御所南小学校 (2010), 『学校大好き！コミュニティ・スクール』, 御所南コミュニティ
- 水戸部修治 (2013), 「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり」(初等教育資料5月号 p.52~55), 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説総則編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説総則編』, ぎょうせい
- 文部科学省 (2009), 『高等学校学習指導要領解説総則編』, 東山書房
- 文部科学省 (2008), 『小学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
- 文部科学省 (2010), 『高等学校学習指導要領解説国語編』, 教育出版

## 【参考文献】

- 井上一郎 (2013), 『記述力がメキメキ伸びる！小学生の作文技術』, 明治図書
- 井上一郎 (2013), 『思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 低学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 中学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2010), 『言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』, 明治図書
- 井上一郎 (2009), 『知識・技能を活用した言語活動の展開』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話すこと・聞くことの基本の能力の育成』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—上巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2008), 『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—下巻』, 明治図書
- 井上一郎 (2007), 『読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『誰もがつけたい説明力』, 明治図書
- 井上一郎 (2005), 『「読解力」を伸ばす読書活動』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『文学の授業力をつける』, 明治図書
- 井上一郎 (2002), 『ことばが生まれる—伝え合う力を高める表現単元の授業の作り方—』, 明治図書
- 上條晴夫 (2009), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2008), 『ワークショップ型授業で国語が変わる 中学校』, 図書文化
- 上條晴夫 (2007), 『ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す』, 学事出版
- 樺山敏郎 (2013), 『実践ナビ！言語活動のススメ モデル 30』, 明治図書
- 国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』, 教育出版
- 国立教育政策研究所 (2011), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』, 教育出版
- 国立教育政策研究所 (2012), 『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』, 教育出版

富山哲也 (2013), 『〈単元構想表〉が活きる! 中学校新国語科授業&評価 GUIDE BOOK』, 明治図書  
 富山哲也 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第1学年』, 明治図書  
 富山哲也・杉本直美 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』, 明治図書  
 富山哲也・三浦登志一 (2011), 『〈単元構想表〉でつくる! 中学校新国語科授業 START BOOK 第3学年』, 明治図書  
 西辻正副 (2013), 『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』, 明治書院  
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の国語授業のつくり方』, 東洋館出版社  
 二瓶弘行 (2011), 『二瓶弘行の「物語 授業づくり 一日講座」』, 文溪堂  
 二瓶弘行 (2010), 『二瓶弘行の「説明文一日講座」』, 文溪堂  
 水戸部修治 (2013), 『小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』, 明治図書  
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 1・2年』, 明治図書  
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 3・4年』, 明治図書  
 水戸部修治 (2011), 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 5・6年』, 明治図書  
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集 1・2年』, 小学館  
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集 3・4年』, 小学館  
 水戸部修治・鯨井幹夫 (2011), 『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集 5・6年』, 小学館  
 盛岡市立城南小学校 (2011), 『平成23年度国語科授業実践記録集』, 城南小学校  
 盛岡市立月が丘小学校 (2012), 『平成24年度学校公開研究会 研究紀要』, 月が丘小学校  
 盛岡市立見前南中学校・盛岡市立永井小学校・盛岡市立見前南小学校 (2013), 『学校公開研究会 研究紀要』, 見前南中・永井小・見前南小  
 安居總子・東京都中学校青年国語部会 (2005), 『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』, 東洋館出版社  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2013), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅲ』, 学事出版  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2012), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅱ』, 学事出版  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (2011), 『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅰ』, 学事出版  
 横浜市小学校国語教育研究会 (2010), 『小学校国語 豊かな言語活動を図る単元の構想』, 東洋出版社  
 横浜市立白幡小学校 (2013), 『平成25年度研究発表会 研究概要パンフレット』, 白幡小学校  
 横浜市立白幡小学校 (2011), 『平成23年度PSY研究発表会 研究紀要』, 白幡小学校  
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『国語 言語活動 実践アイデア集』, 小学館  
 横浜市立並木中央小学校 (2012), 『研究紀要 第7号』, 並木中央小学校

## おわりに

このガイドブックは、平成 25 年度に総合教育センターで発行したガイドブックを改訂したものです。

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されています。このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、本県においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れません。特に、児童生徒の 12 年間の学びの連続性の意識や、単元を貫く言語活動の充実についての理解には、まだまだ課題があると感じています。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業についての理論と実践例をまとめることにより、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広めていく必要があると考えました。

そこで、この研究では、学習指導要領や先行研究等を基に、小学校、中学校、高等学校の指導の連続性や単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりに視点を当てた「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の授業づくりガイドブック」を作成し、研修講座や研修会及び、校内授業研究会等での活用を促進することによって、小・中・高等学校国語科の授業改善に役立てようとするものです。

この研究は、平成 25 年度には指導主事 1 名、小学校教諭 3 名、中学校教諭 3 名、高等学校教諭 3 名、計 10 名の共同研究員、平成 26 年度には小学校教諭 2 名、中学校教諭 2 名、高等学校教諭 2 名、計 6 名の研究協力員と共に進めました。協力いただいたすべての先生方と所属するすべての学校に深く感謝申し上げます。

このガイドブックには、文部科学省前教科調査官の井上一郎先生や、文部科学省教科調査官の水戸部修治先生と富山哲也先生、国立教育政策研究所学力調査官の樺山敏郎先生、筑波大附属小学校の二瓶弘行先生から複数年・複数回にわたって学んだ内容が色濃く反映されています。5 名の先生方のご指導に厚くお礼申し上げます。

このガイドブックは、「平成 26 年度改訂版」とあるように、諸方面の方々からの意見や疑問をお聞きしながら、小・中・高等学校の先生方がより活用しやすく日常の授業づくりの参考にできるように、今後も改訂を重ねていく予定です。



平成 26 年度改訂版学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック

子どもにとって魅力ある単元をつくる「読むこと」編

平成 26 年度研究協力員（所属と職名は平成 27 年 3 月末日現在）

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 八幡 美奈子 | 盛岡市立松園小学校教諭     |
| 米内 紀子  | 花巻市立八重畑小学校教諭    |
| 西澤 孝司  | 岩手大学教育学部附属中学校教諭 |
| 吉田 亜矢子 | 陸前高田市立横田中学校教諭   |
| 熊谷 裕子  | 岩手県立紫波総合高等学校    |
| 高橋 美紀子 | 岩手県立黒沢尻工業高等学校教諭 |

平成 25 年度共同研究員（所属と職名は平成 26 年 3 月末日現在）

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| 松本 洋介  | 中部教育事務所（北上市教育委員会派遣・駐在）指導主事 |
| 米内 紀子  | 花巻市立八重畑小学校教諭               |
| 佐藤 俊哉  | 北上市立黒沢尻東小学校教諭              |
| 大貫 絵理子 | 北上市立黒沢尻西小学校教諭              |
| 阿部 伸泰  | 花巻市立湯口中学校教諭                |
| 柴田 良輔  | 北上市立南中学校教諭                 |
| 中村 正成  | 軽米町立軽米中学校教諭                |
| 佐野 智子  | 岩手県立花巻北高等学校教諭              |
| 高橋 美紀子 | 岩手県立黒沢尻工業高等学校教諭            |
| 松本 寛章  | 岩手県立水沢商業高等学校教諭             |

なお、総合教育センターにおいては、次の者が作成に当たった。

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 長根 義広 | 岩手県立総合教育センター教科領域教育担当主任研修指導主事 |
| 横田 昌之 | 岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事   |

平成 26 年度改訂版 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック

子どもにとって魅力ある単元をつくる 「読むこと」編

---

発行 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1

☎0198-27-2735

発行日 平成 27 年 3 月 1 日

---

